

A G A R O O T

A C A D E M Y

合格者の最短ルート

合格

令和6年合格者

体験記



2025年4月入学目標

国内MBA試験合格

志望動機の説得力が合格に直結する

森田 将太郎 さん

20代前半

学生

2025年4月入学目標 / 国内MBA / 秋入試対策カリキュラム / フル＋アドバンス講座付オプション

進 学 先：一橋大学 経営分析プログラム

合格体験記

MBAを目指したきっかけ

大学3年から4年にかけて就職活動に取り組む中で、自身のキャリアプランを見つめ直したことがMBA受験のきっかけです。私は将来、経営人材として、経営学・デジタル・ウェルビーイングの素養を兼ね備えた人材になりたいと考えました。ウェルビーイングは、今後の企業経営において非常に重要な分野になってくると考えています。例えばスポーツビジネスは、人々の心の豊かさや健康に寄与する非常に力のあるコンテンツで、経営者としてこれを上手く扱いつつビジネスに組み込んでいけるような人材が近年成功を収めているように感じています。このキャリアの実現を考えたとき、今の私には、長年部活に取り組んできた経験と、計量経済学を専攻しStataを使って統計解析をするスキルがありますが、これは経営人材として希少な組み合わせだと考えています。だからこそ、MBAでの学習や研究を通じてこれらの価値を高めて、ビジネスの知識を体系的かつ網羅的に身につけることができれば、これからの経営者に必要な素養を兼ね備えた人材になれると考えました。これがMBAの志望理由です。

アガルートアカデミーをお選びいただいた理由

MBAを目指すにあたって経営学の基礎知識も全くなく、志望理由書も何を書けばいいか見当すらつかないという状態からのスタートとなりました。そこで、経営学を1からしっかり学ぶことができ、添削制度が充実しているアガルートに目をつけました。まず講義に関しては、オンラインで自分のペースに合わせて勉強することができるので非常に便利でしたし、講義内容も非常にわかりやすかったです。添削制度に関しては、MBA受験のプロが、研究計画書・志望理由書は合格基準に達するまで無限に添削、小論文も全て添削ありという充実っぷりでした。この添削制度が、アガルートを選んだ決め手となりましたし、

非常に満足度の高いサービスでした。また、第一志望の一橋MBAへの合格実績が高いという点もかなり魅力的でした。40人ほどの一般受験枠に対し13人の合格者を輩出という実績は他の予備校と比べても圧倒的でした。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

①勉強の方針

まずは基礎講座の動画を見ながら、テキストに書き込み1周しました。その後何度もテキストを読み返し、テキストの内容を一通り説明できるくらいになるまで覚えました。

経営学の知識をしっかりと頭に入れないと、その後の小論文講座を有効活用できなくなってしまうので、基礎講座にかなりの時間と労力を割きました。とはいえ分量が非常に多いため、この期間が大変でした。その後小論文講座と学校別の小論文対策を全てこなしました。

英語は、ハーバードビジネスレビューをひたすら速読しました。ペースとしては、1ヶ月で一冊読破しました。

②研究計画書のテーマ設定までの流れ

スポーツ経営人材を目指しているため、テーマもこれに関連したものを探しました。このテーマ選びが一番大変でした。いい研究テーマを思いついても、すでに研究されることが多く、何度も振り出しに戻りました。国内・海外の論文を読み漁ることで、近年の研究の動向を把握すると同時に、自身の研究で新規性を発揮できる分野を探し当てることができました。

③勉強のスケジュール

- 6月 アガルートの受講相談を受け、受講を決める
- 6月 研究計画書・志望理由書を作成スタート
- 6月 研究計画書のテーマ探し。国内外の論文を読み漁る
- 6月 研究計画書・志望理由書の添削合格
- 6月 研究計画書作成と並行し、「経営学の基礎講座」動画視聴開始
- 7月 「小論文対策講座」視聴、小論文練習
- 7月 小論文の添削・英語の対策を毎日繰り返す
- 8月 学校別の小論文対策・英語の対策を毎日繰り返す
- 8月 大学の図書館で過去問3年分を入手し取り組む
- 8月 一次試験
- 8月 「面接対策講座」を視聴、模擬面接を実施
- 8月 面接の想定質問集を作成し、ひたすらシャドウで練習
- 9月 二次試験

受講された講座の良さ、当該講座の学習方法

▼国内 MBA 入試攻略講座

各国内MBAの特徴や、攻略方法についてわかりやすく解説されており、役に立ちました。自分自身も、志望校の候補が4つほどあった中で、この講座により2つまで絞ることができました。MBA対策の第一歩として活用できる講座です。

▼経営学の基礎講座

経営学において必要な基礎知識が非常にわかりやすく、丁寧にまとめられていました。事例が多く掲載されているのも理解に役立ちます。個人的には、一度動画を通して見たら、あとはひたすら教科書を読み返して暗記することが一番いいように感じました。

▼小論文対策講座（基本編）

小論文の書き方など一切知らない状態からのスタートとなったため、非常に役に立ちました。基礎講座でインプットした知識をアウトプットできるような問題構成になっています。小論文の書き方を習得すると同時に経営学の知識を自分のものにすることができました。

▼小論文対策講座（基本編）添削利用回数

8回

▼小論文対策講座（大学院別対策編）

テストを受けた後振り返っても、問題の再現度が高く、非常に役に立ちました。受験日の2週間前から毎日一問解き、うまく解答できなかった問題だけ再度解き直しました。小論文対策基礎編で基礎を固め、最後各大学院に向けて仕上げるために使うべきだと感じました。

▼小論文対策講座（大学院別対策編）添削利用回数

3回

▼出願書類・研究計画書の書き方講座

出願書類を書き始める前に必ずみるべき講座です。全体像の構築の方法と、そのなかでいかにオリジナリティを出していくか、という2点が丁寧に解説されています。添削サービスもここで解説されているポイントを軸に行われていました。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座 添削利用回数

2回

▼研究計画書の研究テーマライブラリー

研究テーマライブラリーは1回も使うことなく研究計画書が作成できてしまいました。

自分のやりたいテーマが最初からある程度明確になっていたからだと思いますが、構想段階でテーマが絞れていない方はぜひ最初に見るべきだと思います。

▼面接対策講座

非常に役に立ちました。自分のキャリアプランから志望動機に繋げていくという一貫性に関する話が非常にわかりやすかったです。これを実践することで、説得力のある志望動機を構築できましたし、面接官にも好印象だったように感じます。

▼各種フォロー制度について（初回添削フィードバック、受験校相談、マンスリーゼミ、質問制度等）

受験校相談は非常に役立ちました。受験校を比較する上で、ネット上では把握しきれないような細かい部分まで説明してくれたため、自分の受験校選択に大いに活かすことができました。また、選考において重要視されるポイントも教えてくれたため、書類作成に役立ちました。

スランプ・挫折、それを乗り越えるための工夫

これといった挫折はありませんでしたが、MBA受験を本格的に始めたのが試験3ヶ月前ということもあり、とにかく余裕がない中での準備となりました。一刻も早く研究計画書を完成させなければいけない中、テーマ決めに時間がかかってしまい苦戦しました。いい研究テーマを思いついても、すでに研究されていることが多く、何度も振り出しに戻りました。ゼミで計量経済学を学んでいること、部活をしていること、という自分の特性を軸に考案することで、独自性のあるテーマに行き着くことができました。「出願書類・研究計画書の書き方講座」の、重回帰分析を使って研究の独自性を出す手法が非常に有用だったので、テーマ探しに苦戦している方はぜひ見ていただきたいです。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

大学4年生で単位も取得済みということもあり、1日の時間の内ほぼ全てを学習時間に当てることができました。早朝部活をして、12時ごろから閉館の21時まで大学の図書館に籠る生活を2ヶ月ほど続けていました。他の受験生に比べて圧倒的に時間をかけることができたからこそ、3ヶ月という短期間で対策を完了することができました。面接対策に関しては、想定質問を数十個用意し、移動時間の中でひたすらイメージトレーニングをしていました。

直前期の過ごし方

筆記試験の1ヶ月前からは、小論文と英語の対策をひたすら重ねました。2日に1回小論文の問題を解き、都度添削をもらいました。15回分提出しましたが、その内13回で、AやAAをもらうことができたので、本番も自信を持って臨めました。基礎講座の内容を徹底的に頭に入れていた成果だと感じています。英語は毎日4時間ほど、ハーバードビジネスレビューを読み込みました。半年ほど前にTOEICに取り組んでいて文法は問題なかつ

たため、実践的な練習としてひたすら速読をしていました。最終的には内容を楽しみながら読めるようになりました。

基礎講座は毎日2章分ずつ復習しました。事例を挙げながら概念を説明できるようになるくらいまで繰り返し読みました。

試験期間中の過ごし方

試験期間中も直前期と特にやることは変えず、小論文対策・基礎講座のテキストの復習・英語をひたすら勉強していました。一次試験合格後は想定質問集を作り、面接対策を行っていました。面接で学びたい教授について深掘りされた際の対策として、教授の出版している本や論文を読み、話せるように準備していました。自身がテーマにしているスポーツ経営者について語れるようにするために、楽天の三木谷社長のビジネス書を読んだりというようなこともしました。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

①受験した時の手ごたえ

小論文はとても手応えがありました。因果推論がテーマだったのですが、ゼミで計量経済学を専攻しているので非常に得意にしている分野で、ほぼ満点の解答ができました。ここに関しては運が良かった部分もありますが、内容も割と簡単だったため、平均点自体が高かった気もしています。

英語もほぼ満点でした。ハーバードビジネスレビューの速読という対策方法が最適だったように感じています。英語のビジネス書の和訳なのですが、分量がかなり多かったです。なんとか間に合いましたが、かなりのスピード感で解かないと終わらないと思います。

面接は事前情報通り圧迫面接だったので、一切手応えはありませんでした。何をいっても無表情という感じです。

②合格した時の気持ち

筆記試験の結果には非常に自信があったものの、面接が圧迫面接で一切手応えがなかったので、落ちたかもなと思いながら結果発表を待っていました。かなり不安な気持ちで過ごしていましたが、その分、受かった瞬間の喜びは忘れられないものとなりました。第一志望に受かった喜びや、実際にこの大学院で学べるということへのワクワク感、進路が決まった安堵感などに満たされました。

振り返ってみて合格の決め手は？それに、当該講座はどの程度影響したのか

①合格の決め手

今振り返ると、前情報通り、一次試験の時点で合否が大体決まっていたのかなと思います。研究計画書・志望理由書で独自性を出しつつ完成度の高いものを仕上げることができましたのが大きかったです。また、筆記試験の対策が完全にハマり、小論文も英語もほぼ満点を取ることができました。この時点で大きく合格に近づいていたのかなと思います。

②講座の影響度

とにかく添削サービスが役に立ちました。MBA受験のプロの方が、研究計画書から小論文まで徹底的に指導してくれるため、これが一番の合格への近道だと感じています。

基礎講座から小論文対策までカリキュラムが確立されているため、目の前の課題に集中して取り組むだけで合格できた点も助かりました。サービス全体としても非常に完成度が高いように感じます。

卒業後のキャリアについて

① MBA に期待するもの

ビジネスに必要な知識を網羅的かつ体系的に身につけ、ますます複雑化していく社会の中でも活躍できる人材になることです。また、私は新卒で進学しますが、企業派遣でくる方や外国人の方など、自分が今まで関わったことのないような方々とともに学ぶことになります。ハイレベルな学習環境の中で、様々な視点を取り込みながら成長していきたいです。

② 今後のキャリアビジョン

経営知識やデジタル知識をMBAで蓄え研究したうえで、スポーツ分野でのウェルビーイングの洞察力を活かして、次世代の経営にチャレンジしてみたいです。蓄えた知識を実務経験の中でブラッシュアップする必要があると考えていて、その期間を含めて10年後と設定しました。業界としては、業界横断的にビジネスに携わることでできるコンサルティング会社などを考えています。

【推薦書について】

① 提出されましたか？

提出した

② どなたに推薦書をご依頼しましたか？

大学で所属しているゼミの教授

受験生に対するメッセージ

一番時間をかけるべきポイントは志望動機の深掘りです。経営を学ぶだけだったら本だけでも十分ですし、時間とコストをかけてまでMBAに進学する必要はないと思います。自分のキャリアプランと、それを実現するためになぜMBAが必要なのかを徹底的に練り上げることが大切だと感じました。そこにいかに説得力を持たせるか、本気で語れるか、という部分を大学院側は評価しており、可否にも直結してくると思います。受験対策で大切なこととしては、結局どれだけ時間をかけられるかだと思います。多くの論文を読んで作成した研究計画書は完成度が全く違いますし、いかに時間と労力をかけられるかが可否の鍵を握っています。

2025年4月入学目標

国内MBA試験合格

経営の知識を身につけ満足のいく提出書類を制作できた

田村 彰信 さん

30代後半

社会人

2025年4月入学目標 / 国内MBA / 秋入試対策カリキュラム / フル＋アドバンス講座付オプション

進 学 先：青山学院大学 国際マネジメント研究科国際マネジメント専攻

合格体験記

MBAを目指したきっかけ

FP&Aという、日本ではあまり耳なじみのない職種を知ったことがきっかけでした。知れば知るほど興味がわき、まずは本を読んでみたり、セミナーに参加してみました。部分的には理解できたものの、仕事に活かせるほどには至りませんでした。仕事を通して学ぶしかないと転職活動をしてみたものの、年齢的や経験、転職回数の問題もあり、望んでいるような転職先から内定をもらうことができませんでした。途方に暮れ、セミナーで知り合った講師の方に相談したところ、国内MBAで学ぶことを勧められたため、進学することとしました。

アガルートアカデミーをお選びいただいた理由

他社と比べ圧倒的に情報量が多かったことが決め手です。私が進学を決めたのはGWで、書類提出まで4カ月と、それほど潤沢に時間があるわけではありませんでした。短期間でインプットし、出願書類を作成するには、効率的に自分のペースで勉強を進める必要があり、オンラインでの受講限定で探していました。各大学の傾向を詳しく話されていたり、合格者の経験談をまとめたYouTubeをあげてくださるなど、非常にその分野に精通されていると感じました。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

①勉強の方針

当初は青山学院大学を受験予定ではなかったため、2カ月で経営学全体の動画を2周、音声だけのものも、2周は聞いたと思います。知らないことばかりでしたので、私はとて

も楽しく視聴させてもらいましたが、この時点で興味が持てないと、後々しんどいのではないかと思います。お薦めされているような本も何冊か読みましたが、「論理が伝わる世界標準の『書く技術』」という本は、特に読んでよかったと思いました。試験だけでなく、日常生活にも効果があったと思います。

②研究計画書のテーマ設定までの流れ

青山学院大学には研究計画書がないため、「過去に仕事において直面した最も大きな試験」についてお話しますと、まず経営を学びに大学院へ進むわけですから、経営にまつわる話だとより良いかと考えました。私の社会人人生の大半従事している経理とは全く関係ありませんが、一時期飲食店経営に店舗統括者として、No. 2の立場で携わっていたので、そのほうがネタとして面白く書けるかと思い、本件について記載しました。添削してくださった講師の方にもお褒めいただきましたので、上手く書けたと思います。

③勉強のスケジュール

- 5月 「経営学の基礎講座」動画視聴開始。届いた参考書の量に愕然としました。
- 6月 引き続き「経営学の基礎講座」動画、ダウンロードした音源を聴取。1度で理解できる人はそうそういない気がします。
- 7月 「出願書類・研究計画書の書き方講座」「研究テーマライブラリー」「学習サポート 25ホームルーム」動画視聴。特にホームルームの、いくつか大学をピックアップして紹介してくださるのが良かったです。第一志望であった大学院をあきらめ、青山学院大学1本に絞る決意ができました。月末頃に書類作成開始。
- 8月 添削依頼。添削前に2度、納得いくものが書けず、全削除しました。思ったほど筆が進まず、焦りを感じました。
- 9月 面接に向け準備も仕事の繁忙期と重なりほぼ何もせず。
- 10月 面接を受け数日後に合格通知を受領。

受講された講座の良さ、当該講座の学習方法

▼経営学の基礎講座

動画は200本以上ありますので非常に長いと思いますが、体系立てて説明してくださるので、とてもわかりやすかったです。動画を視聴した後に音源を聞き、1周したあとと再度同じことを繰り返しました。わからないことを都度気にしていたら終わらないと思いますので、1度目はさっと聞き流すでも良いと思います。

▼小論文対策講座（基本編）

青山学院大学には不要であったため、3/17しか視聴しておりません。よって詳細を書くことができない状況です。申し訳ございません。

▼小論文対策講座（基本編）添削利用回数

0回

▼出願書類・研究計画書の書き方講座

青山学院大学受験を決めてから視聴しましたので、青山学院大学に関するもの以外は特に視聴しておりません。何度か繰り返し見た形跡はありますが、これについては、冊子を繰り返し読むほうが自分にとっては効果があったかなと思います。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座 添削利用回数

3回

▼研究計画書の研究テーマライブラリー

青山学院大学には不要であったため、32/87と、すべては視聴しておりません。よって詳細を書くことができない状況です。申し訳ございません。

▼面接対策講座

申し訳ありませんが、動画があることを今知りました。「国内MBA入試攻略講座」を読み込むことで、面接のイメージが非常にわきましたので、それをもとに想定問答を自分なりに作成しておりました。

▼各種フォロー制度について（初回添削フィードバック、受験校相談、マンスリーゼミ、質問制度等）

初回添削フィードバックのみ利用しました。ありがたいことに、初回の時点で100点満点中95点、という高評価を受けることができました。これもひとえに、「論理が伝わる世界標準の『書く技術』」という書籍を事前に読んだためと思います。フィードバックでは、書類に関してあまりいうことがないということで、面接や他の大学についての情報をいただくことができました。自信が持てたとともに、生の情報をお聞きできたので、非常に私にとって有用な時間でした。

スランプ・挫折、それを乗り越えるための工夫

第一志望であった大学院に、年齢、出身大学、現職の知名度・役職など、今からではどうしようもないことでほぼ100%受かる見込みがなくなった時は、絶望しかありませんでした。そこに行くために、アガルートへ申し込んだような状況であったためです。しかし根本を思い返すと、私の目的はその大学院に合格することではなく、大学院で経営学を幅広くしっかり学び、CFOとして企業経営に貢献すること、後進育成に励むことです。そうすると、逆にその大学を1番に目指すべきではない、という考えに至り、結果、青山学院大学が一番という結論に至りました。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

平日はいつもより1時間早く起床し、動画視聴するようにしました。通勤中は主に朝視聴した動画と同じ音源を聞き、画面がなくてもすぐ思い返せるような状態で聞いていました。帰ってきてからも極力1時間は動画視聴するようにしていたと記憶しています。動画

自体短めに作ってくれており、テーマごとに区切ってくれていますので、隙間時間を有効活用していました。

直前期の過ごし方

青山学院大学でしたので、特段これといった勉強は不要でした。アガルトの経営学の動画など視聴していましたが、逆に青山学院大学に決めてからは完全に見るのをやめ、提出書類を書くことに時間をすべて費やしました。書類については何人もの合格者を見守っている講師の方からお墨付きをもらえていましたので、面接をどうするか、ばかり考えていました。とはいえ、私は元来ものを覚えるのが苦手で、ちょっとしたスピーチすら暗記ができないので、最低限の質疑応答だけ用意し、あとは出たとこ勝負、ダメなら仕方ない、と割り切って考えていました。あまり参考にはならないかもしれませんが。

試験期間中の過ごし方

書類提出から面接までは少し期間がありましたが、焦って何かをするようなこともなく、いつ受験書類が届くかなと気軽に構えていました。面接にいたっては、ChatGPTを利用して、想定問答集を作成しました。思い返すとまったく不要なことでした。面接日も1日30分ほど書類を見返すくらいで、声に出して練習したのも前日でした。思ったほどスムーズに言葉が出ず、非常に焦ったことを覚えています。ぜひしっかりと、声に出しての練習はしてください。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

①受験した時の手ごたえ

書類については手応えがありましたので、いかに面接で減点を減らすかが私の課題だと考えていました。実際ほぼ滞ることなくスムーズに会話でき、多少私の話で笑ってもらうこともできたので、面接も手応えがありました。これで落ちたら縁がなかったと思てあきらめると思える状況にはもってこられたので、良かったです。

②合格した時の気持ち

素直にうれしかったのですが、合格発表の少し前に、4月末頃に子供が生まれることがわかりました。妻に了解を得られるか。妻の両親の助力を得られるか。その回答次第ではせっかく合格も辞退するしかないとはヒヤヒヤしておりました。

振り返ってみて合格の決め手は？それに、当該講座はどの程度影響したのか

①合格の決め手

まずは提出書類について、ほぼ後悔がないほど経営にもからめ、しっかり書けたことかと思います。そのうえで、ある程度面接でもしっかり受け答えができたこと。勝手に、「両方の点数の結果で合格する。書類は講師の方に95点ももらえたから、あとは面接で80点を目指そう。」と自分に暗示をかけられたこともよかったかなと思います。

②講座の影響度

少なからずあったと思います。講座の視聴前であれば、あのような経営を意識した文章

を書くことはできなかったと思いますし、面接でも自社の経営の課題など、経営視点で物事を考え意見することは難しかったと思います。

卒業後のキャリアについて

① MBA に期待するもの

何かに特化した深い知識・能力を身につけるのではなく、幅広い知識を身につけたいと思っています。またその上で、同じ学び場にいる幅広い年代、国籍の方と交流を深め、新たな何かを生み出すような関係性を築けたらと思います。

② 今後のキャリアビジョン

まずは現職にて、MBAでの知見を活かし、何か新たなことに取り組めたらと思っています。ただし、遂行することが困難と判断した場合は、転職・起業・独立など含め、新たな道を検討するつもりです。最終的な目標は名ばかりではない、海外で言われるような本当の意味でのCFOになることです。

【推薦書について】

① 提出されましたか？

提出していない

受験生に対するメッセージ

研究計画書を求められる方と比べれば、私はとても楽なほうだったと思います。国会図書館にも行っていませんし、研究内容を見つける苦労も一切していません。もし苦しめている方がいらっしゃいましたら、ぜひ自問していただきたいです。あなたは本当にその大学へ行きたいのでしょうか？ 何のためにそこへ行きたいのですか？ その研究をしたいのですか？ 自問が難しければ、他人の力を借りても良いと思います。私も弱い人間ですので、第一志望が難しいとなったタイミングで、大学院進学を薦めてくれた方に相談しました。「お薦めいただいた大学院への入学が、学歴・所属企業の知名度、年齢的に不可であるということ。調べた結果、私はその大学院ではなく、本当に行きたく進むべきは、青山学院大学のほうではないかと思っている。」と。結果背中を押してくれました。尊敬している方からの後押しは非常に心強いです。モチベーションを高く保つことも必要だと思いますので、うまく自分をコントロールし、合格に向け突き進んでいただければと思います。

2025年4月入学目標

国内MBA試験合格

小論文は問題形式ごとに分類しテンプレートを作って対策

朴 利騏 さん

20 代前半

学生

2025 年 4 月入学目標 / 国内 MBA / 秋入試対策カリキュラム / フル

進 学 先：慶應義塾大学 経営管理研究科

他の合格先：一橋大学 経営分析プログラム

合格体験記

MBA を目指したきっかけ

私のキャリアゴールは、合理的な戦略に基づいて企業全体を主導できる人材として、グローバルに活躍することである。ただ、将来の目標を実現するにあたって、今の私に欠けている「ビジネスを高い視座で俯瞰し的確な意識決定を行うスキル」を補う必要があると感じたから。

そのため、リーダーシップ論をはじめとした全ての判断の裏付けとなる体系的な経営知識及び理論を幅広く学ぶことを目的として、MBAへの進学を志望するようになった。

アガルートアカデミーをお選びいただいた理由

一番の理由は合格実績がかなり良かったから。

他の予備校は合格者数は出していたが、肝心の合格率の方は伏せていたのに対して、アガルートは受験者数と合格者数を両方出していたので信頼できた。

そのほかにも金額に見合った制度が充実しており、添削サービスや模擬面接など、MBA受験の全容が掴みきれていない受験生でも安心して受験対策ができるサービスが備わっていた。

最後にこれらを全てオンラインで完結できるという点もアガルート受講の決め手となった。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

①勉強の方針

私が受験する学校は経営学の知識を問わないタイプの小論文形式だったので、経営学基礎講座を受講する必要はなかったのだが、教養として持っておきたかったので、最初の3ヶ月は「何日までにテキストの何章を読み終える」というふうに計画を立てて勉強していた。

②研究計画書のテーマ設定までの流れ

大まかな枠組みで自分の興味にある分野（マーケティング、組織運営など）を絞り、過去研究を読みながら未出かつ社会的意義のある研究テーマを探していた。研究したい分野と具体的なテーマが決まったら、そこからいい仮説を立てられるようにテーマを若干修正などしていた。

③勉強のスケジュール

- 3月 MBA受験のことを調べ始め、受験校や受験、進学に必要な費用などの試算を行った。アガルトの受講を決め、受講を開始する。
- 4月 経営学の基礎講座を受講し始める。3日～4日に1章分を読み切るペースで進めるようにした。この月で1章から7章まで読み切る。
- 5月 引き続き経営学の基礎講座を受講し、同様のペースで11章まで読み進める。ここで一旦モチベーションが続かなくなり、かなりペースが落ちる。モチベーションが低い間は過去に習った章を復習したりと軽めの勉強だけしていた。
- 6月 経営学の基礎講座を終わらせ、今までの章を軽く復習しながら小論文の問題を解くなどした。慶應MBAの入試説明会、模擬授業に参加した。一橋大学の書類準備を始めるためにテーマを列挙し、それに関する本を数冊読み漁って、研究テーマを確定させる。
- 7月 引き続き研究計画書執筆に着手する。先行研究や研究手法の決定などを行い、研究計画書を完成させ、提出する。ここから小論文対策を本格的に始める。
- 8月 小論文の過去問を解き続ける。一橋試験の一次を迎える。この段階では受かったか落ちたか半々の気持ちで少し不安だったが、同じ月の合格発表で無事通過していて安堵した。
- 9月 KBS書類準備を2週間程度で行い、提出。一橋MBA面接も控えていたので、面接対策も行っていた。KBSの書類と一橋2次面接の結果がほぼ同日に行われ、無事どちらも通過していた。
- 10月 KBSの面接対策を行い、本番を迎える。無事合格をいただき、第一志望であったKBSへの進学を決める。

受講された講座の良さ、当該講座の学習方法

▼国内 MBA 入試攻略講座

入試の概要や見られている要素など、受験に必要な情報を網羅的かつコンパクトにまとめてくださったので短い時間でかなりMBA受験のことを深く知ることができた。

またポジティブな言葉をたくさん投げかけてくれるのでモチベーションを高めるのにも役立った。

▼経営学の基礎講座

テキストはかなり丁寧に作り込まれており、理論の説明と合わせて実際の事例なども載っていたので経営のバックグラウンドがなくても経営学を簡単に理解できる構成になっている。

また扱っている事例は最新のものから身近なものまであるのでシンプルに読んでいて面白い。

▼小論文対策講座（基本編）

小論文対策講座は、小論文を書くうえで重要な考え方を端的にまとめてくださっていて、残りは過去問などを用いた実践に近い形での学習となっている。

問題ごとに模範解答がついているので、添削が返ってくるまではそれと比較しながら自分なりに何が足りていなかったか、余分だったかを考えていた。

また学校ごとの過去問は数年分をまとめて、問題形式ごとにカテゴライズして、各設問形式（結果を聞いているのか、原因を聞いているのかなど）ごとにどのような構成で答えるかといったテンプレートを作って対策していた。

▼小論文対策講座（基本編）添削利用回数

4回

▼小論文対策講座（大学院別対策編）

一橋大学を受ける上でかなりお世話になった。新卒を受け入れている学校に関しては大半の場合、小論文は何か知識を問う問題ではなく、論文の読解力を試すものが多い。そのため、何を知っているかではなく、本文から何を読み解き、どのような構成で書くかが重要になっているのだが、これをできるようにするには過去問を周回するのが一番効果的であった。

▼小論文対策講座（大学院別対策編）添削利用回数

3回

▼出願書類・研究計画書の書き方講座

こちらの講義自体はあまり利用する機会はなかったが、過去の受験者の出願書類はかなり参考にさせてもらっていた。他の受験生たちがどのようなロジックで志望動機や研究計画を練り上げているのかを見ながら、自分のものと比較していた。

▼研究計画書の研究テーマライブラリー

研究テーマライブラリーそのものから着想を得るというよりは、大雑把な世にある研究対象にどのようなものがあるかを俯瞰するのに活用していた。

また自分が興味のあるテーマに差し掛かった時には、注意深く見ることで自分の研究テーマの基礎的な背景知識を効率的に学習した。

▼面接対策講座

過去の面接問答集のテキストをよく読んでいた。自分が受験する大学の、自分と似通った属性を持った人がどのような質問をされ、どのように答えたかを何人分も見ることのできる学校の面接で聞かれる内容の傾向などをおおよそつかんでいた。

あとは時に面接中の雰囲気なども事細かに書いてくれたりするので、面接のイメトレをするときなどはシチュエーションを思い浮かべるのに使っていた。

▼各種フォロー制度について（初回添削フィードバック、受験校相談、マンスリーゼミ、質問制度等）

今回は模擬面接と小論文添削サービスしか使用していないが、とても充実した内容であった。

模擬面接では、本番さながらの鋭い質問を投げられ、自分の面接対策の足りていなかった部分を自覚することができた。また模擬面接後のFBでは、丁寧かつ的確にどうしたら回答をブラッシュアップできるか親身になって一緒に考えてくれるため、本番前に自信をつけることができた。

スランプ・挫折、それを乗り越えるための工夫

新卒でMBAに行くという選択肢自体が、世間一般では珍しく、疑問に思われる部分であるからこそ、「なぜ新卒で就職ではなくMBA進学なのか」という質問に対する答えを言語化するのにかなりの苦労を要した。実際、書類を書く際にここに一番時間を使ったといっても過言ではないし、面接でもここは深く聞かれた。

何も思いつかない時ほど、焦るのではなく一度立ち止まって、MBAのことを忘れて、将来何がやりたいのかを再度考えてみると案外納得のいくMBAに行く理由が見つかるものである。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

幸い学生という立場で、時間にかなりゆとりがあったが、だからこそメリハリをつけないとだらだらと時間を浪費してしまうと考え、諸々予定を立てて計画的に勉強を進めた。具体的には1ヶ月半で経営学の基礎講座のテキストを網羅することを決め、逆算して3日で1章分を読み切るペースで学習を進めていた。

志望動機や研究計画書は締切の1週間前からゆるく構想を考え始め、2週間目からはひたすら原稿を書いて修正の作業を繰り返した。

直前期の過ごし方

小論文は過去問をひたすら解いて、模範解答と照らし合わせて修正するといった作業を繰り返していた。また、過去問を何年分かを比較して、設問ごとにカテゴライズして、聞か

れ方や聞かれた内容に応じてどのような論理構成で答えるかのテンプレートのようなものを作成した。

面接対策は志望動機や自身の経歴から聞かれそうなことを枝分かれ的に洗い出して想定質問を列挙していた。あとはそれを人に見せるなどして、客観的な評価をもらう作業をひたすら行っていた。

試験期間中の過ごし方

試験期間中の過ごし方はこれといって今までと変わっていない。試験期間中も変わらず小論文の過去問を解き続けた。

試験直前は、小論文に関しては、特に何かを見返すといったことはせず、目を瞑ってイメトレしたり、コーヒーを飲んでボーッとすることで自分を落ち着かせていた。面接に關しても、模擬面接以外は特に特別なことはしていない。本番面接直前は、自己紹介と志望動機、それに関わる想定質問に対する回答を頭の中で反芻していた。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

①受験した時の手ごたえ

小論文は正直これといった手応えはなく、受かっているか落ちているか半々くらいの気持ちだった。

ただ、面接に関しては、所々予想外に深く詰められる場面があり、戸惑ったが、表情を崩さず全体的確に答えられたと自負しており、終わったあとはかなり自信があった。

②合格した時の気持ち

当然嬉しいという気持ちもあったが、長い期間MBA対策に費やしていたため、何より全て終わったことに安堵した。

面接対策は特に力を入れていて、落ちていたらあれ以上何をすべきだったのだろうと不安になっていたため、受かっていてよかった。

振り返ってみて合格の決め手は？それに、当該講座はどの程度影響したのか

①合格の決め手

面接で痛いところをつかれたり、鋭い質問をされ一瞬戸惑うこともあったが、それでも相手に納得してもらえるように、一つ一つ丁寧に論理的に回答を考え、表情を崩さずに話せたことが一番大きいと思う。

終始余裕ある立ち居振る舞いをする（実際は余裕がなくても）ことで自分に自信が付いてくるし、面接官も安心して建設的な会話ができるようになる。

②講座の影響度

本番2日前に模擬面接を受けられたのが非常に大きかった。ここで自分の志望動機の粗い部分に気づけたおかげで、自分の志望動機の完成度は見違えるほどに変わったと思う。またその他にも模擬面接官の経験をもとに聞かれそうな質問を教えていただいたのも有用であった。

卒業後のキャリアについて

① MBA に期待するもの

MBAには理論的な知識や、人的ネットワークの構築など多くのことを求めているが、中でも特に「思考力の底上げ」を期待している。多様なバックグラウンドを持った人々とのディスカッションやケーススタディを通じて目の前の事象をより深く洞察、分析する能力を養いたい。

② 今後のキャリアビジョン

卒業後は事業会社の経営企画に就職し、学校で得た知見を活かしながら従来から自分がやりたかった企業の戦略策定を行っていききたい。

その後は、海外でキャリアを積み、日本企業の海外進出を支援するというのが当面の間の自分の将来設計だ。

【推薦書について】

① 提出されましたか？

提出していない

受験生に対するメッセージ

MBA対策は経営学知識のインプット、研究計画書、志望動機、面接対策とやらなければいけないことが多岐にわたります。だからこそ、いかに時間を効率的・効果的に使うかが重要になってくると思います。メリハリをつけてMBAに行くのに必要なものをその時々に応じて学習していくことが必須になります。

また特に志望動機を練り上げるのには特に時間をかけて苦しんでください。自分がMBAに行きたい理由、いかなければいけない理由を誰が聞いてもつつこめないくらい完璧なものに仕上げさえすれば合格まで残すところわずかです。ぜひ苦しみながらいい志望動機を考えてください。

2025年4月入学目標

国内MBA試験合格

国内MBA受験は情報戦 アガルート受講が最短合格への近道

吉井 隆太 さん

40代前半

社会人

2025年4月入学目標 / 国内MBA / 秋入試対策カリキュラム / フル

進 学 先: 一橋大学 経営管理プログラム

合格体験記

MBAを目指したきっかけ

私がMBAの取得を志した理由は、社内で最適なマーケティングをめぐっておきている部門間のコンフリクトを解決して、業界における新しいコミュニケーションやプロモーション方法を確立する先頭に立ちたいと考えたからです。これには現在抱えている問題を俯瞰的にとらえるために経営戦略やマーケティングをはじめ、ビジネスの知識を体系的に学ぶ必要があると感じていますし、自身のいる業界以外の事例などを科学的に学びたいと思いました。それに加えて自身の学びや提案を異なる背景を持つメンバーにアウトプットするスキルを習得したいと考えたからです。それには社内の研修などではなく、様々な業界の方と共に学べるMBAの取得が最適だと考えました。

アガルートアカデミーをお選びいただいた理由

予備校を探す以前に、国内MBAの情報収集を始めた時からアガルートアカデミーのサイトを拝見していたので、自然とアガルートアカデミーを第一に検討しました。受講相談をWEBでさせていただきましたが、相談に乗っていただいた方もWEBでは記載しきれない各大学のMBAプログラムの特長を事細かに説明いただきました。また私の合格するか不安点にも親身になっていただき、最後には合格しますよ、と力強い後押しをいただいたことがきっかけとなりました。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

①勉強の方針

前年の12月にかなり余裕をもってアガルートアカデミーに入学したので、心の余裕もあ

りました。まずは受験モードになるために、勉強の習慣を身につけようと考え、経営学の基礎講座を仕事終わりや週末に受講し、経営学の知識を復習しました。その後に小論文を書く練習、研究計画書作成という予定でいました。

②研究計画書のテーマ設定までの流れ

自身の業務で感じている問題点から設定しました。ただしそのままだとあまりに社内的なテーマだったので、業界全体に適用できるようなテーマに設定すると同時に、広がりすぎて曖昧にならないようにも気を付けました。最終的には学術的にも感じ取られるような用語も使い、研究っぽいテーマに見えるように工夫しました。

③勉強のスケジュール

- 11月 アガルートアカデミー受講相談で国内MBAについて教えていただき、受講を決心する
- 12月～1月 年末年始休暇を利用し、「経営学の基礎講座」を進める
- 2月～4月 「経営学の基礎講座」視聴と並行して「小論文対策講座（基本編）」を始める
- 5月 「小論文対策講座（大学院別対策編）」を開始
- 6月 研究計画書のテーマ設定、先行研究探しなどを開始
- 7月 出願書類・研究計画書の添削依頼を開始→1校目を提出
初回のフィードバックと模擬面接を実施
- 8月 他校に向けて出願書類・研究計画書をブラッシュアップ
- 9月 1校目を受験→不合格で落ち込むと同時に他校の出願書類・研究計画書を提出
- 10月 2校目の1次試験（小論文）を受験
- 11月 2校目の1次試験通過に喜ぶ→すぐに面接の想定問答を書き起こす
第一希望大学院の合格に喜ぶ

受講された講座の良さ、当該講座の学習方法

▼国内 MBA 入試攻略講座

経営学の基礎講座や小論文対策講座などカリキュラムはもちろん、国内MBA受験の合格に向けたTipsが豊富であることが非常に大きかったです。小論文対策、志望理由や研究計画書を受験校別に修正しながら作成できたのは合格に重要であったため、大変参考になりました。

▼経営学の基礎講座

初期に受験勉強モードに切り替えるのに非常に役に立ちました。PCはもちろん、タブレット端末でも受講できるため、場所、時間を選ばず勉強できました。小論文の基本編でも知識が必要な際に振り返る必要があったので、とても良かったです。

▼小論文対策講座（基本編）

普段はPCで文章を書くことに慣れているため、鉛筆やシャーペンで文字を書くことの

いい「リハビリ」になったと感じました。また経営学の基礎講座で学んだ知識が自身に定着して、アウトプットできるかの指標にもなりました。

▼小論文対策講座（基本編）添削利用回数

10回

▼小論文対策講座（大学院別対策編）

受験校ごとに全く小論文の問題の特色が違うので、大変勉強になりました。自身の受験校が何校あるかで、全11回の添削回数をどう振り分けるのがいいか最初に考えて利用するのがいいと思います。小論文は答えがないので、講師の先生から添削されるのは自信をもって本番を迎えるのに重要でした。

▼小論文対策講座（大学院別対策編）添削利用回数

6回

▼出願書類・研究計画書の書き方講座

もっと早い段階から出願書類や研究計画書の添削を依頼すればよかったという反省が大きいです。気づくと早い時期の1校目の提出期限が迫っており、たった2回しか添削を受けることができずフルに活用することができませんでした。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座 添削利用回数

2回

▼研究計画書の研究テーマライブラリー

自身もマーケティングをテーマに研究計画書を作成する予定であったために、マーケティング関連のライブラリーを参考にさせていただきました。ただ最終的には自身の業務で起きている問題、課題をテーマに作成しました。

▼面接対策講座

過年度合格者の面接内容をまとめたテキストが非常に参考になりました。どの大学でどのような観点から質問があるかを事前に把握できるため、必要以上に面接対策をしなくて済みますし、本番でもテキスト通りの規定の質問もあり、落ち着いて回答できました。

▼各種フォロー制度について（初回添削フィードバック、受験校相談、マンスリーゼミ、質問制度等）

模擬面接や出願書類の初回フィードバックは自身の用意した回答や書類が自身のいる業界とは違う方からフィードバックしてもらえるので分かりにくい用語や言い回しを修正することができました。マンスリーゼミは他の受験者がどのようなことに悩んでいるかを把握することができました。

スランプ・挫折、それを乗り越えるための工夫

1校目はかなり早い時期の7月に研究計画書や志望動機の提出期限があり、自身でも不十分だと思っていたので不合格も覚悟していましたが、実際に不合格だった際には落ち込み、自身がやってきた勉強や研究計画書作成が無駄になっているのではないかと不安になりました。しかし、自身が探究したいテーマは変えずにさらに先行研究などの文献を読み、どのような表現方法にすると大学教授陣に関心を持ってもらえるかを徹底的に修正することで、自信をもって提出、それに対する面接にも臨むことができました。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

前年の12月というかなり時間的に余裕をもって受験勉強を開始したこともあり、学習時間を平日は終業後の1日1～2時間を週2回ほど確保していました。週末はまとめて3～4時間ほどカフェや図書館などで勉強していました。ただ、「余裕をもって勉強を開始した」という自信があだとなり、1校目の研究計画書や志望動機などに取り掛かるのが結果的に遅くなってしまい、長期間の視点でのスケジューリングが必要であることを痛感しました。

直前期の過ごし方

研究計画書などを提出してしまうと、勉強時間は大きく減少しました。小論文に経営学の知識が必要な大学の試験直前には問題を予想して「経営学の基礎講座」のテキストを復習して、知識の整理を行いました。実際に予想した部分が本番にも出ていた時は我ながら驚きました。他には過去に自分が記載した大学別小論文の添削をもう一度見直したりしていました。また大学のHPに掲載されている過去問も見直すことで、当日をイメージしながら過ごしていました。

試験期間中の過ごし方

面接の想定問答を書き起こしていました。面接官から「何分で自己紹介を」や「何分で研究計画書の内容を話して」と言われた際に対応できるように、実際に話してみても何分かかるかも計測していました。また回答をブロック化して指示された時間で話せるように組み合わせも考えていました。緊張しても勝手に口から出るように何度も何度も暗唱できるように、通勤時間や移動中、自宅のお風呂などでも口に出して練習していました。結果的にこれは非常に重要な練習だったと思います。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

①受験した時の手ごたえ

合格した大学は小論文（1次試験）もある程度手ごたえはありましたが、他の人も同じだろうと感じており、不安でした。実際に小論文では大きな差は付かなかったと思います。無事1次試験を通過した後の面接では、研究計画書についてかなり突っ込みを受けましたが、自身の業務からリアルに起きている問題意識であったので自信をもって回答することができました。しかし、他の受験者の様子は当然わからないので、発表まで不安で仕方ありませんでした。

②合格した時の気持ち

第一志望だったので、本当にうれしかったですし10か月にも渡る受験勉強が報われて安心しました。何度も受験番号を確認しましたが、実感はなく本当に合格だろうかという気持ちもありましたが、大学から合格通知書が送られてきてようやく実感ができました。

振り返ってみて合格の決め手は？それに、当該講座はどの程度影響したのか

①合格の決め手

国内MBAは最近受験者が増加してきたものの、大学受験や高校受験に比べて単純な座学教科の試験点数で判断されないため、合格までの情報が不足していると感じています。そのような中でアガルートアカデミーの講座は合格者の研究計画書、志望動機、面接での問答が共有されるため、無駄なく最短距離で合格まで導いてくれると感じました。

②講座の影響度

もちろんかなり大きかったと感じています。上記の通り国内MBA受験、合格者の情報が不足しているため、そのノウハウを蓄積しているアガルートアカデミーの講座があったからこそ、大学が求めている人材であることのアピールや研究計画書の記載ができたと感じています。

卒業後のキャリアについて

① MBA に期待するもの

実際に社会、業界、社内で起きている問題、課題を解決するには視座を高くもって、アカデミックに裏付けられていることから解決の糸口が見つかるかもしれません。また大半の社会人は実務での経験を元に問題、課題を解決しているため、アカデミックな視点から解決案を提案、実行できるようになりたいと思います。

②今後のキャリアビジョン

現在は社内のセールス部門に所属していますが、MBAによって学んだ知識をもとに社内で起きている部門間のコンフリクトを解決していきたいと考えています。セールス部門から他の部門に異動することも考えており、より効率的な企業運営をできる人材になりたいと考えています。

【推薦書について】

①提出されましたか？

提出した

②どなたに推薦書をご依頼しましたか？

直属の上司

受験生に対するメッセージ

国内MBA受験は情報戦だと考えています。どの大学はどのようなプログラムが用意されていて、どのような力を身につけることができるのか、また大学側も現在どのような人材を求めているかななどを事前に情報入手するだけで、効率的な受験勉強ができると思います。

す。そのためには忙しい社会人はアガルトアカデミーの講座を受講することが最短合格への近道だと考えています。アガルトアカデミーの情報をもとに勉強、必要書類を作成すれば志望校への合格は決して夢物語ではないと思います。

2025年4月入学目標

国内MBA試験合格

願書、研究計画書、面接は時間をかけ念入りに準備

森本 千恵 さん

20代後半

社会人

2025年4月入学目標 / 国内MBA / 秋入試対策カリキュラム / フル

進 学 先: 早稲田大学大学院 経営管理研究科全日制グローバル

他の合格先: 慶應義塾大学 経営管理研究科

合格体験記

MBAを目指したきっかけ

広告会社にて、社会問題やサステナビリティにアプローチしたプロジェクトに携わっているのですが、認知や話題性といったアイデア創出は得意とする一方で、「それを実際にビジネスとして中長期的に成り立たせていけるのか」という視点に立ち返った時に、現在従事している領域を超えた知識や経験が必要だと感じました。そういった背景から、MBAで経営戦略やイノベーションなどのビジネスの基礎を総合的に学ぶことで、サステナビリティの認知や啓発だけではなく、実現に貢献していけるのではないかと思います、MBAを志望しました。

アガルートアカデミーをお選びいただいた理由

アガルートを選んだ理由は、大きく以下の3つが決め手でした。

①講義がわかりやすい

→無料体験した際に、テキストや講義が非常にわかりやすく、経営学の知識がほとんどなかった自分でもやっていけそうだと感じました。

②合格率の高さ

→受験するなら一発合格したいという思いがあったため、志望校の過去の合格率は予備校を選定する上で重要なポイントでした。

③魅力的な合格特典

→合格後の特典（お祝い金3万円or全額返金）がとても充実していたのも、アガルートを選ぶ一押しになりました。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

①勉強の方針

職業柄、平日はなかなかまとまった時間を確保することが難しかったので、寝る前に30分～1時間程度テキストや講義を視聴したり、通勤のスキマ時間に音声を聞いたりしてインプットしていました。小論文対策や面接対策は、割り切って土日に行うことで、うまく仕事と両立させていました。

②研究計画書のテーマ設定までの流れ

MBAを目指そうと考えていた時点で、ある程度方向性は頭の中にはありました。それを具体的にどう言語化していくか、というところで、過去の受講生の研究計画書を参考にしたり、国会図書館で類似のテーマの論文を読んだりして詳細を詰めていきました。

③勉強のスケジュール

- 1月 アガルート登録後、経営学の基礎講座から始める。
- 2月 経営学の基礎講座を1周終える。小論文添削（基礎編）を週に1-2回ずつ実施。
- 3月 経営学の基礎講座2周目開始。残りの小論文添削（基礎編）を終える。
- 4月 経営学の基礎講座2周目終える。TOEICの点数を更新すべく英語の勉強も開始。
- 5月 国会図書館にて類似のテーマの論文を読み漁り、願書・研究計画書作成を開始。
TOEICに向け勉強。
- 6月 願書・研究計画書作成。TOEIC受験&スコア更新。
- 7月 併願先の小論文対策として過去問と数学対策を実施。
- 8月 併願先の出願書類添削実施&出願。
- 9月 WBSの願書・研究計画書完成&出願。面接に向けて想定質問リストを作成。
- 10月 併願先受験に向けて1週間前に模擬面接を実施し、二次試験に挑む。
- 11月 WBSの二次試験の面接に向けて想定質問リストを繰り返す。

受講された講座の良さ、当該講座の学習方法

▼国内 MBA 入試攻略講座

一番最初に動画を聞き流しました。この講座を通して、何かを得るという目的というよりも、これからどんな感じに受験していくのかといったイメージを膨らませるような内容だった印象があります。一発目に視聴したものであったので、学習モチベーションは上がりました。

▼経営学の基礎講座

経営学の基礎講座がわかりやすいからアガルートを選んだと言っても過言ではありません。飯野先生の講義が、経営学の知識がほぼゼロの自分にも理解ができる内容になっていたので、非常に評価が高いです。合格しましたが、入学までにもう一度おさらいしておきます。

▼小論文対策講座（基本編）

普段ロジカルを意識して長い文章を書くことがそこまで多くないので、基本的な構成の組み方から改めてレクチャーいただけたのはありがたかったです。私が受験した学校は経営学の知識を問われるものではありませんでしたが、基礎的な論述方法をインプットできていたので、試験当日も問題なく解答ができました。

▼小論文対策講座（基本編）添削利用回数

11回

▼小論文対策講座（大学院別対策編）

大学院別対策編の小論文対策講座に関しては、志望校の一つであった慶應義塾大学はなかったため、受講しておりません。また、早稲田大学に関しても、2025年入学の試験では小論文が課せられていなかったため、同様に受講しませんでした。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座

各大学の書き方のポイントと合格者の例はかじるように見ていました。例があったからこそ、どういう構成で書けばわかりやすいか研究できましたし、それを自分に当てはめたらどのように記述できるかを想像できたので、とても参考になりました。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座 添削利用回数

2回

▼研究計画書の研究テーマライブラリー

研究計画書の研究テーマライブラリーに関しては、自身の研究テーマ（プロモーション起点で考える共通価値の創造の実現可能性）は当初からすでに方向性がある程度決まっていたため、受講せずに研究計画書の作成に取り掛かりました。

▼面接対策講座

志望大学院である慶應義塾大学（MBA）と早稲田大学（全日制コース）の面接レポートが多かったので、非常にありがたかったです。過去の受験者が面接時に質問された項目を洗いざらい出して、自身のオリジナル想定質問リストを作成しました。

▼各種フォロー制度について（初回添削フィードバック、受験校相談、マンスリーゼミ、質問制度等）

願書・研究計画書の添削フィードバックや模擬面接では大変お世話になりました。先生から出願書類も模擬面接もよくできていると評価いただき、受験に向けてさらにモチベーションが高まりました。ありがとうございました！

スランプ・挫折、それを乗り越えるための工夫

スランプはあまりなかったような気がしますが、元々が心配性な性格もあり、常に漠然

とした不安は抱えていました。とくに、併願先の小論文では数学もあったので、苦手なジャンルの問題を解いている時はずっと不安を感じていた記憶があります。

だからこそ、悔いのないようにできること（例えば、数学の参考書を片っ端から解いていく、面接で聞かれそうな質問を洗いざらい出してQ&Aを作るなど）をやり、「これで落ちたらもう仕方がないよね」と思えるくらいの準備をして自信をつけて臨みました。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

仕事の兼ね合いで、平日はまとまった時間が取れない分、スキマ時間を活用していました。例えば、通勤時やメイクをしている際に講座を耳で聴いていました。逆にその分、休日は時間がかかる小論文対策や願書の作成を行い、割り切って勉強をしていました。

また、私はどちらかという短期集中型でガツと一気にやるタイプではなく、余裕を持ってコツコツやるタイプなので、あまり追い込みすぎずに、気楽に（でも計画的に）準備するように意識していました。

直前期の過ごし方

一次試験の直前期は、願書・研究計画書の推敲に徹していました。数日置きに読み返して、全体の構成はわかりやすいものになっているか、より良い表現はないかといったポイントを意識しながら、一言一句チェックしていました。

二次試験の直前期は、面接のみだったため、事前に作っておいた想定質問リストを見ながら繰り返し受け答えの練習をしていました。ただ、丸暗記すると逆に緊張してしまい、思うように話せないタイプなので、概要だけ頭に入れておき、ある程度表現の自由度を持たせながら練習していました。

試験期間中の過ごし方

特段何かをすることはせず、普段通り過ごしていました。体調管理に気をつけることくらいかなと思います。併願先の試験もWBSの試験も、ちょうど試験前になるにつれて仕事も忙しくなってしまったので、とにかく心と体を壊さないように……という感じで、睡眠と食事は確保するようにしていました。

試験当日の面接は、「どんな会話ができるかな」と面接を楽しむようなポジティブマインドで挑むよう心がけました。そのおかげか、終始楽しく会話して面接を終えました。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

①受験した時の手ごたえ

非の打ち所がないと言っていいほど、自分でもびっくりするくらいスムーズに和気藹々と面接が進んでいったので、問題ないだろうと感じました。また、私は奨学金も志望していたので、もしかするとこのまま奨学金も通るかも……？ という淡い期待も抱いてしまうほどでした。

②合格した時の気持ち

元々自信はありましたが、とはいえ結果が出るまではソワソワしていたので、ちゃんと

合格通知を見た時はホッとしました。また、もしかしたら……と思っていた奨学金も無事通っていたので、合格への嬉しさがさらに倍増しました。

振り返ってみて合格の決め手は？それに、当該講座はどの程度影響したのか

①合格の決め手

「入念な準備」これに尽きると思います。WBSの入試はそこまで経営学の知識が必要ではないので、勉強勉強！ という感じではなく、「いかにキャリアの棚卸しができているか」そして「それを相手に伝わるように言語化できているか」が重要だと感じます。

だからこそ願書や研究計画書、面接でとくに見られるので、そこにどれだけ時間をかけて準備できるかが肝かなと思いました。

②講座の影響度

かなり影響はあったと思います。例えば、願書や研究計画書、面接再現では、過去の受験生がどのようなことを思い、どのように言語化しているかを参考にできるので、それを自分に置き換えて考えることができました。そのおかげで視野が広がり、思考がさらに深められたと思います。

卒業後のキャリアについて

① MBAに期待するもの

経営の基礎を体系的に学びつつ、ディスカッションを通して多様な視点を吸収し、多角的な思考力を養いたいと思っています。とくにWBSは研究者だけでなく、実務家の先生も多く在籍されているため、学術的側面と実践的側面の両側面からバランスよく学びを深められることを期待しています。

②今後のキャリアビジョン

将来的には、サステナビリティビジネスのスペシャリストになりたいと考えています。サステナビリティの取り組みは、ここ数年で日本企業の間も活発になってきていると感じます。しかし、共通価値の創造（CSV）においては、その定義や効果測定など、まだまだ議論の余地があったり、実務だけでなく学術的にも発展途上の分野とされているので、まずはMBAで学術的に研究を深めつつ、その先で得た知見を実務にも応用し、最終的にCSVのスペシャリストとして企業やその先の社会に貢献していきたいと考えています。

【推薦書について】

①提出されましたか？

提出していない

受験生に対するメッセージ

最初は漠然と「MBAで学んでみたいな」という思いから受験を考えていました。しかし、徐々に情報収集をし、キャリアの棚卸しをしていくにつれ、「MBAで学んでみたいな」から「MBAじゃないとだめだな」と思うようになりました。ここまで辿り着けば、あとは言語化してわかりやすく伝えることができれば、基本的にはうまくいくかと思います。

少なくともこのページを見ている方は、未来を見据えて行動を起こそうとしている方だと思います。その時点で、すでに他の人よりも一歩前に進む準備ができているのではないのでしょうか。不安はあるかもしれませんが、しっかりと準備していけば、きっと良い結果になると思うので、ぜひその一歩を踏み出してみてください。ご健闘をお祈りしています。

2025年4月入学目標

国内MBA試験合格

知識不足の箇所は経営学の基礎講座に戻って復習

三宅 一行 さん

40代後半

社会人

2025年4月入学目標 / 国内MBA / 秋入試対策カリキュラム / フル

進学先: 横浜国立大学 国際社会学府経営学専攻

他の合格先: 法政大学 イノベーション・マネジメント研究科

合格体験記

MBAを目指したきっかけ

過去に、前職と現職とでジョイントベンチャーを立ち上げ、そこへ支援業務を行っていました。開発に成功し、製品を受注して量産まで行いましたが、市場規模が当初の想定以下だったため、工場は閉鎖となり、関係したメンバーの多くが辞職してしまうことを経験しました。

プロジェクトの成否が会社だけではなく関係するメンバーにも多大な影響を与えてしまうことを体験し、プロジェクトの失敗リスクを減らす方法はないかと考えるようになったのがきっかけです。

アガルートアカデミーをお選びいただいた理由

MBA受験に予備校があること自体を認識していなかったので、予備校の有無からwebを用いた調査を開始して、比較サイトのコメント等を参考にして分析を行い、最終候補としてアガルートともう一社に絞り込みました。

両社の資料を取り寄せ、金額、学習スタイル、合格体験記、講師の評判を比較して、web主体の学習を行うアガルートと自分のライフスタイルがマッチしていて継続できそうだと判断しお世話になることにしました。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

①勉強の方針

MBA受験を行うにあたり、対策としてどのように進めてよいのか右も左も分からない

状態だったので、まずはホームルールの講義を聞き、自分が学びたいことはゼネラリスト型なのか研究重視型なのかを決めました。決定後はホームルールの講義を聞いて、各講座に取り組むおおよそのスケジュール感を決めて、スケジュールに沿って進めました。

実施してみたの失敗は研究計画書です。研究計画書は書く上で先行研究の読み込みが必要ですが、先行研究の調査、読み込みに想定以上の時間を取られ、添削結果から出願迄の期間が短くなってしまい、添削のアドバイスを反映した十分なものにできないと判断して、受験大学を一つ減らしました。

②研究計画書のテーマ設定までの流れ

出願書類・研究計画書の書き方の授業の最初にある原体験を熟考し、現職で感じている課題と融合させて大枠で研究したいテーマを絞り込み、関連しそうな論文をwebで探し、みつけれない論文は国会図書館に足を運んで読み込みを行い設定しました。

③勉強のスケジュール

5月 経営学基礎講座の視聴開始

6月 経営学基礎講座の視聴、出願書類・研究計画書の書き方講座の視聴開始

7月 経営学基礎講座の視聴、研究テーマライブラリーを視聴。国会図書館等で先行研究の調査・読み込み

8月 経営学基礎講座の視聴。国会図書館などで先行研究の調査・読み込み

9月 出願書類・研究計画書の作成・添削依頼。先行研究の調査・読み込み。小論文対策講座の視聴

10月 出願書類・研究計画書の作成・添削依頼。先行研究の調査・読み込み。小論文対策

11月 経営学基礎講座の視聴。面接対策講座を視聴

受講された講座の良さ、当該講座の学習方法

▼経営学の基礎講座

重要なことが網羅され、まとまっているので小論文の知識構築、出願書類の知識として非常に参考になりました。

利用方法は通勤時間、職場での休憩時間、待ち合わせ等の隙間時間を使って、何度も繰り返し活用しました。

▼小論文対策講座（基本編）

インプットしたことをアウトプットすることの難しさを体感。最初はほとんど書けませんでしたでしたが練習するうちに文字数を多くすることができるようになりました。

利用方法は各項目の設問を解いて、理解が不十分なところは経営学の基礎講座に戻ってインプットを行い、別の日に解く作業を繰り返し実施しました。

▼小論文対策講座（大学院別対策編）

志望校の過去問は大学のホームページにもありますが解答例が記載されている点が参考

になりました。

一通り自分で解いてみて、知識が不足している箇所については経営学の基礎講座に戻って復習し、再度同じ問題を解くことを繰り返し実施しました。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座

原体験を熟考することで、漠然としていたMBA受験の意義を再考し明確とするきっかけとなりました。

利用方法は通しで一通り聴講し、参考になる点は繰り返し聞いたのと志望大学の答案事例を参考に研究計画書のドラフトを作成し、添削結果のアドバイスをもとにブラッシュアップをしていきました。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座 添削利用回数

2回

▼研究計画書の研究テーマライブラリー

そのものズバリというものはなかったですが、研究計画書を書く上での着眼点として参考になりました。

利用方法は通しで一通り聴講し、参考になる点は重点的に聞くようにして、研究計画書のテーマ絞り込みの参考として使用しました。

▼面接対策講座

一般的な質問項目、タイプ別の質問項目が具体的に挙げられていて、とても参考になりました。

記載されている一般的な質問項目、タイプ別の質問項目について回答を用意して面接の対策としました。また、志望大学の面接レポートに一通り目を通して、面接の流れを把握することに活用しました。

▼各種フォロー制度について（初回添削フィードバック、受験校相談、マンスリーゼミ、質問制度等）

志望校を検討するにあたりオンライン入試説明会を利用しました。直接、教授の声を聴き、質問もすることができて、どういう大学なのかを知ることができる良い機会だと思いました。

携帯で受講したため説明資料を入手できなかったのですが、後日早々に送っていただき、スタッフさんの対応も良かったです。

スランプ・挫折、それを乗り越えるための工夫

最初にした研究計画書の添削結果が赤字だらけであまりにも酷く、完成させられるイメージが湧かず、やる気が全く出なくなり受験を諦めようかと考えた時もありました。数日受験を忘れ現実逃避をした時にふと何故MBA受験をしようと思ったのかを思いだし、

改めてスイッチを入れることができました。

その後は添削でアドバイスを頂いた内容を一つずつ改善し、また紹介していただいた論文を読み、研究計画書の完成度を高めることができました。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

朝はMBAの受験前よりも1時間早く起床し、出社迄の時間と帰宅後は夕飯までの1時間と就寝前の1時間をテキストを使用した学習、小論文、先行研究の論文の読み込み、研究計画書の作成等の時間に充てていました。

通勤中、仕事の休憩時、待ち合わせ時間等の隙間時間を活用し、スマホを使って講義のインプットの勉強に充てていました。

土日、祝日は平日の短時間ではできなかったような項目を重点的に行うように心がけていました。

直前期の過ごし方

一次試験前は研究計画書の添削中に小論文対策講座を一通り実施して、知識が不足しているところを中心に経営学の基礎講座の該当する箇所を復習して、再度同じ問題を解き、また不足を感じた箇所は経営学の基礎講座で復習するというサイクルを繰り返し行っていました。

研究計画書の完成後は、志望校のホームページに掲載されている小論文の過去問を解いてみて、経営学の基礎講座の内容が重要と再認識し、経営学の基礎講座に絞って繰り返し勉強していました。

試験期間中の過ごし方

二次試験前は面接対策講座の大学別に入る前の共通部分を繰り返し確認して、記載されている一般的な質問項目、タイプ別の質問項目について回答できるような準備をしたのと、面接対策講座の志望校の面接レポートを見て、面接の流れをイメージし、同じ質問が来たらどう回答するかみたいな準備をしていました。何かの時のネタ用に面接担当教授の論文も読んでおきました。

面接直前迄、研究計画書は何度も確認して、何処を突っ込まれても良いように準備をしていました。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

①受験した時の手ごたえ

一次試験は研究計画書を作成した際に参考とした本の内容のテーマが出題され、2問とも記述できたので手応えはありました。

二次試験は質問事項に一通り回答はしたものの、盛り上がり欠けていて全く手応えはありませんでした。

②合格した時の気持ち

合格発表時は仕事だったのですが、ホームページで受験番号を確認した時には小さく

ガッツポーズをし、その後は仕事が手につかず、シラバス、リーフレット等、志望校のホームページを見て入学後の事ばかりを考えていたと思います。

振り返ってみて合格の決め手は？それに、当該講座はどの程度影響したのか

①合格の決め手

演習テーマの内容と研究計画書のテーマ・内容の親和性が高かったこと、それとジョイントベンチャーへの支援業務を行った際に出資側の2社に所属して、開発の進め方の違いを実際に経験したことが強みになったのだと思います。

②講座の影響度

出願書類・研究計画書の書き方講座と経営学の基礎講座がとても役に立ちました。

出願書類・研究計画書の書き方講座の添削内容が的確で受講していなかったら合格していなかったと思います。経営学の基礎講座は小論文対策のインプットとしてとても役立ちました。

卒業後のキャリアについて

①MBAに期待するもの

経営学の理論を学ぶことで、今迄とは違い多角的に物事を見られるようになることで仕事へのアプローチも適切に行えること、また、一緒に学ぶ仲間との人脈形成ができることで、今後のキャリア・人生を豊かにできるものと期待しています。

②今後のキャリアビジョン

将来は独立・起業することを視野にいれているので、まずは今の職場でMBAで学んだ経営学の知識を活用して、経営層へキャリアアップをして、経営の実践力と対応力を磨き、独立・起業する際の糧としたいと思っています。

【推薦書について】

①提出されましたか？

提出していない

受験生に対するメッセージ

アガルトを受講したことで短期間で志望校の合格を勝ち取ることができました。

飯野先生の講義は経営学の基礎講座をはじめ、出願書類・研究計画書の書き方講座、面接対策講座、小論文対策講座とどれも事例を多く使った説明で経営学初心者にもとても理解しやすい内容になっていて、どの講座も受験に役立つ内容ばかりです。

研究計画書の添削コメントは厳しくて心が折れるかもしれませんが、合格するための確かなアドバイスだと信じて頑張ってください。

2025年4月入学目標

国内MBA試験合格

不安な小論文の対策に基礎講座のテキストを3周

宮田 龍 さん

30代後半

社会人

2025年4月入学目標 / 国内MBA / 秋入試対策カリキュラム / フル

進 学 先: 法政大学 イノベーション・マネジメント研究科

合格体験記

MBAを目指したきっかけ

私は現在商品開発職に従事しており、将来、自身での起業を考えております。

1つ目の志望理由としては、多方面から物事を考える経営的な管理手法を身につけ継続的に事業を成長させる力を習得したいと考えております。

2つ目は人脈を広げ、多様性のある環境に身を置くためです。現在製造業に寄った人脈は多いものの、別事業の人脈があまりなく多面的な考え方に刺激を受け自身のビジネス展開の成長に繋がりたいと考えておりMBAを志望しました。

アガルートアカデミーをお選びいただいた理由

選定の基準として合格実績があることや、フレッシュな生の情報を持っているかを重視しておりました。アガルートはインターネットで調べるとどちらの情報も公開しており、すぐに受講を決めました。またYouTubeで合格者のインタビューがあり、各学校の入試準備に非常に役立つと考えました。受講前に経営の基礎講座サンプルテキストや合格体験記も確認でき、どのように勉強できるのか、どのように進めるのかスケジュールなど事前確認できたのも大きいです。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

①勉強の方針

小論文に不安があったため、まずは基礎講座のテキストを3周以上回すことを意識しました。初期の段階から受験校を決めていたこともあり、どの分野が小論文に出るか傾向をつかみ、その分野で集中的に知識習得及び、小論文のスキルアップの方針としていました。

②研究計画書のテーマ設定までの流れ

将来的に起業をしたいと考えていること、現職が商品開発職のため、2点に関わるテーマにしたいと考えておりました。また商品開発職でもあるため、関連する分野で研究テーマを探し、自身に興味があるかも踏まえテーマ設定しました。

③勉強のスケジュール

- 12月 「経営学の基礎講座」動画視聴開始
- 1月 「経営学の基礎講座」テキスト熟読
- 2月 「小論文添削（基本編）」動画視聴
- 3月 「経営学の基礎講座」動画視聴開始
- 4月 出願予定大学の説明会参加
- 5月 「経営学の基礎講座」動画視聴開始
- 6月 「出願書類・研究計画書の書き方」「研究計画書の研究テーマライブラリー」動画視聴
- 7月 研究計画書作成及び添削依頼
国会図書館で参考図書を調査
研究計画書の修正および再添削依頼、完成
- 8月 時事ネタ調査
- 9月 「面接対策講座」動画視聴
「模擬面接」の実施
出願書類準備

受講された講座の良さ、当該講座の学習方法

▼国内 MBA 入試攻略講座

各学校の立ち位置や自身に適した学校がどこか選定するために、非常に重要な講座でした。また、スケジュールや進め方なども参考にさせていただき、遠回りせず受験に臨むことができました。基本的には動画視聴をメインで進めました。

▼経営学の基礎講座

私自身、初めての経営学を学ぶ機会でしたので、受験と関係なく非常に勉強になりました。受験時期からかなり早く進めていたこともあり、全分野熟読するほどインプットしたかと思います。受験に関連する分野はテキスト、その他分野は動画視聴で利用させていただきました。

▼小論文対策講座（基本編）

社会人になってから書く機会が減ったことや小論文自体書いたことがなかったため、添削していただき、書き方のスキルは習得できたと思います。苦労した点は1時間と決めて書いていたため、途中からロジックが合わないことを書いていたこともあり、体系立てて

から書くことに慣れるのに時間がかかりました。

▼小論文対策講座（基本編）添削利用回数

4回

▼小論文対策講座（大学院別対策編）

自身の受験校の情報が充実していたこともあり、非常に活用させていただきました。全部は添削しなくても出題傾向をつかめますし、経営学の基礎講座のどの分野を集中して勉強するかも参考にできました。本番の題材も過去問と類似しておりました。

▼小論文対策講座（大学院別対策編）添削利用回数

2回

▼出願書類・研究計画書の書き方講座

書き始める前の情報としてどのようなことを書くのか、どう書いていくか自分自身整理でき、参考になりました。出願書類作成に十分に時間をかけることができたため、原体験など自身の人生の整理にも役立てることができました。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座 添削利用回数

2回

▼研究計画書の研究テーマライブラリー

自身が興味のある分野に特化して視聴していましたが、最終的にプロジェクト研究所の参考になるテーマをライブラリーから選択させていただきました。そのうえで国会図書館で情報収集及びブラッシュアップしていき、完成させることができました。

▼面接対策講座

どのような内容を準備したほうが良いかリストがあったかと思いますが、このリストがあって良かったです。事前に情報整理できたこともあり、本番はスムーズに受け答えできました。学校別の面接内容もあり落ち着いて面接に臨めました。

▼各種フォロー制度について（初回添削フィードバック、受験校相談、マンスリーゼミ、質問制度等）

各種添削は自分自身の修正ポイントを的確に指摘していただけるため、活用して良かったです。またマンスリーゼミについてもお時間の最後に最新情報をインプットしていただける機会もあったので、楽しく拝見させていただいておりました。

スランプ・挫折、それを乗り越えるための工夫

勉強開始から3か月目あたりがスランプでした。特に小論文を書くことに慣れていないため、小論文練習を2か月ほど実施していませんでした。乗り越えるため、なぜMBAを

受講するのか、起業したいのはなぜかなどノートの1ページ目を書いていたため、勉強開始前に読むことで自分自身のモチベーションを高め、維持することを工夫してきました。また、合格者のインタビュー動画や受講したい大学の動画も見ること、モチベーションを高めていました。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

平日の通勤時間の1時間で動画を見たり、土日祝日にテキストの読み込みを行ってインプットをしていました。また小論文の練習はまとまった時間が必要なため、土日に練習をしていました。プロジェクト計画書の作成は短期間で集中して作成したかったため8月の長期休暇に素案を作成するようにしていました。受験勉強の開始時期が非常に早かったため土日などお休みの日も長時間実施するのではなく、4時間くらいの時間を充てていたと思います。

直前期の過ごし方

入試日1ヶ月前は願書に必要な書類がそろっているか確認し、面接の準備をしていました。また1週間前は仕事を早めに切り上げ、小論文の書く練習や時事ネタのインプットに平日にも関わらず毎日5時間くらい時間を使っていました。

気持ちを落ち着かせるため落ちても次の学校などもあると考え、気負いすぎないようにしていました。また、入試日の2日前にマンスリーゼミもあったため、ゼミ内で飯野先生に直前時期のアドバイスも頂き背中を押していただいたのも、合格するんだという気持ちになったと思います。

試験期間中の過ごし方

午前中に小論文、午後に面接のスケジュールでした。小論文開始の1時間前に受験会場の最寄り駅に着き、会場の場所確認をしていました。時間もあつたためカフェでセルフ模擬面接練習をして過ごしていました。小論文終了後も、2時間ほど時間が空いていたため、カフェでセルフ模擬面接練習と面接の準備に時間を割いていました。あとは落ち着いた音楽を聴いていたり、昼ご飯は軽食にするなど体調を崩さないように気を付けていました。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

①受験した時の手ごたえ

合格した手ごたえのほうが大きかったと思います。心配していた小論文が過去の小論文と似た内容であったため参考に書いたことや、面接も問題なく会話ができ、面接官の表情も曇っていなかったため、受験後は好感触でした。

②合格した時の気持ち

一安心しました。半年間以上の時間をかけて勉強したこともあり、落ちたらショックですし、次の学校の入試対策など始めないといけないなと考えていたので、合格してうれしかったです。またMBA通学中の仕事に対する時間のかけ方もどうしようかなと考え始めるきっかけにもなりました。

振り返ってみて合格の決め手は？それに、当該講座はどの程度影響したのか

①合格の決め手

プロジェクト計画書と面接だと考えています。面接では、なぜMBAを取りたいのか、どのようなことを受験校で学びたいのかを重視して確認しているように感じました。そのうえでその学校とマッチするのかも見ていると思います。

②講座の影響度

講座を受けていなかったら合格していなかったかかもしれないと思います。やはりテキストや動画の内容も必要な情報にブラッシュアップされているかと思いますので、遠回りせず情報をインプットできたこと、過去の傾向も知ることができ非常に助かりました。

卒業後のキャリアについて

① MBA に期待するもの

経営に必要な知識はそうですが、一番期待しているのは人脈形成です。会社内だけでは慣れ親しんだ文化でみんな働いているため、外の文化・分野での考え方を互いにコミュニケーションしながら高めあえればと思います。

②今後のキャリアビジョン

MBA卒業後は現在所属している企業で、イノベーションを起こしたのち、2～3年後に起業したいと考えております。せっかく経営知識や実行力など基盤を身につけに行くので、起業してチャレンジしてさらに自己成長したいと思います。

【推薦書について】

①提出されましたか？

提出していない

受験生に対するメッセージ

アガルート勉強内容は非常に洗練されており、必要な情報を網羅的に扱っているため、受験生の方は信じて勉強に取り組んでください。どうしても勉強にダレてきてしまう時期は来と思いますが、MBAに進学する目的や自身のキャリアをどうしたいのかを自問自答して、モチベーションを管理するのが極めて重要でした。通学している将来の自分を想像して、継続して勉強に励んでいきましょう！ 隙間時間の短い時間でもいいので、継続することが大事です！

2025年4月入学目標

国内MBA試験合格

アガルートで志望大学院に特化した受験対策ができた

齊藤 千寿 さん

30代前半

社会人

2025年4月入学目標 / 国内MBA / 秋入試対策カリキュラム / フル

進 学 先: 青山学院大学大学院 国際マネジメント研究科

合格体験記

MBAを目指したきっかけ

理由は多々ありますが、一番の理由としては次のキャリアアップに向け十分条件としてMBAがあることが好ましかったからです。私は次のキャリアプランとして勤めている外資IT企業でアカウントストラテジストを目指しています。このポジションは顧客の事業課題、成長領域を正しく理解し、顧客の需要に対して自社の2000を超えるサービスの提案を指揮するポジションです。

このポジションで成功を納める上で、体系的な経営学知識があることは顧客理解、また戦略策定にかなり寄与できると感じ志願しました。

アガルートアカデミーをお選びいただいた理由

きっかけはYouTube動画から、特に大きな理由はなく、単純に飯野先生の見た目のインパクトから閲覧を始めました（笑） ささいなきっかけではありましたが、内容を見進めると無償のYouTubeコンテンツであるにもかかわらず各大学の特色や、入試対策など有力な情報発信をしており他の関連動画よりもかなり見ごたえを感じました。無償でここまでの配信をすることで、有償では更に充実したカリキュラムが期待できそうだと感じたため最終的に受講を決めました。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

①勉強の方針

そもそも私のMBA進学を志望する理由として、「結論を出したいテーマがあり、研究したい」というよりは、ゼネラリスト思考でした。受験前は自身がMBA進学を通し何を成

し遂げたいのか、そのために何故MBAが必要なのかといった点を論理立ててまとめ、腹落ちさせるところに注力しておりました。

②研究計画書のテーマ設定までの流れ

自身が思い描く未来のキャリアの深掘りを徹底的に行いました。「何故そうなりたいのか?」「そうなった先に何があるのか?」「そのために何故MBAが必要なのか」を紐解いた結果、ゼネラリスト型の大学院志望であること、また今後のキャリアについて何を学びたいのかが明確になりました。

③勉強のスケジュール

6月：アガルート登録。経営学の基礎講座。

各大学院説明会・オープンキャンパス参加し情報収集。

7月：経営学の基礎講座1周終了・小論文添削講座（基本編）2回提出。

8月：志望理由書準備・出願までに3回添削頂く。

9月：出願完了。9月前半は海外出張などで多忙のため一旦準備は休憩。

9月中旬より面接準備開始。

国内MBA D面接対策講座記載の基本質問に対する回答はすべて準備。

アガルート面接練習他、家族とも数回面接練習。

10月：本番・合格

受講された講座の良さ、当該講座の学習方法

▼国内MBA入試攻略講座

志望理由、志望大学院を選定する前の準備期間としてとても有意義な内容でした。私自身最初はMBAに対しかなり無知な状況から志願し始めたので、今更恥ずかしくて他の人に聞きづらい内容など凝縮されており、導入フェーズとしてとても良かったです。

▼経営学の基礎講座

端的かつ分かりやすくまとまっているとても良い教材でした。理解を深めるためかイノベーション分野では実際企業が取り組んだ経営努力、革新事例が数多く取り上げられており、別の章で学んだ内容も改めて腹落ちさせることができました。

▼小論文対策講座（基本編）

元々あまり文章力に自信がなかったので、誤字、脱字から文章の組み立て方など丁寧にチェックいただき大変助かりました。ここでの実績がその後の志願書作成にも確実につながっていると実感しております。またテキストで学んだ内容の反復にもなるのでかなりおすすめです。

▼小論文対策講座（基本編）添削利用回数

4回

▼出願書類・研究計画書の書き方講座

志願理由書添削はかなり効果があったと実感しています。自身だけで文章を書き溜めるとかなり偏った表現、文章の組み方が目立ってしまうので、第三者かつプロの視点でコメントを頂いて、単純な文章の枠組み整理だけでなく、改めて内容が論理立てられていない点等も見つけられました。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座 添削利用回数

3回

▼面接対策講座

自身でもある程度想定問答集を準備した上で面接対策講座に臨みましたが、いざやってみるとボロボロでした。練習であるものの、実際面接官を通じた質疑応答になると自分の思っている話ができなかったり、話の関連性に齟齬が生まれていることに改めて気づいたりとかなり新しい発見がありました。そんな中アガルートの講師の方が一つ一つの課題に対して親身にアドバイスくださり、また課題に対し解決まで導いてくださったのには感謝しております。コンテンツの中でもかなり有意義だったと思います。

▼各種フォロー制度について（初回添削フィードバック、受験校相談、マンスリーゼミ、質問制度等）

各種自身のどんな小さな不安点、質問に対しても親身にかつ丁寧に回答して下さったこと、今でも心より感謝しております。こういった一つ一つのきめ細やかなフォローが受験生の不安を払拭する大切なポイントだと思います。

スランプ・挫折、それを乗り越えるための工夫

スランプ期は特になかったですが、常に「この程度の準備で大丈夫か？ 本当に合格できるのか？」という不安はありました。ただ、そこは淡々と不安事項を書き出し、その対処をしておくことで解消していたと記憶しています。例えばシンプルですが「面接で予期せぬ質問がきたらどうすればいいか？」の不安に対しては、対応策としては2点①周囲の人に質問を作ってもらい、様々な質疑応答パターンを準備しておく ②回答できない質問に対しての、前向きで美しい返しを準備しておく 等がございました。結局は準備を重ねることが、気づかぬうちにスランプや不安を乗り越える一番の材料になるのだと感じます。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

私の場合、平日はどうしてもやる気が起きなかったため、週末集中で学習時間を確保しておりました。朝9時にお気に入りの図書館の学習室に入ってアガルートの教材や志願書の準備を進めるのが日課です。だいたい、3-4時間は滞在しておりましたが、最初から教材スタートだと中々やる気になれなかったため、図書館においてあるような経済紙や新聞をパラパラ見るところから始め、少しずつモチベーションを高め、30分後くらいから本番スタートするようにしておりました。割とおすすめです。

直前期の過ごし方

ABSの試験は面接のため、面接前提でお答えするとひたすら、面接の想定問答集を作成しておりました。いくらい内容でも、志願理由書と内容が乖離することは好ましくないと模擬面接の際聞いていたので、しっかり志願理由と紐づけて問答集もまとめています。またある意味これはお守り的な行動かもしれませんが、昔読んでMBA進学を目指すきっかけとなった書籍など読み返しました。再度読むことで改めて自身の志願理由にも腹落ち感や、強い想いが入魂できたように感じています（笑）

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

①受験した時の手ごたえ

面接の質問自体すべてスムーズに回答できたので「絶対大丈夫だろう」という思いの反面「簡単な質問から、ユニークな回答を求めその中から優れた人をとっているのでは？」という不安もありました。正直手ごたえは五分五分でしたね。

②合格した時の気持ち

やはり一番感じたのは達成感と喜びでしたが、その直後に「ちゃんと通いきれるのか」といった不安も襲ってきました。まあそこは始めてみなくては分からないので、4月からがむしゃらにでも通ってみたいと思います。

振り返ってみて合格の決め手は？それに、当該講座はどの程度影響したのか

①合格の決め手

計画的に受験準備を進められたからだと思います。まずは志望校を決めないと準備もやみくもになってしまうので、各大学院の分析から始め、その後志願する大学院の受験対策を徹底しました。結果割と短い準備期間ではあったものの、合格に繋がったのではと思っています。

②講座の影響度

かなりいい影響を受けたと思います。合格の決め手で記載したような効率的な進め方や、志望する大学院に特化した受験対策もアガルートから学びました。特に私のような短期間での受験を検討している方にはお勧めです。

卒業後のキャリアについて

①MBAに期待するもの

大学院で学んだ内容が実業務、また私がまだ想像もしていない未来につながることを期待しています。今は目先のアカウントストラテジストとしての成功に向けて体系的な経営学の知識を培うことが第一ですが、その先に自身が起業する未来等にもつながることをひそかに期待しています。

②今後のキャリアビジョン

まずは志願理由にもまとめた現職でアカウントストラテジストのポジションに着任し、実績を積んでいきたいです。その先はまだ未確定ながらも、大学院で学んだ内容、出会い

を通じ道筋を立てられればと思っております。

【推薦書について】

①提出されましたか？

提出した

②どなたに推薦書をご依頼しましたか？

部門上司・常務レベル

受験生に対するメッセージ

他人の意見に左右されず、「自身は何をやりたいのか」を追求していけばおのずと志願理由、研究計画書の枠組みはできてくると思います。受験に向け経営学基礎学習や書籍を読むことももちろん大切ですが、まずは前述したポイントを見つけるべく、自身のこれまでの社会人、学生生活で足りなかったもの、やりたかったことを振り返り、これからやりたいことを整理する時間を作ってみてはいかがでしょうか？

これから受験する皆様の成功を陰ながら祈っております！ 受験頑張ってください。

2025年4月入学目標

国内MBA試験合格

フォロー制度は全て利用 充実したサポートで安心できた

江崎 文重 さん

20代後半

社会人

2025年4月入学目標 / 国内MBA / 秋入試対策カリキュラム / フル

進 学 先：慶應義塾大学 経営管理研究科

合格体験記

MBAを目指したきっかけ

新卒から入社した会社で順調にキャリアアップしていくことを考えていましたが、本当にそれでいいのか？ という疑問が常がありました。身内に国内MBAの修了生がおり、MBAの魅力、どんな出会いがあるか、また学びをどう活かしていくのかといった話を聞き、次第に興味を持つようになりました。その後様々な大学の説明会に参加し、実際に自分が学んでいる姿、理想とする姿を想像することができ、MBAを目指すことを決意しました。

アガルートアカデミーをお選びいただいた理由

これまでの人生における様々な試験（中学入試、大学入試などなど）では予備校や塾に通ってもなんとなくついていけず、挫折することがあったので、オンラインで自分のペースで進めることができるアガルートに魅力を感じました。学習のサポートが充実していることと、合格実績があり、特典もあることが決め手だったかと思います。実際に入会してから受験までの間に面談数回と、質問に対してもすぐに対応していただきました。大変ありがたかったです。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

①勉強の方針

常にどの大学を受験するか迷っており、大学によって出願書類の記述や二次試験で出題される問題の傾向が大きく異なるため、それぞれ対策が大変でした。勉強方針というか流れとしては、基礎講座で基礎知識を身につける→小論文の演習と並行して出願書類を作成するというものでした。

②研究計画書のテーマ設定までの流れ

「出願書類・研究計画書の書き方講座」「研究テーマライブラリー」などを視聴し、講義動画で推奨された通り、国会図書館に行って様々な論文、海外のジャーナルを読みました。あまり時間がとれず1、2回ほどしか行けずでしたが、進学後も通うことになると思うので、行けてよかったと思います。

③勉強のスケジュール

- 3月 アガルートの受講相談を受け、受講を決める。
- 4月 「経営学の基礎講座」動画視聴開始。(1日30分～1時間ほど)
動画の中で講師より勧められた本を読む。
(イノベーションのジレンマなど)
- 5月 業務多忙のためほとんど勉強時間確保できず。
- 6月 6月末頃から「経営学の基礎講座」「小論文対策講座」「研究計画書の書き方講座」「研究テーマライブラリー」などを視聴。
- 7月 「経営学の基礎講座」「小論文対策講座」「研究計画書の書き方講座」「研究テーマライブラリー」などを視聴。
- 8月 国会図書館にて先行研究研探し。計画書作成。
小論文練習。
隙間時間などで動画視聴は継続。
- 9月 慶應出願書類作成→提出→一次試験合格発表(9月16日)→二次試験対策開始。
隙間時間などで動画視聴は継続。
- 10月 二次試験(小論文+数学)前は過去問を実践練習。大学入試(センターレベル)の演習。
「面接対策講座」を視聴。面接練習実施(アガルート1回、家族や友人と2～3回)。
想定される質疑応答をノートにまとめるなど。

受講された講座の良さ、当該講座の学習方法

▼国内MBA入試攻略講座

入会するまでは、費用も決して安価ではないのでずっと迷っていましたが、事前の面談や、その後のサポートのおかげで合格することができたので良かったです。

▼経営学の基礎講座

講義動画がとても分かりやすく、仕事で疲れていても楽しく学ぶことができました。

▼小論文対策講座(基本編)

小論文対策講座(基本編)は、小論文対策だけでなく「経営学の基礎講座」で学んだ知識を定着させるためにも活用していました。小論文の書き方について、自分の考えをうまくまとめるコツ、方法がわかりやすく記載されていたためありがたかったです。

▼小論文対策講座（大学院別対策編）

小論文（大学院別）対策講座はあまり活用することはありませんでしたが、経営学の基礎講座で学んだ知識の定着のため、何問か取り組みました。問題の次ページに記載されている解答例は大変参考になりました。ありがとうございます。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座

出願書類・研究計画書の書き方講座は、過去合格者のものを閲覧でき、非常に参考になりました。テキストにたくさん書き込みをして、書類作成の時には常に手元に置いて参照させていただきました。大変ありがたかったです。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座 添削利用回数

1回

▼研究計画書の研究テーマライブラリー

研究計画書の研究テーマライブラリーは、もともと自分で考えていたものがあったため、講義動画やテキストに取り組んだ時間はわずかですが、自分が設定するテーマが適切なものかどうか、一度立ち止まって考えることができたかと思います。

▼面接対策講座

面接対策講座は、様々な合格者の面接情報が記載されており、ネット検索などでは簡単に入手できる情報ではないため大変有難く、参考にさせていただきました。実際の面接練習（1回）では、丁寧な質疑とフィードバックをいただき、実際の面接でも同じ質問を受けたので、やっていてよかったなあと感じました。本当に感謝しております！

▼各種フォロー制度について（初回添削フィードバック、受験校相談、マンスリーゼミ、質問制度等）

各種フォロー制度（添削フィードバック、受験校相談、マンスリーゼミ、質問制度）については、全て利用させていただきましたが、丁寧に対応いただき大変有難かったです。質問制度は質問してからすぐに回答いただくことが多かったので、申し訳ないような気持ちもありました……。本当にありがとうございます！（その他面談についても、おそらく設定された時間を超過していることもあったかと思います、おかげさまで合格できました。ありがとうございます……！）

スランプ・挫折、それを乗り越えるための工夫

そもそも勉強期間が短いため、特段スランプや挫折等は無かったと記憶していますが、「本当に挑戦することが今の自分に必要なことなのだろうか？」や、「もし失敗したらどうしよう……」といった小さな不安は常にあり、そのたびに「今の自分に必要なことはこれしかないんだ！」と自分に言い聞かせていました。また、昨年結婚したばかりで、今後女性としての様々なライフイベントを予定していたため、家族との話し合いを何度も重ねま

した。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

入会したのは3月末で、4月までは毎日時間をとって学習できていましたが、ゴールデンウィークの前後で急に業務量が増え、5月～6月半ばまではほとんど時間がとれず、学習を再開できたのは7月頃だったかと思います。隙間時間で経営学の基礎講座を視聴して知識を定着させるために小論文対策講座（基本編）に取り組んでいました。4月～6月は1日30分～1時間程度、7月以降は1日3時間ほど試験対策のために時間を確保していました。

直前期の過ごし方

複数校受験を考えており、各校の準備をいつからいつまで、試験対策をいつからいつまでというふうにスケジュール帳に書き込み、予定に沿って学習していました。大学によって出願方法や必要書類が違うため、書類をファイリングして何度も見直しをしていました。勉強内容は、アガルトのテキストをある程度こなせたら、飯野先生が推奨していた書籍や有料記事の購読、志望校の講義シラバスを調べて、講義で使用している書籍も購読したりしました。

試験期間中の過ごし方

大学によって試験内容が異なるため、あまり参考にならないかと思いますが、試験期間中（一次試験～二次試験）は、1か月ほど時間があき、なんとなくだらだら過ごしてしまうこともありました。KBSでは試験対策として小論文20本ほど、数学的な問題（センターレベルのテキスト1冊）を解く他に、MBAで何を学びたいか、なぜ志望するのか、一人で考える時間、家族や友人と真剣に話したりする時間を意識的につくって心を落ち着けていました。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

①受験した時の手ごたえ

一次試験は出願書類（これまでの経歴、何を学びたいか、簡単な小論文）のみでしたが、しっかり書けていたと思うので合格した時は安堵しました。しかし二次試験での数学的な問題に対しては、そもそも数学に苦手意識をもっていたので落ちたらどうしようと不安な気持ちでいっぱいでした。

②合格した時の気持ち

一次試験は前述のとおりですが、二次試験での筆記に不安を感じる一方、面接は楽しく、すぐに時間が過ぎてしまったと感じ、これで不合格になっても後悔は無いと満足していたため、合格発表で「二次試験合格」の文字を見たときは驚きと喜びで叫びました。

振り返ってみて合格の決め手は？それに、当該講座はどの程度影響したのか

①合格の決め手

（あくまでもKBS受験においてです）自分がどの属性の受験生なのか、自覚を持つという意識をして受験に臨んだことかと思います。他の受験生と被らないようなパーソナリティ（原体験、経歴、今後成し遂げたいこと）を持つことをアピールできたことは、合格の要因として大きいと感じます。

②講座の影響度

KBS受験においては、基礎知識はそこまで必要ではなく、筆記試験も毎年傾向が異なる？ ようで、アガルートだけでなく自己学習も必須でした（飯野先生が出されていた出題予測の精度は高かったです！）が、他の大学も並行して受験していたので、受験に活かせたと思います！

卒業後のキャリアについて

①MBAに期待するもの

KBS入学により、新卒入社した会社を退職することになりましたが、チャレンジしてよかったと思います。いろんな意味で自分の人生において大きなきっかけになると思います！ 新しい出会いや人生を豊かにするような学びを得られることを期待します！

②今後のキャリアビジョン

キャリアビジョンとしては、今後経営に携わりたいと考えています。その一方でプライベートでは去年結婚したばかりで女性としての大事なライフイベントも考えているので、両立していけたらいいなと思います（言うのは簡単ですが、茨の道かも……）。

【推薦書について】

①提出されましたか？

提出していない

受験生に対するメッセージ

受験を迷っている方はぜひチャレンジしていただきたいと思います。アガルートに入会するまでは、費用も決して安いものではなく、もし落ちたらどうしよう……と不安な気持ちでいっぱいでしたが、実際に学習を始めると、サポート体制も充実しているので安心できると思います。また、大学院によって出題の傾向や、定員数も違うので、受験校は早めに絞って対策をした方がよいかと思います。学習計画を立て、着実にこなしていくことが重要です。

2025年4月入学目標

国内MBA試験合格

経営学の基礎講座は出願書類作成・面接にも役立った

中原 琢真 さん

20代後半

社会人

2025年4月入学目標 / 国内MBA / 秋入試対策カリキュラム / フル

進 学 先: 早稲田大学 経営管理研究科全日制グローバル

合格体験記

MBAを目指したきっかけ

MBAを目指したきっかけは、祖父が立ち上げた会社を将来事業承継する予定であったからです。従業員としての社会人経験はありますが、会社を経営するための経験や知識がありませんでした。MBAに進学することで経営の理論をしっかりと理解し、それを実践できる経営者になりたいと考えたからです。後、WBSに在籍する教授のゼミに興味があり、その教授の元で学びたいと思い進学を決めました。

アガルートアカデミーをお選びいただいた理由

アガルートアカデミーを選んだ理由は、オンライン予備校の中でも高い合格率の実績があったからです。仕事の都合上、予備校に通学することが難しく空いた時間でオンライン学習することを希望していました。その中でも志望校の選択のサポート、出願書類の添削、面接対策のフルサポートをオンラインで行っていただける。且つ難関校への合格率の高いアガルートに決めました。合格特典があるのもモチベーションが上がる魅力の一つだと思います。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

①勉強の方針

仕事や資格の勉強の都合もあり、空いた時間を最大限活用して勉強しました。勉強の方法については全く分からなかったなので、完全にアガルートの指導通りに進めました。飯野講師の志望校選びのアドバイスが役に立ちました。

②研究計画書のテーマ設定までの流れ

前職で直面した課題を元に、研究計画書のテーマを設定しました。また設定したテーマを研究することで、今度承継予定の自社や他社に取り入れることができ、会社の成長に繋がるようなテーマの設定を行いました。

③勉強のスケジュール

4月 「経営学の基礎講座」動画視聴開始。

5月 「経営学の基礎講座」を通勤、隙間時間で視聴。

6月 「研究計画書の書き方講座」を視聴。京都大学大学院の研究計画書作成開始。

7月 京都大学大学院出願書類の添削フィードバックをもらう。

8月 京都大学大学院出願書類の書き直しを2～3回行う。

隙間時間などで動画視聴は継続。

9月 WBS研究計画書作成・添削依頼。

京都大学大学院の出願書類をベースにWBSの出願書類を完成させ、出願。

10月 隙間時間で面接対策の動画視聴開始。

11月 11/7 WBS一次試験合格。二次試験に向けてアグルートの模擬面接実施。11/24

WBS二次試験実施。11/28 WBS二次試験合格。

受講された講座の良さ、当該講座の学習方法

▼国内 MBA 入試攻略講座

非常に良かったと思います。出願書類作成の方法や面接対策の仕方が動画で分かりやすく解説されており満足しています。利用方法としては主に空き時間を使って利用しました。全てオンライン講義であるため、空き時間を活用できました。

▼経営学の基礎講座

飯野講師の説明が非常に分かりやすく、こちらも満足しております。私は経営学部出身ではなかったので、経営に関する知識が全くなかったのですが、丁寧且つわかりやすい講座になっており基礎的な経営の知識は身につけられたように感じます。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座

こちらもわかりやすい講座でした。出願書類の書き方がまずどこから始めればいいのかわからなかったのですが、飯野講師のアドバイスで自分自身の原体験からなぜ今の自分にMBAが必要なのかを紐解くことができ非常に有益な講義でした。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座 添削利用回数

4回

▼面接対策講座

面接対策講座も満足しております。正直、一次試験合格発表から二次の面接試験まであ

まり時間がなかったのでWBSの面接対策講座しか視聴できませんでしたが、WBSの教授側がどういう人材を求めているのかを理解することができて面接対策の役に立ったように感じています。

▼各種フォロー制度について（初回添削フィードバック、受験校相談、マンスリーゼミ、質問制度等）

各種フォロー制度も充実していたように感じます。特にマンスリーゼミは非常に役に立ちました。飯野講師がプレゼンするおすすめ大学院を元にWBSへの出願を決めました。またほかの受講生からくる質問もいくつか気になっていたポイントがあったので聞いてよかったです。

スランプ・挫折、それを乗り越えるための工夫

一番大変だったのは、WBS出願書類のエッセイ 3 つ目の質問の研究テーマでした。特に研究したい内容がその時に決まっていなかったため、テーマを設定するまでに大変時間がかかりました。今後自身の役に立つ研究テーマにしたかったので、社会人経験を振り返り自身や会社で実在した課題を解決するようなテーマを設定しました。設定した後は飯野講師がおすすめする先行研究の調べ方を参考に、夜遅くまで調べました。添削フィードバックでは好評を頂けたので良かったと感じます。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

直前期は仕事時間やプライベートを減らして学習に集中しましたが、普段は隙間時間を利用して学習しました。通勤時間や出張時の移動時間を経営学の基礎講座の学習や先行研究を調べる時間に充てていました。出願書類と面接対策に関しては、休日にカフェで丸一日書類作成の時間にしたり、友人に面接対策を手伝ってもらったりして過ごしました。隙間時間を活用できることは、オンライン予備校だからこそできるいい点だったと改めて思います。

直前期の過ごし方

出願書類はとにかく書いてフィードバックをもらって自分が納得いくまで書き直しました。なぜWBSなのか？ MBAを終了することで将来どのような姿になりたいのか？ 再度自分に問いただして書類を作成するように心がけました。一次試験合格後はあまり時間がなかったため、仕事終わり毎日面接対策を行いました。アガルートの模擬面接でフィードバックを頂き修正し、その後友人にも聞いてもらい対策を取りました。後はインフルエンザが流行していたので、体調管理だけは気を付けるようにしました。

試験期間中の過ごし方

学習に集中するために、プライベートの予定や仕事は早く終わるように調整しました。特に出願書類作成に関しては時間がなかったため、仕事を早く終わらせて毎日カフェが閉まるまで準備に時間を費やしていました。面接対策に関しては、出願書類を丸暗記するの

ではなく、言いたいことを自然に言えるようになるまで練習しました。丸暗記してしまうと本番忘れてしまったときに言葉が出なくなるので、料理している時間や、シャワー浴びているリラックスした状態の時に何度も練習しました。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

①受験した時の手ごたえ

手ごたえは正直あまりありませんでした。出願書類も締め切りまで時間がなく、面接でも準備していなかった質問を深掘りされて上手く答えることができなかったからです。ただ限られた時間の中で最大限自分ができることをしたという感じでした。

②合格した時の気持ち

合格発表当日はドキドキでした。合格した時は正直合格するとは思っていなかったのですが、嬉しいよりもびっくりしたという感情が先にきました。ただ大学院に合格することがゴールではないので、これから挑戦し頑張ろうという気持ちが更に増しました。

振り返ってみて合格の決め手は？それに、当該講座はどの程度影響したのか

①合格の決め手

出願書類はよく見られていると感じました。WBSの出願を決心したのが、締め切りの2週間前だったので時間がありませんでした、その間で寝る時間を惜しんで作成し添削も2回から3回していただきました。合格するかはわかりませんでした、自分が納得いく書類を作成できたと思います。

②講座の影響度

飯野講師の経営学の基礎講座がとても役に立ちました。私は経営学に関する知識がありませんでしたが、飯野講師に分かりやすく解説していただき基礎的な部分の理解が深まりました。出願書類作成また面接にも効果があったように感じます。

卒業後のキャリアについて

① MBA に期待するもの

WBSは理論と実践の融合に力を入れており、アカデミック寄りの教授と実践寄りの教授がバランス良く充実しているので、今後会社を経営する上で必要な知識と実力を身につけたいです。また同じ事業承継予定の学生もいるので、同じような人と繋がれることにも期待をしています。

②今後のキャリアビジョン

MBA修了後に短期的目標と中長期的目標を設定しています。短期的目標としては、5年以内に承継予定の会社の業績を改善すること。中長期的には10年以内に新規事業を立ち上げて成長軌道に乗せることを目標としています。

【推薦書について】

①提出されましたか？

提出した

②どなたに推薦書をご依頼しましたか？

母

受験生に対するメッセージ

MBAに出願し、合格することがゴールではないと思います。MBAに進学して何を学びたいのか、将来どういう姿になりたいのかを自分の中で明確にすることが重要だと思います。また、私みたいにギリギリに出願することはお勧めしません。寿命が縮まります。早い段階で出願校を決めて、計画的に学習と対策を進めてください。もし、出願時期がギリギリになったとしても、最後まで諦めずに頑張ってください。熱意と努力があれば合格します。

2025年4月入学目標

国内MBA試験合格

徹底した先行研究調査で自信をもって2次試験に臨めた

齋藤 洋平 さん

30代前半

社会人

2025年4月入学目標 / 国内MBA / 秋入試対策カリキュラム / フル

進学先: 早稲田大学 経営管理研究科全日制グローバル

他の合格先: 立教大学 ビジネスデザイン研究科

合格体験記

MBAを目指したきっかけ

父の会社を事業承継するにあたり、父も私も勘と経験で経営をしていたことに気が付いたことがきっかけです。今後、会社を大きくし、円滑に経営していくには、総合的な経営学の知識を修得する必要があると考えました。また、MBAを志望する人は、私のような事業承継予定者であったり、起業された方であったりと組織を率いることに伴う共通の悩みがあるはずです。そのような仲間と出会い切磋琢磨する人脈を作りたいと考えたこともMBAを志望した理由です。

アガルートアカデミーをお選びいただいた理由

まずは国内MBA入試の予備校があることも知らなかったため、インターネットで情報を集めました。

予備校を選定する上で最も重要視したことは、2つあります。

1つ目は、高い合格実績があることです。1年間で確実に合格したいと考えたため、合格実績は1番重要視しました。特に早稲田大学や慶應義塾大学に高い実績があったためアガルートに決めました。実際に申し込んだ後に届いた教材を見て、その量に驚きましたが無駄なものは一切なく、アガルートを選んでよかったと思っています。経営学の基礎知識から大学院別の対策など、細かいカリキュラムに分かれており順序だてて勉強を進めることができました。

2つ目は、動画での学習ができることです。私は、福岡県在住のため、教室に通いながらの対策ができません。通信制で高い合格実績がある予備校を絞り込むとアガルートにた

どり着きました。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

①勉強の方針

一番時間をかけたところは、研究テーマ設定のための先行研究です。

私は、福岡在住のため、国会図書館等に行けません。どうやって先行研究を調べていけばいいかわかりませんでした。しかし、動画を視聴する中で飯野先生が、その書籍に書いてある参考文献を芋づる式に読んでいくと良いと解説されており、その通りに実行しました。結果的に効率よく先行研究の把握を進めることができ、研究テーマの設定もすることができました。

②研究計画書のテーマ設定までの流れ

テーマの大枠を決定する上で非常に参考になったのが、飯野先生の解説です。解説の通りに自分の体験や経験に基づくテーマ設定を心がけました。

私がMBAを志した根底には事業承継があるため、ファミリービジネスに関する書籍を10冊ほど読み、現在進められている研究内容と理論を学びました。そして興味がある研究成果を見つけたのち、その研究結果は自分が従事する業界にも応用ができるという仮説を証明するという内容のテーマ設定をしました。

③勉強のスケジュール

5月：MBAを志望する。

6月：アガルートに申込む。大学別の特徴の情報収集を行う。第一志望をWBSに設定。第二志望以下は、確定させることができません。

6月～7月：経営学の基礎講座を視聴する。大学で学んだはずの経営学の知識の多くを忘れており、入試までに間に合うか焦る。

8月：研究テーマの設定のために先行研究が重要なことに気が付く。書籍を購入し先行研究を調べる。この時期にしっかりと先行研究を把握できた。

9月：WBSの入学説明会に参加し、WBSへ入りたい意欲が高まる。研究計画書の作成開始。毎日、研究計画書を見返し添削する。妻にも内容を見せ、言いたいことが伝わっているかの確認。WBS出願。立教大学 ビジネスデザイン専攻に合格。

10月：慶応義塾大学院に落ちる。慶応義塾大学院は、自分でも準備不足を認識していたため、WBSへの準備に気合が入る。なぜWBSに入りたいのかの独自性を磨いていく。

11月：WBS 2次試験及び合格発表。

受講された講座の良さ、当該講座の学習方法

▼国内 MBA 入試攻略講座

この講座を一番最初に視聴できたことが合格に繋がったと思います。国内にMBAを取得できる大学がどれほどあるのか、またその大学ごとの特徴は何なのかが丁寧に解説されています。この講義を見ないと第一志望校の絞り込みをすることができませんでした。

国内MBAに関する基礎的な知識を得ることで、入試までの戦略を逆算して立てることができました。

▼経営学の基礎講座

経営学部出身のため、基礎知識はありました。それでも知らない分野や忘れていた分野が多数あり、その項目を重点的に学ぶことができた点が非常に助かりました。飯野先生の解説も非常に分かりやすく、ストレスなく勉強を進めることができました。

▼小論文対策講座（基本編）

小論文の基本的な書き方や考え方を学ぶことができました。小論文の書き方を学ぶことで自分の意見を端的に伝える力が養えたと思います。結果的に、その力をエッセイの文章や面接での受け答えに活かすことができました。

▼小論文対策講座（大学院別対策編）

講座を申し込んだ後に、WBSを第一志望校にしたため、結果的にはあまり活用することができませんでした。自分がどこの大学に行きたいのかは、早く決定するべきだと思います。なぜMBAを学びたいのか、その大学に行きたいのかを早い段階で明確にすることができれば、必要な対策が早めに打てると思います。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座

非常に参考になりました。過去の合格者の添削を飯野先生がされており、どこに気を付けるべきか明確に分かりました。合格者の研究計画書であってもどこが良くてどこが悪いのかしっかりと解説されていました。特に、飯野先生が指摘されている点は一貫しているため、自身の研究計画書作成を、自信をもって進めることができました。

▼研究計画書の研究テーマライブラリー

ちょうど仕事の繁忙期に入り利用することができず後悔しております。ただ先行研究の方法は、講座内でも解説されていたため苦勞なく進めることができました。今後の受験生の方にはぜひ活用していただきたいと思っています。

▼面接対策講座

講座内で事業承継する方に特有の質問という項目があり、まさに実際の面接で聞かれた項目がありました。特に大学別の面接レポートは何度も読み返しました。福岡から東京に受験する際にも携帯し、もしこの質問を自分にされたらどう答えようかとシミュレーションしていました。

▼各種フォロー制度について（初回添削フィードバック、受験校相談、マンスリーゼミ、質問制度等）

マンスリーゼミの大学紹介は非常に参考になりました。短い準備期間で働きながらで大学の特徴を把握し、志望校を選定するのは非常に不安が伴いました。しかし、マンスリー

ゼミの大学紹介を視聴し、大学の特徴を学ぶことができたため、自分に合った志望校を選ぶことができたと思います。その段階を早い時期に踏めたことが、合格に繋がりました。

スランプ・挫折、それを乗り越えるための工夫

9月に立教大学に合格した後、慢心していた時期がありました。そのような心境のなかで、10月に慶應義塾大学に落ちたことは自分にとってはショックでしたが、いいことだったと思います。正直、慶應義塾大学になぜ行きたいのかという明確な理由を準備できないまま入試に臨んでいました。しかし、立教大学に合格できていたということもあり「慶應義塾大学もなんとかなるかも」という甘い気持ちでした。結果は、面接が終わった瞬間に自分でも落ちたとわかる大惨敗です。

この時にWBSも同じ気持ちで臨んだら絶対に不合格になると思い、気持ちを入れ替えることができました。なぜWBSに行きたいのか、行って何を学びたいのか初心に立ち返るきっかけになりました。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

隙間時間をうまく使う工夫をしました。例えば、お昼時間の1時間に講義を視聴したり、動画やテキストで大事だと思うことはそのページを写真に撮りいつでも見返せるようにしました。具体的には、経営学の基礎の忘れていた部分や大学の特徴などです。

また、通勤時間に講義をラジオ代わりに流して知識を習得しました。

休みの日は、ファミリービジネスの書籍を読み、ほとんど先行研究を調べる時間に充てていました。この期間にファミリービジネスの研究内容だけでなく、先生がどこの大学に在籍しているのか情報整理ができた点も有意義でした。

直前期の過ごし方

先行研究の調査に力を入れました。毎日ファミリービジネスに関する書籍を読みました。先行研究を調査していく過程でファミリービジネスの研究をしている先生がWBSに多数在籍されていることを知り、よりWBSへの志望理由を強めることができました。また、ハーバードビジネスレビューでWBSの先生のファミリービジネスに関する解説動画を見て、もし合格できればこの先生から直接学べるんだとモチベーションを上げていました。

試験期間中の過ごし方

WBSの場合、研究計画書の提出から1次試験の合格発表まで1カ月以上ありました。そのため、1次試験を合格したということは研究計画書の内容は合格点に届いているといい、根拠はないですが、自信を持つようにしました。

その後は、アガルトの面接レポートを参考に面接のシミュレーションを自分で行いました。

ただ、最終的にはWBSの事業承継入試枠の中で一番ファミリービジネスに関して先行研究を調査しているという自信を持っていたことが、落ち着いて2次試験の面接に臨めた最大の要因だと思います。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

①受験した時の手ごたえ

WBSの受験後は、KBSとは真逆の心境でした。面接官の先生が作ってくださった雰囲気もあってですが、しっかりと志望理由など説明できた自信がありました。しかし、あくまでも相対評価で回りの受験生のレベルや当日の出来は分からないままのため、合格発表までは不安が無くなることはありませんでした。

②合格した時の気持ち

ホッとした気持ちが強かったです。特に全日制グローバルは、来年から2年制が無くなる発表があったため、今年が最後のチャンスという思いでした。受験番号を見つけた時は、何度も間違いではないか確認しました。最終的に合格したと実感したのは、WBSから入学の手引きが送られてきたときです。

振り返ってみて合格の決め手は？それに、当該講座はどの程度影響したのか

①合格の決め手

先行研究の量だと思います。先行研究の調査を進めていく中で自分が学ぶ上で最高の環境はWBSであると確信することができました。あとはその思いをどうやって言語化すればいいかを考えていました。なぜその学校に行く意味があるのか、自分で腹落ちできたことが合格の決め手だと思います。

②講座の影響度

非常に大きかったと思います。アガルートに申し込まなければ、そもそも国内MBA入試の大枠を把握するだけでもかなりの時間を要し準備が間に合わなかったと思います。

また、研究計画書や面接レポートなど実際に合格した方の事例が多く紹介されていた点も合格できた要因です。多くの合格事例を見ることで、合格者の共通点を発見することができました。

卒業後のキャリアについて

①MBAに期待するもの

高い目標を持つ仲間と切磋琢磨することです。WBSでの闊達な議論を通して今まで触れる機会がなかった価値観に触れ、自分自身を何段階もレベルアップさせることができると思います。しかし、それ以上にそのような経験を共有したからこそ醸成される人間関係は一生続くものだと思います。学生間だけでなく在籍されている教授ともそのような関係性を作っていきたいと思います。

②今後のキャリアビジョン

家業にもどり会社を大きく安定的に成長させていきたいと思います。また、会社だけでなく従業員や取引先、そして地域住民ともよい関係を築き上げていきたいです。ファミリービジネスの良い教科書となるような会社を作っていきたいです。

【推薦書について】

①提出されましたか？

提出した

②どなたに推薦書をご依頼しましたか？

父

受験生に対するメッセージ

まずはMBA ってどんなものなのか漠然と知りたいという方も気軽に相談された方がいいと思います。

そしてMBAを志望すると決めたらまずは、「なぜMBAに行きたいのか」「なぜその大学なのか」を自分自身が腹落ちできるようにしてください。その答えは、皆さんの中にしかありません。そこさえ固まれば、基礎知識の習得や大学別の対策はアガルトに任せておけば大丈夫だと思います。

しっかり自分自身と向き合って皆さんが納得のいく進路に迎えることを心から祈っております。

2025年4月入学目標

国内MBA試験合格

研究計画書は納得がいくまで何度も添削

渡邊 宙輝 さん

30代前半

社会人

2025年4月入学目標 / 国内MBA / 秋入試対策カリキュラム / フル

進 学 先: 青山学院大学大学院 国際マネジメント研究科

合格体験記

MBAを目指したきっかけ

元々新規事業に興味があり、これまでビジネスアイデアの創出やマーケティング活動に関わってきました。将来的には自らの手で事業を創出してスケールさせていきたいと考えた際に、ビジネスを俯瞰的に捉えることができるようになりたいと考え、MBAの取得を考えるようになりました。

数年前から興味をもっていましたでしたがキッカケをつかめず、30代に突入したことを機に自らの決意を固めたと共に、上司からも熱い応援を受けることができたため、受験を決意しました。

アガルートアカデミーをお選びいただいた理由

当初は自身で情報収集を行って受験対策を試みましたが、業務と並行してこれらを行うことは難しいとすぐに気が付きました。受験をするなら一度きりと考えていたため、予備校を活用することを決めました。

アガルートはYouTubeにも多数の動画が上がっており、サンプルテキストも含めて、最も受験までのイメージがつかめました。また、紙の教材とデジタル教材のどちらも用意されているために、スキマ時間でも学習を進めやすいと考え、申し込みを行いました。実際に学習は進めやすく、また講師の皆様が親身になって支援して下さい、アガルートに決断してよかったと考えています。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

①勉強の方針

当初は基礎講座をスキマ時間に進めて、休日は研究計画書の検討にあてようと考えていました。しかし、基礎講座の内容は聞いているだけ/読んでいるだけではなかなか知識と

して身に付かなかったため、途中でスキマ時間の活用ではなく、極力まとまった時間を確保するように方針を転換しました。

②研究計画書のテーマ設定までの流れ

元々自身の興味があつた、観光産業や地域活性化に関するキーワードに基づいて文献を調査しました。週末に国会図書館へ通い詰めて、既往研究や業界誌を読むことで、自身が何に興味を持っているかを突き詰めました。その後は、アガルートの研究計画書の添削サービスを用いて、何度もフィードバックを頂くことで、テーマを具体的に言語化することができました。

③勉強のスケジュール

- 4月 雰囲気をつむぐために、志望校が開催しているセミナーに参加
アガルートの受講相談を受ける
- 5月 自身では学習が進まないことに気が付き、アガルートの受講を決める
- 6月 上旬：資格の勉強を優先し、受験対策を進めることができなかった
下旬：国会図書館に通い始め、既に募集要項が出ていた大学院の出願書類の作成を進める
- 7月 説明会に参加
出願書類作成
- 8月 説明会に参加
出願書類作成、研究計画書作成・添削依頼
(添削を待つ時間が無駄にならないよう、出願校ごとに交互に作成)
余った時間で「基礎講座」の学習
- 9月 出願書類作成、研究計画書作成・添削依頼
「基礎講座」の学習
- 10月 小論文の添削講座を受講（基礎編→大学院別）
「面接対策講座」を視聴し、模擬面接実施
- 11月 HUBの秋入試に不合格となり、ABSへの進学を決断

受講された講座の良さ、当該講座の学習方法

▼国内 MBA 入試攻略講座

各大学院の特長を分かりやすく整理して説明して下さり、どの大学院も説明会が受験日程の直前にしか用意されていない中、非常に受験校選択の参考になりました。また自分では考えていなかった大学院を知ることもできたので、結果として受験しませんでした。選択の納得感を増すことができました。

▼経営学の基礎講座

多岐に渡る分野を説明しており、MBA受験対策でなかったとしても非常に学びになる内容でした。また1つの動画が10分程度にまとまっているので、比較的短い時間しか確保

できなくても学習が進めやすく非常にありがたかったです。

▼小論文対策講座（基本編）

1 問目から順に解答と添削依頼を行っていきました。受験校は知識を問う学校ではなかったですが、最後の1問は受験直前にフレッシュな問題に触れたいと考えて、あえて添削依頼をあきらめて直前まで取っておきました。結果として基礎講座の学習から解答まで時間が空きましたが、納得いく解答を記述することができたので、自信につながりました。

▼小論文対策講座（基本編）添削利用回数

10回

▼小論文対策講座（大学院別対策編）

基礎編が基礎講座の知識を必要とする反面、大学院別の対策では知識を求めない大学院の対策講座を受験していたため、並行して対策を進めておけばよかったと感じました。ただ、基礎編の内容は基礎講座の理解度チェックにも役立つと感じましたので、あえて早い段階で進めておくこともよいかと思います。

▼小論文対策講座（大学院別対策編）添削利用回数

6回

▼出願書類・研究計画書の書き方講座

納得がいくまで何度も添削をお願いしました。また、添削が返ってくるまでの時間を有効活用するために、設問ごとに依頼を行いました。その結果、研究計画書以外の書類を早いタイミングでまとめあげることができたので、最後は研究計画書に集中して取り組むことができました。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座 添削利用回数

10回

▼研究計画書の研究テーマライブラリー

自身がMBAを取得したいと考えるに至った背景や、取得後のキャリアなど、一貫性のあるテーマでないと良い計画書を書き上げることが難しいと考え、研究テーマライブラリーは活用しませんでした。その結果、当初は抽象的な計画書になってしまいましたが、添削講座でしっかり方向性を固めることができました。

▼面接対策講座

安心感をもって受験することができましたので、安心保険として受験することは良いかと思います。ただ、事前に想定していたよりも深掘った質問がなかったため、やや拍子抜けをしてしまった側面はありました。

私は面接日の1週間前に対策を依頼し、最後の1週間は家族にお願いして対策を行いま

した。

▼各種フォロー制度について（初回添削フィードバック、受験校相談、マンスリーゼミ、質問制度等）

初回添削フィードバックは、時間を延長して細部に渡るまで相談に乗って下さり、非常にありがたかったです。アガルトを受講して最も良かったサービスの1つです。マンスリーゼミはオンタイムで参加することはできませんでしたが、些細な質問の場として活用させていただきました。YouTubeアーカイブを配信して下さることで、回答を知ることができただけでなく、他の受験生の質問から気付きを得ることもできました。

スランプ・挫折、それを乗り越えるための工夫

スランプや挫折は特にありませんでしたが、出願書類の提出後に小論文対策を始めた際、思っていたよりも受験当日までの日数がなかったことに気付き、焦りを感じました。計画性がなかったとしか言えませんが、毎日1問小論文を解いてから寝ることを日課として、とにかく課題と向き合いました。

結果、添削ではいい判定をいただくことができましたので、その後は焦ることなく準備を行うことができましたが、もう少し余裕をもって計画的に進めることができれば良かったと考えます。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

当初研究テーマを考えるタイミングでは、平日は関連する書物の読書を行って視野を広げて、土日は国会図書館で既往文献を調査するなどして考えを深める時間と、それぞれ切り分けて時間を使いました。基礎講座の学習は自身が学んだことのない分野の学習を先に進めましたが、初めて学ぶ分野なので理解を深めるのに想定していたよりも時間を要してしまいました。直前期は業務が立て込むことがないように、上司にも相談をして調整を行いました。

直前期の過ごし方

ABSの面接直前は家族に面接官役をお願いして、何回か模擬面接を行ってもらいました。特に事前に出願書類を見せない状況でお願いをしたので、初めて聞いたばかりにくい点を指摘してもらい、説明の順序や内容の修正を行いました。また、HUBの試験直前は同僚とご飯に行ってお息抜きをしながら、お願いをして研究計画書にコメントをもらうなどして、自身の視野を広げることを試みました。指摘を受けたことは翌日しっかり考えるなどして対策を行いました。

試験期間中の過ごし方

それぞれのタイミングで、次の試験対策をしっかり行って過ごしました。

振り返ると、十分な計画を立てずに学習を進めてしまっており、前の試験が終わってから、ようやく次の対策ができるという状況でしたので、最初の試験が始まってから最後終

わるまで何か特別なことをしていたかと言われると何もありません。

先述のように、なるべく学習時間を確保できるように業務を調整して対策を進めていたというのが、試験期間中の過ごし方です。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

①受験した時の手ごたえ

ABSは面接で問われている質問で何を推し量られているのか分からなかったので、特別な手ごたえを感じることはありませんでした。

HUBの試験ではできることをしっかりやった感覚がありましたが、研究計画書の内容がやや現職の職務と一致していない内容でしたので、自信は全くありませんでした。

②合格した時の気持ち

ABSの合格を得た時は安堵を感じました。また、説明会や面接を重ねるに連れて魅力を感じておりましたので、進学ができる喜びを感じました。一方でまだ受験校が残っておりましたので、納得できるように最後までしっかりやり遂げようという想いを感じました。

振り返ってみて合格の決め手は？それに、当該講座はどの程度影響したのか

①合格の決め手

合格の決め手はわかりません。しかし、MBAの受験を通じて、自分がやりたいことや、興味をもっていること、キャリアビジョンと真摯に向き合うことができたと感じます。また向き合うことができたからこそ、納得して進学を決断することができたと振り返ります。

②講座の影響度

特に「出願書類・研究計画書」の書き方講座は、自身と向き合って、やりたいことや興味、キャリアビジョンと向き合うのに非常に役に立ちました。また基礎講座の学習を通じて、自身が苦手とする分野（興味が薄い分野）を理解することもできました。進学後の科目選択でも参考にしたいと考えています。

卒業後のキャリアについて

①MBAに期待するもの

知識を備えるだけでなく、ABSの特徴である実践的な学びを通じて、卒業後に活用できる実践知をしっかり備えていきたいと考えています。また、自身と同じように何かを求めて進学を決めた、ここでしか出会えない仲間と出会うことを期待します。

②今後のキャリアビジョン

知識があるだけでなく、やりたいことを自身の手で成し遂げることができるように、キャリアを切り開いていきたいと考えています。30代の2年間は、まだ長い人生において通過点でしかないと考えますので、MBA修了後も学びを続けていけるヒトでありたいと考えます。

【推薦書について】

①提出されましたか？

提出した

②どなたに推薦書をご依頼しましたか？

上長、大学の指導教授

受験生に対するメッセージ

今回MBA受験を決断して、本当に多くの方に応援していただくことができました。周囲の先輩や知人に話をすると、実は数多くのMBAホルダーの先輩が身の回りにいらっしゃり、また一方で、一度は進学を希望したものの、家庭や会社の事情で受験を諦めてしまった方もいることを知りました。

ぜひこれを読んでいる皆さまには、いつか後悔をする日が来ないように、いま、思い立った時にMBAの受験を決断することをお勧めいたします。

2025年4月入学目標

国内MBA試験合格

合格者の研究計画書を読めたことが合格に繋がった

濱屋 理沙 さん

40代前半

社会人

2025年4月入学目標 / 国内MBA / 秋入試対策カリキュラム / フル

進学先：一橋大学 経営管理プログラム

合格体験記

MBAを目指したきっかけ

私の経歴ですが、大学卒業後に数年間会社員として勤め、その後個人事業主となりました。

現在はSNSでの発信を主な事業として行っています。その後、上場会社の社外取締役役に就任しました。社外取締役役をしていく中で経営知識の不足を感じ、最初はグロービス経営大学院の単科講座を受講しました。大人になってからの勉強は大変ではあるものの非常に楽しく、そのままグロービスに入学することも考えましたが、ケース中心の授業だけではなく、論文を執筆できるアカデミックと実践が両立している大学院で学びたいと思い受験することにしました。

アガルートアカデミーをお選びいただいた理由

実は予備校に通わずに受験することを考えていました。ただ複数の学校の過去問題の入手が困難なこと、研究計画書の書き方やテーマの設定など、独学でやるにはハードルが高いと感じ、受講することにしました。アガルートにしたのはSNSでの口コミが良かったことと、合格特典で受講費が無料になるというのが決め手になりました。無料サンプルを申し込んで、実際に教材や合格体験記を見て、多くの情報を入手できると確信できたので申し込みをしました。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

①勉強の方針

日本的経営についてなど、グロービスで学ばない部分についてはアガルートの基礎講座

を読み込みました。

志望動機書は比較的苦勞せず書けたのですが、将来計画書がなかなか完成できず、添削を受けるにもギリギリのスケジュールになってしまいました。もう少し早くから取り掛かれたらよかったと思っています。

②研究計画書のテーマ設定までの流れ

自分が得意な分野をテーマとするか、あるいは社外取締役だからこそそのテーマにするかで非常に悩みました。Google Scholarで興味のある単語で検索し、論文を読むことでテーマを設定していきました。自分の経験からの気づきや悩みを解決できること、そしてその解決策が自社だけでなく社会の役に立つかなどの視点を大切にしました。

③勉強のスケジュール

- 1月 グロービス経営大学院の単科を受講。
- 2月 グロービス経営大学院の単科を受講。
- 3月 グロービス経営大学院の単科を受講。
- 4月 他大学院の情報収集。予備校を検討。
- 5月 アガルートに申し込む。
- 6月 「経営学の基礎講座」「小論文対策講座」「研究計画書の書き方講座」「研究テーマライブラリー」など教材をまずはざっと読む。
- 7月 「研究計画書の書き方講座」や合格体験記を読む。
- 8月 Google Scholarなどで先行研究を読む。
- 9月 研究計画書作成・添削依頼。
添削を待つ間に小論文練習。
「経営学の基礎講座」教材の読み込み、視聴。
- 10月 一次試験（小論文）前は小論文の過去問を実践練習。
「面接対策講座」を視聴。
- 11月 二次試験に向けて面接対策。

受講された講座の良さ、当該講座の学習方法

▼国内 MBA 入試攻略講座

各大学院の情報が非常によくまとまっており、個人でこの情報量をカバーするのはとても無理なので、短期間で効率よく受験対策ができたと感じています。紙教材以外に、動画視聴もできるので、モチベーションが上がらない時は動画を観るようにしていました。

▼経営学の基礎講座

経営学の知識がわかりやすくまとまっており、短期間で効率よく学習することができました。常に持ち歩き、電車での移動中などに目を通すようにしていました。どうしても読む気が起きないときは動画視聴をするようにしていました。

▼小論文対策講座（基本編）

小論文基本対策ですが、私は今まで小論文に取り組んだことがなかったため、アガールの教材以外にも何冊か小論文の書き方の本を購入して読みました。添削は使用しませんでしたので、そちらについてのコメントは控えます。

▼小論文対策講座（大学院別対策編）

過去問題は著作権の関係から、大学院の公式サイトでも問題文が掲載されていないケースが多かったので、数年分まとめて問題が掲載されていることが非常に助かりました。志望大学院の過去問は掲載年数分すべて解きました。その後、動画で解説を聞いて内容を深めるようにしていました。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座

非常に参考になりました。教材の最初の30ページに重要なことがまとめられており、自分で書いた文章がそのポイントに従って述べられているのか、志望動機書や研究計画書を読みながら何度も確認して見直すようにしていました。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座 添削利用回数

1回

▼面接対策講座

多数リアルな面接の様子が掲載されており、大変役に立ちました。どんなことが聞かれるのか、どのくらい自分の考えを深めておけばいいのかなど、面接に備えてイメージトレーニングに使いました。模擬面接は使用しませんでした。

▼各種フォロー制度について（初回添削フィードバック、受験校相談、マンスリーゼミ、質問制度等）

初回添削を提出したのが出願締め切りの間近だったため、初回添削フィードバックは受けたかったのですが、残念ながら予約を取ることができませんでした。受けたい方は時間に余裕をもって添削を提出すると思います。受験校も決まっていたので相談は利用しませんでした。

スランプ・挫折、それを乗り越えるための工夫

小論文に関して、最初過去問題に取り組んだ際には解答できる気がしませんでした。そこで、最初は解答を写すことから始めました。解答を見て感覚を養い、その後は過去問題集に記載されている年度分を全て解答することで自信を付けていきました。

研究計画書も出願締め切りギリギリになってしまい、さらに添削を見て大いに落ち込みました。できるだけ指摘された点を修正し、出願までによりよいものにしていくことができました。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

個人事業主で仕事時間は融通が利くので、できるだけ同じ仕事をまとめたり、外出する仕事をまとめるなど、効率化することで時間を作るようにしました。自宅だとなんか家事をしてしまったり、子供に声を掛けられてしまうため、できるだけカフェなどで時間を決めて集中的に学習できる環境にしました。出願直前の書類を作成する時期は、育児や家事などを夫に任せ、まとまった時間を作ってもらえるように協力してもらいました。家族の協力は必須かなと思います。

直前期の過ごし方

過去問題を読み込み、わかりにくいテーマの場合は「経営学の基礎講座」を読むことで知識を身に付けるようにしました。一次試験までに教材に記載されている志望校の過去問題はすべて解答することを目指しました。小論文対策は約1か月と短いかもしれませんが、1日の時間は2時間くらいとまとめて取るようにしていました。

あとは合格された方の出願書類や面接を読んだり、SNSで合格された方のブログを読んでモチベーションを上げるなどしていました。

試験期間中の過ごし方

一次試験が終わった時点で、二次に進めるか少し不安ではありましたが、すぐに面接対策をしました。あとは体調面に気を付けたり、食あたりにならないように生ものを避けたりといったこともしていました。実は一次、二次試験の合格が出るまで不安になり、もし落ちたらどの大学院を冬に受けるべきかなど考えてひたすら他大学院のホームページを見ていた時期もありました。2つ受験して1つは落ちてしまいましたが、「ここは私に合わなかった」とあまり悲観的にならないようにもしていました。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

①受験した時の手ごたえ

一次試験の小論文は、残り15分見直しする時間が持てる余裕があったのである程度できたという手ごたえがありました。二次試験の面接は、堂々と話せたとは思いましたが、内容的にああ言えばよかったかも……など考えてしまい、合格は五分五分かなと感じていました。

②合格した時の気持ち

「やった！」という気持ちでいっぱい思わず涙が出てしまいました。受験するにあたり、出願書類を書いたり、経営の基礎知識の習得、小論文対策、面接対策と、かなり時間と労力をかけてきたので本当に自分の受験番号が合格者として掲載されていた時は嬉しかったです。

振り返ってみて合格の決め手は？それに、当該講座はどの程度影響したのか

①合格の決め手

合格の決め手は、私の場合はかなり特殊なケースで過去のビジネス実績によるものが大

きいと感じています。私の実績というのは、消費者自らが商品開発に携わるというユーザーイノベーションなのですが、ビジネス書や新聞メディアなどで取り上げていただいていた。またYouTuberから上場会社の社外取締役になったという特殊な経歴などを考慮してもらえたのではないかと思います。

②講座の影響度

今までのビジネス実績だけで合格できるほど甘くはないと考えていたので私はアガルトを受講しました。特に小論文の過去問が数年分入手できたことと、様々な合格者の研究計画書を読めたことが合格に繋がりました。また独学では難しい添削も有難かったです。

卒業後のキャリアについて

① MBA に期待するもの

MBAを取得したから何者かになれるとは考えていません。学校での学びを、今のビジネスに即実践し、試すことが大事であると考えています。独学ではなくせっかく通学するので、教授や生徒の皆さんとコミュニケーションを大切に、お互い成長できる関係性を築いていきたいと思っています。

②今後のキャリアビジョン

経営の知識を体系的に学ぶことで、社外取締役としてのガバナンスや経営助言に活かしていきたいです。また個人事業においては、事業拡大や新たなビジネスチャンスをつかみ、最終的には日本を元気にしていく一助となっていきたいと思っています。

【推薦書について】

①提出されましたか？

提出した

②どなたに推薦書をご依頼しましたか？

社内でお世話になっている方

受験生に対するメッセージ

最初は志望動機書や研究計画書を書こうとしても、なかなかうまく書けなかったり、志望大学の小論文過去問を見て「自分にできるだろうか……」と不安になることもあるかと思います。まずいきなり書いたり解いたりする前に、合格者の研究計画書や面接をとにかく読んでみてください。たくさんインプットすることが不安を解消することに繋がります。そのための情報はうまくアガルトを活用すべきです。また大学院はたくさんありますし、学力だけで受かるものではなくどちらかというと就職試験のような相性によるものもあるかと思います。一つだけでなくいくつか受験し、その中でご縁がある学校に決めるというのも大切かと思います。私は受験は大変でしたが、大きく成長できました。皆さんも諦めず、夢に向かってチャレンジしてほしいと思います！

2025年4月入学目標

国内MBA試験合格

アガルートの過去受験者の膨大な資料が 対策に役立った

石原 太陽 さん

20代前半

学生

2025年4月入学目標 / 国内MBA / 秋入試対策カリキュラム / フル

進 学 先: 青山学院大学大学院 国際マネジメント研究科国際マネジメント専攻

合格体験記

MBAを目指したきっかけ

将来のキャリアゴールであるフィンテック・エドテック分野での起業に向けて、体系的な経営スキル・知識を養いたいと考え、MBAを志願しました。また、様々なバックグラウンドを持つ方々と交流する機会を得られる点も、MBAを選択した大きな理由の一つです。

日本ではMBAという選択肢はまだまだ一般的ではありませんが、海外では多くの人がMBAを取得することが当たり前になっています。このような状況の中で、日本でMBAを取得するという高い志をもつ新卒やそれに近い年代の人たちと関わる機会が得られるというのは、私にとって間違いなく将来にプラスになると考え志願しました。

アガルートアカデミーをお選びいただいた理由

アガルートを選んだ理由は、全額返金の特典と豊富な合格者実績の2点です。

大学生である私にとって、40万円近くの予備校費用は決して安くありません。そのため、合格すれば全額返金してもらえる制度は非常に魅力的でした。この特典は私にとってモチベーションとなり、受験勉強に対する意欲を高めることができたと考えています。

また、他の予備校と比較して圧倒的な合格者数を誇るアガルートを選んだ理由は、データの豊富さにあります。多くの合格者を輩出している予備校は、受験に関する膨大なデータと知見を蓄積していると考えました。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

①勉強の方針

2024年入試では従来TOEIC730点を卒業要件に課していましたが、廃止され別の方法で

認定する方針に切り替わりました。そのため、主に英語の勉強ではなく経済の勉強を行いました。アガルートの経営学の基礎講座を視聴し、経営学の基礎を学ぶことに重点を置きました。また他の人の面接再現などを読み面接対策を行いました。

②研究計画書のテーマ設定までの流れ

研究計画書は提出していません。

ですので、志望理由書のテーマ設定というお話になってしまいますが、私自身が高校時代に取り組んできたことそして大学で学んだことを活かせたらと考え、志望理由書に書かせていただきました。MBAではストーリー性が大事だと考えています。

③勉強のスケジュール

2月：MBA受験を志し、アガルートに受講を決める。

4月：「経営学の基礎講座」動画視聴開始

5月：「経営学の基礎講座」を隙間時間に視聴（一日30分から1時間）

6月：「小論文対策」・「経営学の基礎講座」を視聴し、志望校を模索し始める

7月：「経営学の基礎講座」を引き続き視聴し、青山学院一本に狙いを決める

8月：「経営学の基礎講座」・「出願書類・研究計画書の書き方」を視聴し志望理由書等の添削を行ってもらう

9月：引き続き添削依頼・面接対策の依頼、4週目から本格的に面接練習を始める

10月：第一期受験も不合格 面接で指摘された部分をブラッシュアップするために添削依頼

11月：引き続き添削依頼を行い、面接練習を3週目から独自に行う（大学教授にも依頼）

12月：第二期受験 合格を頂く

受講された講座の良さ、当該講座の学習方法

▼国内 MBA 入試攻略講座

MBAというものの自体、私自身あまり詳しくなかったのですが、国内MBAの入試攻略講座を聞くことによってMBAというのはどういうものなのか、そして、どのように攻略していけばいいのか手取り足取り教えてもらったという感想です。また利用方法としては、電車などの通学時間の隙間時間に利用させていただきました。

▼経営学の基礎講座

工学部の私にとって経営学の基礎講座は大変役に立ったと考えています。大学時代に経済や経営についての講義を取っておらず全くの無知でしたが、この講座を見ることで多少力をつけることができたと考えています。

利用方法としては家や電車などの隙間時間に利用しました。

▼小論文対策講座（基本編）

大学時代に小論文をいくつか書く機会がありましたが、実践的なものではなくあくまでも講義の中での小論文であったため、全くとっていいほどアカデミックな書き方を知ら

なかったのですが、この講座を視聴することで、ある程度知ることができたと考えています。

利用方法としては、MBAで小論文を使わない大学にいましたので、大学の授業の際の小論文の書き方として参考にさせていただきました。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座

研究計画書を課していない大学への受験でしたので閲覧することはありませんでした。しかしながら、隙間時間などに他大学の参考ということで少し見させていただきました。大学のレポート等に役立っていると考えています。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座 添削利用回数

8回

▼研究計画書の研究テーマライブラリー

こちらも同様に研究計画書を課していない大学への受験でしたので、閲覧することはありませんでした。仮に閲覧していたとすれば、他の講座もとても密度の高い講義ばかりでしたので参考になるだろうと考えています。

▼面接対策講座

面接対策講座は大学別に用意されていたので、自分の受験する大学に合わせて視聴することができた点がとてもよかったと考えています。また大学受験と異なりサンプル数が大変少ないため、多くのサンプルを持っているアガルートにはとても感謝しています。

利用方法は家で見ていました。

▼各種フォロー制度について（初回添削フィードバック、受験校相談、マンスリーゼミ、質問制度等）

初回添削のフィードバックではzoomで対応していただき今自分に何が足りていないのかを明確にすることができたのでとてもためになったと考えています。また受験校相談に関してもアガルートが持つ膨大なデータから自分には、どこが一番適している大学なのかを教えていただいたので大変便利でした。

スランプ・挫折、それを乗り越えるための工夫

スランプ・挫折等は正直ありませんでした。自分自身ポジティブ思考なのとなんとかする精神で日頃生活しているため、感じることはありませんでした。

第1回目の受験の際は明らかに面接していただいた方の反応が悪かったため、面接が終わった瞬間から落ちているなど感覚的にわかりました。第2回目までの出願期間が短かったこともあり、落ち込んでいる時間よりも早く2回目に向けて行動を起こさなければならなかったので落ち込む猶予さえ与えてくれなかったというのが感想です。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

理系大学生である私は、卒業研究と卒業論文に多大な時間を費やしていたため、小論文・研究計画書対策に十分な時間を割くことが困難でした。そこで、これらの書類が不要な青山学院大学を志望校として選択しました。

限られた時間の中で受験勉強を進めるため、以下のような学習スタイルを工夫しました。

- ・通学時間中は経営学の基礎講座の動画を視聴
- ・平日は大学の講義を受けた後、卒業研究・卒業論文に取り組む
- ・可能な限り1日30分から1時間の隙間時間を勉強に充当

しかし、実際には多忙を極めていたため、ほとんど勉強に割く時間がありませんでした。結果として、夏休み期間を中心に添削作業を集中的に行いました。

直前期の過ごし方

書類提出を行い、受験に至るまで基礎講座は特に受講していません。他大学であれば研究計画書や小論文があるため、対策を行わなければならないと思いますが、青山学院では基本的に面接だけです。大学の卒論・研究に最も時間を割いていてあまりMBAに時間を充てていないのが正直な感想です。面接対策のあとに本を最低でも2冊は読んだほうが良いとのご指摘を頂いたので、通学時間中にMBAに関する本は読ませていただきました。本は入学後の知識になると思うので、面接で知識に関する部分が質問されなくても読んでおくことに越したことはないと思います。

試験期間中の過ごし方

日常と変わらない生活を過ごしました。1度目の時は1週間前から最低でも2時間、時間をとり一人でぶつぶつ面接対策をモニターに向かって行っていましたが、2回目なので前回の記憶もあり、全部覚えていっても感情が抜けた話し方になってしまうと考えたため、1日30分程度の面接練習で過ごしていました。ただし、体調を崩してはいけないと考えていたため普段よりも早寝早起きは欠かさず行っていました。面接期間中だからこそ普段通りのほうが良いと考えています。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

①受験した時の手ごたえ

1度目は正直面接が終わった瞬間からこれは合否を見なくとも落ちたなと思っていましたが、2度目は受かっているという確信がありました。自分の力を最大限ぶつけることができたので落ちているとは微塵も考えていませんでした。

②合格した時の気持ち

落ちていると茶封筒で届くので、ポストの中身がA4サイズだったときはとてもうれしかったです。正直これで落ちたら3回目に同じコンディションである時以上の気持ちをぶつけることはできないと考えていたので、その気持ちを受け取ってくれた面接官の方々に感謝の気持ちでいっぱいでした。

振り返ってみて合格の決め手は？それに、当該講座はどの程度影響したのか

①合格の決め手

合格の決め手は面接だと考えています。もちろん志望理由書があつての面接なので志望理由書を疎かにしてはいけません。しかしながら面接においてどんな思いでMBAを志望して将来こんなことがしたいと感情をぶつけることで面接官の心を動かせたのではないかと考えています。

アガルートでは特に過去合格者の面接練習や志望理由書、これが一番自分にとって役に立ったと考えています。国内のMBA受験はデータが少ないため、どんな対策をしてどんなことを書いて、どんな面接なのか自分1人で行っていたら知ることができませんでしたが、アガルートの膨大な資料をもとに過去の受験者がどのように受けてきたか知ること、それも一つの自信になったと考えています。

②講座の影響度

「経営学の基礎講座」は大変役に立ったと考えています。自分は理系で何一つ経済について学んできていないため、そんな中経営学について何もわからない自分でも面白く受講することができました。また様々な事例があるおかげで記憶として残りやすかったです。

卒業後のキャリアについて

① MBA に期待するもの

青山学院のMBAは卒論を課していません。その代わり青山アクション・ラーニングという実践的な学びを得ることができる環境を提供しています。私は青山アクション・ラーニングを受講したいと思い青山学院を志望したため、2年次に行われる青山アクション・ラーニングに期待しています。

②今後のキャリアビジョン

卒業後どうなるかまだ未確定ですが、フィンテック・エドテック分野での起業を最優先に考え学校生活を送っていきたいと考えています。また様々なバックグラウンドを持つ方がいると思うのでMBAで培った人脈を活かして何かしら行えることができればと考えています。

【推薦書について】

①提出されましたか？

提出していない

受験生に対するメッセージ

主にデイトタイムの方へのアドバイスになりますが、私自身10月に一度青学を受験しており、2回目の受験で合格を頂けました。一度目の受験では、私自身の志望理由書に面接官の方々から指摘がありその後指摘を上手くフォローすることができず、不合格を頂きました。しかしながら、2回目の受験では指摘された部分プラス α を付け足し出願することで、合格を頂くことができました。

青学を第一志望にされている方はまず10月に出願すること。そして仮に落ちてしまっても指摘された部分を克服することができれば、2回目で合格することも十分に可能なので、自信をもって取り組んでもらいたいです。青学では他の大学と比べ面接の点数比率が高いため、練習を沢山される方が多いと思いますが、覚えすぎてしまって機械のように話すことは一番避けたほうが良いと考えています。結局MBAはグループワークやディスカッションがメインになってくるので、対話が大切になってきます。そんな中でいくら素晴らしい思いや事業計画があっても感情が乗っていなければ意味がないと思いますので、覚えすぎない程度に面接対策は行ったほうがよいと思います。

またデイトムであれば、志望理由書・デイトムコース課題の2点がありますが面接では断言することはできませんが、基本的に志望理由書からしか聞かれないと考えています。15分という短い時間の中での面接であるため、コース課題まで聞いている時間はあまりないと思います。受験応援しています。

2025年4月入学目標

国内MBA試験合格

講座を通して基礎情報を網羅的に獲得できた

宮内 友章 さん

40代前半

社会人

2025年4月入学目標 / 国内MBA / 秋入試対策カリキュラム / フル

進 学 先: 筑波大学 国際経営プロフェッショナル専攻

合格体験記

MBA を目指したきっかけ

これまで長らく関わってきたビジネス全般、事業運営に関する解像度を高めることで、今後も一人のビジネスパーソンとしてより一層充実したキャリアを過ごしたいと考え、年初に国内MBAを受験することを思い立ちました。2年間集中して学ぶという得がたい環境において、この先も続く社会人生活の基盤を再構築すると同時に、多様な業種・背景を持つ同僚と切磋琢磨することで社外人脈を深く掘り下げて、新たなコミュニティを形成していくことにも関心がありました。

アガルトアカデミーをお選びいただいた理由

予備校のリサーチをしている中で、他校と比較すると圧倒的に情報量が多く、合格実績多数で、合格体験記、YouTube動画の数々から学び得ることが多いと感じたためです。また通学をする時間を確保することは難しかったためオンラインでの受講を希望しており、サンプルのトライアル体験をしたところ、ユーザインターフェースや動画視聴の使い勝手がよく、通勤途中や外出先からも問題なく動画視聴をできたことも決め手になりました。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

①勉強の方針

基本方針は、無理なく楽しく計画的に学習することでした。年初に毎月の計画を立てて、なるべく計画に沿うように準備を進めていきました。仕事の兼ね合いで平日に勉強時間を確保することは難しく、週末に集中的に勉強をすることが多かったです。家族やプライベートの予定がある場合はそちらを優先しながら、10ヶ月程度かけてじっくりと積み上げて

準備をしました。

②研究計画書のテーマ設定までの流れ

Research Reportという形式を選択しました。日本の産業界を国際的に発展させるという視点から問題意識を洗い出し、関連書籍やビジネスフレームワークに関する書籍を読み込みました。その後、アガルートに研究計画書は3回添削をしていただいてブラッシュアップを重ねました。フィードバックの内容から、研究計画書としては決して完璧ではなく及第点という程度だと思いますが、私自身としては納得のできるレベルに達していたため、スケジュールを優先して提出することにしました。研究計画書作成にかけた時間は1ヶ月程度、他の受験生の方々は2～3ヶ月程度、十分に時間を確保することをお勧めします。

③勉強のスケジュール

- 1月 年初に国内MBA受験をすることを決心。リサーチ開始。自分に合った大学院、コース内容の深掘り。国立私立問わず幅広い大学の情報をYouTube動画などで観る機会が多かった。月末に筑波大学国際経営プロフェッショナル専攻の説明会に参加。志望度が高まる。
- 2月 WEBでリサーチを継続、アガルートのサイト情報にヒットする機会が多かった。この時点では、ビジネス書の読書量を意識的に増やした。
- 3月 この頃までには受験対策が必要であることを理解し、予備校に申し込むことを決めた。通う時間を確保することは難しかったため、オンラインで完結できるコースであることを前提に、アガルートと他社を比較検討。結果として、これまでに動画等で馴染みのあるアガルートに申し込んだ。
- 4月 「経営学の基礎講座」動画視聴を開始。志望校を筑波大学に絞り込む。
- 5月 勉強方法を、動画視聴からテキスト読み込むに変更。あくまでも個人的にだが、テキストを自分のペースで読み込む方が向いているということを再認識。
- 6月 一次選考用の書類作成開始（経歴書、エッセー）。
- 7月 大学の成績表等の取り寄せ開始、研究計画書以外の書類完成。
「研究計画書の書き方講座」のテキスト読み込み。
- 8月 研究計画書のテーマ検討開始 インターネットでは基礎調査を行った後、主に書店で参考文献を購入し読み込み。研究計画書作成・添削依頼。同時に、その他の提出書類の添削も依頼。
- 9月 一次選考の申し込み完了。
- 10月 一次選考の通過通知を受領。2次選考の面接準備を開始。「面接再現」のテキスト読み込み、「面接対策講座」の動画視聴、テキスト読み込み。
- 11月 二次選考の面談。今年の出来事・時事問題等を確認して準備。
- 12月 合格通知受領

受講された講座の良さ、当該講座の学習方法

▼国内 MBA 入試攻略講座

各大学のコース内容について網羅的な情報が豊富にあり、志望校を決める際に非常に役立ちました。動画とテキストの両方が用意されていたため、情報の取捨選択をしやすいと感じました。例えば、志望度の高い学校に関しては、動画視聴を行い、それ以外の大学や周辺情報に関してはテキストを流し読みする程度など。

▼経営学の基礎講座

経営学の基本知識を得るため、おさらいをするためにも有意義な講座であったと思います。飯野先生の講義は事例が豊富で分かりやすいと感じました。最初の頃は動画視聴を中心に行っていましたが、主に通勤途中や移動中に学習をしていたこともあり、途中からテキストを読み込む勉強方法にシフトしていきました。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座

日本語で作成・添削していただいた後、英訳をして大学に提出しました。

出願書類は「キャリアゴール達成とMBAの関連性を強化するために」といった具体的なアドバイスを頂けて改善に役立てることができたと感じています。研究計画書は書き慣れていないこともあり、やや苦戦、3回添削をしていただきようやく形にすることができました。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座 添削利用回数

3回

▼面接対策講座

筑波大学MBAの対策講座の動画視聴、テキスト読み込みを行いました。過去の受験者の対策方法について、特に筑波大学特有のAnalytical Partの解説は有意義で、面接に臨む際の心構えができました。

▼各種フォロー制度について（初回添削フィードバック、受験校相談、マンスリーゼミ、質問制度等）

出願書類・研究計画書のフィードバックは個別対応をしてくださり、短い期間で集中的に内容をブラッシュアップすることができたと感じております。また受講開始前にオンライン面談で受験校相談をさせていただいて、丁寧に解説をしてくださったことも印象に残っております。

スランプ・挫折、それを乗り越えるための工夫

最初に念入りにリサーチを行い、志望校を絞り込んで、学習計画を立てました。あくまでも仕事優先のため、計画通りに進まないことも多々ありましたが、それを見越して十分な時間を確保することになりました。具体的には1月にMBA受験をすることを決めてから、

9月の1次選考の書類提出までに8ヶ月間を確保。半年間でやり遂げることは個人的には難しかったと思います。また志望校を増やさず、絞り込むことで出願書類の準備を最小限にしたことにより効率的に準備をすることができたと感じております。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

平日は仕事優先のため、通勤途中にたまにテキストを読む程度でした。日々新聞の購読は怠らず、その時々世間の関心事や時事問題（例 アメリカの大統領選挙など）は英語のニュース映像をYouTube等で視聴することもありました。ビジネス書は月に2～3冊程度、意識的に読書量を確保するようにしました。勉強は、主に土日に集中して行いました。1日3～4時間程度を確保して学習時間や出願書類の準備を行いました。やることは多いため、毎週少しずつ進めていくよう心がけました。

直前期の過ごし方

研究計画書に取り掛かった時期が遅かったため、1次選考の直前1ヶ月は準備に追われていました。アガルートに添削していただくこと3回、毎回フィードバックをいただく度に、研究テーマを練り直して参考文献の購読を行い、研究計画を練り直すということを繰り返していました。幸いにもその他の出願書類の準備は早い段階で完了していたため、研究計画書に集中することができました。一方で、あと2ヶ月程度早く作業を開始していたら研究計画書の精度を高めることができたのではと感じております。

試験期間中の過ごし方

2次選考の面接前の期間は、仕事が忙しかったこともあり特別な準備はしていませんが、面接対策講座のテキストは読み込みました。筑波大学はAnalytical partがあるため、どのような質問にも対応できるようにと今年の出来事、世界・国内の大きなニュースを振り返り、自分なりの考えをまとめるといった作業を行いました。結果として、別の問題が出題されたため直接的な効果はありませんでしたが、ある程度自信を持って試験に臨むことができたと感じております。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

①受験した時の手ごたえ

2次選考の面接では、面接官の方々としっかり対話できたことと、自己アピールのポイントを伝えきることができたため、とにかくやり切ったという手ごたえでした。ここから先は大学との相性もあると思うので、深く考えず結果を待つのみでした。

②合格した時の気持ち

約1年間をかけて準備したため、まずは志望校に無事合格できたことに安堵した気持ちでした。同時に、受験にあたってお世話になった方々へのご報告、御礼と共に、今後通学をする際のスケジュールや業務とのバランスを今一度検討する必要があるという気持ちにもなりました。

振り返ってみて合格の決め手は？それに、当該講座はどの程度影響したのか

①合格の決め手

明確な決め手は分かりませんが、早い段階で志望校を一つに絞り込み、仕事やプライベートに支障のないように準備を進められたこと、自身のキャリアパスと近いコース内容で、おそらく大学側との相性が良かったことが決め手になったのではないかと感じております。

②講座の影響度

国内MBAに関する知識ゼロベースから受講をしたため、他校との比較検討をはじめ基礎情報を網羅的に獲得するという意味で初期の影響は絶大でした。後期においては、大学院別の面接対策講座、出願書類の用意など効率的に準備を進めることができたと感じております。

卒業後のキャリアについて

① MBA に期待するもの

まずはビジネスパーソンとして総合的な基礎力の地固めをしていきたいと考えます。さらに一緒に入学をすることになる同僚や教授陣から新たな知見や視点を得ること、自分自身も刺激を与えられる存在となりグループに貢献することに期待しております。

②今後のキャリアビジョン

当面社業に専念をしながら、MBAにおいて新たな知識や人脈を獲得することで可能性を広げて、新たな事業領域への挑戦を続けて、国内外を問わず幅広くビジネスの拡大に貢献できるキャリアを構築していきたいと考えます。

【推薦書について】

①提出されましたか？

提出した

②どなたに推薦書をご依頼しましたか？

上司

受験生に対するメッセージ

社会人の皆さまは日々の業務に追われる中での準備になると思いますので、十分な準備期間を確保して、少しずつ準備を進めていかれることをおすすめしたいと思います。MBAはある程度長期戦になりますので、プライベートを犠牲にしすぎず、楽しく準備を進めるためにも時間的な余裕は持っておきたいところです。またMBA受験は、自分自身のキャリアを振り返るきっかけとなり、今後の中長期的なビジョンを描くためにも有意義な時間を過ごすことができたと感じております。

2025年4月入学目標

国内MBA試験合格

的確で厳しい添削指導に奮起し研究計画書を改善

荻原 佳祐 さん

30代前半

社会人

2025年4月入学目標 / 国内MBA / 秋入試対策カリキュラム / フル

進 学 先: 東京都立大学大学院 経営学研究科経営学専攻博士前期課程(経学プログラム)
他の合格先: 法政大学 経営学研究科経営学専攻修士課程

合格体験記

MBA を目指したきっかけ

きっかけは、政府機関に2年間出向した際、学ぶことの面白さを改めて感じたことと、そこでの同僚や関係機関の方々の専門性や思考力に刺激を受けたことです。出向先は、同じ宇宙産業ではあったものの、分野が異なるため一から勉強する必要がありました。同僚や関係機関の方々は優秀な方ばかりで、追いつくのに苦労しましたが、学んでいくことで様々な気づきがあり面白かったです。

また、民間企業では新規事業に従事するときにフレームワークや戦略など必要に応じて調べながら取り組んでいましたが、ポイントの理解だけでなく、体系的に学んで全体感を掴みたいという考えが以前からありました。出向から元の企業に戻り、時間を確保できそうなタイミングを狙いMBAを目指すことにしました。

アガルートアカデミーをお選びいただいた理由

アガルートアカデミーを選んだ理由の1つは、複数の予備校と比較してカリキュラムが充実しており、経営学の基礎から研究計画書の作成、面接対策までMBA受験に必要な要素をカバーできると考えたからです。合格者のインタビューでも、カリキュラムや教材に対する評価が高く、安心材料になりました。

もう一つは、MBAの合格実績です。複数の大学院に多数の合格者を輩出した実績があり、決して安くはない予備校の授業料を払うのだから確実に合格したいと考えていました。

4月頃、MBA受験にあたり複数の予備校について調べ受験日までの勉強計画を逆算し、アガルートアカデミーであれば試験まで必要な対策が可能と考え選択しました。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

①勉強の方針

一つ目が、計画的にコツコツと勉強することです。仕事に加えて、育児や家事をしながら限られた時間の中で勉強する必要がありました。合格体験記や合格者の研究計画書などから大学院の合格レベルをイメージし、試験までの勉強計画を立て実行しました。書籍とオンライン教材を併用し、移動時間などの隙間時間も活用しながら勉強に取り組みました。

二つ目が、理解が及ばない部分があっても先に進み全体感を掴むことを重視したことです。抽象的な理論などすぐには理解が難しいなど感じることもあっても立ち止まるのではなく、何周か読んでいるうちにだんだん理解できると思いそのようにしました。

仕事やプライベートに時間を割かなくてはならない時期もあり、常に計画的に勉強できたわけではありませんが、進捗に応じて方向修正しながら取り組みました。

②研究計画書のテーマ設定までの流れ

関心ある理論と自身の企業の課題とクロスする部分を研究テーマとして決定していきました。まずは、アガルートの経営学の基礎講座を受講してどういった経営理論があるのか把握しました。自身の企業で生じる経営課題を複数考え、そこから興味を持った経営理論と関連づけられないか考えました。当初は研究テーマとしては粗削りのため、研究テーマライブラリーでテーマ設定の着眼点を理解し、研究計画書の添削指導を受け、参考文献を読み込みながら研究テーマとしてふさわしい形にブラッシュアップしていきました。

③勉強のスケジュール

5月：出願書類、『国内MBAの入試攻略講座』で合格までのイメージを整理。

6月：『経営学の基礎講座』、『出願書類・研究計画書の書き方』

7月：『経営学の基礎講座』、『出願書類・研究計画書の書き方』、『研究計画書の研究テーマライブラリー』、『小論文（基本編）』、『小論文（大学院別対策編）』

8月：『経営学の基礎講座』、『出願書類・研究計画書の書き方』、『研究計画書の研究テーマライブラリー』

9月：研究計画書の作成、添削（1回目）

10月：研究計画書の作成、添削（2回目）、『小論文（基本編）』、『小論文（大学院別対策編）』、出願書類の提出（併願校）

11月：『面接対策』、併願校が合格

12月：研究計画書の作成

1月：研究計画書の作成、出願書類の提出（都立大）、『小論文（大学院別対策編）』

2月：筆記試験（都立大）、口頭試問（都立大）

冒頭計画的に取り組むことを勉強方針と説明しましたが、実際には仕事などで忙しく時間を十分にとれず、研究計画書の作成は遅れ気味でした。研究計画書の完成度も高くない状況が続き、添削結果に落ち込むこともありました。「もっとも合否との関連が高い初稿から二稿の改善状態から、他校の併願を推奨いたします」と助言をもらったときは、相当まずいと理解しました。

改めて研究テーマを見直し、さまざまな参考文献を調査しました。過去の合格者の研究計画書や大学院の修士論文を読むなどして研究計画書を改善していききました。出願書類提出が近づくにつれ、夜寝るのが遅くなる傾向がありましたが、何度も推敲を重ねました。

ちなみに、当初は一橋大学院経営管理プログラムや法政大学経営学研究科を志望しており、秋は都立大を受験していませんでした。都立大は、研究計画書の量も多く、知識系の筆記試験もあるため受験対象からは外していました。試験勉強を進めるにつれて都立大の受験も可能そうであると判断し冬に出願しました。

受講された講座の良さ、当該講座の学習方法

▼国内 MBA 入試攻略講座

国内MBAに受験するにあたり、どんな大学院があり、大学院ごとどのような傾向があるのか、志望大学の検討や受験難易度の検討に役立ちました。内容が分かりやすいため、すらすら読めました。最初のMBA理解に役に立つと思います。

▼経営学の基礎講座

経営学のベースの知識が不足していたので、経営学の基礎講座でこういった理論があるのかを理解しました。すんなり理解できない部分があっても、あとで理解できれば良いと思い、先に進めることを重視しました。研究計画書のテーマ検討の際には、このベースの知識をもとに関心を持った理論を企業の課題と紐づけるような形でテーマ選定していききました。分かりやすい言葉遣いをしており、読みやすかったです。

▼小論文対策講座（基本編）

小論文対策は何をすればよいか不安でしたが、テキストの説明を読んだあと、実際に複数回の問題を解いて小論文の解法を理解していききました。実際に書いてみた方が力になると思い、何問かは手書きで取り組んでみました。

▼小論文対策講座（大学院別対策編）

大学院によっては、著作権の都合上問題が掲載されていない場合がありますでしたが、この小論文対策講座では問題がのっていたのでその大学院については問題を閲覧できること自体が貴重でした。また、一人で考えた答えでは不安なこともあるので、解答例をみて、自身の解答と見比べることで客観的に自分の解答のレベルと比較し、改善につなげられました。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座

テキストを読んで実際に過去合格した方がどのくらいのレベルなのか、合格レベルを理解する上で大変参考になりました。添削では時に厳しい（的確な）ご指導をいただきへんだこともありましたが、おかげでしっかりやらねばと思えました。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座 添削利用回数

2回

▼研究計画書の研究テーマライブラリー

研究計画書のテーマ選定にあたって、経営学の基礎講座のテキストを読むだけでは研究テーマの切り口として不十分だなと感じることがあったので、テーマライブラリーを見て、どういった切り口だと面白いのか考え方の参考にしました。

▼面接対策講座

1度併願校の面接直前に面接を申し込みましたが、とても丁寧に良い点や改善点を指導してくださり、本番に臨む自信が付いたように思います。やはり一人では気づけない面を客観的に指摘いただける点が貴重だったと思います。MBA受験実績のある講師だったのでリアリティのある助言で参考になりました。

▼各種フォロー制度について（初回添削フィードバック、受験校相談、マンスリーゼミ、質問制度等）

初回添削フィードバックは、まだ研究計画書の検討が十分ではなかったのであまり質問ができずもったいなかったなと感じています。もう少し自身の経験値があがって慣れてくると実践的な質問もできた気がしました。マンスリーゼミは、勉強の息抜きに参加できました。

スランプ・挫折、それを乗り越えるための工夫

納得のいく研究計画書の作成ができず、苦勞した記憶があります。研究計画書の添削で、自身のレベルが至らないため仕方のないことですが、的確で厳しいご指摘をいただき、落ち込むこともありました。しかし、これを乗り越えないと合格はないと思い、諦めずなんども研究計画書の推敲を繰り返しました。助言のあったとおり、大学院生の研究テーマを調べたり、参考論文を数多く読んで研究分野の傾向や論文の書き方を学び、それを参考しながら少しずつ改善を繰り返すことで、何とか納得がいくレベルの研究計画になったのではないかと思います。あの厳しいご指導がなければ、そこまで奮起できなかったかもしれません。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

暖かい時期は朝4時台に起床して、朝1～2時間程度勉強していました。電車などの移動時間も可能な時は、書籍かオンライン教材で勉強していました。

寒い時期は朝早く起床するのが苦手なので、子供を寝かしつけた後の夜の時間を利用して、勉強していました。妻も勉強していたので、休日は半分ずつ各自の自由時間として活用していました。自分が使える時間はできるだけ有効活用できるよう前日にどんなことをするかイメージしておくことを心掛けていました。

1日中同じ場所だと集中力を切らしてしまう場合もあるので、休日は居心地の良いカ

フェで勉強することもありました。

直前期の過ごし方

出願期限直前は、研究計画書を何度もブラッシュアップしていました。合格体験記などから研究計画書に比重が置かれると分かっていたので、合格するには研究計画書を少しでも良い内容にできるよう参考論文を読み込み、研究計画書を改善していきました。提出が近づくと、残りの日数から焦りもありますが集中力が増しました。複数校受験すると各校出願期限の度に集中期間が訪れるので、大変ではありますが、その分研究計画書の質の向上には良い機会であったように思います。

試験期間中の過ごし方

都立大は、複数回の試験形式を取らず、試験は1回のみです。出願書類、同日におこなう筆記試験と口頭試問の結果を総合して合否が決定となるため、出願後は筆記試験と口頭試問対策に集中して取り組みました。

都立大の筆記試験は複数の試験科目から1つの科目を選択して解答する形式です。私は経営組織論を選択するつもりでしたので、筆記試験対策は、都立大が公開する経営組織論のすべての過去問から出題傾向を分析するとともに、アガルートの解答例を参考に解答を作成し、何度も読み返しました。また、『はじめての経営組織論（有斐閣ストゥディア）』を読み、経営組織論に関して理解を深めました。なお、本書を選択した理由は、都立大のシラバスで経営組織の授業で利用しているテキストであり、過去の出題傾向から本書を理解しておけばおおよそ解答できると考えたためです。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

①受験した時の手ごたえ

口頭試問は、一部不十分な回答だったなと思う部分がありつつも、致命的な問題はなくある程度回答ができました。

筆記試験は、過去の試験傾向から出題範囲を予測していたのですが、外してしまいました。少しやってしまったなと思いましたが、アガルートの経営学の基礎講座と『はじめての経営組織論』で学習していたので、問題ない程度には書くことができたと思います。

②合格した時の気持ち

合格結果の公開10分前ぐらいからそわそわしていました。Webサイトの合格者一覧で自分の受験番号を見つけたときは、嬉しい気持ちと、間違いではないかと自分の受験表と合格者一覧を見返してしまいました。一方で、これから勉強頑張らないとなという気持ちもわきました。

振り返ってみて合格の決め手は？それに、当該講座はどの程度影響したのか

①合格の決め手

決め手は、他の合格体験記などでも示されていますが研究計画書であったと思います。

研究計画書に評価の比重を置いているため、研究計画書が評価されこれが合格の決め手になったのではないかと予想しています。口頭試問、筆記試験はまずまずの出来であったと予想しています。

②講座の影響度

研究計画書の推敲作業は、アガルートの添削による助言と過去の合格者の研究計画書が非常に参考になったと感じています。特に後者は合格ラインの把握や計画書の書き方について学びが大きかったです。

アガルートの面接対策の教材は、都立大とその他の大学院も含めて様々なケースを読みました。複数の面接パターンを実際に頭で想像することができ、想定問答の作成もはかどりました。

筆記試験対策は、アガルートの小論文添削講座（大学院別対策編）の解答例をもとに勉強することで、解答の書き方を学ぶことができました。

この意味で、合格に対する講座の影響度はとても高かったように思います。

卒業後のキャリアについて

① MBAに期待するもの

ビジネスに関わる幅広い経営学の知識を体系的に習得でき、深い思考力を養うことができると期待しています。経営に関わるには高度な分析力や戦略的な意思決定能力が必要と思いますが、MBAを通して経営学の知識や深い思考力を身につけることで、今後のキャリアにおいて強みになると考えます。

②今後のキャリアビジョン

引き続き新規事業の開発業務に従事し、将来はイノベーションの創出につながる組織や仕組みの構築にも携わり、企業の成長に貢献したいと考えます。そのためには、大学院で経営に関する幅広い知識を体系的に習得し、基礎を身につけたいと思います。

【推薦書について】

①提出されましたか？

提出していない

受験生に対するメッセージ

アガルートの充実した教材の活用は合格の近道であると思います。MBA受験にあたり、何を勉強したらよいか分からない中で合格に向けた指針を示してくれるとともに、添削など合格までの力強いサポートがあります。仕事やプライベートでお忙しいかと思いますが、アガルートの教材を活用すればMBAの合格に近づけると思います。

もしMBAの予備校の選定で迷っている方がいれば、アガルートは間違いのないと思いますので、ぜひ利用してみてください。

2025年4月入学目標

国内MBA試験合格

ニュースや経済新聞を見て引き出しの数を増やした

本間 敦久 さん

30代前半

社会人

2025年4月入学目標 / 国内MBA / 秋入試対策カリキュラム / フル

進 学 先: 立命館大学大学院 経営管理研究科観光マネジメント専攻

合格体験記

MBAを目指したきっかけ

外資系ベンチャーで大阪支社立ち上げから2年、会社も軌道に乗り安定してきました。会社が大きくなるにつれてマネジメントの問題が多々発生するようになりました。マーケティングの一貫性、ブランド構築、企業イメージ、社員の雰囲気社風などイスラエル本社意向とは異なるような部分も見られるようになり、CEOよりデザインマネジメントを推し進めることが大事であると勧められ、日本法人の社長からもMBAなしでの管理はこれ以上は難しい、しっかりと理論立ててジェネラルに学んでくることが良いと提案もいただき目指し始めました。

アガルトアカデミーをお選びいただいた理由

他社の教材や現地での予備校も検討しましたが、YouTubeにて講義動画を見たところ非常にわかりやすく、各大学の特徴や対策なども公開されておりしっかりと分析されていることに期待を持ち選びました。また、研究計画書や模擬面接なども見てもらえて非常にありがたかったです。特に願書に使用したエントリーシートの添削は数回にわたり年末年始の忙しい時期にもかかわらずしていただき大変助かりました。今後他の資格取得の際にも機会があれば使わせてもらえればと思います。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

①勉強の方針

出張族なので移動時間とにかく動画を流し見し続け、時間があるときにテキストを読んで復習するという方式で進めていきました。車の中でダウンロード可能な音声ファイル

を1.5倍速で流し続けたり、iPadのメモアプリで大事なポイントをまとめたりしました。また、デジタルブックの提供もあったのでお風呂に入りながらスマホでの復習もできてとても良かったです。

②研究計画書のテーマ設定までの流れ

研究内容としてデザインマネジメントを学び、自社での落としどころとして探ることを目標としていたためすなりと決まりました。また、各種データ類も会社から提供してもらえることとなり日本とイスラエル、アメリカでのデザインマネジメント手法の違いについて今後研究していきます。

③勉強のスケジュール

8月 アガルート入会

9月 動画を2周見て内容を頭に入れる

10月 研究内容や志望校選び

11月 動画の復習やChatGPTで問題を作成し学習

12月 最後まで立命館大学と同志社大学を悩むも立命館に出願を決めてエントリーシート作成添削、他校の情報収集など

1月 正月明けに再添削をしてもらい出願、模擬面接も実施、面接の本を本格的に読み始める

2月 試験当日 立命館大学大学院経営管理研究科を受験 合格

受講された講座の良さ、当該講座の学習方法

▼国内 MBA 入試攻略講座

各大学の傾向と対策がしっかりとされており他大学のものも非常に参考になりました。また、毎月のマンスリー会での時事ネタなども含めてとても勉強になりました。今回面接では出てきませんでしたが今後の役に立ちそうな情報が多かったです。

▼経営学の基礎講座

ふつうは別々に分かれているような内容を関連づけて複数の項目を学ぶことができたのでとても分かりやすかったです。今回研究テーマにもしたブランディング関係やそもそもの経営とはどんなものなのか、先生の早稲田での経験も含めて大学院での立ち回り、学ぶ内容で大きく変わると感じました。

▼小論文対策講座（基本編）

小論文対策講座自体は動画を見させてもらいました。学校によって複数のテーマがありそれをどうとらえていくか、また時事ネタを盛り込んだ内容も多いため今後の研究にもいきそうだと思います。今回の入試では小論文は使用しませんが小論文の何たるかを学ばせていただきました。

▼小論文対策講座（大学院別対策編）

大学院ごとにすべて記載があったので読ませてもらいました。

幸いにも小論文は受験に必要ながなかったので使いませんでした。小論文で聞かれるネタや今後の研究に際しても参考になる良い講座であったと感じました。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座

出願書類に関しては自分の今後やりたいことや専門用語に直したときにどのように表現するのがわからない状態で記載し修正などもしてもらえたのでとても助かりました。また、自分の今後の方向性も含めて改めて認識もできてよかったです。年末年始を挟んでも営業日ですぐに返ってきて間に合い助かりました。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座 添削利用回数

2回

▼研究計画書の研究テーマライブラリー

研究計画書をどのように書くのか、ネタをどのように探るのがわからないところからの挑戦であったためとても役に立ちました。また、初めて国会図書館にも行き文献を拝見しました。過去の研究ベースで違ったアプローチを目指す予定です。

▼面接対策講座

模擬面接では本番さながらの状況を模擬してくださりととても良かったです。

模擬面接後に復習としてここが良かったここが悪かったと具体的に説明してもらえまし
たし、本人さんが受験生だった時の話などもしてくださりととても参考になりました。

▼各種フォロー制度について（初回添削フィードバック、受験校相談、マンスリーゼミ、質問制度等）

添削関係は使い方がよくわからず、受験校相談は使用できなく少し後悔しています。講義に対する質問制度等は非常に使い良かったです。

スランプ・挫折、それを乗り越えるための工夫

何度かMBAをあきらめようかと考えたこともありました、勉強するにつれて難しい内容も多く本当に入学後ついていけるのかなど考えることもありましたが、2周以上動画や参考書を見ることや日経新聞電子版など日々の生活に経営の視点を入れてみることで前向きに学習を進めることができました。立命館大学、同志社大学、神戸大学に直接先輩訪問のような日が設定されていたため訪問しモチベーション維持も行いました。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

仕事中の移動時間に動画を流しっぱなし、音声データを流しっぱなしにして常に学習する環境を用意しました。また、iPadを新調してやる気を出してデジタルブックの参考書を見て、メモアプリでまとめノートを作り経営の知識をより深く学べる環境を作りました。

最後のほうは睡眠時間を削り時事問題の調査や日経新聞のバックナンバーを見るなど、空き時間はとにかく学習に充てて引き出しの数を増やすことを心掛けました。結果として現在知識量は大幅増えて安心して入学ができます。

直前期の過ごし方

模擬面接の際に「あとは健康に当日を向かえることが大事。当日体調不良で本領発揮できない人も、ただでさえ緊張すると思うのでなるべく想定をして体調を万全にすることが大事」と言われました。体調管理をするために普段通りの生活を心掛け、GABAやアミノ酸ナイトスリープなどを飲みなるべく寝るように心がけ、研究計画書などの内容を忘れないように毎日数回は音読し、ChatGPTに面接でよく聞かれる内容を出してもらい模擬していました。

試験期間中の過ごし方

試験期間中も時事問題を把握するためにもYahooニュースで問題を議論しているものなどを読んで、様々な目線で物事を見られるように心がけました。また、試験はある意味で自分を売り込みに行く営業の場でもあるため肌艶の改善や睡眠の質の向上、また仕事も年度末で忙しかったので体調管理を最優先にすべてのタスクをクリアできるよう考えながら過ごしました。

結果として当日はぐっすり眠ることができ体調は万全で行くことができました。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

①受験した時の手ごたえ

正直落ちたと思いました。自分自身一瞬頭が真っ白になることもあり、えーーーーという長い間があった記憶があります。普段の営業活動と違い自分の思っていることを具体的に伝えるというのは難しいと感じました。また、他の受験生も優秀な方が多く見え年齢層も少し上のほうだったので余計にそのように見えたのかもしれませんが。

②合格した時の気持ち

素直にうれしかったです。高校生のころに工学部に行くか経営学を勉強するか迷うほどに昔から経営学は学んでみたいという思いがあり念願かなった形となります。

また、社長からもMBAを良い成績で卒業できたらよいポジションを用意してもらえるという提案も報告時にしてもらえやる気がみなぎっています。

振り返ってみて合格の決め手は？それに、当該講座はどの程度影響したのか

①合格の決め手

経営学についてはもともと株をやっていたこともあり、グロービスのサブスクリプション動画を見ることなどもあったため日々学んでいましたが、受験対策となるとまた話は異なり研究計画書や面接対策など学問とは別の部分が求められるので体系的にそこを効率よく学ぶことができたからだと思っています。

②講座の影響度

6割くらいと自分では思っています。特に書類作成関係、面接対策は非常に役に立ち本番でも心強く感じました。また、残りの4割は日経電子版やグロービスのサブスクリプションなどでもすでに学んだ範囲もあったため受験対策という面ではアガルートに大変お世話になりました。

卒業後のキャリアについて

① MBA に期待するもの

今後も引き続き現在の会社に勤めていく予定ですが、現場の問題点を大学に持ち帰り研究の材料および多くの人から経営的視点でのディスカッションができればうれしいです。また、横のつながりを作り、こういった問題をコンプライアンスに引っかからない程度で相談もできればと考えています。

②今後のキャリアビジョン

現在の会社が落ち着いた先にはまだ30代前半ということもあり他業種への転職もしくは、同業種でもマーケティング関係へ本格的にやってみるのも面白いのではないかと考えています。現在も管理職として働いているので自分の可能性を試してみたくになります。

【推薦書について】

①提出されましたか？

提出した

②どなたに推薦書をご依頼しましたか？

弊社社長

受験生に対するメッセージ

アガルートでは短い時間で志望校に合格するだけのサポート体制や教材があります。なのでこの仕組みをいかに自分で自分にコミットメントするかが合格への肝になると思います。ぜひともチャンスのある皆さん、なるべく若いうちにチャレンジして夢をかなえてください。MBAを取得することで今までなれなかったようなポジションや企業への転職、現在管理職として苦悩していることなどを解決する糸口になるかもしれません。これから大学院での研究や学習が楽しみです。

2025年4月入学目標

国内MBA試験合格

一日の終わりにには次の日の計画を立て、 継続的に学習

望月 大輔 さん

30代後半

社会人

2025年4月入学目標 / 国内MBA / 秋入試対策カリキュラム / フル

進学先: 橋大学 経営管理プログラム

他の合格先: 早稲田大学 研究管理研究科夜間主総合, 慶應大学 経営管理研究科,
京都大学 経営管理教育部経営管理専攻

合格体験記

MBAを目指したきっかけ

私がMBAを目指したきっかけは、職務経験を通じて感じた経営知識の必要性和、キャリアアップのためのスキル向上です。特に、海外での事業会社設立や本社での経営企画業務を通じて、戦略的な意思決定や組織マネジメントの重要性を痛感しました。MBAプログラムで理論と実践を学び、より高度な経営スキルを身につけることで、自社の経営幹部として貢献したいと考えました。また、グローバルな視点を持ち、国際的なビジネス展開にも積極的に取り組みたいという思いもありました。

アガルートアカデミーをお選びいただいた理由

アガルートアカデミーを選んだ理由は、カリキュラムの充実度と柔軟な学習環境です。特に、オンライン講座の豊富さと、通勤時間や隙間時間を活用して学習できる点が魅力でした。また、実務経験豊富な講師陣による指導や、個別のサポート体制が整っていることも決め手となりました。これにより、効率的に学習を進めることができ、合格に向けた準備を万全に整えることができました。さらに、模擬面接や添削サービスを通じて、自分の弱点を克服し、自信を持って試験に臨むことができました。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

①勉強の方針

私の勉強の方針は、計画的かつ継続的に学習を進めることを重要視していました。具体

的には、毎日の学習時間を確保し、テキストの復習や講義動画の視聴を繰り返すことで、知識の定着を図りました。また、出願書類や小論文の添削を受けることで、インプットだけでなくアウトプットする力を磨くことを心掛けておりました。さらに、週ごとに学習目標を設定し、進捗を確認することで、モチベーションを維持しました。

②研究計画書のテーマ設定までの流れ

研究計画書のテーマ設定は、職務経験を基にした問題意識から始まりました。特に、サプライチェーンの脆弱性に関する課題を解決するための研究テーマを設定し、インターネットでの検索や、国会図書館での専門文献の読み込みにより、先行研究や業界動向を調査しました。また、社内外の同僚や取引先等の会話やディスカッションを通じて、テーマの妥当性と実現可能性を確認していきました。

③勉強のスケジュール

4月：国内MBAの受験を検討開始。

5月：アガルートでの受講開始。「経営学の基礎講座」を通勤、隙間時間で視聴開始。

6月：「経営学の基礎講座」「小論文対策講座」「研究計画書の書き方講座」「研究テーマライブラリー」などを視聴。

7月：「経営学の基礎講座」「小論文対策講座」「研究計画書の書き方講座」「研究テーマライブラリー」などを視聴。

8月：国会図書館にて先行研究探し。研究計画書作成・添削依頼。小論文練習。隙間時間などで動画視聴は継続

9月：研究計画書作成・添削依頼。添削を待つ間に小論文練習。隙間時間などで動画視聴は継続。

10月：一次試験（小論文）前は過去問を実践練習。「面接対策講座」を視聴。

11月：二次試験に向けてアガルートのテキストに沿って準備をしつつ、模擬面接実施。

受講された講座の良さ、当該講座の学習方法

▼国内 MBA 入試攻略講座

国内MBAの入試攻略講座は、非常に役立ちました。特に、試験の傾向や対策方法が具体的に解説されており、効率的に学習を進めることができました。講義動画を繰り返し視聴し、重要ポイントをノートにまとめることで、理解を深めました。また、模擬試験を通じて実践的なスキルを磨くことができ、自信を持って試験に臨むことができました。

▼経営学の基礎講座

経営学の基礎講座は、経営学の基本的な概念や理論を体系的に学ぶことができ、大変有益でした。特に、実務経験豊富な講師陣による具体的な事例解説が理解を深める助けとなりました。講義動画を通勤時間や隙間時間に視聴し、テキストを繰り返し復習することで、知識の定着を図りました。また、講義内容を実務に応用することで、学びを実感することができました。

▼小論文対策講座（基本編）

小論文対策講座（基本編）は、小論文の書き方や構成の基本を学ぶ上で非常に役立ちました。特に、論理的な文章構成や説得力のある論述方法について具体的な指導があり、実践的なスキルを身につけることができました。講義動画を視聴しながら、自分の書いた小論文を添削してもらうことで、改善点を明確にし、より良い文章を書くためのコツを習得しました。

▼小論文対策講座（基本編）添削利用回数

11回

▼小論文対策講座（大学院別対策編）

小論文対策講座（大学院別対策編）は、志望する大学院の試験に特化した対策ができるため、非常に有益でした。特に、過去問の分析や出題傾向の解説が詳しく、試験対策に役立ちました。講義動画を視聴しながら、実際の過去問を解くことで、試験形式に慣れることができました。また、添削サービスを利用して、自分の小論文の改善点を明確にし、より良い文章を書くためのスキルを磨きました。

▼小論文対策講座（大学院別対策編）添削利用回数

6回

▼出願書類・研究計画書の書き方講座

出願書類・研究計画書の書き方講座は、出願書類の作成や研究計画書の書き方について具体的なアドバイスが得られ、大変参考になりました。特に、研究計画書のテーマ設定や構成のポイントについて詳しく解説されており、自分の研究テーマを明確にすることができました。講義動画を視聴しながら、自分の書いた計画書を添削してもらうことで、質の高い書類を作成することができました。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座 添削利用回数

15回以上

▼研究計画書の研究テーマライブラリー

研究計画書の研究テーマライブラリーは、多くのテーマ例が掲載されており、自分の研究テーマを設定する際の参考になりました。特に、各テーマの背景や目的、方法論が具体的に記載されているため、自分の研究計画書を作成する際のヒントを得ることができました。ライブラリーを活用して、自分の興味や職務経験に基づいたテーマを選定し、計画書を作成しました。

▼面接対策講座

面接対策講座は、面接の基本的なマナーや質問への対応方法を学ぶ上で非常に役立ちました。特に、模擬面接を通じて実践的なスキルを身につけることができ、自信を持って面

接に臨むことができました。講義動画を視聴しながら、実際の面接を想定した練習を繰り返すことで、緊張を和らげ、自然な受け答えができるようになりました。また、講師からのフィードバックを受けて、自分の弱点を克服することができました。

▼各種フォロー制度について（初回添削フィードバック、受験校相談、マンスリーゼミ、質問制度等）

初回添削フィードバック、受験校相談、マンスリーゼミ、質問制度等の各種フォロー制度は、学習を進める上で非常に心強いサポートとなりました。特に、初回添削フィードバックでは、自分の書いた文章の改善点を具体的に指摘してもらい、質の高い文章を書くためのアドバイスを受けることができました。また、受験校相談では、自分の志望校に合った対策を立てるための具体的なアドバイスをもらい、効率的に学習を進めることができました。

スランプ・挫折、それを乗り越えるための工夫

スランプや挫折を乗り越えるためには、MBA・志望校に入学したい目的・目標を再確認し、モチベーションを維持することが重要でした。私は、定期的に自分の進捗を振り返り、達成感を感じることでモチベーションを保ちました。また、周囲でMBAを取得した仲間と情報交換を行い、情報や刺激を得ることで、孤独感を減らし、前向きに取り組むことができました。さらに、適度な休息を取り入れ、リフレッシュすることで、集中力を維持しました。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

学習時間を確保するために、毎日のスケジュールを見直し、無駄な時間を削減しました。具体的には、通勤時間や休憩時間を有効活用し、スマホで講義動画を視聴するなど、隙間時間を積極的に活用しました。また、早朝や夜間の静かな時間帯に集中して勉強することで、効率的に学習を進めました。一日の終わりには、その日の学習内容を振り返り、次の日の計画を立てることで、継続的な学習を意識しておりました（毎日できていた訳ではありませんが）。さらに、週末にはまとまった時間を確保し、集中的に復習や課題に取り組むことで、知識の定着を図りました。

直前期の過ごし方

直前期には、過去問の実践練習を中心にを行い、試験形式に慣れることを意識しました。また、これまで学んだ内容を総復習し、理解が不十分な部分を重点的に補強しました。そして、これまで取り組んできた準備に自信を持つことで、合格できると自分に言い聞かせるとともに、リラックスすることを心掛け、適度な休息を取り入れることで、試験当日にベストな状態で臨むことができるようになりました。試験前日は、早めに就寝し、十分な睡眠を確保することで、集中力を高めました。

試験期間中の過ごし方

試験期間中は、規則正しい生活を心掛け、体調管理に努めました。また、試験会場にはなるべく余裕を持って到着し、リラックスした状態で試験に臨むことができましたようにしました。試験後は、次の試験に向けて気持ちを切り替え、復習や準備を行いました。試験期間中は、ストレスを溜めないように、適度な休息とリフレッシュを心掛けました。さらに、試験中に感じた疑問点や不安を解消するために、MBAを取得した同僚や友人への相談や、講師への質問箱等を通じて、なるべく不安を解消した上で試験に臨むようにしてまいりました。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

①受験した時の手ごたえ

過去問や面接の想定問答への練習が功を奏し、試験形式に慣れていたため、比較的スムーズに解答できました。特に、アガルートでの小論文添削や模擬面接での想定問答が役立ち、時間配分や解答のコツを身につけることができたため、試験当日は落ち着いて取り組むことができました。

②合格した時の気持ち

努力が報われた喜びと、これから始まる新たな挑戦への期待感、特に、家族や友人の支えがあったからこそ、合格できたとの感謝の気持ちでいっぱいでした。また、自分の目標に向かって一歩前進できたことに対する達成感も大きく、今後の学びやキャリアに対するモチベーションがさらに高まりました。

振り返ってみて合格の決め手は？それに、当該講座はどの程度影響したのか

①合格の決め手

合格の決め手は、計画的な学習と、アガルートアカデミーの充実したカリキュラムでした。特に、講義動画やテキストを繰り返し復習することで、知識の定着を図ることができました。また、出願書類や小論文の添削、模擬面接を通じて、自分の弱点を客観的な視点から分析できたことで弱みの補強につながり、自信を持って試験に臨むことができたことも大きな要因です。

②講座の影響度

アガルートアカデミーの講座がなければ、合格もなかったと思えるぐらい、影響度は大きいです。特に、講義動画やテキストの内容が非常に充実しており、効率的に学習を進めることができました。また、熱心な講師陣の皆様によるサポートやアドバイスが非常に役立ち、学習の質を高めることができました。

卒業後のキャリアについて

①MBAに期待するもの

MBAに期待するものは、経営に関する高度な知識とスキルの習得です。特に、戦略的な意思決定やリーダーシップの強化を通じて、自社の経営幹部としての役割を果たすため

の準備をしたいと考えています。また、同じ志を持つ仲間とのネットワーク構築にも期待しています。

②今後のキャリアビジョン

今後のキャリアビジョンは、自社の経営幹部として新規事業開発を推進し、地域創生に貢献することです。特に、素材産業の競争力強化を通じて、地方の産業振興や雇用創出に寄与したいと考えています。また、グローバルな視点を持ち、国際的なビジネス展開にも積極的に取り組みたいです。

【推薦書について】

①提出されましたか？

提出していない

受験生に対するメッセージ

MBA受験は大変な挑戦ですが、計画的に準備を進めることで必ず道は開けます。まず、自分の目標を明確にし、それに向けた具体的な計画を立てられることをお勧めします。数ある予備校の中でも、アガルートアカデミーの講座は非常に充実しており、講師の皆様も非常に熱意をもって懇切丁寧に指導頂けることがとても心強かったです。最後に、自信をもってリラックスした状態で試験に臨んで頂ければと思います。皆様のご健闘を心より祈念しております。頑張ってください！

2025年4月入学目標

国内MBA試験合格

経験豊富な講師のサポートで合格できる 質に仕上げた

能任 秀一 さん

30代後半

社会人

2025年4月入学目標 / 国内MBA / 秋入試対策カリキュラム / フル

進 学 先：中央大学大学院 戦略経営研究科

合格体験記

MBAを目指したきっかけ

私のこれまでのキャリアでは事業単位でのプロジェクトをメインに担当していたことから、現在勤めているような大企業で全社横断プロジェクトの現場責任者という立場でプロジェクトを推進していく中で、論点を整理して問題を解決していく能力、役員クラスへ承認を得るための戦略立案等、自身のスキル不足を日々痛感しました。現在は論理思考等について学習を進めると共に、上司のサポートを受けながらプロジェクトをなんとか推進しているものの、独学で身につけた浅薄な知識と実務を通じた経験のみでは、サービスへ主力事業へ成長させることは困難だと考えています。私の上席の方々もMBAを取得しており、同じような視座で会話しプロジェクトを進行していくために、「経営戦略」「財務・会計」「組織・人材」などの経営知識全般、あるいはそういった視点で考える訓練を積み当社の法人事業拡大に貢献できる人材になるため、MBAへの進学がベストな選択肢だと考え、MBAを目指すことにしました。

アガルートアカデミーをお選びいただいた理由

3年ほど前にアガルトを受講しており、質の良さについては既に理解していました。その際は結果的にMBAへの受験を見送りましたが、改めてMBAを目指す際、リピート割引もあり、改めてアガルトの受講を決めました。特に他のサービスについては調査もしていません。そのほか、YouTubeやブログ記事などで情報収集している中で、アガルトが積極的に情報発信をしていることも大きな決め手となりました。また合格者の体験記を数多く発信している点も良かったと感じております。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

①勉強の方針

事前課題（志望動機等）について集中的に学習を進めました。そのほかはアガルートが推奨している経営学の本は何冊か読んだものの、自分の考えの整理と志望しているビジネススクールの調査と体験入学に大半の時間を費やしました。

②研究計画書のテーマ設定までの流れ

私が志望したビジネススクールは、研究計画書について事前の提出は不要となっていたことから、研究については受験のタイミングではほとんど考えていません。なぜMBAを志望しているのかなど、自分の考えを整理することに時間を費やしました。

③勉強のスケジュール

4月 事前課題の準備（なぜMBAに行きたいのか、自問自答）

5月 事前課題の準備（なぜMBAに行きたいのか、自問自答）

6月 ビジネススクールの調査開始

6月 上司や先輩にMBAへ行く価値などについてヒアリング開始、MBAへの志望について、上司が通ったMBAの特徴などをヒアリング

7月～8月 事前課題の作成

9月～10月 ビジネススクールの体験、事前課題の仕上げ

11月 受験、なぜMBAに行きたいのか自問自答の時間に費やした

受講された講座の良さ、当該講座の学習方法

▼国内 MBA 入試攻略講座

結果的に志望動機の課題と志望するビジネススクールの対策講義しか利用しませんでした。要望に合わせて、講師を変更いただき、全体的には満足度が高かったと感じています。

▼経営学の基礎講座

基礎講座は利用しませんでした。基礎的な要素が強かったため、特に不要と考えたことと、経営学の本を読み込むことや事前課題についての完成度を高めることの方が重要だと考え、基礎講座については優先度が下がりました。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座

非常に役に立ちました。初めは何をどのように書けば良いか分からなかったため、出願書類の考え方や対策について整理ができ、また合格者の事例集や感想も充実していたため、非常に試験に役に立ったと感じております。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座 添削利用回数

5回

▼面接対策講座

模擬面接はしておいてよかったと感じております。アドバイスいただいた「自然体」で臨むことが大切ということは、自分にとって非常に大きな意味を持つアドバイスとなり、当日自信を持って良い緊張感で自然体で臨むことができました。

▼各種フォロー制度について（初回添削フィードバック、受験校相談、マンスリーゼミ、質問制度等）

質問制度がとても便利でした。比較的すぐに返信が返って来ること、少し複雑な質問に対しては電話でフォローアップしていただけることで、大きな障害なく試験の準備を進められたと感じております。ぜひ積極的に活用することおすすめします。

スランプ・挫折、それを乗り越えるための工夫

最初に受けたABSが不合格だった時は非常に落ち込みましたが、ビジネススクールの受験は始まったばかりだということで、切り替えて受験に対して準備を進めました。そのことが一番のスランプとなり、不安な気持ちが高まりましたが、次のチャンスに向けて準備を進めることが大切だと自分に言い聞かせ、気持ちを切り替えて試験の準備を開始しました。不安な気持ちをどのようにコントロールするか、息抜きも含めて難しい時期を乗り越えたことは大きかったです。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

業務開始前、朝8時前には出勤し、会議室で毎朝時間を確保しました。夜だと残業等で時間が取れなくなることが多いので、基本的に朝学習する時間を確保するようにしました。朝であればほぼ確実に時間が取れるということ、たまに疲れていたらすキップすることはありましたが、受験の準備期間はほぼ毎日1時間程度は時間を確保することができたと思います。ただ私の志望校は研究計画書などは重要視していなかったため、他の受講生と比較すると比較的楽な方だったと思います。

直前期の過ごし方

特別なことは何もしておりません。MBAを志望する動機、なぜそのビジネススクールに行きたいのか、それらの自分の考えを整理する時間に費やしました。変に情報を詰め込んでも混乱するだけだと考えましたので、自分の考えを整理することを中心に、何か学びたい時はこれまで学習した内容を1度振り返るという程度に留めました。特別なことは何もせず、自問自答を繰り返し、自分の気持ちと向き合うことを大切にして試験に向けて準備を進めました。

試験期間中の過ごし方

とにかく体調を崩さないことを第一に考えていました。睡眠、マスク等の体調管理を心がけて日々を過ごしました。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

①受験した時の手ごたえ

6割程度は雑談だったので、これは合格したのかなという感覚はある一方、逆に不安になりました。ただ最初のMBAへの志望理由やビジネススクールの志望についてはしっかりと答えられていたので、多分合格だろうという感覚はありました。

②合格した時の気持ち

とにかく安心したという気持ちと、来年から始まる日々に向けて本格的に準備、予習をしておかなければという気が引き締まる思いでした。合格してから数日はリラックスし、その後、気持ちを切り替えて来年の授業に向けて予習を開始しています。

振り返ってみて合格の決め手は？それに、当該講座はどの程度影響したのか

①合格の決め手

面談での自然体での回答が決め手だったと思います。しっかりと自分の言葉で自分の思いをいかに伝えることができるのが、重要だと思います。当たり前のことだと思いますが、これがなかなか難しく、自分の気持ちを常にコントロールできるスキルが必要だと感じました。

②講座の影響度

講座の影響は大きいです。特に志望動機などの事前課題で、アガルート講座の支援があれば合格できる質に仕上げることは難しかったと感じております。国内MBAも人気が出てきており倍率が上がっている中、経験豊富な講師からのサポートは非常に貴重だと感じました。

卒業後のキャリアについて

①MBAに期待するもの

「経営戦略」「財務・会計」「組織・人材」などの経営知識全般、あるいはそういった視点で考える訓練を積むことができる環境、切磋琢磨できる、そして実践に活用できるスキルの取得、MBA受講生のネットワークです。

②今後のキャリアビジョン

戦略策定力を活かして全社横断プロジェクトの推進を加速させると共に、自社の法人事業の中長期経営ビジョンをまとめ、戦略を現場に浸透させながら自らの主体性を引き出し、法人事業を自社の主力事業へと発展させたいです。その後、海外へもチャレンジしたいです。

【推薦書について】

①提出されましたか？

提出した

②どなたに推薦書をご依頼しましたか？

上司

受験生に対するメッセージ

国内ビジネススクールは人気が出ており、倍率も高くなっている傾向がございます。その中でいかに志望校の合格を勝ち取るのか、非常に大変なことだと思いますが、ぜひ前向きに物事を考えて合格を勝ち取っていただければと思います。私自身はやはりなぜMBAへ進学したいのか、原点的なところの深掘りが全てと言えるほど重要だと感じております。なぜ中小企業診断士ではダメなのか、そういう質問にスラスラ自分の回答をしっかりと述べるができるよう自分の考えを整理することをぜひしてみてください。

2025年4月入学目標

国内MBA試験合格

早くから講座を聴き専門用語を引き出せる状態に

櫻井 千菜実 さん

30代前半

社会人

2025年4月入学目標 / 国内MBA / 秋入試対策カリキュラム / ライト＋アドバンス講座付オプション

進 学 先：早稲田大学 経営管理研究科全日制グローバル

合格体験記

MBAを目指したきっかけ

親族が経営する事業の承継が決まり、自身に経営経験がない中で、今後自分が主軸となり周囲を巻き込んだ事業推進を行うことや、今後事業経営に対する正しい意思決定判断を自らが行っていく必要性を鑑み、経営学やそれに関する知識を幅広く体系的に学びたいと考えたことがきっかけです。また、承継期間が数年であり短いことから、インプットとアウトプットのバランスが取れたカリキュラム設定を行っているMBAに入学したいと考えました。

アガルートアカデミーをお選びいただいた理由

飯野講師の「経営学の基礎講座」の動画授業に定評があり、元から興味があったため。また完全オンラインサポート体制のため、動画視聴を時間や場所を問わずに進められることや、管理されすぎず放任すぎずマイペースに進められるところが自分のライフスタイルにあっていると感じたからです。また、研究計画書類の添削から模擬面接対策まで幅広く支援してもらえる体制は非常に魅力的でしたし、実績のある教師陣でしたので、聞いていて非常にためになる情報や意見をいただけたのが安心でした。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

①勉強の方針

まずはお勧めされた通りに、経営学の基礎講座を3周以上聞いて、一通り経営学知識を頭に入れ込むことで、ある程度広かった知識量の中から興味のある領域を定めた上で研究計画書テーマを設定するスケジュールを組みました。平日は通勤時間も含め約2-3時間、

休日は5時間以上基礎講座の視聴の時間を確保し、ポイントをノートに書き込みながら、繰り返し学習を進めました。

②研究計画書のテーマ設定までの流れ

「経営学の基礎講座」から、自分が将来的に身につけるべき領域に着目しテーマ設定を行いました。しかし、1回目のテーマ設定完了時点で国会図書館へ文献を探しにいくと、隅々まで調査分析がされており、自分が研究計画書内で仮説設定できる内容を見つけることができませんでした。その後、再度「経営学の基礎講座」以外の経営学の著書を読み更に現職の業務と関連するテーマを探すことで、やっとの思いでテーマ設定にこぎつけることができました。私は約2ヶ月程度テーマ設定に時間が掛かりました。

③勉強のスケジュール

- 12月 アガルートの受講相談を受け、受講を決める。
- 1月 「経営学の基礎講座」動画視聴開始。
- 2月 「経営学の基礎講座」を通勤、隙間時間で視聴。
- 3月 「経営学の基礎講座」を通勤、隙間時間で視聴。
- 4月 「経営学の基礎講座」を通勤、隙間時間で視聴。
- 5月 「経営学の基礎講座」「小論文対策講座」「研究計画書の書き方講座」「研究テーマライブラリー」などを視聴。国会図書館を初めて訪れる。
- 6月 「経営学の基礎講座」「小論文対策講座」「研究計画書の書き方講座」「研究テーマライブラリー」などを視聴。国会図書館にて先行研究探し。計画書作成。
- 7月 早稲田大学MBAの入試説明会に参加。研究計画書の添削を早めにしてもらったほうが良いとのアドバイスを受け、作成した計画書をアガルートへ添削依頼。
- 8月 国会図書館にて先行研究探し。計画書作成、添削・修正を3回実施。
隙間時間などで動画視聴は継続。
- 9月 研究計画書作成・添削を2回実施。最終的にご担当者からOKが出る。
隙間時間などで動画視聴は継続。
- 10月 フリーランスの面接官による模擬面接を実施。
「面接対策講座」を視聴。知り合い等にも模擬面接を依頼し実施。
- 11月 二次試験に向けてアガルートのテキストに沿って準備をしつつ、模擬面接実施。
- 12月 秋入試で合格。

受講された講座の良さ、当該講座の学習方法

▼国内 MBA 入試攻略講座

自分が学びたい学習内容や方向性、学び方のスタイルを鑑みて、志望校の選び方や入試スケジュール、面接での注意等役立つ内容を多く学ぶことができました。アガルートに契約して安心するのではなく、ここから自分の学びにどう活かしていくかを考えることができました。

▼経営学の基礎講座

通勤の約1.5時間で最大限に動画視聴を活用しました。最初の頃は聞いた内容を全てノートに書き留めていましたが、メモを取ることに集中しすぎないように、途中から聞き流しメインとしながら、自分の中で理解した内容をノートに書き留めるようにしました。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座

出願書類作成を開始してからは、何度もこちらの教科書を拝読しました。志望校の過去の合格者の例が細かく掲載されていることが非常に役立ち、面接直前まで自分の書類と照らし合わせることで、文の長さや内容の正確性を確かめました。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座 添削利用回数

5回

▼研究計画書の研究テーマライブラリー

研究計画書のテーマが中々決定しなかったため、こちらのライブラリーを何度も読みながら、気になるワードが出てきたら別の著書等で調べたりして内容理解を深掘りしていきしました。こちらの講座の中で飯野さんが「周囲の人と被らないテーマ」について話しており、テーマ設定の参考にしました。

▼面接対策講座

面接対策の基本的な知識から、志望校毎の対策内容について理解を深めるために活用しました。こちらは何度も視聴することはなく、一通り流し聞きすることで内容が頭に入ってきたので、志望校に関する細かい注意点を頭に入れば良いと思います。

▼各種フォロー制度について（初回添削フィードバック、受験校相談、マンスリーゼミ、質問制度等）

マンスリーゼミは極力参加するようにしました。質問制度はなかなか活用できませんでした。初回添削フィードバックは、私の場合内容が固まらないまま臨んでしまいましたが、内容をある程度語れるようになってから受講するのが良いと思いました。

スランプ・挫折、それを乗り越えるための工夫

計画としては、動画視聴を3ヶ月程度で5周程度行い内容を頭に入れた後に研究計画書テーマを決めていくスケジュールでしたが、いざ研究計画書の内容決定にあたり国会図書館で興味のあるテーマを探し始めても中々テーマ設定ができない状態が2ヶ月程度続きました。しかし、一度立ち止まり、自分の興味の幅を更に広げるべく「経営学の基礎講座」と並行して経営学の一般著書を読み進めることで、既存テーマからさらに深掘りができて、より具体的に納得感のあるテーマ設定が行えました。立ち止まった時に、別の方向からインプットを進めることが効果的だと感じています。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

平日は通勤の1.5時間と帰宅後1.5時間を学習に当てるよう意識し、土日は5時間以上を研究計画書の作成や知識のインプットに使うことを心がけました。通勤時間が長かったため、動画視聴に費やす時間を有効に使えたと思っています。特に私は土曜日も仕事のある日があったため、周囲との差を埋めるべく、通勤時間は徹底して動画をインプットすることを心がけました。また、研究計画書を書き始めてからは、自分の意見やサマリーが客観的に伝わりやすいか、意図が汲みとれるか等を頻繁に仲間に確認するなどして、自分の研究したいことと表現のずれのないように慎重に進めていきました。

直前期の過ごし方

出願書類の作成時期に限定した内容になります。まず、なるべく余裕を持って出願先に研究計画書を提出できるよう、何回添削官へ提出できるか見積もりました。私の場合は、初回の添削時は全く内容に自信のないまま提出し添削フィードバックを迎えたので、そこからの巻き返しが必要となると考え最低5回の添削官への提出を見込みました。初回提出日が7月末であった焦りもあり、添削官からのフィードバック日に即修正しながら、且つ納得できる仕上がりを目指すために夜な夜な追い込む日もありましたが、無事5回の添削を終え、添削官に褒めていただく仕上がりで出願期を迎えることができました。

試験期間中の過ごし方

出願書類の結果が気になってしまい、出願後からすぐに2次試験対策へ切り替えるのが難しかったのですが、出願後1ヶ月程度で面接の想定問答を作成しながら、10月末頃から面接練習に入っていき、自分の伝えたいことをマインドマップを活用して整理をしました。そして面接1週間前ごろから一気に回答練習をして体に染みつけていったのですが、かなり追い込み型だったと思います。マインドマップでの整理からサマリーを行うまでには、模擬面接官や同僚の意見なども聞いて慎重に行いました。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

①受験した時の手ごたえ

面接は終始落ち着いた雰囲気だったことと、私自身質問に対する回答内容に困る場面はなかったため、スムーズに進んだと思いました。また、面接官の反応としても、相槌を多く打ってくださり納得されている実感がありました。

②合格した時の気持ち

他校は受験しておらず、WBSに一点集中でしたので、本命を勝ち取れた嬉しさは本当に大きかったです。合格発表までの期間は落ち着いて待つことができないほどそわそわし不安に感じる日々でしたが、とにかく面接日当日まで自分がやりきったことを褒めてあげて、どんと構えて待つことが大事だと思いました。

振り返ってみて合格の決め手は？それに、当該講座はどの程度影響したのか

①合格の決め手

提出書類の内容に関して、質問1～3の一貫性は大事だと思います。内容を書き上げる上で、経歴と現職の繋がり、現職からMBAを通じキャリアゴールを目指す上で、なぜこの研究テーマを選択したのか、というところを最も意識しました。また面接までの追い込みも、一次試験の合格発表を待ちながら、10月前半から想定問答を作成していき、最終的には自然と口から回答が出てくるように自分の言葉で語れるようになったことも決め手かと思っています。

②講座の影響度

選考ステップで直接的に経営学の知識を問われることはありませんでしたが、基礎的な知識があるからこそ語れる自社の強みやポジショニング、経営課題等があると思いますので、結果的には面接にもかなり役立ったと思います。専門用語を正しく理解し、そこから自社の事業に落とし込むには時間もかかると思いますので、早くから「経営学の基礎講座」を聴き進めて用語を引き出せる状態にしておくことが大事だと感じました。

卒業後のキャリアについて

①MBAに期待するもの

①キャリアゴールに向け事業を推進していく上で必要となるマーケティング、会計などといった経営全般に関する体系的知識。

②事業承継予定者、起業家、社会課題に向き合う変革者といった同志との繋がりを活かした自己成長の機会。

②今後のキャリアビジョン

①業界内の競争が激しくなる中で、生き残るための経営戦略を学び、事業を永続的に承継していくこと。

②アパレル業界の原動力となる人材輩出を促進し、日本の産業発展に広く貢献すること。
短期的には、自社の経営課題の解決に努めていきながら、中長期的には自社を飛び越えた、業界全体としての課題を捕まえてアプローチしていきたい。

【推薦書について】

①提出されましたか？

提出した

②どなたに推薦書をご依頼しましたか？

事業承継先の現経営者に依頼した

受験生に対するメッセージ

私は、初回の研究計画書の添削を7月の後半に開始させたためかなり遅いスタートとなりましたが、添削を5回行っていたいただいたお陰で、何とか自他共に納得できる内容に改善したと思っています。皆さんも、研究計画書の添削は早めに開始し、並行して経営学講座

の視聴を行うことが余裕を持って学習を進めるためのコツだと思いますので、早め早めの着手を心がけてください。全てに締め切りがあるものなので、一度やると決めたら気合を入れてやり切ることも大事です！

2025年4月入学目標

国内MBA試験合格

何を学び、何を得たいのかを考えさせられる講義内容

糸山 陽介 さん

40代後半

社会人

2025年4月入学目標 / 国内MBA / 秋入試対策カリキュラム / ライト + アドバンス講座付オプション

進 学 先: 立教大学大学院 ビジネスデザイン研究科

合格体験記

MBA を目指したきっかけ

- ・ 最終目標

現職の社内の問題点解決策を事業収益化し役員を目指す。

- ・ 経緯

社内で問題になっていたエンジニアの高齢化とCSM機能の欠如を補うためエンジニアのサポート対応を補完する「AI チャットボット」の活用とジョブ型による高年収帯「CSMメンバー」を雇用することを執行役員に付議しました。しかしながら受理されず結果的に「顧客離れ」が起きてしまっています。私が役員を説得できない理由をよくよく考察し「経営視点」の不足が原因という結論に至りました。今回の事案をきっかけに経営学を学び、自社の問題点解決策を新規事業化し収益を上げ、今の役員の後任を目指したいと思ったことがMBAを学ぶきっかけとなりました。

アガルートアカデミーをお選びいただいた理由

オンライン授業で動画コンテンツも充実しており、最新の大学院情報が集まっている最も効率的な学校であると判断したためです。

また、人気校の実情や逆にそこから見る狙い目の大学院も見えてくるので受験の戦略を考えるのにも非常に役に立ちました。結果的に一番無駄がない受験対策をできたので感謝しています。

また、経営学以外にもTOEICやマーケティング基礎、問題解決スキル、ロジカルシンキングなど付録もついており、空き時間に勉強をすることも可能です。MBAを目指す方ならピンポイントで興味のある内容だと思います。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

①勉強の方針

まずはどこの大学院を受けるかを決めました。私の年齢、就労先、ポジションから現実的に合格しそうな大学院を絞り込みました。その後大学院の授業内容を確認しアカデミックな授業内容なのか実践向きの授業なのかも判断したうえで1校に絞りました。

逆算の対策はアガルートだと組みやすいので3〜4か月もあれば受験の準備は完了します。

②研究計画書のテーマ設定までの流れ

私の場合は立教大学なので研究計画書はありませんでしたが、設定はしておりました。私の研究テーマは就職の問題解決策の事業収益化です。今の会社の問題点をどのように解決するか、またそのために社内の上層部をどう説得すれば巻き込むことができるかがきっかけだったので、さほどテーマには困りませんでした。

③勉強のスケジュール

2023年10月 アガルートのWeb面談で受講相談申し込み

2024年01〜03月 MBA受験に関する整理 何を勉強するか何を必要としているか自分なりにまとめ

2024年04月 アガルート申し込み

2024年05月 受験大学院絞り込み（飯野先生のホームルーム）＆経営学の基礎講座動画とテキストの勉強を始める

2024年07月中盤 志望理由書と課題エッセイの作成開始

2024年08月 立教大学大学院ビジネスデザイン研究科申し込み

2024年09月 試験（面接）

同月 合格

受講された講座の良さ、当該講座の学習方法

▼国内 MBA 入試攻略講座

MBAの入試が体系化されているので、受験対策と受験すべき大学院の絞り込みが非常にしやすかったです。

はじめは折角アガルートを受講しているならば難関校も受けてみようと思っていましたが、物理的に通えるのかどうか、また何を学び、何を得たいのかも考えさせられる講義内容で、私はチャレンジよりも目的を重視する結論に至りました。MBAを学ぶことへの根本を考えさせられる内容なので、本質をとらえた講座内容になっていると思います。

▼経営学の基礎講座

基本的な経営学をわかりやすく説明していただけています。聞いたことのある経営学の話も中身がよくわかっていませんでしたが、成り立ちや事例を交えて説明をしてくださるので理解しやすかったです。大学院入学前の2月くらいまで動画は見られるので、入学前

にすべてマスターしておこうと思います。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座

添削は1校につき何度でもしてくださるので非常に助かりました。私は1校で4回ほど利用させていただきましたが、難関校を受験される方に相応しいサービス内容だと思います。

また、合格者のノウハウが詰まっていますので文面を作成する際のアドバイスが非常に的確でわかりやすいです。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座 添削利用回数

4回

▼研究計画書の研究テーマライブラリー

研究計画書に関しては今回の受験先にはなかったので割愛しました。

受講当初は難関校も視野に入れていたため受講を試みましたが、授業内で合格者のリアルを教えてくださいましたので、無駄な時間を省くことができました。

▼面接対策講座

面接対策は経験者が対応してくださるので参考になりました。

一番私が困っていたのは面接での「質問内容」でした。下手に変な質問をして、心象を悪くしたくなかったので面接対策講座で事前にお聞きし、対策が練れたのは大きかったです。

▼各種フォロー制度について（初回添削フィードバック、受験校相談、マンスリーゼミ、質問制度等）

初回添削フィードバックは、添削内容もさることながら、実際の面接時の「私からの質問」で何を聞くか困っていたのでその点が非常に助かりました。また、マンスリーゼミは非常に有効だと思います。何よりも大学院ごと（特に人気校）の最新の傾向値を別途共有していただけるのは受験生にとっては非常にありがたいサービスだと思います。

スランプ・挫折、それを乗り越えるための工夫

スランプは特にありませんでしたが、何の取り組みでも気分転換が必要だと思います。気分転換でお勧めなのは普段は経験したことないこともしくはあまりやらないことです。

例えば、バンジージャンプ、山登り、知らない道を散歩とかすると気分がすっきりします。あと、手軽に気分転換できるのは料理です。料理はスーパーでの買い物から始まりますが、近場で買うのではなく行ったことないスーパーで買ったことのない食材を買い、作ったことのない料理を作るとなぜか気分がリフレッシュします。お試しください。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

終業後、在宅の時は夕飯と休憩を兼ねて21時くらいまで休み、そこから2Hくらいは動

画で勉強をしていました。出社時は帰って22時くらいから1Hくらい勉強していました。

経営学の基礎講座動画を見るときは、いきなり全部を学ぼうとせず、研究テーマや課題エッセイに書こうとしている内容の「ネタ」になりそうな部分をあらかじめテキストでマークしていたほうが効率的です。

面接で聞かれそうな内容は志望理由と研究テーマになってくるので、そこに関係する経営学を中心に勉強し、時間があれば予備知識として他も見るといいと思います。

直前期の過ごし方

自身がMBAを受けるきっかけとなった理由と、何を学び、何を得たく、将来どうしたいのかを自問自答を繰り返していきました。

その内容を面接等のイメージに当てはめて、説明に必要な経営学知識や場合によってはマーケティング知識も必要になるので、都度調べて覚えていきました。

前日は当日に十分なパフォーマンスが発揮できるよう8時間は寝て、翌朝自分なりにまとめた面接対策の文面を読み返して、あとは脳が良く回るように散歩とかしていました。

試験期間中の過ごし方

すべて当たり前の話となり恐縮ですが以下気を付けていた内容です。

まず健康第一で風邪やはやり病にかからないように人込みは避けました。また勉強に集中したり考え事が増えると周りを見ずに道路に出たりもしてしまうので、事故にも合わないよう細心の注意をしながら過ごしていました。あとお酒の誘いも社会人だと多いと思いますが、何が何でもうまく断る必要があります。当たり前の話ですが本領が発揮できないですし、二日酔いはすぐにばれるので心象よくないです。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

①受験した時の手ごたえ

手ごたえがあった瞬間はいくつかありました。

①志望理由に具体的なカリキュラムを言えた瞬間

②研究テーマとして具体的で経験を元にしたリアリティがある話をした瞬間

③学ぶ意思が強く向上心が強いと思ってもらった瞬間（図書館の利用時間を聞いた時）

②合格した時の気持ち

今までMBA取得は他人事のように感じていたが、軽い気持ちで受けてみようかから始まり、いざ自分がその学び舎に入れると現実になったときは、久々に高揚感に湧きました。また、学びが大事とは言えやはり肩書きも見栄えが良くなる点も非常にうれしいなとも思いました。

振り返ってみて合格の決め手は？それに、当該講座はどの程度影響したのか

①合格の決め手

この3点が決め手だったと思います。

- ①志望理由に具体的なカリキュラムを言えたこと
 - ②研究テーマが具体的に経験を元にしたリアリティがある話をしたこと
 - ③学ぶ意思が強く向上心が強いと思ってもらったこと（図書館の利用時間を聞いた時）
- ②講座の影響度

全国の大学院を総合して見比べることができる点はすごいと思います。また、大学院ごとの対策が体系化されており、最新の情報も常に収集し共有してくださっているので、各大学院の面接試験の「粒度」が分かる点が何よりも大きかったです。

卒業後のキャリアについて

- ① MBA に期待するもの

経営者の考え方、もしくは経営視点の考え方を身につけることで、現職のビジネスに役立てていくことができればと思います。

また、やはりMBA取得者は意識が高いので数珠つなぎ的に人脈が増やせたらいいなとも考えております。

- ②今後のキャリアビジョン

まずは現職の問題解決策に着手し、これを事業化するための説得材料の見せ方をMBAから学び経営陣を巻き込んでいきたいと思っています。

了承後は社内でも実験的に動かしてみ、うまくいけば事業化し同業他社への売り込みを始めていきます。

【推薦書について】

- ①提出されましたか？

提出していない

受験生に対するメッセージ

大学院受験予備校としてここまで体系化された学校はないと思います。他校よりも値段は高いようですがそれだけの内容が詰まっています。

今後の人生を実りあるものにするためにも、特に若い方には重要な局面になってくるといいますので後悔が無いようにするためにも中身と実績でアガルトを選ばれているのだと思います。

飯野先生の授業とカリキュラムを信じ、一つ一つこなしていけば必ず合格すると思います。最後まで諦めず頑張ってください。

2025年4月入学目標

国内MBA試験合格

何度も講座を見直し願書や計画書の修正に役立てた

趙 国宸 さん

30代後半

社会人

2025年4月入学目標 / 国内MBA / 秋入試対策カリキュラム / ライト＋アドバンス講座付オプション

進 学 先：筑波大学 国際経営プロフェッショナル専攻
他の合格先：青山学院大学大学院 国際マネジメント研究科

合格体験記

MBA を目指したきっかけ

私のキャリアゴールは、多国籍企業の地域型IT責任者に成長し、その地域の現地法人において本社との技術的なギャップを埋め、効果的なシステム導入・運用を通じて、デジタルトランスフォーメーション（DX）を実現し、企業の成長をリードすることです。

現在、特に日本における中小規模の欧米系企業では、本社の先進的なシステムが現地で導入・活用されにくいという課題があります。海外に進出している日本企業も同様の課題に直面しています。これに対して、私は本社と現地企業の架け橋となり、異文化とITのバックグラウンドを生かし、地域型のIT責任者になりたいです。その中で、ビジネス・人・テックの三者をマネジメントするために必要な経営スキルやリーダーシップをさらに高める必要があると感じています。

アガルトアカデミーをお選びいただいた理由

1. YouTube飯野先生のビデオをきっかけにアガルトを知り、MBAの学校選定から書類準備・面接準備までできて安心できるからです。
2. YouTubeで過去の利用者の合格インタビューを見てとても役に立ったことも、アガルトを選んだ理由のひとつです。
3. 受講や添削などすべてアガルトのプラットフォームで完結できることも大事な理由です。いちいちメールのやり取りや通学など不要なこともとても便利と感じています。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

①勉強の方針

1. 経営学の基礎講座のテキストと動画を最初から最後まで受講しました。
2. 飯野先生がYouTubeにアップした主要のMBA校の紹介を参考にしながら、自分のキャリアゴールに合わせ、志望校を絞りました。
3. 志望校、願書や面接の内容に合わせて、勉強しました。

②研究計画書のテーマ設定までの流れ

志望校について、すべて研究計画書が必要ではありませんが、極力一貫性をもって研究計画あるいはBusiness Projectのテーマを設定しました。

1. アガルートの過去の研究計画書を確認し、自分のキャリアと興味に合う内容を探ってみました。
2. 自分の仕事の内容を振り返って、研究あるいは推進すべき内容を探ってみました。
3. いくつかのテーマを書き出して、論文や関連の本を図書館で探してみました。
4. 自分のキャリアと興味にあうテーマを最終的に絞って設定しました。

③勉強のスケジュール

- 3月 アガルートのYouTubeを通じて、アガルートを知り、国内MBAの準備の仕方や志望校など調べる。
- 4～5月 図書館でMBA関連の本を読んで、他の予備校も調査。TOEICを受験。
- 6月 アガルートの受講相談を受け、受講を決める。
- 7月 「経営学の基礎講座」「研究計画書の書き方講座」「研究テーマライブラリー」などを視聴。
- 8月 図書館にて先行研究研探し。計画書、願書作成。
隙間時間などで動画視聴は継続。
- 9月 研究計画書作成・添削依頼。
隙間時間などで動画視聴は継続。
- 10月 「面接対策講座」を視聴。二次試験に向けてアガルートのテキストに沿って準備。
- 11月 志望校の1校目面接。2校目のため、模擬面接実施。

受講された講座の良さ、当該講座の学習方法

▼国内 MBA 入試攻略講座

1. 国内MBAの入試準備のために、入試攻略講座はとても分かりやすく、俯瞰できるようになった気がします。
2. 経営学の基礎講座を受ける際にも、願書を書く際にも何度も入試攻略講座を聞きおきました。全体像を掴むには有意義な講座だと思います。

▼経営学の基礎講座

1. 飯野先生のビデオでも強調しましたが、それぞれ分野の専門家ではありませんが、

経営学の様々な分野を横断的にカバーできている講座です。

2. テキストと合わせて、ビデオや音声の講座もあり利用するにはとても便利でした。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座

1. それぞれの学校に対して、実例を挙げながら、ご説明いただきとても分かりやすかったです。
2. 自分の志望校を絞って、それぞれの願書や計画書を書きながら、何度も講座を見直しました。願書や計画書の修正などにも役立ちます。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座 添削利用回数

6回

▼研究計画書の研究テーマライブラリー

すべての学校で研究計画書が必要ではありませんが、研究計画書が必要な志望校に絞らず、研究テーマライブラリーを一読してみました。さらに、自分の志望校を絞って、どの傾向で記載するか勉強になりました。

▼面接対策講座

1. それぞれの学校に対して、面接対策を紹介していただき、本当に役に立ちました。
2. 自分の志望校を絞って、面接対策の講座を見直しました。更に、面接対策の実例を活用して、面接に出る可能性のある質問を準備し練習しました。

▼各種フォロー制度について（初回添削フィードバック、受験校相談、マンスリーゼミ、質問制度等）

研究計画書の添削について、2校で依頼しました。それぞれ何度も修正して、提出しました。色々指摘・整理していただき、本当に役に立ちました。

また、模擬面接を一度利用し、面接の講師からアドバイスをいただき本番の面接の自信に繋がりました。

スランプ・挫折、それを乗り越えるための工夫

最初から筑波大学と早稲田大学に絞って準備し、筑波大学のほうは順調に1次合格できましたが、早稲田の1次は落ちました。筑波の2次も必ず合格できる自信がなかったため、自分の選択肢を増やすよう、再度早稲田に挑戦するか別の大学を検討するか調べなおしています。入試攻略講座を再度見直して、青山学院も自分の志望にとっても合うことに気づきました。

それ以降、青山学院の願書など準備し、面接の準備を進めました。アガルトの体系的な講座のおかげで、早く方向転換ができました。最終も無事に合格できました。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

1. 筑波大学の国際経営プロフェッショナル専攻を志望するため、3月～5月の間は週

- 末など3～4時間を利用し、過去問を中心にTOEICの受験を準備しました。
2. 6月～8月には通勤時間などを利用し、一日平均2時間ぐらい、講座を受けました。
 3. 9月～10月には一日平均1時間ぐらい、面接講座を受けました。
 4. 11月には模擬面接など面接を中心に準備しました。
- 家族もいるため、夜遅い時間で1～2時間を確保しました。

直前期の過ごし方

1. 提出した願書や研究計画書の内容を忘れないように、面接の準備中に繰り返して読みました。
2. 準備した面接の質問とその答えを確認し、思いついた質問や回答内容を修正しました。
3. 志望校のパンフレットなど公表された情報を何度も読んで、志望校それぞれの強みに合わせて、自分が志望する理由を整理しました。
4. 体調を崩さないように、できる限り在宅勤務に調整しました。出社の場合、マスクを着け、ラッシュの時間帯を避けました。

試験期間中の過ごし方

1. 筑波大学の場合、朝一番のため、20分ほど早めに試験場に到着し、準備した面接の内容を最初から最後まで目を通しました。面接は2部でしたが、1部は準備した内容でカバーできたので、自信を持って回答できましたが、後半の部については、想像した内容と離れていたため、緊張しながら回答しました。
2. 青山学院の場合、午後2時53分の面接でしたが、予定より10分ほど遅れました。待機部屋に入ってから、面接の内容など目を通した後にまだ呼ばれなかったため、目をつぶって、休憩しながら待ちました。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

①受験した時の手ごたえ

1. 筑波大学の場合、面接後に前半の質問は手ごたえがありましたが、後半の部分は自分が納得できる回答ができなかったため、とても不安でした。特に筑波大学は面接(50PT)、書類(150PT)と点数が明確に決まっているので、書類選考で皆が近い場合、面接で落ちる可能性が高いなどずっと不安でした。
2. 青山学院の場合、模擬面接に近いし、終始穏やかに進んだため、手ごたえがありました。

②合格した時の気持ち

1. 筑波大学の場合、面接してから、合格発表まで1ヶ月近くあるため、合格した時にとても喜んでいました。
2. 青山学院の場合、手ごたえがありましたが、倍率がかなり高いと事前に聞いたため、合格した時も本当に喜んでいました。

振り返ってみて合格の決め手は？それに、当該講座はどの程度影響したのか

①合格の決め手

1. 筑波大学の場合、事前に英語とBusiness Projectの準備は合格の決め手だと思います。研究計画書の講座を受け、相応しいBusiness Projectを書けたと思いました。
2. 青山学院の場合、志願書類と面接は合格の決め手だと思います。面接の講座や模擬面接はとても役に立ちました。最後に申請を出した志望校のため、集大成の感じもしました。

②講座の影響度

1. 経営学の基礎講座と出願書類・研究計画書の書き方講座は筑波大学の合格に繋がっていると感じています。
2. 国内MBAの入試攻略講座や面接の講座について、逆境の中で素早く青山学院を絞りだして、書類と面接の準備をするのにとても役に立ちました。

卒業後のキャリアについて

① MBAに期待するもの

願書に記載した通りですが、下記3つのポイントをMBAプログラムに期待しています。

1. 経営知識と戦略思考の強化
2. リーダーシップを養い、実務経験の融合
3. グローバルな環境で、ネットワークとキャリアサポート

②今後のキャリアビジョン

私のキャリアゴールは、多国籍企業の地域型のIT責任者に成長し、その地域の現地法人において本社との技術的なギャップを埋め、効果的なシステム導入・運用を通じて、デジタルトランスフォーメーション（DX）を実現し、企業の成長をリードすることです。

【推薦書について】

①提出されましたか？

提出した

②どなたに推薦書をご依頼しましたか？

会社の直属上司

受験生に対するメッセージ

1. 自分の強みと求めるキャリアゴールをしっかりと整理して、飯野先生の講義のキーワードの「原体験」に合わせてアピールしていただければと思います。
2. いくつかの志望校を絞って、出願すると思いますが、どこか落ちるかもしれません。諦めず立ち上がって、しっかり対策を取れば、合格にたどり着くと思います。
3. 英語が求められる学校を志望する場合、早めにTOEICなどの対策をして早めに受験しておいたほうが出願後楽になります。

2025年4月入学目標

国内MBA試験合格

添削制度を使い志望動機と研究計画を作りこんだ

高橋 将方 さん

30代後半

社会人

2025年4月入学目標 / 国内MBA / 秋入試対策カリキュラム / ライト + アドバンス講座付オプション

進 学 先：青山学院大学 国際マネジメント研究科国際マネジメント専攻イブニング
コース

合格体験記

MBAを目指したきっかけ

私がMBAを目指したのは、所属会社において新たな部署に異動となったことがきっかけです。本部所において私が担当する業務は新規事業立ち上げを目指す事業戦略や、事業運営を行う経営戦略の知識が求められる業務でした。その中で、個社の事情だけではなく、業界全体を通した課題を認識し、長期的な達成目標を描くようになりました。しかし、大きなビジョンに対して自身が持つ知識と、独学の限界を痛感しました。そこで、体系的に知識を得たいと考えMBAによる学びを得ることを目指しました。

アガルートアカデミーをお選びいただいた理由

直属の上司と相談したところ、職務内容・異動のタイミング・会社への理由付け等、この数年間はMBA通学に適したタイミングであることがわかりました。このようなタイミングは後にも先にもなかなか揃わないことから、なんとしても2025年度から2年間の通学で終わらせるよう計画することにしました。

そこでネットで情報を探す中で、一番情報量の多いアガルートを利用すれば、確実にいずれかの大学院へ進む可能性が高まると考え、2024年4月にアガルートに申し込みました。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

①勉強の方針

基本方針は、平日朝：英語、業務に関する勉強 1時間

平日夜：MBA 1～2時間（日中の業務次第）

土日：予定に合わせて3～5時間/日 確保する

と決めておりました。従来から朝晩の勉強を行う習慣がありましたので、やることを決めたら苦勞せず実行できました。

②研究計画書のテーマ設定までの流れ

添削が出遅れたこともあり、仮組の段階で添削に提出し、方向性のギャップを確認しました。そこから添削による指摘のおかげで、自身の背景と、現時点で自分の興味のある分野がかみ合っていないことに気づき、早々に方向性を修正し現在の形に落ち着きました。

③勉強のスケジュール

1月 MBAについて検討。社内相談

2月 MBAについての調査・予備校の検討

3月 アガルートの受講相談を受け、受講を決定

4月 アガルート申し込み。「国内MBA入試攻略講座」を視聴し6か月間のプランを立てる

5月 「経営学の基礎講座」を視聴

6月 「経営学の基礎講座」「研究計画書の書き方講座」「研究テーマライブラリー」などを視聴

プライベートでは、ここで婚約。両家の挨拶等のイベントが重なりだす

7月 志望校相談を実施。WBSに向け早々の研究計画作成と添削開始を指南される

プライベートでは、9月以降の受験本格化に備えて、両家顔合わせ・入籍・引越しをひと月でやりきる。加えて8月に入った海外出張準備も重なり、研究計画書の作成プランが遅れ焦り始める

8月 研究計画・志望理由の作成・添削を繰り返す

仕事量の増加と、計画書の修正もあり、お盆休み返上で取り組む

なんとかここで巻き返すことができたが、その後の海外出張で食あたりにあい、都合1週間程度作業が滞ることとなり、さらに焦る

9月 研究計画書作成・添削依頼

なんとか願書を仕上げ、WBSへ出願書類提出

10月 「面接対策講座」を視聴

並行して、WBSの書類を基にABS出願書類を作成・出願

WBSの願書で志望動機・研究計画を仕上げていたため、それらをベースに余裕をもって取り組むことができた

11月 WBS 1次試験不合格となり、ABS一本に絞る。内心後がないことに不安となる
アガルートの模擬面接をABS対策で受講。的確なアドバイスを受け、自信がつく

12月 ABS面接実施。模擬面接のアドバイス通りの展開となり、焦ることなく対応
ABS合格

受講された講座の良さ、当該講座の学習方法

▼国内 MBA 入試攻略講座

まずは受験の全体プランを検討することが重要だと考え、最初に入試攻略講座を視聴しました。そして、いつ・どの時期になにをすべきかということを整理し、基礎の勉強と願書提出、面接対策のスケジュールをたてました

▼経営学の基礎講座

今まで経営について学んだことがなかったため、これだけでも受講した意義が非常にありました。基礎編であっても、すでに現職の解像度が上がるベースを得られました。

基本的には、1 周目は等倍速度とテキストの読み込みで視聴し、2 周目以降は1.5倍速で通勤や隙間時間で繰り返し聞いて定着させていきました。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座

最初は動画とテキストを1周しましたが、自身で作成してみないとわからないことも多く、すぐに研究計画書の仮組をして初回添削提出→フィードバックを受けました。そこをスタートとして、全体の方向性や構成を見直す上で何度も講座を視聴・確認しました。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座 添削利用回数

6 回

▼研究計画書の研究テーマライブラリー

自身のテーマがある程度イメージできていたこと、そのテーマの希少性が高いことから、新たなテーマを検討することは考えておりませんでした。ですので、研究テーマライブラリーは1周視聴し、参考として自身のテーマ整理に役立てました。

▼面接対策講座

面接内容の傾向を見るため、面接対策講座とテキストを1周し、参考としました。模擬面接のおかげで自身の回答の方向性は掴めていたため、あまり自身の回答がぶれないように視聴は参考程度として最低限にとどめておりました。

▼各種フォロー制度について（初回添削フィードバック、受験校相談、マンスリーゼミ、質問制度等）

いずれの制度も非常に心強いサポートとなりました。自身で解決できそうだが不安である……ということも、後押しを得るために、気になったらすぐに連絡を入れて抱え込まないようにしておりました。

また、研究計画書添削は、そのようなことをお願いできるメンターが周りにいないため、重要な制度でした。このために受講したといってもいいかもしれません。

スランプ・挫折、それを乗り越えるための工夫

プライベートでは結婚、業務では6月と8月に初めての国への海外出張が入り、そのための準備で業務量がパンクしておりました。ちょうど9月のWBS出願に向けた詰めの時期でもありましたので、どちらも緩めることができず辛い時期となりました。

アガルトへの研究計画相談も多少遅れたことで、添削を使用する機会が限られてしまったことが悔やまれます。

当時は家族の協力を得て、夏休みも返上で空いた時間はMBAの準備に専念させていただくことで何とか乗り切りました。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

学習時間の確保については、これまで朝晩の勉強を習慣化していたこともあり、通常業務の中では問題なく確保できました。

最初に全体プランを作り、その進捗を都度確認しながら、遅れが発生した際には休日等から時間を捻出して修正していきました。特に自分の場合は、6～8月に予想外に発生した海外出張の影響で、出願書類・研究計画書作成に遅れが発生しました。そこは1週間の夏休みをすべて充てることで、なんとか目標に間に合わせました。

直前期の過ごし方

ABSは願書提出後は面接のみとなるため、面接対策講座の視聴とテキストの再読み込みを行いました。

ある程度の応対には答えられそうだなとなった時点で、模擬面接を申し込みました。そこでは、内容よりも、私のパーソナリティまで考えた自然体・自分らしさをだせるようにといったアドバイスもいただき、本番まで落ち着いて準備を進めることができました。

1点練習していたのは、願書で提出した内容をぶれなく回答できるよう、定着するまで毎晩回答を録音して確認しておりました。

試験期間中の過ごし方

模擬面接でいただいた「自分らしく話したほうがよい」というアドバイスと、営業時の経験から大事な面談や面接は気分を高揚させるよりも平常心に近づける方が自身には合っているという自覚もあることから、1時間以上前に大学付近のカフェに待機して気分を落ち着かせることを優先しました。面接対策の内容を一通り確認し終えた後は、気になっているYouTubeや、この日のために読まずにとっておいた気になる本を本番前まで読んだり、普段通りを心がけて本番に臨みました。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

①受験した時の手ごたえ

当初はWBSを想定して準備していたこともあり、そこで詰めた内容をベースに準備をすることができました。ABSは書類も面接も自由度が高く、自分らしいアピールができたと思います。面接に至っては、ほぼ雑談で終わったことから、書類の出来でほぼ決まっ

ていたのか？ という実感でした。

②合格した時の気持ち

なんとしても2024年度の受験でどこかに合格するという最優先目標を達成できました。大学ごとの内容も重要ですが、人生のタイムラインを考えたときに現状今を逃すと次のタイミングが見えない……と考えていたため、本当にほっとしました。

振り返ってみて合格の決め手は？それに、当該講座はどの程度影響したのか

①合格の決め手

WBS受験のために、添削制度を使い志望動機と研究計画をかなり作りこんでおりました。自身の置かれている環境からテーマ自体は希少性が高いほうではないかという自覚があったため、ABSの志望動機等提出書類は、その内容をベースに膨らませることで、短時間でクオリティ高い内容にできたことが重要であったと考えております。

②講座の影響度

私は経営について勉強したことがなかったため、基礎講座は非常に重要でした。これだけでも勉強になりました。おかげで、受験的なテクニックではなく、経営的な知識をベースに志望動機・研究計画を検討することができるようになりました。

卒業後のキャリアについて

① MBAに期待するもの

面接でも聞かれましたが、業務に繋がるか・活かせるかどうかよりも、何よりも新しいことを学べるということが楽しみでなりません。また、今まで限られた業界内しか知りませんでした。別な業界の方と触れ合い、多様な考え方に触れられることを期待しております。

②今後のキャリアビジョン

自社の課題、業界の課題解決を長期的な目標として歩んでいきます。そのために必要な知識と経験の1つにMBAは当てはまると考えているため、10年後20年後の目標達成のために、今できる勉強を実施したいと思います。

【推薦書について】

①提出されましたか？

提出していない

受験生に対するメッセージ

合格するかどうかはタイミングや縁などもあります。受かるかどうかというプレッシャーもありますが、研究に限らず「入学したらこんなことを学びたい・やりたい」と具体的に思いを馳せながら頑張っていたら、きつくても乗り越えられました。

ただ、受験時点から家族と周りの理解を広く得ていたことは重要でした。不意な事態に陥った時にサポートしてくれたことで本当にありがたいと感じました。様々な環境の方がいるでしょうが、一人でも身近に味方を作って準備を行っていけるといいかと思います。

2025年4月入学目標

国内MBA試験合格

添削時の前向きなコメントで挫折せずに取り組めた

甲田 洋明 さん

30代後半

社会人

2025年4月入学目標 / 国内MBA / 秋入試対策カリキュラム / ライト＋アドバンス講座付オプション

進 学 先：中央大学大学院 戦略経営研究科戦略経営専攻

合格体験記

MBAを目指したきっかけ

人生100年時代と言われる中で自分自身が今後どう生きていくかということを模索しているときにMBAに出会いました。折しも所属している組織が大きな改編を控えて今後の仕事の幅の広がりが見えてきたことや、自分自身の対外的な立場が変化したこと、初めて部下を持ったことなど自分を取り巻く様々な環境の変化もあり自分に足りないものを感じたタイミングでもあったため、今集中的に学びの時間を設けたいと思い進学を決意しました。

アガルートアカデミーをお選びいただいた理由

圧倒的な情報量と合格実績が決め手でした。かなり初期の段階からアガルートのホームページや公式YouTubeで情報収集していたような感じで、各校の対策や合格者体験談、コラムなども大変参考になりました。また、個人的には小さい子供がいるためオンラインで自分のペースで勉強を進められるということや、隙間時間での勉強を想定していたことから一つの講義が10分程度で完結するということが、合格者への特典などがあったこともポイントでした。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

①勉強の方針

ある程度志望校を絞り込んだうえで、ライトカリキュラムで申し込みをしていたため小論文対策はなく、とにかく経営学の基礎講座を進めることを意識しました。文学部出身のため経営に関する知見はほぼない状態からのスタートでした。また、TOEICを数年受け

ていなかったため、並行して8年ぶりに英語の勉強も行いました。

②研究計画書のテーマ設定までの流れ

経営学の基礎講座や日経新聞、ニュースなどの情報から気になったテーマや業務上の気づきなど様々なことを意識的にメモするようにして、その中から研究テーマになりそうなことを選定しました。その後関連するキーワードから過去の論文などを複数読み込み、計画書作成を進めました。

③勉強のスケジュール

11月 MBAについて調べ始める、妻にもそれとなく話す

12～1月 ITパスポート受験に専念（職場で急に推奨されはじめたため）

2月 MBAの検討再開、各予備校や大学院のホームページ、noteやブログ、YouTubeなどで情報収集しました

3月 予備校をアガルートに絞り込み

4月上旬 受講相談、アガルート主催のオンライン説明会に参加（法政、中央）

4月下旬 妻に再度話をし、受講申込み

5～6月 経営学の基礎講座を視聴、子どもが寝た後と通勤時間を活用

7月上旬 研究計画書作成に着手（早稲田、中央、明治への出願を視野にまずは早稲田に着手し、お盆休み中に初回添削を出そうと自分の中で目標設定）
出願書類・研究計画書の書き方講座、研究テーマライブラリーを視聴
関連テーマの書籍を2～3冊程度購入し、通勤時間等で読み込み
国会図書館の利用者登録（結局最後まで利用せず……）
TOEICの8月試験を申込み（秋入試時期までに結果が出るように）、並行してTOEIC対策も実施

7月下旬 研究計画書作成、WBSの説明会に参加

8月上旬 研究計画書作成を進めるも苦戦、TOEIC試験日も近づいてきており両立にも苦戦

8月下旬 初回添削提出、TOEIC受験、MBA合同相談会に参加（中央、明治）

9月上旬 添削と修正、2回目で参考文献とテーマが不一致との指摘を受け追い込まれる

9月下旬 早稲田出願、2次対策を考え始めたところで10月中旬に2週間程度の地方出張を命じられ更に追い込まれる

10月 青学のオンライン説明会に参加、出張で2週間程度何もできず

11月 早稲田2次対策を進めるも1次不合格

12月 WBS冬入試への出願を悩むが書類で落ちるということはバックグラウンド的に厳しいのではと判断し出願見送り

1月上旬 中央の1月、青山学院の2月入試を視野に準備を開始

1月中旬 中央受験、合格（青山学院は出願せず）

受講された講座の良さ、当該講座の学習方法

▼国内 MBA 入試攻略講座

一番最初にざっと受講しました。元々アガルートのホームページで情報収集していたので内容的には把握済みのものもありましたが、面接に関してや、不合格になった場合の戦略なども触れられており、MBAに関しての全般的な把握に役立ちました。

▼経営学の基礎講座

私のような初学者にも分かりやすく、勉強に取り掛かりやすいようにまとめられていると感じました。また、多岐にわたるテーマにもかかわらず一貫して飯野先生が講師を務められているという点も安心感や親しみやすさなども持てて良かったです。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座

第1回総論、第3回方法論を受講してから第2回の各大学対策に取り掛かりました。志望校の講座を中心に受講していましたが、傾向が似ている他校の講座も受講しました。各校の説明に加え、合格者の事例もあり非常に参考になりました。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座 添削利用回数

3回

▼研究計画書の研究テーマライブラリー

研究計画書作成に着手したタイミングでまず受講しました。当初はすべて見るつもりでしたが、膨大な量だったため関心のあるテーマに絞り受講しました。4分の1くらいを受講し、それ以後は先行研究論文や書籍等をメインで考えていきました。

▼面接対策講座

出願書類・研究計画書の書き方講座と同じく、志望校に加え傾向が似ている他校の講座も受講しました。各校の面接の雰囲気（圧迫なのか、穏やかなのかなど）を把握するのに役立ちました。受験者の方の感想やアドバイスもとても参考になりました。

▼各種フォロー制度について（初回添削フィードバック、受験校相談、マンスリーゼミ、質問制度等）

初回添削フィードバックと模擬面接はMBA保有者の方が講師で、それぞれ改善に向けた具体的なアドバイスをいただくことができ非常に役立ちました。マンスリーゼミもできるだけ出席し最新情報収集に活用しました。後日、YouTubeで見返すことができる点も良かったです。

スランプ・挫折、それを乗り越えるための工夫

研究テーマ設定に一番悩み時間がかかりました。自身の問題意識をもとにテーマを設定し、そこに自分なりの新規性も加えたつもりでしたが、既に研究が進んでいるとの指摘を

いただいたり、再添削の際にもテーマと参考文献がミスマッチとの指摘をいただいたりと、なかなか苦労しました。

初心に帰り検索キーワードを考え直し、参考文献を広く探すことで合格点をいただくことができたときは嬉しかったです。

最終的には当初描いていた研究テーマとは違うものになりましたが、より深く考えて導きだせたテーマになったと思います。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

子どもが小さく、優先順位としてまず家のことが1番で勉強はその次だったため、隙間時間を活用し学習しました。一日の中では通勤時の電車の中で20～30分程度、夜に子どもが寝た後の時間を使って講座を受講しました。

また、自宅から最寄り駅までバスを利用しているのですが、帰り道だけはバスに乗らず25分程度歩くようにしてその間も耳だけで講座を聞いていました。基本的に紙のテキストを使うのは夜に机に向かっているときのみで、その他は耳で聞くだけか、電車の中などでは画面を見ていました。

直前期の過ごし方

面接対策講座を受講し、一般的な想定問答を準備していました。

ただ、想定問答を丸暗記するようなことはせず、あくまで自分の考えを整理するために文章にしたという感じです。また提出済みの出願書類を口に出して読むことを繰り返しました。文章だと違和感なくとも言い慣れない言葉だと嘸んでしまいそうな部分もあったので、言いやすい表現を考えたりもしました。

1月中旬が面接試験でしたが、仕事柄年末からお客様との会食なども多い時期だったので健康管理にも気を付けました。

試験期間中の過ごし方

基本的には普段通りの過ごし方でした。出願から面接まで2週間弱と短かったことや年始で仕事も若干バタバタしていたこともあり、出願書類の読み返しや、想定問答を考えることくらいしか行っていません。概ね想定問答を考えた後にアガルートの模擬面接の申し込みをしましたが、予約枠がほとんど空いておらず焦りました。結局面接試験3日前になんとか空いている枠を見つけ受けることができました。これだけは早めに予約しておけば良かったと思いました。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

①受験した時の手ごたえ

大きなミスはしていませんでしたが合格、不合格どちらもあり得るような気がして不安でした。アガルートの直前のホームルームで秋入試での倍率が昨年度より上がっているという話も伺っていたので本当にどちらに転ぶか分かりませんでした。

②合格した時の気持ち

まずはほっとしました。漠然とMBAについて考え始めてから1年以上、その後紆余曲折あったもののアガルートに申し込んでからも8カ月以上経っており、結構な時間を費やしてきたので結果につながって良かったと思います。

振り返ってみて合格の決め手は？それに、当該講座はどの程度影響したのか

①合格の決め手

出願書類に尽きると思います。WBSは残念な結果でしたが、そこでかなり力を入れて作成したため他のビジネススクールに通用する内容のものが作れたと思います。実際にWBSで作成した書類をベースに、他大学院の出願書類も問題なく作成できました。

②講座の影響度

各講座を踏まえ出願書類を作成しましたので、どの科目も大きな影響があったと考えています。添削サービスもとても良かったです。拙い内容で提出してしまった時もありましたが、良いところは褒めていただき、悪いところについては「悪い」ではなく「より良くするためにこうしましょう」というような前向きなコメントをいただけたので悩みながらも挫折することなく取り組みました。

卒業後のキャリアについて

① MBA に期待するもの

CBSの特徴でもあるフィールドラーニングなどケーススタディだけでない実践的な学びを通じ、将来の自社の発展に資するための決断力、判断力を磨いていきたいと考えています。また、先生方や共に学ぶ同期生と在学中だけでなく卒業してからも交流できるような関係を築いていきたいです。

②今後のキャリアビジョン

現在所属している企業、組織の中で業務の幅を広げながら上位レイヤーを目指していきたいと考えています。あえて箇条書きで書くと以下のようなイメージを持っています。

- ・ 5年後 グループ長として組織の中核を担う
- ・ 10年後 部長として組織の経営に携わる
- ・ 15年後 役員として会社の経営に携わる

【推薦書について】

①提出されましたか？

提出していない

受験生に対するメッセージ

仕事や家庭で忙しい中での受験対策になるかと思うので、何事も早め早めに取り組むことをお勧めします。

MBAの受験対策は大学受験とは違い、自分のこれまでのキャリアの棚卸しのようなところからスタートするので過去、現在、未来と自分の人生を振り返り見つめなおす良いきっ

かけにもなりましたし、受験対策を通してすでにMBAの学びは始まっているのではない
かと思います。辛い時もあるかもしれませんが一緒に頑張りましょう。

2025年4月入学目標

国内MBA試験合格

講座を受け、自分の強みや個性を活かす方法を学んだ

石田 彩也香 さん

20代前半

学生

2025年4月入学目標 / 国内MBA / 秋入試対策カリキュラム / ライト＋アドバンス講座付オプション

進 学 先：青山学院大学 国際マネジメント研究科国際マネジメント専攻

合格体験記

MBAを目指したきっかけ

MBAを目指した理由は、日本の資源や技術を活かして地域活性化につながるビジネスを展開したいと考えたから。具体的には、廃屋の扉をリメイクした家具や、消費期限の長い和菓子の開発など、伝統を現代的にアレンジして国際市場にも展開したいというアイデアがある。

それを実現するには資金調達・国際ビジネス・異文化理解の知識が必要で、そのためにMBAで学びたいと考えた。青山学院大学を選んだのは、アクションラーニングを活用して、実践的に事業計画を具体化できると思ったため。

アガルートアカデミーをお選びいただいた理由

アガルートでは小論文や面接対策に特化した講座を提供していて、特に個別指導や過去問の分析がしっかりしている点が魅力的だった。

志望校対策をしながら、事業計画や他の活動も並行して進める必要があったため、時間や場所を選ばずに学べるオンライン講座が良かった。

また、実際にMBA合格者を多く輩出している点や、具体的なアドバイスを受けられる点も決め手になった。添削指導が充実しているのも良かった。特に、小論文や面接対策で細かいフィードバックをもらえる点が魅力的だった。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

①勉強の方針

私は提出物を前もって準備することが苦手で、受験日の2週間前から小論文の作成を始

めた。小論文課題2題とも内容はシンプルだったため、気を抜いていたが、この小論文と面接だけで合否が決まると考えると焦りや前もって準備すれば良かったととても後悔した。前もって準備すれば、添削ももっと受けられてより良い小論文を提出できる。当たり前のことだが、もし私みたいに気を抜いてしまっている人は気をつけてほしいと思う。

②研究計画書のテーマ設定までの流れ

テーマは初めから決まっていた。背景や今後のキャリアについて論理的に書くことに苦労した。自分のテーマに似た人の過去の小論文や、アガルートの小論文対策を参考にして、仕上げた。出願までの時間がなかったため、アガルートの添削だけでなく、大学の教授や家族、友人にも添削をしてもらった。

③勉強のスケジュール

4月 アガルートの受講相談を受け、青山学院大学の受験を志す。アガルートの受講を決める

5月～11月 ホームルームのみ受講

12月 経営学の基礎講座、小論文対策講座、研究計画書の書き方講座 動画視聴開始。
毎日五講座受講

1月 青山学院大学 小論文作成開始 出願

1月後半 面接準備開始

2月 9日の面接まで毎晩誰かに頼んだり動画を撮ったりして、面接の対策を行った。

アガルートの面接再現レポートも青山学院大学のものだけでなく他大学のも参考にしてイメトレした。

受講された講座の良さ、当該講座の学習方法

▼国内MBA入試攻略講座

国内MBAの入試攻略講座では、自分では気づかない論理の甘さや表現の改善点がわかった。頻出質問への対応だけでなく、自分の志望動機や強みを深掘りするサポートもあり、実践力を磨く形で利用した。特に、過去問分析や頻出テーマの解説は参考になり、効率的に対策を進めることができた。

▼経営学の基礎講座

経営学の基本概念を学べたので、MBA入試の小論文や面接での回答に説得力を持たせるのに役立った。また、事例を交えた解説が多く、理論と実践のつながりが理解しやすかった。初心者でもわかりやすい構成になっていて、経営学の知識がない状態からでもスムーズに学習を進められた。

利用方法は、入試のための基礎固めとして、まずは動画講義を視聴し、経営学の全体像を把握し、テーマごとにノートを取りながら学び、重要な理論やフレームワークを整理した。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座

出願書類や研究計画書の「構成のポイント」が明確になり、論理的で説得力のある文章を書くコツがつかめた。合格者の例や、具体的な書き方のテンプレートが紹介されていて、実際の書類作成の参考になった。

利用方法は、講座で学んだ「構成のフレームワーク」を活用して、自分の志望動機や研究テーマを整理し、添削指導を受けながら、論理的な流れや表現の改善を繰り返し、より明確で印象に残る書類に仕上げた。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座 添削利用回数

1回

▼面接対策講座

面接の流れや頻出質問が整理されていて、実践的な準備ができた。論理的な回答の組み立て方や伝え方のポイントが学べて、説得力のある受け答えができるようになった。模擬面接やフィードバックを通じて、自分の弱点や改善点が明確になり、自信を持って本番に臨めた。

利用方法は、頻出質問をもとに、自分の志望理由や研究計画の説明を整理し、何度も練習。想定外の質問にも対応できるよう、ロジカルに考えて回答を組み立てる練習をした。模擬面接でのフィードバックを活かし、表情や話し方も意識して改善。

事業計画の補足資料を用意し、必要に応じて面接中に活用できるよう準備。

▼各種フォロー制度について（初回添削フィードバック、受験校相談、マンスリーゼミ、質問制度等）

受験校相談では、各MBAの特徴や試験傾向について詳しく説明してもらえ、自分に合った学校選びができた。志望校ごとの難易度や求められる人物像について具体的なアドバイスがもらえたのが良かった。また、迷っていた学校についても相談することで、受験戦略を明確にできた。

スランプ・挫折、それを乗り越えるための工夫

小論文を提出してから、面接日までの約一ヶ月、面接が次の4月からが学生になるか社会人になるかの分かれ目だった。そのため、精神的に参ってしまい毎晩涙が出たり不安に押しつぶされそうになる日々が続いたが、家族や友人にたくさん練習に付き合ってもらって、自信を持たせてもらい、乗り越えることができたと思う。添削や面接は独自の対策だけだと気付けないものがたくさんあるため、周りに頼れる人がたくさんいて良かったと思う。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

出願の一ヶ月前までアルバイトや旅行に行って全く入試対策をしていなかった。一ヶ月前から、アルバイトを辞め、毎日、経営学の基礎講座や、マンスリーゼミ、出願書類の書

き方講座などを詰め込んで受講した。朝はカフェでコーヒーを飲みながら受け、その後図書館で夕方まで勉強し、夜は家で行った。焦りや不安で毎日しんどい思いをした一ヶ月であったため、もっと前もって受講をするべきだった。面接までの一ヶ月は、予定がないときは夜家族に1時間ほど練習に付き合ってもらい、友人と会うときも1時間ほど面接の練習をお願いした。

直前期の過ごし方

直前から始めたため、朝から夜まで自分の小論文の添削、講座の受講、面接対策を行っていた。焦りと不安でたまに眠れないときがあったが、温かいお茶を飲んだり、癒される動画などを見て、あまり考えすぎないようにした。面接当日は、試験は自分の努力の結果を確認する場だと考え、結果に過度に固執せず、自分のベストを尽くすことに集中した。緊張感もあったが、どんな結果になっても次に活かせる経験だと思い、前向きな気持ちで臨んだ。

試験期間中の過ごし方

集中して勉強することは大切だが、長時間続けると疲れや集中力が切れるため、適度に休憩を取ったり、場所を変えて進めた。短い散歩やリフレッシュタイムを挟むことで、頭をクリアに保つようにした。度々プレッシャーを感じることもあったが、ポジティブな気持ちを保つよう努めた。困難に直面しても、それを乗り越えることで成長できると信じて、前向きな態度を持ち続けるように頑張った。また、試験期間中の体調管理も重要だと思い、規則正しい食事と睡眠を確保するよう意識した。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

①受験した時の手ごたえ

面接は、試験に臨む前に十分に準備をしてきたため、問題や予想外の質問もあったが、落ち着いて対応でき、自信を持って試験に臨むことができた。自分の意見や考えをしっかりと伝えることができたと感じた。しかし、面接官の発言を思い出して不安にも感じた。

②合格した時の気持ち

合格を聞いたとき、まず最初に感じたのは、これまで支えてくれた家族や友人、そして講師の方々への感謝の気持ちだった。多くの人に支えられてここまで来ることができたことを実感し、感動した。そして、ここで終わりではなく、これから新たなスタートだとワクワクした。

振り返ってみて合格の決め手は？それに、当該講座はどの程度影響したのか

①合格の決め手

自分がMBAを取得する目的を明確にし、その意欲を面接でしっかりと伝えることができたことが決め手だと思う。大学が求めている人物像にマッチしている点をアピールでき、自分のキャリア目標とプログラムとの相乗効果を強調できたことが良かったと思う。

②講座の影響度

講座を受けることで、試験へのアプローチが大きく変わった。単に知識を詰め込むのではなく、自分の強みや個性を最大限に活かす方法を学んだことで、面接や小論文においてより魅力的に自分を表現することができた。結果として、それが合格に繋がったと思う。

卒業後のキャリアについて

① MBA に期待するもの

青山学院大学MBAを通じて、国際的なビジネス環境に対応できる能力を身につけたいと考えている。多国籍の同級生や教授との交流を通じて、異文化理解を深め、グローバルな視点を養いたい。また、同じ志を持つ仲間とのネットワークを広げ、将来的なビジネスパートナーとしてのつながりを作りたいと思う。

②今後のキャリアビジョン

将来的には、グローバルなビジネス環境でリーダーシップを発揮することを目指している。MBAで学んだ知識を活かし、国際的な市場でビジネスを展開するための戦略を立て、異文化間での協力を促進し、企業の成長を牽引する役割を果たしたいと考えている。

【推薦書について】

①提出されましたか？

提出していない

受験生に対するメッセージ

受験を控えている皆さん、まずはこの挑戦に立ち向かっている自分を誇りに思ってください。どんなに計画を立てても、途中で思うように進まない時や、焦りを感じる瞬間があるかもしれません。その時こそ、自分を信じて一步一步前進することが大切です。受験は長い道のりですが、その過程で得られる経験や成長は必ず今後に役立ちます。

私はこの受験を通じて、何度も壁にぶつかり、スランプに陥りました。その時はつらく感じましたが、それが自分を強くし、次に進むための糧となりました。辛い時期こそが、最も自分を成長させる瞬間であることを忘れないでください。

また、周りと比べることは避け、自分のペースで進んでください。試験の可否は確かに重要ですが、もっと大事なのは、自分のペースで無理なく学び続けることです。誰かと競い合って疲れてしまうよりも、自分に合った方法でコツコツと積み上げていくことが最も効率的だと思います。

そして、休息も大切です。完璧を求めすぎず、適度にリフレッシュすることが長い受験生活を乗り越えるための秘訣です。心身を整えることで、より集中して学習に取り組むことができるようになります。

最後に、受験の結果がどうであれ、あなたが努力したその過程こそが大きな財産になります。どんな結果が待っていても、その経験は必ず未来の大きな力となる。自信を持って試験に臨み、心から全力を尽くしてください。皆さんが素晴らしい結果を出せることを願っ

ています。そして、あなたの未来が希望に満ちた素晴らしいものになるよう、応援しています！

2025年4月入学目標

国内MBA試験合格

研究計画書や志望動機は人生を振り返る 絶好のチャンス

劉 壮壮 さん

20代後半

学生

2025年4月入学目標 / 国内MBA / 秋入試対策カリキュラム / ライト

進 学 先: 橋大学 経営分析プログラム

合格体験記

MBAを目指したきっかけ

まず、私は将来日本で就職したい、暮らしたいと思って、ちゃんと日本の大学院に入って修士号を取りたいと思っています。

また、前職でマーケティング職に従事しており、仕事からマーケティングの魅力を強く感じて、これから経営学を体系的に学んで、マーケティングの専門性を高めたくて、MBAが最適ではないかと考えました。さらに、交換留学制度を利用して、英語力もしっかり高めて、世界中で活躍できる人材を目指したいと思います。

アガルートアカデミーをお選びいただいた理由

留学生だから、日本の予備校に全く詳しくなかったんです。中国人留学生は主に中国人教師が開設する予備校に通うが、費用が割と高いし、詰め込み型の授業がほとんどです。で、ネットでアガルートが無料で放送した豊富な合格者インタビューを視聴させていただいて、すごく勉強になりました。無料でそんな量の内容を視聴できるのは驚きました。

そのきっかけで、アガルートに興味を持って、料金が手頃ですし、飯野先生の講座が分かりやすいので、アガルートを選ぶことにしました。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

①勉強の方針

1、まず、4月下旬より基礎講座をしっかりと勉強しました。普段、通っている日本語学校は午前中の授業だから、午後や夜の時間を利用して、講座を視聴しました。

2、6月頭から、研究計画書を書き始めました。その前に、基礎講座を勉強しながら、

能登半島地震被災地支援ボランティア活動にも参加しました。東京に戻ったら、あと1ヶ月で出願期間が始まることに急に気づいて、すごく焦るようになりました。本当に昼夜問わず、イライラ焦りながら、何とか研究計画書の作成を進めました。何度も焦ってたまらなくて、不眠になって、体調が崩れたことさえありました（一橋大学の入試期間は7月初旬から始まるので、ぜひ早めに研究計画書や職務履歴書の作成を始めてください。そうすると、時間の余裕を持って面接の準備に入れるでしょう）。

3、模擬面接を受けて、面接の流れや内容を大体把握できましたが、正直、自分に対してあまり自信がなかったんです。面接当日に、何とか、心の状態を調整できて、落ちてもほかの大学の入試を受ければ良いと思って、少しホッとして口頭試験を受けました。

②研究計画書のテーマ設定までの流れ

自分はもともと、コンテンツを発信することで、製品の宣伝やブランド知名度を構築することに大きく興味を持っていたんです。飯野先生の講座を受けてから、初めて、それはコンテンツマーケティングというのだと知りました。それは、まさに自分が探究したいテーマではないかと思って、研究方向をすんなり決めました。ただし、どのようにしてアカデミックな内容を作成できるか、自分なりのテーマや問いを設定するのか悩んでいました。その点について、アガルートの添削指導を受けて、とても役に立ちました。

③勉強のスケジュール

去年12月末、中国でTOEIC試験を受けて望ましい点数をもらった。

4月 「経営学の基礎講座」動画視聴開始。

5月 「経営学の基礎講座」を視聴。

6月 「経営学の基礎講座」「研究計画書の書き方講座」「研究テーマライブラリー」などを視聴、「研究計画書」や「職務履歴書」を作成し始めた。

7月 一橋大学の入試説明会に参加して、翌日に出願期間が始まり、出願書類を郵送して、「面接対策講座」を受け始めた。

8月 面接の準備を中心にした。

9月 ZOOMで口頭試験を受けた。

受講された講座の良さ、当該講座の学習方法

▼国内 MBA 入試攻略講座

経営学の専門知識が全く白紙の状態でしたので、基礎知識講座が非常に役に立っていました。出願書類の添削や模擬面接も助かりました。

▼経営学の基礎講座

分かりやすいですし、知識の量もちょうどいいのではないかと思います。また、内容自体も面白くて、事例も挙げられました。しかも、本だけではなくて、飯野先生の講座を視聴しながら、もう一度復習できるのではないかと。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座

既に合格した先輩の出願書類を読めるので、大体どのような内容があるのがいいモノなのかということのをイメージできました。何もわからない状態より、その合格者達の方方向に沿って、自分なりの考えやアイデアを書くとは着しやすかったです。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座 添削利用回数

3回

▼研究計画書の研究テーマライブラリー

先ほど、言っていたように、研究テーマライブラリーを利用して、自分が興味を持っていたものはコンテンツマーケティングだとわかって、とても役立っていたと思います。自分がなにを研究したいかボヤッと漠然としていても、すごくヒントになると思いますね。

▼面接対策講座

正直、一橋大学入試の一次試験から二次試験まで、時間が1ヶ月間で、面接対策講座を視聴する時間の余裕があまりなかったんです。その間、自分で面接の質問を想定してみても、回答を書くことと修正することを往復しました。そして、日本語学校の先生に頼んで、対面模擬面接も受けてみました。

▼各種フォロー制度について（初回添削フィードバック、受験校相談、マンスリーゼミ、質問制度等）

初回添削フィードバックから挫折をしました。自分がただ考えた通り書いてみたものでしたので、先生からのフィードバックを期待しました。しかし、結構多めの質問や指摘を受け、初回フィードバックのときに、「私多分だめだ」と落ち込んでいました。しかし、指摘を受けたからこそ、よりよく改善できたと思います。

スランプ・挫折、それを乗り越えるための工夫

まず、研究計画書を完璧に作成することを考えるのではなくて、とりあえず完成させると考えてみました。一旦完成したら、自分が続いて改善したり、アガルートに添削をもらったり、周りの先生に修正してもらったりして、自分が満足できるものができあがると思います。また、忍耐力が大事だと思います。挫折をしても、どんなに辛くても、粘り強く続けてください。そうすると、夢を叶える真の幸せを味わえるのではないかと考えて、頑張ってきました。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

午前中、日本語学校に通っていますので、その時間帯は日本語力をより高める時間として大切に過ごしました。午後、家に帰って独学しています。留学生ですので、学習時間がかなり確保できました。また、その同時にアルバイトもやっています。1日中勉強して、頭がどんどんおかしくなってしまうので、その時間帯に、人と接したり、日本語会話をし

たりしました。人によって違いますが、家で独学するのは効率が低くなる場合、カフェや図書館の学習スペースを利用するのがお勧めですね。

直前期の過ごし方

今回の口頭試験が予想外の状況が起き、台風の影響で、突然オンラインで行うことになりました。一橋大学からお知らせをもらったら、直ちに対策を取りました。ネット状況をチェックしたり、パソコンのカメラをオンにして面接の回答を練習したりしました。それにしても、自分に対して、すごく自信がなかったんです。そのような落ち込む気持ちにならないように、家の隣の公園で散歩したり、友達を誘って食事したりして、自分の心の状態を何とか調整できました。

試験期間中の過ごし方

面接は午後でしたので、午前中にもう一度用意された内容を復習して、もし運が良く合格したときの一橋大学での生活を想像してみました。とにかく、リラックスして、心の緊張感を緩めました。自分の部屋で面接を受けたことも助かったなと思いました。自分がよくリラックスできる環境ですから。本番になった時にも、何とか微笑んで、試験を受けました。口頭試験で読解試験がされることも意外でした。でも、直ちに調整できて、落ち着いて堂々と答えました。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

①受験した時の手ごたえ

正直、なかったと思いますね。面接官の先生がかなり威厳ある表情でして、聞かれた質問も何とか答えましたが、決して心をつ打つ内容ではなくて、むしろ、言葉を濁したことが多かったような気がします。でも、確かに、聞かれたら、自分の考えを堂々と答えることができましたね。

②合格した時の気持ち

信じられなかったんです。何度も受験番号をチェックしたりして、そして、一橋大学事務室へ電話で確認したことさえありました。喜びの涙も止まらなかったんです。この半年間、本当に頑張ったなと自分に感謝しています。

振り返ってみて合格の決め手は？それに、当該講座はどの程度影響したのか

①合格の決め手

一橋大学の入試時期はかなり早めですので、時間の余裕を持って準備できた受験生は決して多くないのではないかと思います。ですので、その短い時間内に、ちゃんと出願書類を取り揃え、基礎知識をしっかりと学んで、面接の時にも堂々と答えられたことが決め手ではないかなと思いました。

②講座の影響度

講座の影響度は大きいと思いますね。基礎知識の勉強、志望校の相談、出願書類の添削や模擬面接などなど、非常に役立っていたんです。ただし、自分に対する自制心も必要不

可欠だと思います。自分でスケジュールを作って、きちんと守るのが大事です。

卒業後のキャリアについて

① MBA に期待するもの

まず、経営学の専門知識をしっかり身につけることを期待しています。一橋大学が少人数教育ですから、学習仲間と積極的にコミュニケーションを取って、親友ができるかもしれません。また、語学留学制度を利用して、英語力を高めることも期待しています。

② 今後のキャリアビジョン

卒業してから、コンサルティングファームへ就職するか、一般的な企業に入るかまだわからないですが、とにかくマーケティング職に従事したいと考えています。身につけた知恵を活かして、日本だけでなく、世界で活躍できるグローバル人材になりたいと思います。

【推薦書について】

① 提出されましたか？

提出した

② どなたに推薦書をご依頼しましたか？

前職の上司

受験生に対するメッセージ

まず、できるだけ早く入試の準備を始めてほしいです。一橋大学が異例に早めに入試を行うんですから。そうすると、後の時間が楽になるでしょう。

また、自分を信じること。それは誰でも、どんな時期でもすごく大事だと思います。自分を信じるからこそ、自己成長や自己実現ができるのではないかと思います。

そして、入試のために、研究計画書や志望動機などを考えるのではなく、本当に自問自答して、自分の人生のために、しっかり考えてください。自分の人生を振り返る絶好のチャンスではないかと思います。

2025年4月入学目標

国内MBA試験合格

経営学の基礎講座は2回視聴しノートにまとめた

森 一輝 さん

30代前半

社会人

2025年4月入学目標 / 国内MBA / 秋入試対策カリキュラム / ライト

進 学 先: 立教大学大学院 ビジネスデザイン研究科

合格体験記

MBAを目指したきっかけ

2022年より副業で個人事業としてキャリアコンサルタントとしての活動をするも事業として望ましい成果は得られず、汎用性の高い、経営の側面から自身のビジネスを見つめ直すためにも専門的な知識を学ぶ必要があると感じたため。また在職中の仕事でもキャリア的に新たなスキルアップの必要性は感じていたもののこういった取り組みをしようかと考えていたところでもあったので、仕事をしながらできる範囲でより高度かつ汎用性の高いスキルの習得としてMBAを決断した。

アガルートアカデミーをお選びいただいた理由

MBA受験と聞いて何をすればいいのかよくわからなかったため、ひとまず書籍を探したところ飯野講師の著書がヒットしたため購入し読んだ。その中で各大学院の特徴なども網羅的に触れられていたため、オンラインでの受講相談をお願いした。受講相談によってMBAについて理解できたうえに、具体的に自分のイメージと近い大学院の選定などにも意見をもらい合格へ学習計画も分かりやすく提示してくれたのでアガルートの受講を決めた。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

①勉強の方針

大学が経営系の学部ではなかったのでもまずは経営学の基礎を固めることに注力した。初学者におすすめの書籍も購入し読み進め基礎の定着を第一にした。志望動機や課題エッセイなどは比較的自分の中で今回のMBA進学に求めるものを整理していたので、論理性の

ある文章になっているか一人ではわからない部分を中心に添削をもらうことにした。

②研究計画書のテーマ設定までの流れ

課題エッセイで課題の中に人的資本経営に関するテーマが設定されていたのでそちらを選択した。人材業界に勤務しておりキャリアコンサルタントの資格取得の際に学んでいた部分ともつながるところがあったのでその点をより深めるような内容になるように意識して作成した。

③勉強のスケジュール

5月中旬 受講相談

5月下旬 受講開始

6月～7月上旬 経営学の基礎講座を視聴し学習。同時期におすすめ書籍の「ゼミナール経営学入門」も読み進め読破する。経営学の基礎講座はすべて2周視聴した。

7月上旬～中旬 提出書類の作成と添削を受ける。計5回の添削を受けた。志望動機と課題エッセイの双方でしっかりと添削と修正を重ねこの時点で提出書類に関してはある程度の手ごたえを感じた。

7月中旬 模擬面接を受講。面接官からはある程度の評価はもらえたがその際の改善点をメモしそれに対する応答などを新たに作成する。

8月中旬 立教MBA出願

9月上旬 模擬面接を個別で追加を申し込み前回のフィードバックの点を意識して臨む。結果かなり合格可能性は高いと評価いただいた。

9月中旬 立教大学MBA受験 無事合格

受講された講座の良さ、当該講座の学習方法

▼国内 MBA 入試攻略講座

MBAの選び方などは受講相談の際にも説明を受けた部分もあったが、特に研究を重視するという国内MBAならではの特徴については参考になる内容で、進学先のMBAは一般的な修士論文とビジネスプランの提出が選択制だが、自らの得たいスキルとして修士論文を書こうと思った。

▼経営学の基礎講座

経営学の基礎講座は自分のような経営学を学部時代に専攻していない者にとって、非常に効率的にわかりやすく必要な知識をインプットできる内容になっており、合格の大きな原動力になった。この講座を2周視聴し、内容をノートにまとめるを繰り返したのでその後の課題エッセイなどにもスムーズに取り組めたと思う。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座

総論によって出願書類に求められるものは何なのか知ることができたのが非常に大きかったと思う。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座 添削利用回数

5回

▼研究計画書の研究テーマライブラリー

志望校が研究計画書の提出を求めるところではなかったのであまり視聴時間は割かなかった。ただ入学後の学習計画は面接の際に聞かれると思ってはいたので、研究計画という文脈を学習計画に置き換えて考えることである程度の意味はあったと思う。

▼面接対策講座

面接で一般的に聞かれることを知ることができたので実際の面接をイメージした想定回答などをしっかり準備することができた点はよかったと思う。ただ個別の大学院ごとのところでは自分の志望校の面接実例があまり参考になるクオリティではなく、講師からも「このレベルで受かる」という話だったので面接を軽視して対策を怠らないように注意した。

▼各種フォロー制度について（初回添削フィードバック、受験校相談、マンスリーゼミ、質問制度等）

質問制度は数回利用したがメールで確実に回答があったのでその点は丁寧に対応していただいたと感じている。

スランプ・挫折、それを乗り越えるための工夫

どうしても集中できないときは思い切って何もせずに休むことで、思うように進まない自分をあまり責めないようにした。また定期的に運動（学生時代からやっている剣道）をして汗を流すことでリフレッシュして切り替えるといったことも行った。勉強中の集中力の継続に関しては、集中力が切れてきたときには場所を変える（家→図書館→喫茶店A→喫茶店B）など環境を変えることで継続して集中できるように工夫した。また遅い時間に勉強するよりは仕事の残業時間を減らすなどして勉強をした方が体調面でのパフォーマンス低下を防げると思う。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

平日は夜遅くまで勉強するというよりは、日々の残業でしている仕事を効率的に行って定時内で可能な限り終わらせて時間を作ることで、1時間から2時間程度の時間を確保した。合格後仕事との両立になるので受験対策も受験のために時間を作るよりも日常に勉強時間を作るイメージの方が計画的に進められると思う。土日祝日は朝から18時まで逆に仕事の定時を勉強にあてた、午前中は家で勉強午後は近所の喫茶店など午前と午後で場所を変えたりすることで一日8時間程の勉強時間も集中力を維持できるように工夫した。

直前期の過ごし方

面接の練習を徹底的に行った。模擬面接はもちろん家族に想定質問を書いた紙を渡し、面接形式でそれにこたえることで伝わりにくくなっているかなどを確認しながら想定さ

れる質問に対する回答を練り上げることができた。経営学の基礎講座から特に面接や提出書類のなかで触れたところに関連するパートを繰り返し視聴することで自分の回答と実際の経営学の知見との間に乖離がないかも確認した。受験日の1週間前に追加で模擬面接を申し込みそこである程度完成形をイメージできた。

試験期間中の過ごし方

志望先出願書類の志望動機や課題エッセイを繰り返し読み込んで、面接でこの内容について聞かれていた時に矛盾なく回答できるように繰り返し練習した。この時期になるとこれまでの積み重ねをどう発揮するかという意識が強くなってきたため、基本的には勉強時間の確保よりも睡眠時間を優先するなど、どちらかという体調面の管理に気がつくった。また志望先MBAの在校生の取り組みや校友会組織の取り組みなどをインターネットで見えてモチベーションを高めて受験=きついではなく、こういった取り組みに自分が参加する機会として向き合えるようにした。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

①受験した時の手ごたえ

面接は和やかに終わったが、緊張もしていたので「これはいけた」とか「ダメだった」といった感覚はあまりなかった。ただ自分のアピールしたいことは話せたとは感じた「これでダメなら別のMBA探そう」くらいの感覚だった。

②合格した時の気持ち

当日は会社を休んで、自宅でそわそわしながら13時の合否発表時間を待った。自分の番号があったときはひとまずほっとした気持ちが大きく、番号見間違っていないか家族とも確認しました。ほっとしたそのあとにじわじわ嬉しさがこみあげてくるような感じでした。

振り返ってみて合格の決め手は？それに、当該講座はどの程度影響したのか

①合格の決め手

経営学の基礎講座と出願書類・研究計画書の書き方講座が合格の大きなポイントだったと思います。国内MBA受験は大学受験と違い正直何からやればいいのか？何が必要なのか？というところがイメージしづらいところからのスタートでしたがそこをクリアにしたことであるべき準備が分かり努力できたと思います。

②講座の影響度

合格の決め手でも記載しましたが、経営学の基礎講座と出願書類・研究計画書の書き方講座の影響が非常に大きいと思います。やるべき準備が明確になるだけでなく具体的なハウツーもしっかり講座で解説されているので効率的に学習できました。

卒業後のキャリアについて

①MBAに期待するもの

同じように仕事しながら学ぶという覚悟をもっている仲間と同じ時間を共有できることを期待しています。社会人生活も10年近いとよくも悪くも現状に慣れてしまっていて新たな成

長が難しくなってしまうので環境が変わるということに期待をしています。国内MBAの価値に懐疑的な意見もありますが、自分としては学びの内容よりも仕事と学びの両立という難しいことを乗り越えるということが国内MBAの価値の一つだと受験を通して感じています。

②今後のキャリアビジョン

個人事業のキャリアコンサルタントをより発展させて人材経営コンサルタントとして大きくしていきたいと思っています。人的資本経営への取り組みを様々な企業に定着させる支援をするようなレベルにしていきたいです。

【推薦書について】

①提出されましたか？

提出していない

受験生に対するメッセージ

志望校によって必要なものは異なるかと思いますが、私のような学部では経営学を学んでいない者でもしっかり対策すれば結果はいいものになると思います。自分の学びたいことが学べる志望校と出会い、そこに挑戦することでこれまで気づけなかったことや発見もありますし、仕事と学びの両立という大変なことを敢えて選ぶことで合否だけでは語れない自己の成長を実感することもあると思います。「楓葉は霜を経て紅なり」ではないですが、今、大変だと思っているのならなおさら乗り越えたときの自分には成長を感じます。ぜひ頑張ってください。

2025年4月入学目標

国内MBA試験合格

添削後は2日以内に修正・再提出をルーティン化

江本 壮之介 さん

30代前半

社会人

2025年4月入学目標 / 国内MBA / 秋入試対策カリキュラム / ライト

進 学 先: 青山学院大学大学院 国際マネジメント研究科国際マネジメント専攻

合格体験記

MBAを目指したきっかけ

理由は2つあって、自社グループでの事業本部長になって、現場と経営の両方に関われる人材になっていきたいという中期目標があることと、仕事をしていくうえでお客様の「DX支援」や「中期経営計画」まで踏み込んだ話を経営層の方々としていくうえで、自身のスキル不足も痛感していた。独学のその場しのぎだけでなく、定型的な学びを実践形式で経験していくことが必要だと考え始めたのがキッカケでMBA取得にチャレンジしようと思った。

アガルートアカデミーをお選びいただいた理由

YouTubeを見たのがキッカケ。そもそもMBAについて何も分かっていなかった時点で、概要や各学校の特徴、合格者のインタビュー動画などが公開されていて、アガルートで受験の準備をしようと思った。勿論、他の予備校も簡単に調べはしたが、オンラインで自身のペースで進められることや、豊富な合格実績もあったこと、そして無料資料をみて今後のイメージが自身の中で具体化ができたので、アガルートにすると決めた。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

①勉強の方針

動画を順番に見ていくスタイルで進めていた。1日何本という形で設定をして、できなかった分は翌日に上乘せしていく方法だ。今までの合格者の方々のインタビューを聞いている限り、通勤時間などにスマホで見るスタイルの方も多い印象だったが、私はPCでメモを取りながら進めていたので、基本は自宅でおこなっていた。いま思えばだが、もっと

早く各学校の提出書類を確認して、提出課題のイメージを持ちながら動画を見ていたら、メモの取り方や各動画での気付きも違ったのかなと思った。

②研究計画書のテーマ設定までの流れ

青山学院大学大学院は、課題が2つ設定されていてそれに対して資料を仕上げていく形になる。いままでのキャリアを通して、自身がどういったことをしてきたのか、どうすればもっと良くなったのか等を整理しておくスムーズに準備ができるのではないと思う。

③勉強のスケジュール

2023年

12月 学校説明会参加と他校の情報収集。

2024年

1月 他校の情報収集とYouTubeでアガルトを知る。

2月 家族にMBA受験のOKをもらう。

3月 アガルトの受講相談を受け、受講を決める。

4月 「経営学の基礎講座」動画視聴開始。

5月 「経営学の基礎講座」視聴。

6月 「経営学の基礎講座」視聴。

7月 「経営学の基礎講座」「小論文対策講座」「出願書類・研究計画書の書き方講座」「研究テーマライブラリー」などを視聴。出願書類の作成と添削開始。

8月 添削完了、出願。

9月 「面接対策講座」を視聴。模擬面接実施。

10月 本番面接、合格通知受領。

受講された講座の良さ、当該講座の学習方法

▼国内 MBA 入試攻略講座

基礎講座は動画ごとに簡潔にまとまっていて分かりやすく、自分の状況に応じていつでも進められることが良かった。基礎講座動画のみだけでなく、他項目の動画や参考資料、YouTubeの動画もあり参考にするものも多かった。添削はかなり時間をかけたが、粘り強くご指導いただき良いものができる支援を受けられたと思う。

▼経営学の基礎講座

上記で述べたように、とても分かりやすくまとまっていたと思う。章ごとに何を学んでいくのか語っていただきながら教科書には記載がない所感なども動画を見る一つの価値であると思った。

▼小論文対策講座（基本編）

結局小論文対策講座は受けていない。当時、どの学校を優先的に出願するか決めていなかったこともあり、必要になるかと思っていた。ただ、最終的には青山学院大学大学院の国際マネジメント学科国際マネジメント専攻のみに出願をしたので、小論文対策講座は受

けなかった。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座

まとめ方やポイントなどは分かりやすく、まとめられていたと思う。また参考書類として合格者の出願書類の開示もあり、様々なバックグラウンドを持つ方々の書類は自身が体裁を整えていくうえでのイメージ作りにもなった。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座 添削利用回数

2回

▼研究計画書の研究テーマライブラリー

何をどのように研究していく意味合いがあるのか分かりやすかった。研究という漠然としたイメージしか持っておらず、具体的な研究自体を理解していなかった私にとっては、大学院で学ぶ研究のイメージ作りができるキッカケになった。

▼面接対策講座

大学院の面接は、どのようにしておこなわれるのか、何が求められるのか等がクリアになった。大学院別にも特徴があり、自身は経験をしなかったが圧迫面接の意味合いなどは理解しているだけで、当日臨むうえでの心構えができると思った。

▼各種フォロー制度について（初回添削フィードバック、受験校相談、マンスリーゼミ、質問制度等）

受験校相談と初回添削フィードバックは特に為になった。MBA取得を目指すうえで、何も知らないところからのスタートで受験校相談は今後の流れやアクションを考えていくうえで重要だった。また、初回添削フィードバックでは、自分としては出来が良いと思っていた部分も、相手からすると複雑な印象を受けたりすることに気付くことができた。

スランプ・挫折、それを乗り越えるための工夫

2ヶ月以上、動画を見てメモを取ることで実施していたことから、何か受験に向けて進んでいる実感が湧かなくなってしまい、モチベーションが低下して進捗が滞ることもあった。その際は数日思いっきり何もしないことにしたり、出願を検討している大学院のことを調べたりして、合格した先にある生活をイメージしてモチベーションを上げることを意識的にしていた。人によってスランプは様々だと思うのですが、メンタル面が起因することも多いと思うので、自分の気分転換の方法を理解していると良いのかなと思う。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

基本は夕方から夜の時間に勉強時間を確保していた。日中は仕事に集中をして、家で勉強するか帰りにカフェに寄って少しでも勉強する習慣を付けていた。休日は子どもがまだ幼いため、なかなか時間が取れないこともあったが、お昼寝の時間を活用して少しでも動画を見たりしていた。職場やプライベートで飲み会がある場合や、休日お出掛けをしな

いといけない場合は、朝早く起きて勉強するか、移動の車の中で少しでも勉強することにしてた。

直前期の過ごし方

基本はアガルトの講座を受けて基礎知識のインプットを続けていた。その後は、主に大学院の出願書類の準備に追われるので、提出する課題の添削と修正の繰り返しをしていた。心がけていたこととしては、添削依頼を出してから約1週間でのフィードバックになるので、添削が返ってきてからは、なるべく2日以内に修正をして再度提出するルーティンを意識していた。常に張り詰めていると心身ともに持たないので、添削依頼を出したら1日は休むという形でリフレッシュをしていた。

試験期間中の過ごし方

出願書類の提出後は約1ヶ月後の面接に向けての準備になるので、想定質問集を自分で作成し、それに対しての回答を自分で1つずつ埋めていく作業をしていた。ただ、あまり回答を1文レベルで固定すると読み上げるだけの心がない会話になる気もしたので、重要なワードだけは押さえておき、面接のイメージをしながら独り言で回答をする練習をしていた。あとは直前期同様に、自身のモチベーションを上げるために、大学院のサイトや資料などを見て未来の生活をイメージしていた。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

①受験した時の手ごたえ

10分程の面接時間で、あまりに早く終わったため多くの会話をした感覚は無かったのだが、面接中の雰囲気や質問の内容なども踏まえて何となくの手応えは感じていた。また、自身の回答も準備したもの通りだったので早く合否が知りたいという気持ちだった。

②合格した時の気持ち

やっと一息つくことができるというのが本音だった。丁度、仕事も大変忙しい時期と出願時期と面接時期が重なりかなりキツイ期間だっただけに、一つ肩の荷が下りた感覚だった。家族からも応援してもらっていたので、良い報告をできたことが大変嬉しかった。

振り返ってみて合格の決め手は？それに、当該講座はどの程度影響したのか

①合格の決め手

出願書類の添削は大変役に立ったと思っている。合格した大学院では小論文が無かったこともあり、出願書類が1番の勝負どころだったと思っている。2つの課題提出に対して、当初から大きく内容は変更しなかったが、添削を受けたことで構成や見せ方などに変化があり良い方向に繋がったと思っている。

②講座の影響度

良い影響があったと思っている。実際に出願書類を準備するうえでも、こういった部分が重視されるのかや、基礎的な知識を持ったうえでの出願書類作成だったので、講座を受けていなければ、提出したような内容にはなっていなかったと思う。

卒業後のキャリアについて

① MBA に期待するもの

MBA取得を通して学ぶことができる知識と経験を自分の仕事に上手く活用していきたい。また、今まで見ていなかった物事に対しての課題や経営に関する考え方が、自分の目の前の仕事やキャリアにどう生きてくるか楽しみでもある。

② 今後のキャリアビジョン

自社の事業本部長になって、現場と経営の両方に関わるポジションを経験していきたいと思っている。大学院で学んだことがどこまで通用するのも楽しみの一つではあるが、MBAを取得して本当の意味での現場に適用していくことでイノベーションを起こしつつ、自身が楽しめるキャリアを形成していく道筋を探していきたい。

【推薦書について】

① 提出されましたか？

提出した

② どなたに推薦書をご依頼しましたか？

直属の上司

受験生に対するメッセージ

MBA取得を目指される理由は人それぞれだと思いますが、この理由は準備をして行く際、心が折れてしまうかと思った時に、自身の支えになると思います。家庭がある方については家族からの応援も重要になるかと思うが、自分のためにも、周りで支えてくれる人たちのためにも頑張ろうと私は踏ん張ることができた。これは人によって違うかもしれないが、周りに大学院を受験することを公表して、逃げ道を無くすのも大変な時に踏ん張れる秘訣かもしれない。

2025年4月入学目標

国内MBA試験合格

行き詰まった際には職務経歴書を書いて自己分析

福島 良太 さん

20代後半

社会人

2025年4月入学目標 / 国内MBA / 秋入試対策カリキュラム / ライト

進 学 先: 明治大学 グローバルビジネス研究科グローバルビジネス専攻

合格体験記

MBAを目指したきっかけ

元々両親が創業経営者であり、事業承継を行うべく、経営についての知識を学ぶ必要があった。またECに強いことを活かし、卸・小売がメインで販売チャネルの狭さに課題を抱えている後継経営者などが居たら、お互い得できる関係性を築きたいため。

在学中にスタートアップにもチャレンジし、お金を稼ぐという目的よりも、新しく面白いもの、社会問題を解決できるようなものを生み出したい。使っていて日々不便や不満に感じているサービスの代替となるものが無く、誰も生み出さないで自分で作りたい。

アガルートアカデミーをお選びいただいた理由

MBAを習得するという目的にフォーカスし、過去の合格実績が良かったため。地方でMBAを志すにあたって、通える予備校や参考書がほとんどなく、オンラインで受講できるアガルートが便利であったため。体験授業を受けた際に、飯野先生の講義が学の浅い私にもわかりやすく、実在する企業のストーリーベースで面白かった。MBAを習得すべき理由や日本の問題などに共感する部分が多々あったため。HPや動画にてMBAの情報が多く発信されていたため。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

①勉強の方針

制限時間のある小論文が昔から苦手だったため、最初から小論文の無いMBAに向けて勉強した。経営学の基礎はアガルートで学んだ。研究計画書・面接対策は職務経歴書から作成、とにかく軸がぶれないように注意した。

②研究計画書のテーマ設定までの流れ

以前働いていた職場ではインセンティブ給が厚く、一方で両親の会社ではインセンティブが全く無かったためカルチャーショックを受けた。とはいえノルマの無い和やかな雰囲気が好きだったため、金銭インセンティブ以外で従業員モチベーションとパフォーマンスの上げ方を考え始めた。

③勉強のスケジュール

- 4月 受けたいMBAの情報収集、その過程でアガルートの存在を知る。
- 5月・6月 志望校決定。アガルート受講・経営学の基礎講座視聴（自分の言葉でノートを取りながら1日5～10授業ほど）。
- 7月・8月 研究テーマライブラリーを視聴。それでも研究計画書が思いつかず、週1、2冊ほど文献やネットから見られる論文を読む。
- 9月 職務経歴書を書き起こし、自己分析を行う。そこから研究テーマが見つかり、研究計画書に取り掛かる。
- 10月 面接対策のテキストを読みながら自分の研究計画書を分析し読み込む。
- 11月 試験、合格発表。

受講された講座の良さ、当該講座の学習方法

▼国内 MBA 入試攻略講座

受験するMBAを選択する際に、大学名しかわからなかったためどの大学がどのようなカリキュラムでどういった人を対象にしているかがわかり有意義だった。研究ベース、ケーススタディ多め、中間型といった割り振りがわかりやすくて良かった。

▼経営学の基礎講座

様々な分野（ガバナンス・財務会計・イノベーションなど）を基礎知識がなくても学ぶことができたので非常に良かった。特に財務会計の章では今まで本質を理解していなかった指標や項目について学ぶことができて勉強になった。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座

過去にその大学院を受けた人がどのような研究計画書を書いていたのか、どのレベルで合格できたのかがわかり参考になった。

▼研究計画書の研究テーマライブラリー

どういった研究テーマがあるのかインスピレーションを得るために見ていたが、自分の発想力の無さも重なり、先生の二番煎じになってしまい、うまく活用することができなかった。おすすめの文献の紹介は研究計画書を書く上で役立った。

▼面接対策講座

講座自体は利用していない。教科書のみ読んだが、志望校の面接で聞かれた内容が記載

されているため面接の対策になった。出願書類・研究計画書の書き方講座と同じく合格者の回答例も見ることができたのでどのくらいの対策をすれば良いかがわかり役に立った。

▼各種フォロー制度について（初回添削フィードバック、受験校相談、マンスリーゼミ、質問制度等）

録画のマンスリーゼミしか利用していないが、先生のおすすめMBA紹介は参考になった。月に一度、他の受験生のエピソードが聞けるため試験日まで日がある段階でも危機感を持って良かった。他生徒の質問に対しても先生が真摯に対応していたので、丁寧だったと思う。

スランプ・挫折、それを乗り越えるための工夫

特にスランプに陥っていた時期がなかったためわからないが、研究テーマが決まらなかった時期に、一度自分のこれまでのキャリアを整理しようと職務経歴書を書き、知人に見てもらった。そこから自分の軸とすべき部分と、解決したいと思える課題が明確になり、そこから研究テーマへと派生させることができた。志望理由でもこれまでのキャリアに職務経歴書をそのまま引用できたので、講座を全て見終わっても、研究テーマが見つからず行き詰まった際には一度職務経歴書を書いて自己分析するのも良いのかもしれない。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

両親の会社に勤めており勤務時間が自由であったため、基本的には平日7時から17時まで働き、19時以降から2、3時間程度の勉強をしていた。土曜日は一日5時間程度で、日曜日は休日としていた。何も予定がなければインターネットで公開されている論文を読んでいた。経営学の基礎講座がある程度頭に入ってから、自由な時間におすすめされた本を読んでいた（コトラーのマーケティング、イノベーションのジレンマ、その他一般のビジネス書等）。

直前期の過ごし方

小論文が無いMBAを受験したため知識的な勉強はしていない。経営学の基礎講座を見る程度。

研究計画書はとにかく何度も読み込み、なぜなぜと自問自答を繰り返した。軸がぶれていないか、前後で矛盾していないかを何度も確認した。

面接対策はとにかく聞かれる可能性のある質問を書き出し、面接対策の本を確認しながら特に過去に出題されている内容を重点的に練習した。目を瞑っても研究計画書の要約が述べられるように、面接直前の時期は読み込んだ。

試験期間中の過ごし方

普段と変わらず過ごした。試験対策としては直前期の欄でも述べたが、事前に提出した研究計画書の内容を見なくても言えるように何度も読み込んだ。自分が面接相手だったらどういう質問をするか、どんな相手を入学させたいか考えながら仕事をしていた。念のため

め、面接対策として聞かれがちな自己紹介、志望理由、自分の強み弱み、自己PR、学生時代社会人時代に力を入れたこと等は言えるようにしておいたが聞かれることがなく、全て事前に提出した研究計画書内のことを聞かれた。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

①受験した時の手ごたえ

回答の途中で詰まることなくスムーズに受け答えすることができ、面接官の反応も悪くなかった。スタートアップのアイデアを述べた時に面接官の方から来年一緒にやりましようと言われたため、おそらく合格しただろうと思った。提出した研究計画書に誤字があり指摘されたため少し焦った。

②合格した時の気持ち

両親にMBAを受けることを報告していたため、無事合格して肩の荷が降りる感覚だった。面接の際に初めて訪れた街の真ん中にあるキャンパスに来年から通うことができることが嬉しい。どんな学生たちが集まり、どんな講義を受けられるのかを想像し、ワクワクしている。

振り返ってみて合格の決め手は？それに、当該講座はどの程度影響したのか

①合格の決め手

自分の軸を見つけることができたこと。MBSのカリキュラムであるスタートアップと事業承継の二軸から自分のアピールができたことから合格に繋がったと思う。MBA試験対策の教科書が無く、地方に学校も無い中、アガルートで経営の基礎から学ぶことができたので自信を持って書類や面接ができたこと。

②講座の影響度

先生が講座内で述べている経営者適格人材を頭の中でイメージしながら面接することができたのでかなり影響はあったと思う。経営学の基礎講座では過去にMBAの小論文で出題された内容について学ぶことができることから、どのレベルまで知識を習得すればいいか明確であり、効率よく準備を進められた。

卒業後のキャリアについて

①MBAに期待するもの

自分と同じく後継経営者やスタートアップを興そうとしている人材と出会い、意見を交わすこと。自社の取引先となり得る人材。事業承継にあたって発生するであろう課題を事前に学ぶことができる講義。スタートアップにおける、アイデアの磨き方やマーケティング、融資の受け方など。

②今後のキャリアビジョン

在学中にスタートアップを興す。スタートアップから発生した課題を教授や他生徒と話し合い解決策を模索、実際に改善できるか試みるPDCAサイクルを回す。企業経営から得られた経営学の知見を持ち帰り、事業承継にも役立てる。

【推薦書について】

- ①提出されましたか？
提出していない

受験生に対するメッセージ

何らかの目的意識があってMBAを習得しようとする際にまず立ちはだかるのは、どの大学がどういったカリキュラムを展開しているか、どういった試験内容で、どういった勉強や対策をすべきかについての情報が無いことだと思います。それらの情報を地方からでもインターネット授業で得ることができるのはアガルートの魅力だと考えています。点数が出る試験では無いため対策は難しいですが、日々講座に取り組んでいれば良い結果につながると思います。

2025年4月入学目標

国内MBA試験合格

アカデミック系のMBAは研究計画書の出来がカギ

塚越 祐介 さん

30代後半

社会人

2025年4月入学目標 / 国内MBA / 秋入試対策カリキュラム / ライト

進 学 先: 一橋大学大学院 経営管理研究科金融戦略・経営財務プログラム

合格体験記

MBAを目指したきっかけ

独学でコーポレートファイナンスについての勉強をしてきて、日本CFO協会のプロフェッショナルCFOの認定資格を取得しましたが、より専門的に学びたいという気持ちと、将来CFOになるために、職業人としての深い専門性を身につけたいと思い、MBAで学ぼうと考えました。その中で、経営学全般を学ぶというよりは、ファイナンスに特化して学びたいと考え、一橋大学大学院の金融戦略・経営財務プログラムを受験いたしました。

アガルートアカデミーをお選びいただいた理由

自身のキャリアを実現するための手段として、MBA進学を決め、かつアカデミック系のMBAでしたので、しっかりと対策をしなければ受からないと考え、予備校に行こうと考えました。調べていくうちに、アガルートはオンラインで完結する予備校であることが分かったため、自分の生活リズムを考えた際に最適であると考え、面談を申し込みました。

学習プログラムも、目指すMBAに必要なものがそろえられており、何をしなければならないのかがとても分かりやすかったのでアガルートに決めました。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

①勉強の方針

アガルートの講座で学び始めたのが、4月からになります。平日は毎日2～3時間程度、日曜日は6時間程度、勉強時間を確保し取り組みました。

研究計画書の作成が、一番の課題となりますので、研究計画書の書き方講座や先行研究の読み込みに比重を置きながら、数学が苦手でしたので、統計学に必要な数学を徹底的に

学習いたしました。

②研究計画書のテーマ設定までの流れ

研究計画書のテーマ設定は、6月上旬くらいに固まりました。講座でも、実務的背景（原体験）から設定されるケースが多いと説明されていて、私も、実務上で解明したいことがありましたので、テーマについて先行研究があるかをすぐに確認し、テーマ設定をいたしました。

③勉強のスケジュール

- 3月 アガルートの受講相談を受け、受講を決める。
- 4月 「経営学の基礎講座」動画視聴開始。
- 5月 「出願書類・研究計画書の書き方講座」動画視聴開始。
- 6月 研究テーマ決定、関連する先行研究の調査（CiNiiにて）。
- 7月 出願書類作成開始、国会図書館にて先行研究の論文を複数取得。
- 8月 添削にてOKを頂く、出願書類（研究計画書）仮完成。一橋説明会参加。
- 9月 出願書類（研究計画書）完成。出願。
- 10月 一次試験（書類選考）。書類選考合格後、面接対策の実施。
- 11月 二次試験（口述試験）。秋入試合格。

受講された講座の良さ、当該講座の学習方法

▼国内 MBA 入試攻略講座

飯野先生が、各MBAの特徴を丁寧に説明されており、非常にわかりやすかったと感じています。特に、アカデミック系のMBAは研究計画書のカギであり、研究者としての素養がみられるということが分かったので、とても収穫があったと考えています。

▼経営学の基礎講座

志望するMBAの受験には直接関係はしない講座ではありますが、基礎知識として理解しておかなければならない内容だったので、いいインプットになったかなと考えています。特に、日本企業の課題について、歴史から学べたことは自分にとってプラスになった部分であると考えています。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座

研究計画書を書くのが初めての経験だったので、書き方講座はとても有用でした。合格者の計画書を拝見できたのもいいインプットになったと考えております。また、実際の先行研究の調べ方などのレクチャーもあり、CiNiiで調べ、国会図書館に足を運んだのも、飯野先生のレクチャーもがあったおかげです。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座 添削利用回数

2回

▼研究計画書の研究テーマライブラリー

研究計画書を書くのが初めての経験だったので、研究テーマライブラリーは熟読いたしました。やはり合格者の計画書を見ることができるのはとてもいいインプットになったと感じています。自分が研究計画書を実際を書く際に参考にさせていただきました。

▼面接対策講座

面接対策講座の本は、試験1週間前はかなり参考にさせていただきました。

MBAの面接を受けるのが初めて、どんな質問をされるのか見当がついていなかったのととても参考になりました。各大学の面接内容から、想定質問リストを作成し、面接に臨めたことが合格の決め手になったかと思います。

▼各種フォロー制度について（初回添削フィードバック、受験校相談、マンスリーゼミ、質問制度等）

添削が2回で完了したのは、フィードバックが適切であったからだと感じています。特に研究計画書のリサーチクエスションの設定について、スコープが限定的だと、研究の汎用性が低くなるとご助言いただき、限定的と、汎用的の2つのリサーチクエスションを設け、計画書の完成度を高めることができました。

スランプ・挫折、それを乗り越えるための工夫

研究計画書を書くことが、人生で初だったため、とにかく、出願書類・研究計画書の書き方講座のテキストをよく読み、また、先行研究を複数読むことで、論文の構成を頭に叩き込んだことがよかったかなと思います。また、先行研究では説明しきれっていない要素も発見できたので、それを、回帰分析モデルの説明変数に組み込んだのは、something newになったのではないかと思います。

はじめてだらけだったので、準備期間は知識も増え、とても楽しい期間でした。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

平日は必ず、2～3時間程度、日曜日は6時間程度学習する時間を強制的に確保いたしました。4月～8月まで、研究計画書を作る期間と決めていたので、論文を読むことと、回帰分析モデルを理解するために、統計学に必要な数学の学習にひたすら取り組んでいました。

勉強を始めてしまえば、集中力が切れることはあまりないため、決めた時間、ルーティンのように取り組みました。勉強する時間、それ以外の時間としっかりわけてメリハリ付けて取り組むようにしていました。

直前期の過ごし方

直前期を2次の口述試験と考えた場合、1週間前から面接対策を開始しました。面接対策講座の本で各大学の内容を読みながら、聞かれそうな質問リストを作成し、面接のシミュレーションをひたすら行っていました。あとは、日常勉強していることを普通にやっ

ました。

試験直前期だからと、特別なことをやるよりも、普段からしていることをしっかりやりながら、いい体調を継続することが、試験当日にいいパフォーマンスを発揮するうえで大事になってくると思っていたので、平常通りを心掛け、すごしていました。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

①受験した時の手ごたえ

面接の冒頭は緊張しましたが、その後落ち着き、先方の質問に対し、しっかりと答えられました。怖いくらい先方の態度が好意的だったので、面接対策講座で読んだ内容と違うなど内心想いつつ、面接が終了し部屋を退出した瞬間、受かったかなと思いました。

研究テーマについて、しっかり説明できたことも良い点だったのではないかと思います。

②合格した時の気持ち

11月11日（月）13時が合格発表でしたので、当日はとてもソワソワしました。発表された瞬間、あれ？番号無いな？と思いましたが、自分の受験番号を何度か確認し、あることがわかり、喜びと安堵感が同時に来ました。上司や同僚も喜んでくれたので、半年間の準備期間に対する投資がまず回収できてよかったと素直に思いました。

振り返ってみて合格の決め手は？それに、当該講座はどの程度影響したのか

①合格の決め手

一橋のFSは、書類審査と口述のみの試験で、とにかく研究計画書の出来が左右するため、アガルートの豊富なノウハウは合格に寄与したと考えています。

ただ、重要なのは一橋に入って学びたいという意味と、やり抜く継続力が重要だと思うので、アガルートに依存するのではなく、自分が主になって取り組むということが大事かと思っています。

②講座の影響度

研究計画書を書くことがはじめてという人は、アガルートの豊富なノウハウに触れることがとても重要かと思っています。特に飯野先生の説明がわかりやすいので、難関のMBAを目指す方なら講座を利用しない方が機会損失を招くことになるかと思っています。

卒業後のキャリアについて

①MBAに期待するもの

私は、まずは現職でCFOを目指しているので、必要な専門的知識の深掘りをしたく、アカデミック系の一橋大学大学院FSを目指しました。この貴重な2年間を通じて、知識の習得と、普段では出会えないキャリアの方々との人脈をしっかり築き、今後の社会人人生に活かしてまいりたいと思います。

②今後のキャリアビジョン

現職でCFOを目指しているので、まずはこの2年間で、インプットとアウトプットを繰り返し、自身のレベルを高め、また、組織における信頼残高を積み上げし、目標を達成

します。

5年以内には実現したいので、密度の濃い時間を過ごしていきたいと思います。

【推薦書について】

①提出されましたか？

提出した

②どなたに推薦書をご依頼しましたか？

直属の上司

受験生に対するメッセージ

自分のキャリアの実現に向けて、MBAは1つの手段でしかありません。しかし、もし、選択としてMBAに行き、学びたいと思うなら、まず、準備にとっても時間がかかることや必要な学習に取り組まなければならないことを意識することが重要です。

また、入学してからも、授業はかなりハードになることが想定されるため、復習や予習が欠かせないことになります。正味3年間、MBAに時間を投資することになりますので、投資した時間を十分に「価値」として回収できるか？よく考えたうえで決断された方がよいと思います。

決断後、MBA準備をするにあたってアガルートには、とてもノウハウが豊富な学習コンテンツを提供していただけるので、サポート役としてとても有用だと思います。

2025年4月入学目標

国内MBA試験合格

毎日テキストを開き不足している知識を身につけた

龍見 隆太郎 さん

20代前半

学生

2025年4月入学目標 / 国内MBA / 秋入試対策カリキュラム / ライト

進学先：慶応義塾大学大学院 経営管理研究科

他の合格先：立教大学 ビジネスデザイン研究科, 立命館大学 経営管理研究科

合格体験記

MBAを目指したきっかけ

私がMBAを目指すことになったきっかけは、自身が起業する学生コンサルティング会社の経営を盤石なものにしたいと考えたためです。大学1年生の3月にNPO法人を設立し、これまでに有償・無償を問わず様々な事業を手掛けてきました。そのため大学卒業後は就職ではなく起業をしたいと考えていましたが、現在の自分自身が保有する知識では不十分であると感じていました。そのためMBAに進学することで経営者として必要な知識を最短で身につけ、自身の目標である学生起業の成功率を高めようと考えました。

アガルートアカデミーをお選びいただいた理由

アガルートアカデミーを選択したきっかけは、合格特典の存在とテキストの豊富さです。まず、私自身、扶養学生で金銭的に余裕があるとはいいがたいため、合格特典で全額返金制度がある点は非常に魅力的に映りました。また、お試しとして郵送していただいたテキストは非常に内容がよく、これまでの受験生の面接再現が非常に細やかにされている点が自身の面接の成功率を上げることに大きく寄与するのではないかと感じられたため、受講を決定しました。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

①勉強の方針

勉強において心掛けた点は、毎日テキストを開くことです。これまでの自身の経験から、経営学の知識が不足している点が明らかだったために毎日通学時間を活用して学習を行い

ました。一度に多くを学ぼうとせず、コツコツを心がけると良いと思います。

②研究計画書のテーマ設定までの流れ

研究計画書のテーマについては、自身が行いたい事業に必要な知識を想起した際に自然と決定され则认为られます。MBAを志す時点で何かしら経営について取り組みたい・学びたいことがあると认为られますので、そちらをベースに改良しました。

③勉強のスケジュール

7月：MBA受験の決意。立命館の出願書類を作成（1週間ほど）

8月：慶應や青学、立命館の研究計画書の作成（1週間ほど）

9月：立教と立命館の面接試験。面接再現レポートを読みながら準備。添削システムを利用して早稲田の出願書類準備。立教ビジネスデザイン専攻に合格。慶應1次合格

10月：青学面接試験

慶應面接試験

立命館合格

青学不合格

慶應合格

11月：早稲田1次不合格

終了

受講された講座の良さ、当該講座の学習方法

▼国内 MBA 入試攻略講座

講義動画はあまり活用することができませんでしたが、数多く送られてきたテキストは非常に役立つものであったと认为しています。各合格者の体験レポートや各校の特色に加え、経営学の基礎知識を学ぶことができた点が大きかったです。

▼経営学の基礎講座

動画に関してはあまり利用していませんが、テキストに関しては一通り読み込みました。家で学習する際に書き込み等を利用して本格的に知識を深めることのできる紙媒体と、出先や大学、通勤時間等で読み進めることのできるオンラインの両方が用意されていた点が使いやすかったです。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座

こちらの講座に関しては、各校の特色を把握するまでにとどめました。講座を受講してから最初の出願書類を提出するまでの期間が2週間程度しか存在していなかったため、比較的急いで執筆を進めなくてはしかなかったことが理由です。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座 添削利用回数

1回

▼研究計画書の研究テーマライブラリー

研究計画書の研究テーマライブラリーに関しては利用していません。先に述べた時間的な制約の存在もありますが、そもそもMBAの受験を決意したタイミングですでに自身が研究したいテーマが定まっており、新たに検討する必要がなかったためです。

▼面接対策講座

こちらに関してはテキストが非常に良く役立ちました。各学校の特色を把握することに加え、学校の合格者がどのような質問を過去にされたのか理解することによってより効率的な対策を行うことができたと考えています。

スランプ・挫折、それを乗り越えるための工夫

スランプや挫折は特に経験しませんでした。しいて言えば早稲田大学の不合格ですが、受験を進めていく中で第一志望校が慶應に変更となったためにあまり挫折であったとは思っていません。特に自身の受験スケジュールの関係上、立教（第三志望）合格→立命館（第五志望）合格→青学（第四志望）不合格→慶應（第一志望）合格→早稲田（第二志望）不合格となったため、あまり明確な挫折はありませんでした。そのため順調に取り組むことができたと感じています。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

私は大学生であり、かつ4年生のため比較的学習時間に余裕がありました。特に私がMBA受験を決定した7月はすでに夏休みであったため、アルバイトの時間を除き好きな時間に学習することができました（実際、自分自身が一日に学習していた時間は1時間に満たない程度の日が多くありましたが）。しかし、自身が日々NPO法人理事長と個人事業主としての業務を数多くこなしているため、経営学の知識に関してはそこが学びになっていることが多かったと思います。

直前期の過ごし方

直前期であったとしても、基本的に生活のスタイルや勉強方法については変えていません。アルバイトは前日まで通常通り出勤し、面接会場が近かった日は面接が終了した後そのままアルバイトに向かいました。また、勉強はむしろ直前期になるにつれ減り、これまでやってきたことをどのように伝えようかと考えにふける時間が多くなったように思います。そのため基本的に落ち着いた状態とリラックスした心構えで面接に臨むことができていました。

試験期間中の過ごし方

試験期間中は非常にリラックスしながら過ごしていました。受験ではなく小旅行のようなのだと考えて行動していたこともあり、立命館の面接などでは1日目終了した後に観光を楽しんでいました。他の受験においても、基本的に昼食などの楽しいことを考えて過ごしていた方が自然体で取り組むことができます。むしろ常時受験のことを考えている

と本番で不必要に緊張し、あべこべなことを言ってしまう（嘘を準備していると特に）ため、受験が終わった後のことを考えておくといいのではないでしょうか。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

①受験した時の手ごたえ

合格した3校については、受験を終了した時点で基本的に合格しただろうと感じていました。不合格となった2校のうち青学に関しては、面接の段階ですでにより志望度の高い学校の合格を得ていたために準備をあまり真面目にせず、不合格だろうなという面接だったため納得でした。

②合格した時の気持ち

当然嬉しい気持ちもありましたが、自身のこれまでの経歴ややりたいこと、そしてそのためのリサーチを十分に行っていたため、不遜ではありますが「まあそうだろう」と思うような気持ちもありました。むしろ、そのように思えるまで準備をしておくべきだとも思っています。

振り返ってみて合格の決め手は？それに、当該講座はどの程度影響したのか

①合格の決め手

大学生の時分から起業を行っていたことに加えて、MBAへの入学を希望する目的が自身の経歴とマッチしていたことにあると考えています。面接や研究計画書、自身のキャリアについて十分な一貫性を保つことができた点が最も重要であると考えます。

②講座の影響度

面接再現レポートや経営学の基礎講座については十分な学習を提供していただいたと感じているため、影響力はあったと思います。ただ、あくまで講座はサポートとして利用し、自身の能力の基礎を形成する役割は自分自身で行うべきであると考えています。

卒業後のキャリアについて

①MBAに期待するもの

会社経営に関して必要となる一般的な知識を身につけることに加えて、日本経済全体に対しての動向を読み取り、どのような事業分野において新たな起業を促進できるかどうかを見極める力を養うことができる環境を期待しています。

②今後のキャリアビジョン

MBAを受験するきっかけにもなった学生起業に向けて、自身の能力を強化するとともに日本国内において新規学生起業を促進できる環境の構築に向け取り組んでいきたいと考えています。現状、一般企業に就職するかについては未確定です。

【推薦書について】

①提出されましたか？

提出していない

受験生に対するメッセージ

私のように新卒からMBAに進学したいと考えている受験生に向けたメッセージとしては、本当に自分自身のキャリアにMBAが必要なかどうかを考えるべきだと思います。学生の段階や卒業後間もない状態に起業をしたいと考えていたり、親族の事業を承継したいと考えているのであればとても良い選択肢であると思います。であれば、自然と面接の内容や出願書類の記入もこなせるのではないのでしょうか。自身の望むキャリアをしっかりと見つめ、それに本当にMBAが必要なのかを考えた時点で、合格に向けて動くことができると思います。応援しています。

2025年4月入学目標

国内MBA試験合格

添削と模擬面接による客観的な分析が合格の決め手

堀川 旬 さん

30代前半

社会人

2025年4月入学目標 / 国内MBA / 秋入試対策カリキュラム / ライト

進 学 先：早稲田大学 研究管理研究科夜間主総合

合格体験記

MBAを目指したきっかけ

新卒で現在の所属企業に入社し、主に総務・経理を担当してきましたが、戦略企画系の業務に携わるようになり自分の力量不足を感じるとともに、仕事の面白さを感じていました。そのような中、将来のキャリア計画を考えたときに自分自身で選択肢を広げたいと考えMBA取得を目指すことに決めました。

自分がMBAを目指すことを決めたタイミングと同時に会社で公募があることを知りました。公募の選考で何故MBAを学ぶ必要があるのか自分で考える機会があり、きちんと自分の頭を整理したうえで大学院受験に挑むことができました。

アガルートアカデミーをお選びいただいた理由

6月に受験資格を得たのでそこから最短距離で合格するために予備校は必須だと考え、いくつかの予備校を検討しました。

其中でアガルートを選んだ理由は、①通信講座なので自分のタイミングで学習ができる ②添削指導が何回でも受けられる ③キャッシュバックがある この3点です。

①は仕事と家庭を考えたときに通学ではなく通信の方が、融通が利くと判断しました。②は受験において研究計画書が一番重要と考えていたのでそこが添削無制限は非常に魅力的でした。③は最初に支払う金額は高額になりますが、合格後のキャッシュバックを利用すればコストパフォーマンスが非常に高いと考え、総合的に判断してアガルートに決めました。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

①勉強の方針

基本的には自分と家庭のペースを乱さないように隙間時間を活用して勉強を進めました。経営学の知識は学部時代も含めてほとんどなかったため、基礎講座を早いうちに1周させてざっくり経営学の全体感を掴んでから研究計画書やエッセイの作成に取り組みました。

②研究計画書のテーマ設定までの流れ

最初は自分のキャリアゴールの理想像を意識して、社会課題の解決に寄与できるよう大きなテーマで研究計画書を作り込みましたが、添削いただいた際にテーマが壮大すぎてMBAの研究テーマとしては難しい印象を受けるとのフィードバックをもらったため、自分の業務課題から見直してテーマの範囲を絞り込みました。

③勉強のスケジュール

- 4月 MBA受験を考え始め、インターネットで情報収集
- 5月 志望校を決めて社内公募に応募、社内公募の書類審査合格
- 6月 社内公募の面接審査に合格し受験資格を得る、アガルト申込み
- 7月 基礎講座1周目
- 8月 基礎講座2周目、研究テーマの絞り込み（研究計画書の書き方講座、研究テーマライブラリー聴講）
- 9月 早稲田のエッセイ作成
- 10月 MBA関連書籍や合格体験記の読み込み
- 11月 1次試験合格発表後から面接準備（面接再現の読み込みと面接対策講座聴講）

受講された講座の良さ、当該講座の学習方法

▼国内 MBA 入試攻略講座

経営学初心者でも理解できる講座構成になっており、実務でも受験でも活用できる内容でした。基本的には通勤時間等の隙間時間を活用して学習を進めていました。視聴速度はしっかりと理解できる限界のスピードである1.5倍速で受講していました。

▼経営学の基礎講座

経営学の知識はあまりなかったですが、初心者でも分かりやすいように説明していただいたのでつまづくことなく講義を進めることができました。経営学初心者ということもあり、基礎講座は重要と考え一番最初に取り掛かり、早めに1周させました。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座

研究計画書の書き方のポイントを中心に自分が志望する（興味のある）大学院の合格者答案を参考にさせていただきました。合格された方がどの程度の粒度で記載されているかを知ることができたので非常に参考になりました。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座 添削利用回数

3回

▼研究計画書の研究テーマライブラリー

研究テーマを考える際に参考にしました。テーマ毎に使えそうなキーワードの説明があったため、自分の興味関心と比較しながら視聴していました。興味関心がなかった分野でも面白そうな話を聞いたので受験関係なしにためになりました。

▼面接対策講座

1次試験合格後に視聴しました。基本的な質問事項と大学別に章が分かれていたため、自分の受験する大学のみ視聴しました。面接レポートでは、具体的な質問内容やどのような雰囲気なのかを確認することができたので本番までの不安解消になりました。

▼各種フォロー制度について（初回添削フィードバック、受験校相談、マンスリーゼミ、質問制度等）

初回添削フィードバック、模擬面接、マンスリーゼミを活用しました。初回添削フィードバックと模擬面接は実際に早稲田大学大学院を修了された方が対応していただいたので非常に説得力があり参考になりました。マンスリーゼミでは受験のタイミング毎に必要な情報を共有していただいたので、アーカイブを活用して視聴していました。

スランプ・挫折、それを乗り越えるための工夫

研究計画書を1回目に提出した段階で研究テーマの全面的な修正指示が入った時が一番しんどかったです。ある程度自分で納得できるものを作成してから添削に出そうと考え、論文等を読み込んだ上で作成していたのでショックでした。乗り越えた工夫としてはアガルートの実績を信じて自分の考え方を柔軟に変更し、フィードバックでいただいたアドバイスを忠実に従ったことです。フィードバックの中でポジティブな言葉もちりばめられていたおかげで完全に心が折れることなく粘り強く思考を続けることができました。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

家庭の時間を犠牲にしないように隙間時間の活用を意識していました。通勤で片道1時間弱かかっていたため、平日の勉強時間は基本的に通勤の2時間程度と、土日は子供の寝かしつけが終わった後の時間や運転中の時間を利用し、講座を聞き流して勉強していました。講座は頭の中で理解できる速度が1.5倍速だったので、そのスピードで常に聞いていました。エッセイ提出の2週間前ぐらいからは仕事終わりに会社に残って平日は4時間程度、土日は半日ほど学習に費やしていました。

直前期の過ごし方

1次試験のエッセイ提出は直前に研究テーマを再考する必要があったため、自分が納得できるギリギリまで添削・修正を行いました。先行研究については、Google Scholarや国

立国会図書館を利用して興味がある分野の先行研究を読み込みました。

2次試験は1次試験の結果が出るまでは基本的に何か対策をすることはありませんでした。1次試験合格発表後、提出エッセイの読み込みを中心に想定される質問と回答を頭の中で整理させていました。隙間時間では常に何故MBAで学習したいのか、何故早稲田なのかを繰り返し自問自答していました。

試験期間中の過ごし方

合格するイメージを常に持ち、合格後にどのように仕事と両立していくかを考えながら過ごしていました。体調管理にも気を付け、不規則な生活習慣にならないように睡眠時間の確保や感染症対策は徹底して行いました。

また、親しい友人や会社の一部の方には受験していることを伝えて自分自身に程よいプレッシャーをかけていました。お伝えした皆様から応援していただいたり、気にかけていただいたことでモチベーションを落とさずに試験期間を過ごすことができました。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

①受験した時の手ごたえ

一次試験（エッセイ）はギリギリまで修正して提出したこともあり合格するか不安はありました。

二次試験（面接）に関しては、面接官と自然に会話ができていたため手ごたえを感じたので合格するだろうと思いました。逆にこれで不合格だった場合、リベンジに向けての要因分析が難しいなと感じました。

②合格した時の気持ち

合格発表を確認して自分の番号を見つけた瞬間は、うれしい気持ちとプレッシャーから解放された安堵の気持ちが両方押し寄せてきました。仕事と受験勉強を両立することは想像以上に大変でしたが、努力が報われて良かったです。

振り返ってみて合格の決め手は？それに、当該講座はどの程度影響したのか

①合格の決め手

添削サービスと模擬面接が合格の決め手であったと感じています。自己流では大学院側がどのような印象を持つかを客観的に分析することができなかったと思うので、大学院受験を熟知している講師陣からのフィードバックは有意義でした。

②講座の影響度

経営学の知識をしっかりと学習することがなかったため、実務的な意味も含めて基礎講座は非常に役立ったと感じています。受験対策という意味では特に出願書類・研究計画書の書き方講座、研究計画書の研究テーマライブラリー、面接対策講座が役に立ちました。

卒業後のキャリアについて

①MBAに期待するもの

自分の将来的なキャリアの選択肢を増やしてくれることを期待しています。経営学の体

系的な知識の習得はもちろんのことですが、大学院でともに学ぶ多様なバックグラウンドを持つ学生や第一線で活躍する教授陣とのディスカッションを通じ、視座を高めることで様々な分野に興味関心を広げていければと思います。

②今後のキャリアビジョン

MBAで経営に関する幅広い知識を習得し、現在所属している企業でその知識を活用して収益の柱となる新規事業を創出していきたいと考えています。将来的には経営幹部として重要な意思決定を任されるポジションに就きたいです。

【推薦書について】

①提出されましたか？

提出していない

受験生に対するメッセージ

大学院受験は大学受験や資格試験と違い明確な答えがないためどれだけ準備しても不安は払拭されないと思います。大学院合格がゴールではありませんし、受験のために学んだことは将来的に役に立つものだと思いますので、結果がどうであれ後悔しない選択（妥協をしない）をしていただければと思います。

答えのない試験ですが、アガルートの講座を聞いて自分で試行錯誤をすれば自ずと答え（自分のキャリアビジョン）が見えてくると思いますので最後まであきらめず頑張ってください！

2025年4月入学目標

国内MBA試験合格

行き詰ったときアガルートが壁打ち役になってくれた

西 彩奈 さん

40代前半

社会人

2025年4月入学目標 / 国内MBA / 秋入試対策カリキュラム / ライト

進 学 先: 早稲田大学 大学院経営管理研究科

合格体験記

MBAを目指したきっかけ

現在コンサルタントとして勤務していますが、クライアントからの相談や課題に自分が答えられず、経営分野に関する圧倒的な自身の知識不足を日々の仕事で痛感しました。このままだと、自分ができることしかクライアントに提示できない、経営者が今何を知っているのかを私も学び、その上で、クライアントに最適なソリューションを提供できるようになりたいとMBAを目指しました。また、ちょうど夏～秋ごろにMBA取得者複数名とご縁があって、社外活動と一緒にする機会があり、彼らの話を聞いて、自分も学び直しが要だと思ったからです。

アガルートアカデミーをお選びいただいた理由

応募のタイミングまでもう半年もないタイミングで、MBAの受験を決意しました。来年受験するという選択肢ももちろんありましたが、目の前にあるクライアントに少しでも最適なソリューションを提供するためには、1年後の受験では遅いと感じました。合格するためには、さすかに応募まであと数か月、独力では難しいだろうと思い予備校を探しました。そのような中で、合格率の高さと飯野先生のYouTubeを聞いて、アガルートに申し込むことにしました。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

①勉強の方針

コンサルタントとして勤務していたために、ある程度経営学の知識は身につけていたのですが、それよりも大学院が課しているエッセイの執筆に時間をかけました。カッコよい文章

を書くというよりも、アガルートのテキストを見ながら、先輩はどのような構成で何を書いているのか学び、自分の経験を言語化することに時間をかける方針で挑みました。面接対策は、書類が通ってからやろうと思って、12月まではひたすらエッセイの書き直しをしました。

②研究計画書のテーマ設定までの流れ

最初は研究したいテーマが沢山あって、どのテーマに絞るか非常に悩みました。知り合いに相談する中で、研究テーマを変えるべきだとアドバイスくださる方もいて、非常に悩みましたが、自分が最もやりたい研究テーマを選択することにしました。耳触りの良いテーマではなく、自分が本当に心からやりたい！（MBAに入る理由の1つ）というテーマを選択しました。テーマに悩んだときは、新聞や書籍・論文にも目を通しました。自分以外の方が、そのテーマにどのような意見を持ち、どのような研究をされているかも踏まえて、テーマを設定しました。

③勉強のスケジュール

- 10月 アガルートに申し込み。申し込んだ当日から動画を視聴。
- 11月（前半）一から動画を見ていたら間に合わないことに気づき、研究計画書の動画を優先して視聴。そしてまずはエッセイを書き始める。添削サービスに提出。
- 11月（後半）研究計画書については、国会図書館に行きながら、関連の論文なども探し、添削サービスで添削してもらったアドバイスを参考に書き直す。もう一度くらい添削に出したかったが間に合わなかった。
- 12月 ひたすらエッセイを書き直す。締切日ぎりぎりまで直し、提出。
- 1月 提出が落ち着いてひと段落するが、きっと書類審査の発表があったら、面接が混みあうだろうと、合格発表前に模擬面接を経験。
- 2月 模擬面接でいただいたアドバイスをもとに、自己紹介や志望動機などオーソドックスな質問を練習する。

受講された講座の良さ、当該講座の学習方法

▼国内 MBA 入試攻略講座

飯野先生がわかりやすく説明してくれたので、動画を聞いて、受験のモチベーションが高まりました。単に文章を読み上げる先生だと最初から動画を見たくないと躓きがちですが、飯野先生のキャラクターが明るく、楽しくて、その後の継続学習につながりました。

▼経営学の基礎講座

正直、早稲田は今回小論文の試験がなくなったので、あまり見ませんでした。経営学の知識は、エッセイや研究計画書がある程度仕上がったら、戻ってこうと思っていましたが、提出書類がぎりぎり、結局戻ってこられませんでした。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座

大学別に動画内で解説してくれたのは非常に助かりました。一口にMBAと言っても大

学院によってもカラーがありますし、見ているポイントも違うので、大変参考になりました。私は自分が受験したい早稲田だけを中心に視聴しました。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座 添削利用回数

1 回

▼研究計画書の研究テーマライブラリー

そもそもこういったコンテンツが提供されていることを知りませんでした。私は受験を決めたのが、応募ぎりぎりだったことや、冬入試で、ここでダメなら来年になってしまうため、本当に自分に必要なコンテンツに絞って利用・視聴しました。

▼面接対策講座

志望する大学院を卒業された方、かつ、経営者の方が面接官をされているということで安心感がありました。また、書類の添削もしてくださった方が、模擬面接の面接官もしてくれ、一貫して受講生をサポートしてくれるのでありがたいです。

▼各種フォロー制度について（初回添削フィードバック、受験校相談、マンスリーゼミ、質問制度等）

初回添削サービスは、書類の添削だけではなく、フィードバックもあったので、対話ができ、質問もできた点が非常にありがたかったです。特に、初めての経験の場合、単にテキストでのやり取りだけだと、どうしても不安が残るので、このサービスは貴重でした。

スランプ・挫折、それを乗り越えるための工夫

正直、受験を決意してから書類の提出締め切りまで、あまりにも時間がなかったので、スランプや挫折はありませんでした。むしろ、受験のための時間があまりとれず、どうやって時間を捻出するかが私にとっては課題でした。ただ、周りはMBA受験に反対する人もいました（私の目指す将来に向けて、MBAを取るのが最適なのかどうかという視点）。そこについては、自分で自問自答しながら、何度も自分のキャリアを考えてみましたが、やはりMBAが必要だと決断しました。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

正直、仕事と家事・育児以外の時間はすべて、学習（主に受験書類の作成）にあてました。趣味の時間もなければ、リラックスする時間もない。飲み会も断り、付き合いの悪いやつに見られているだろうと思い悩む時期もありましたが、それ以上に、WBSに入りたい、今年度入りたい、WBSで学びたい、WBSで学んだあとの自分の将来を想像するのが楽しくて、仕事などの時間以外をすべて受験対策に充てることは苦ではありませんでした。多少睡眠時間も削りました。

直前期の過ごし方

書類提出（一次試験）前は、通勤もトイレも（笑）、お風呂も、ご飯を食べている時も

すべて書類の内容について頭の中で考えていました。面接前（二次試験）についても、同じような感じでした。ただ、きれいな文章や回答を作るというより、ひたすら、自分はなぜMBAを取りたいのか、WBSに入りたいのか、今後自分は何を成し遂げたいのか、これまで自分はどのようなことをやってきたのかとひたすら考えていました。面接前は、これだけ準備してきたのだから、自分は大丈夫だ！ と勇気づけて当日を迎えました。

試験期間中の過ごし方

冬の時期ということもあり、風邪やコロナ、インフルエンザなどには細心の注意を払いました。仕事柄、出張も多かったのですが、人込みでは必ずマスクをする、仕事以外は外へ出歩かない、部屋の加湿をする、免疫が下がらないように、仕事等以外の時間は、受験対策をするか、睡眠という生活を心掛けていました。面接当日、待合室に通された後は、ひたすらこれまで自分がやってきたこと、今後やりたいことを頭の中で整理していました。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

①受験した時の手ごたえ

書類提出（一次試験）の時は、正直手ごたえはわかりませんでした。添削も1度しか利用できなかったためです。面接（二次試験）についても、面接が終わった後は、合格か不合格か正直わかりませんでした。自分が出した「素」を大学院側がどう評価するのだろうと、それによって合格が決まると思っていました。

②合格した時の気持ち

出張中の新幹線の中で、合格発表を見たのですが、受験番号を見た時の感動は忘れません。私は人生で一度も受験という経験をしたことがなかったので、学校を受験して合格発表を見るときの気持ちを初めて味わいました。これまで、寝食と仕事以外の時間は、すべて受験対策に充ててきたので、努力が報われたと感じました。

振り返ってみて合格の決め手は？それに、当該講座はどの程度影響したのか

①合格の決め手

自分を偽らずに、自分は何者で、何をこれまでできてきて、これから何をしたいのか、どうなりたいのか、そのためにMBA、WBSをどう活用するのか、徹底的に考えたことだと思っています。そのためには、1人で考えていても行き詰まってしまうことがあるので、壁打ち役であるアガルートがいてよかったです。

②講座の影響度

飯野先生の講義や合格体験記など、過去合格した先輩方が何を考え、どのようなキャリアを歩み、どのような書類を書いて合格したのか知ることができたことは大きかったです。我流、独学でやっていたら合格はなかったかもしれません。

卒業後のキャリアについて

①MBAに期待するもの

経営者の視点で当然に知っておくべきことを学び、クライアントの課題と一緒に寄り添

えるコンサルタントになるための知識を学べと思っています。またWBSは非常にネットワークが広いと聞いているので、多様な皆様にお会いできるのが楽しみです。

②今後のキャリアビジョン

人的資本経営のコンサルタントとして、クライアントに課題に寄り添えるコンサルタントになりたいです。特に、プロダクトアウトのように当社側の都合ありきの押し付けではなく、マーケットインのようなクライアントニーズに最適なソリューションが提案できるコンサルタントになりたいです。

【推薦書について】

①提出されましたか？

提出していない

受験生に対するメッセージ

私はいわゆる大企業に多くいらっしゃるような高学歴・ピカピカのキャリアではありません。新卒での就職に躓き、その後も、自分のやりたいことがなかなか見つからないままのキャリアを歩んできました。でもここ数年、自分のやりたいことが見つかり、努力を重ねれば扉が開くことがわかりました。皆様もご自身のやりたいことをやるために、MBAが必要だと感じるなら、頑張ってください！ 皆様に、キャンパスでお会いできることを楽しみにしています。

2025年4月入学目標

国内MBA試験合格

書籍や学術論文を片っ端から読み漁り テーマ設定

石原 裕丈 さん

40代前半

社会人

2025年4月入学目標 / 国内MBA / 秋入試対策速習カリキュラム

進学先：筑波大学 人文社会ビジネス科学学術院ビジネス科学研究群

他の合格先：一橋大学 経営管理プログラム

合格体験記

MBAを目指したきっかけ

私は新規事業部の経営企画部門に所属して、事業部長の意思決定を補佐する役割を担っています。事業部の意思決定は事業部長をはじめ、営業、生産、技術などの各部長と合議のもとで下されます。それぞれの部長はその道のプロですが、必ずしも経営学に精通しているわけではありません。一方で海外の競合他社の意思決定者は欧米の大学のMBAホルダーばかりです。このままでは技術で優っていても、経営力で敗れて新規事業が上手く立ち上がらないのではないかと危惧していました。しかし、私は元々技術系で経営学の知識が乏しく、感覚的には議論がおかしい方向に向かっていると感じながらも、理論立てて幹部たちに助言することができませんでした。そこでMBAに行き経営の専門的な知識を身につけ、事業部長にプロフェッショナルなアドバイスができるようになりたいと思いMBAを目指しました。

アガルトアカデミーをお選びいただいた理由

3つ理由があります。1つ目は飯野先生です。YouTubeで飯野先生のド派手な衣装に衝撃を受け、思わず視聴したことがきっかけです。衣装とは対照的に動画の内容はとても真面目で、分かりやすく、ロジカルだったので、受講してみたいと思ったことが1つ目の理由です。2つ目は勉強のしやすさです。全てオンラインで完結し、動画も10～20分程度で隙間時間に勉強できることに魅力を感じました。仕事をしながら勉強するので、受講しやすさは大事なポイントでした。3つ目はカリキュラムの豊富さです。志望校に合わせて様々なカリキュラムが用意されており、また受講者に合わせてアドバンス、フル、ライ

ト、速習など様々な選択肢が用意されていることも魅力的でした。私は5月末から受講を開始したので、フルカリキュラムですと、講義に時間が取られ重要な研究計画書の作成の時間が確保できないことを懸念し、速習プログラムを選びました。自分にあったカリキュラムを選択できることは大きな魅力でした。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

①勉強の方針

第一志望に筑波大を目指していたので、研究計画書が最も重要であると認識し、「いかにして研究計画書の完成度を上げるか」を勉強の方針としました。研究計画書の完成度は「テーマ設定」と「研究の実現性」を考え、テーマ設定のために勉強の前半はインプット（講義受講や書籍を読むこと）を7割、アウトプット（実際に研究計画書を書く）を3割としました。テーマが決まり、研究の実現性を書く段階になると、インプット3割、アウトプット7割に変えることにし、全体の学習スケジュールを立てました。

②研究計画書のテーマ設定までの流れ

「自分の興味のあること」且つ「業務上の課題と関連していること」の2つを軸に定め、テーマ選定を行いました。まず経営学の脳に変えるために、経営学の基礎講座の動画視聴を優先させつつ、前述の2つのキーワードに沿って書籍を読むことを始めました。書籍の引用文献を見るために、国会図書館に行ったり、Google Scholarで検索したりして、学術論文を読むようにしました。論文を読む際はレビュー論文と引用数の多い論文から優先して読みました。特にレビュー論文は興味のあるテーマ研究状況がよく分かり大変参考になりました。

③勉強のスケジュール

- 1月 何となく国内MBAに行きたいなと思うようになり、調べ始めた。
- 2月 飯野先生のYouTube動画に衝撃を受ける。志望校選びを説明する動画が大変分かりやすく、志望校選びを開始した。
- 3月 仕事が多忙で特に何もできず。
- 4月 仕事が多忙何もできなかったが、アガルートの筑波大MBA紹介zoomに参加して、進学したいと決意した。
- 5月 予備校選びを開始した。アガルートの受講相談を受けて受講を決めた。自分にあったカリキュラムがあったことがアガルートを選んだ理由。
- 6月 「経営学の基礎講座」を毎日視聴した。頭の中のロジックを経営学の論理で考えられるように、日常のニュースや仕事の案件も経営学の角度で見えるようにした。並行して「研究計画書の書き方講座」「研究テーマライブラリー」を断続的に視聴し、研究テーマ選定のため書籍を読み始めた。
- 7月 継続して「経営学の基礎講座」を視聴した。研究テーマを決めるために、国会図書館に行ったり、Google Scholarで検索したりして、学術論文を読んだ。月末にはテーマを決めた。

8月 研究計画書の作成に集中した。お盆前に最初の研究計画書を提出し、お盆明けに添削を受けた。リサーチクエスションと分析方法の箇所ので修正が多かった。時間がなかったので、国会図書館には行かず、Google Scholarで学術論文を検索して、参考文献を見直し、リサーチクエスションと分析方法を再設定して月末に再提出した。仕事も忙しく、本当に時間がなかったので、深夜、または早朝に研究計画書作成に取り組んだ。2回くらいは徹夜した。

9月 研究計画書がメイン。添削を受けて修正→添削→修正を繰り返す。リサーチクエスションは設定できたが、統計分析の方法を設定するところで躓いた。講師のアドバイスで読んだ論文をきっかけに参考となる文献を見つけることができ、分析方法も設定することができた。9月中旬に講師より提出OKの添削をいただいた。8月中旬から9月中旬までの週末はほぼ家に籠って研究計画書を作成していた。平日は仕事の状況に合わせて遅寝または早起きをして研究計画書を書いた。通勤時間に「経営学の基礎講座」を耳だけで聴講した。月の下旬から「小論文対策講座」を視聴して、志望校の過去問題を解き始めた。月末に第一志望は筑波大ビジネス科学研究群、第二志望は一橋大経営管理で出願した。一橋大の将来計画書は筑波大の研究計画書を要約して作成した。また願書の準備は思ったより時間が掛かった。出願週の週末はほぼ出願書類一式の準備と手続きに費やした。

10月 前半は「小論文対策講座」視聴と「小論文添削（大学別）講座」をメインに行った。テキストに無い志望校の過去問も解いて練習した。後半から「面接対策講座」を視聴し、面接用の原稿と想定質問集を作成し、面接の練習をした。下旬に模擬面接を受けた。大きな修正点はなかったが、フィードバックいただいたことを参考に面接の原稿と想定質問集を修正し、さらに練習を繰り返した。隙間時間に「経営学の基礎講座」を視聴した。月末に一橋大の一次試験（小論文）を受験した。例年通り文章を読んで解答するパターンだった。難易度は高くなく、そこまで点数差は付かないのではないと思った。

11月 受験直前は「小論文添削（大学別）講座」と「面接対策講座」を繰り返し受講し、小論文と面接の練習を行った。研究計画書を何度も読み返し、面接用の原稿と想定質問集に加筆修正を行った。過去の受講者の面接再現レポートは大変参考になった。11/9に筑波大の小論文と面接を受験した。11/10に一橋大の二次（面接）を受験した。どちらも想定していた内容が7～8割くらいだったので、それなりにできたと思う。ただすごく手応えがあった訳ではなく、不合格もあり得ると思った。念のため、他校の2次試験も調べ始めた。月の下旬一橋大の合格通知を受け取った。

12月 初旬に筑波大の合格通知を受け取り、受験勉強を終了した。

受講された講座の良さ、当該講座の学習方法

▼国内 MBA 入試攻略講座

入試までの全体像を掴むことができたので、大変参考になりました。特に研究計画書の

作成に近道はなく、もがき苦しむ過程がどうしても必要だと分かったので、覚悟して臨むことができました。テーマ選定に苦しんでいる時もこれはみんな通ってきた道だと分かる
と不安の解消になりました。

▼経営学の基礎講座

まず動画とテキストを見ながら全体を視聴し、経営学のロジックや基本的な知識をイン
プットしました。とても分かりやすく、しかも退屈させずに説明していただいたので、腹
落ちして学習することができました。一通り学んだあとは隙間時間を使い、耳だけで聞いて
知識の定着を図りました。小論文試験の直前には出題されそうなテーマの講義を繰り返
し視聴しました。

▼小論文対策講座（大学院別対策編）

大学別の特徴が分かりとても参考になりました。私の志望校は小論文でそこまで点差が
つかないと思ったので、研究計画書の作成を優先して時間をかけました。そのため、小論
文対策の時間はあまり取れませんでした。この講座のお陰で効率よく勉強することがで
きました。

▼小論文対策講座（大学院別対策編）添削利用回数

2回

▼出願書類・研究計画書の書き方講座

出願書類や研究計画書で何を書かないといけないか、それを書くために何をしないとい
けないかがよく分かり大変参考になりました。大学別の特徴もよく理解できました。研究
テーマ設定に苦しんでいる時に何度も動画とテキストの過去の合格者の研究計画書を見返
して、今のやり方で合っているのか確認しました。初回フィードバックや添削のお陰で自
分一人では到達が難しいレベルまで完成度を上げることができました。一人では途中で妥
協して、合格水準の研究計画書が書けなかったと思います。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座 添削利用回数

4回

▼面接対策講座

講義で面接のポイントを理解することができ、テキストの過去の面接の再現レポートで
具体的なイメージを持てたことは大変助かりました。模擬面接の前に原稿や想定質問集を
用意して、練習していましたが、上手く回答できない部分もありました。また講師からの
フィードバックも適切で、本番までの修正点が明確になりました。お陰で本番ではそれほ
ど緊張しませんでした。

▼各種フォロー制度について（初回添削フィードバック、受験校相談、マンスリーゼミ、質問制度等）

最初の受験校相談では、右も左も分からない状態で色々質問をしましたが、一つ一つ丁寧に回答していただき、志望校選びに大変参考になりました。研究計画書の初回添削フィードバックで親身になって、相談に乗っていただけたので、修正点や改善の方向性が分かり、とても助かりました。マンスリーゼミやホームルームでは飯野先生から、その時期に適したアドバイスをいただいたり、事前の質問に答えていただいたり、勉強に行き詰まっている時に不安を解消してもらいました。

スランプ・挫折、それを乗り越えるための工夫

最初の挫折は研究計画書のテーマ設定の時でした。まず飯野先生のお勧めの国会図書館に行って、興味のある分野の書籍や学術論文を読みました。そこですぐに挫折を迎えました。文献の内容が理解できない、または内容は理解できても、どう自分の研究計画書に繋げて良いか全くわからず、とても焦りました。そこで、やり方を変えました。遠回りになるかもしれませんが、いきなり専門の書籍や学術論文から入るのではなく、ステップを踏んで自分が興味のある分野のことを理解することから始めました。取っ付きやすい一般の書籍（飯野先生お勧めの出版社や参考文献の引用があるもの）から入り、次にその書籍が引用している論文を読むことにしました。まず興味のある分野の書籍を読み、その書籍が引用している書籍や学術論文を片っ端から読み漁りました。時間は掛かりましたが、そのおかげである程度テーマが絞れてきました。次にリサーチクエストの設定と分析方法の設定の際にスランプを迎えました。元々理系なので、自然科学のリサーチクエストや分析方法はすぐにイメージがつくのですが、社会科学のリサーチクエストと分析方法の設定は初めてで、なかなか苦労しました。良いリサーチクエストを思いついても分析方法が思いつかない、面白い分析方法を見つけてもリサーチクエストと整合しないといったことが頻発しました。このリサーチクエストと分析方法の組み合わせに非常に苦労しました。研究計画書添削の際に講師のアドバイスで読んだ論文をきっかけに参考となる文献を見つけることができ、この問題を解決することができました。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

平日夜は残業で夜遅いので、会社に出勤する日は朝早く起きて、研究計画書を作成しました。通勤時間に耳だけ、「経営学の基礎講座」を繰り返し聞いていました。在宅勤務の日は夜に研究計画書を作成したり、「経営学の基礎講座」を視聴したりしました。平日の勉強時間は1－2時間/日でした。土日は国会図書館に行ったり、家に籠ってGoogle Scholarを使ったりして、研究計画書を作成しました。行き詰まった時に「経営学の基礎講座」を視聴しました。大体12時間/日くらいは勉強していました。研究計画書を書き終えてからは、その時間を小論文と面接対策に当てました。平日は1－2時間/日、土日は6－8時間/日くらい勉強しました。

直前期の過ごし方

受験直前は「小論文添削（大学院別）講座」と「面接対策講座」を繰り返し受講し、小論文と面接の練習をしました。小論文添削で講師にコメントをいただいたことに注意しながら、志望校の最新の過去問（添削講座にないもの）を時間を測って解いて自分で模擬試験を繰り返しました。テキストに無い過去問についてはAIを使って自分の解答を添削してもらいました。また志望校の出題傾向から関連するテーマの「経営学の基礎講座」を繰り返し視聴したり、AIを使って調べたりしました。近年の過去問はITやDXに関わるテーマが近年多かったので、その分野の予備知識をインプットしました。面接の対策として、原稿と想定質問集を作成しました。時間を測って3分や5分で研究計画書の概要や志望動機を説明できるように練習しました。研究計画書で質問の来そうな箇所をピックアップして想定質問集を作成しました。体調管理に気をつけ、睡眠時間と食生活には注意しました。研究計画書作成後はできなかった適度な運動も再開しました。

試験期間中の過ごし方

研究計画書を何度も読み返し、想定質問集の修正・追加を行いました。研究計画書は読めば読むほど、自分でも疑問点が出てきたので、再度参考にした学術論文や書籍を読み返して質問に答えられるように準備をしました。試験は1日で小論文と面接の2つの試験が実施され、小論文の後に待ち時間が結構あったので、カフェに行ってひたすら面接の原稿と想定質問集をぶつぶつと読み返していました。朝食はしっかりと摂り、昼食も大学の近くの定食屋で栄養のあるものをしっかりと食べました。カフェでも糖分を摂って面接に備えました。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

①受験した時の手ごたえ

小論文、面接とも想定していた内容が7－8割くらいだったので、それなりにできたと思いました。ただ小論文は他の受験生もそれなりにできたと思うので、点数差はあまり付かないだろうと思いました。面接の最初は緊張しましたが、後半は落ち着いて回答できました。ただ回答に窮して、上手く答えられなかった質問があったので、その影響次第では不合格もあり得ると思いました。

②合格した時の気持ち

これまでの努力が報われてホッとしました。支えてくれた家族とご指導いただいたアガルトの講師、スタッフの方々に感謝しました。一方、まだMBAのスタート地点に立っただけなので、これからもっと努力して行く必要があるなど身の引き締まる思いがしました。とてもマラソンを完走したり、富士山に登頂したりした気分ではありませんでした。これからが本番なので。

振り返ってみて合格の決め手は？それに、当該講座はどの程度影響したのか

①合格の決め手

小論文はそこまで点数の差が付かなかったと予想されるので、出願書類と面接が決め手だと思います。まず研究計画書の出来が重要で、次にその書類に基づいた面接の受け答えが重要だったと思います。特に研究計画書は自分だけでは、この短期間でこの完成度のものを作成することはできなかったのですが、アガルトの講座の影響度はかなり高かったです。過去の面接レポートのお陰で面接のシミュレーションをしたり、原稿や想定質問集を作成したりできたことも合格に大きく寄与していると思います。

②講座の影響度

アガルトの講座の影響は非常に大きいと感じています。「経営学の基礎講座」を受講し、頭を短時間で経営学のロジックに切り替えることができました。「出願書類・研究計画書の書き方講座」「研究テーマライブラリー」を受講したお陰で、正しい回り道をしながら、研究計画書を作成することができたのは、本当に大きかったです。「小論文対策講座」を受講し、私の志望校では小論文でそんなに点数差が付かないことが予想できたので、小論文の優先順位を下げて他の科目に時間を使うことができました。「面接対策講座」と過去の面接再現レポートのお陰で面接の具体的なイメージが掴めて、シミュレーションを重ねることができたことも大変助かりました。

卒業後のキャリアについて

① MBAに期待するもの

経営の専門的な知識を身につけ、自身の経営企画業務においてプロフェッショナルなアドバイスができるようになることを期待しています。実務で経験した実践的な知識や経験をMBAで学ぶ先端的な理論で体系化し、課題解決ができる人材になりたいと思います。またMBA知り合った先生や学生との人脈も今後のキャリアの上で大変貴重な財産になると期待しています。

②今後のキャリアビジョン

まず現職の新規事業部・経営企画担当として、この事業が成長し、期待CFを上回る成果が出せるように事業戦略の立案と管理ができる人材になることを目指しています。その後は自社のコーポレートの経営企画担当（複数の事業部を統括）として、全社の経営戦略を立案、管理するポジションにつける人材を目指していきます。その後、機会があれば他の事業会社やコンサルタントに転職して、他の会社の事業戦略を立案できる人材になることも目指したいと思います。

【推薦書について】

①提出されましたか？

提出していない

受験生に対するメッセージ

国内MBA受験は3つ点で大学受験と異なります。まず高校や予備校の同級生と励まし合ったり、教師や両親が身近で応援してくれたりすることはありません。また情報量も大学入試に比べ、とても少なく何から始めて良いのか、この勉強の仕方で行っているのかも良く分かりません。そして模範解答がありません。特に研究計画書は一人一人全く内容が異なります。とても孤独な戦いと言えらると思います。飯野先生がおっしゃるように直線の道ではなく、曲がりくねった道を進まないと目的地に辿り着けません。途中で何度もこのやり方で良いのか、出願期限に間に合うのか、とても不安になります。私はアガルートの講座を受講したお陰で、これは正しい回り道だと自信を持って進むことができました。また手厚い質問サービスや添削サービスがあるお陰で、本当に間違った方向に進んでいる時は修正をかけてもらえます。ご指導・サポートいただいたアガルートの講師、スタッフの方々お陰で孤独感を感じることなく、受験勉強を戦うことができました。またテキストや講義で大変有効な情報を豊富に提供いただけたことも大変助かりました。受験生の皆さんはお仕事をされている方が多いかと思ひます。家庭をお持ちの方もおられると思ひます。大学受験の時のように24時間、全身全霊をかけて勉強することはできません。私はアガルートの講座を受講したお陰で、効率よく必要な知識を身につけ、メリハリをつけて勉強に労力を割くことができました。合格はまだMBAのスタート地点に過ぎないので、あまり大きなことは言えませんが、私の経験が皆さんお役に立てれば幸いです。

2025年4月入学目標

国内MBA試験合格

短期決戦だったが実現可能なカリキュラムで安心できた

梅壽 泰樹 さん

20代前半

学生

2025年4月入学目標 / 国内MBA / 秋入試対策速習カリキュラム

進 学 先: 青山学院大学大学院 国際マネジメント研究科デイトタイムコース

合格体験記

MBAを目指したきっかけ

就職活動でこのまま社会人になっても良いのかと感じたことがMBAを目指すことになったきっかけだ。

私は人にプラスの影響を与えることにやりがいを感じるタイプだ。小中高大と様々な組織の長を務めてきた。将来も人にプラスの影響を与えられる仕事をしてみたい、起業してみたいと漠然と考えるようになったが、就職活動を進める中で、自身の力不足、未熟さを思い知らされる結果となった。

自身の理想を実現するため、経営に必要な知識を包括的に学びたいと考えたのがきっかけだ。

アガルートアカデミーをお選びいただいた理由

アガルートを選んだ理由は3つある。

一つ目は、合格実績。二つ目は、オンライン授業であること。三つ目は講師の飯野先生に興味を抱いたことだ。

一つ目の合格実績に関しては、不毛な勉強をする余裕はなかったこと。合格実績＝合格に直結する勉強法、テキストや授業の質の良さだと考えたからだ。

二つ目のオンライン授業に関しては、現役大学生の私にとって、時間の融通が効きやすいからだ。

三つ目は、ずばり飯野先生のお人柄だ。この人の授業なら楽しめそうだと予感したからだ。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

①勉強の方針

テキストを購入した際に添付されていた、大まかな勉強スケジュールに沿ってカリキュラムを進めていった。試験までの期間に無理なく終えられるスケジュールを組んでくださったので、ペース配分的には余裕をもって取り組めた。

オンライン授業は時間の融通が効く反面、通学に比べるとモチベーションを保ちにくいのが難点だったが、そういうときには合格体験記を読んで自分を鼓舞した。

②研究計画書のテーマ設定までの流れ

研究計画書はなかった。

③勉強のスケジュール

～5月：就職活動でもっと力をつけなければと方法を模索する中でMBA進学を考えるようになる。

6月半ば：面談で合格可能性のある学校、それぞれの学校の試験の特色、カリキュラム等を相談させてもらい、アガルト受講を決める。

7月：テキストを送付していただくも、大学の試験を優先。バラバラとめくる程度。

8～9月：「経営学の基礎講座」動画視聴をすすめる。志望動機等、提出書類の添削をお願いする

10月：試験本番、面接対策

受講された講座の良さ、当該講座の学習方法

▼国内 MBA 入試攻略講座

MBAがなんたるかも漠然としか知らない私にとって、その知識はもちろんのこと、試験までの3ヶ月で消化すべきことを、ミニマムに効率よく学べる講座だった。各校の特色を比較し、やるべきことが明確で時間のない私には非常にありがたかった。

▼経営学の基礎講座

オンライン授業は、現役大学生である私の生活リズムに合わせて利用できる点がありがたかった。講座のテキストは分かりやすくまとめられており、飯野先生の授業も非常に面白く、門外漢の私でも経営学への興味・関心を深めることができた。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座

この〇〇の何々はよいが、△△はこうした方がよい等、具体的な事例を挙げて説明してくれてるのが分かりやすかった。実際に志望動機等を書く際も、事例を見ていたおかげで、方向性を定めやすく、盛り込む内容を選択するのに助かった。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座 添削利用回数

2回

▼面接対策講座

合格者の例が具体的に示されていたので、非常に参考になり、分かりやすかった。実際会話形式でのコミュニケーションを大切にできた。また、この講座を受けたという自信を持って本番に臨めたことは、自分に大きなプラスになったと考えており、大変助かった。

▼各種フォロー制度について（初回添削フィードバック、受験校相談、マンスリーゼミ、質問制度等）

出願書類の添削では、自分の選んだ内容の方向性が適切かどうかを判断していただけたので自信を持って書くことができた。補足した方がいい内容等も具体的に教えていただけたので、すぐに対応することができた。客観的に判断していただける場があって助かった。

スランプ・挫折、それを乗り越えるための工夫

試験まで3ヶ月という短期決戦であったこと。実現可能なカリキュラムを組んでいただいていたことで、安心して取り組むことができたため、正直なところ、大きな挫折は経験していない。ただ、MBA進学を志したのが直前だったので、本当に合格できるのだろうかという不安感は絶えずあった。それを軽減してくださったのが、添削等でお世話になった富樫さんだ。書類の内容の方向性が間違っていないかの相談から、合格までの道筋まで色々相談に乗っていただいたことでモチベーションアップはもちろん安心感をもって本番に臨むことができた。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

現役大学生であることから、まずは大学の授業、試験を優先する毎日を過ごした。8月・9月の2ヶ月は夏休みだったため、そこで集中して勉強した。私の場合、家では集中しにくかったので、パソコンとテキストを持ち歩き、カフェ等を利用して視聴していた。授業のオンライン配信は自分のリズムに合わせられるところがメリットだ。サークルの夏合宿の際にも、テキストは持参し、細切れながらも空き時間を利用し学習を進めることができた。

直前期の過ごし方

大学の秋授業がスタートしていたこともあり、やはり大学優先の生活を送っていた。

ただ、7月・8月で「経営学の基礎講座」を完成していた影響で、自身の関心、視点が変化し、日々の生活の中でも経営に関する話題にフォーカスしていたことは、今回の合格を実現するのに大きな要因となったように感じている。特に青山学院面接では、いわゆる面接の定番質問よりも、会話形式でどんどん深ぼられたため、この意識の変化が非常に有効に働いたように思う。

試験期間中の過ごし方

書類の提出から面接までの間は、「面接対策講座」を観たり、実際に模擬面接をお願いしたりした。ここでも富樫さんには非常にお世話になり、面接の注意点はもちろんのこと、

マインドの持ち方等、細やかに相談に乗っていただいた。直前期のナーバスになりがちな気持ちが随分と楽になったのを覚えている。他にも面接対策としては、まず自分が成し遂げたいこと、どんな人物になりたいのか、などを長期的なスパンで考え、なぜ青山学院のMBAを選んだのかに紐づけて考えるようにしていた。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

①受験した時の手ごたえ

面接は難しかったが、その分難しい質問に答えられていたので、そういった意味で手応えはあった。

最初に通学に支障がないかという質問を面接官からされたときに、これは書類の段階で合格予定とされている人への質問だと聞いていたこともあり、終始落ち着いて対応できた。面接官2人の矢継ぎ早の質問が続いたが、返答に窮することはなかった。

②合格した時の気持ち

「安堵感」これに尽きる。MBA進学を考えてから、試験まで3ヶ月という短さだったこともあり、本当に合格できるのかという不安が絶えず胸の中にあったが、合格証明書を見た瞬間に、この思いからやっと解放されるんだという安堵感で満たされた。

振り返ってみて合格の決め手は？それに、当該講座はどの程度影響したのか

①合格の決め手

自身のキャリアプランを長期的に考え、なぜ青山学院のMBAに行きたいのか、そこで学ぶことをどう活かしたいのかを考えておいたことだと思う。自身の過去・現在・未来を、考え、ネット上の言葉ではなく、自分の言葉で言語化できるようにトレーニングしておくことが重要だと思う。

②講座の影響度

非常に大きかったと思う。

経営学とは無縁の学部にいること、MBAがなんたるかも漠然としたイメージしかなかった私にとって、MBAに進学したいと確固たる意志を持つにいたったきっかけだからだ。その意志が合格への道筋を開いたと考えている。

卒業後のキャリアについて

①MBAに期待するもの

経営学に関する包括的、体系的な知識の習得はもちろんのこと、そこを目指した学生の皆さんとの人的ネットワークの構築を目指したい。

ABSではグローバル色の豊かさを特色の一つとしている。多様な背景を持つ人たちとの出会いを通し、自身がどのように影響を受け、成長していくか、その過程を楽しみにしている。

②今後のキャリアビジョン

まず、MBAで経営学を学び、卒業後はコンサルティング会社に就職し、様々な業種、

企業の現実を学びたい。そして、30歳を目標に起業したいと考えている。未だ漠然とした考えではあるが、社会のニーズに応え、プラスのインパクトを与えられるような人になることが私の目標である。

【推薦書について】

①提出されましたか？

提出していない

受験生に対するメッセージ

MBAを受験するか迷っている人がいたらとりあえず受けてみることをお勧めします！私はMBA進学を考えてから3ヶ月の短期間で試験に挑みました。合格を可能にしたのは、アガルートの無駄のない体系的な学習方法に出会えたからです。

MBA進学を考える前と合格後の私では、進路が大きく異なります。もちろんどのMBAに進学するかによって変わりますが、3ヶ月でもやればできるし、その後の道は大きく変わります。実際変わりました！将来に不安を覚えることも多いと思いますが、ほどほどに頑張りましょう！笑

応援しています！！！！！！！！

2025年4月入学目標

国内MBA試験合格

添削や模擬面接でフィードバックをもらい改善できた

川原 啓介 さん

30代前半

社会人

2025年4月入学目標 / 国内MBA / 秋入試対策速習カリキュラム

進 学 先：兵庫県立大学 社会科学部地域イノベーションコース中小企業診断士登録養成課程

合格体験記

MBAを目指したきっかけ

自身の業務上での失敗がきっかけです。その失敗から、経営やビジネス全般に対してより幅広く学ぶ必要があると感じ、それを学ぶためにはMBAが最適と考えたからです。MBAでは会計やマーケティング、リーダーシップなど様々な視点からの学びをすることができます。自分自身はITに関する知識しかなく、プロジェクトの投資対効果や顧客にとってのメリット、プロジェクトマネジメントの精度など、様々な視点が求められることを失敗から学び、それを改めて身につけるためにMBAを志望しました。

アガルートアカデミーをお選びいただいた理由

とにかく、MBA受験に対して何をどのようにしたらいいのか、何もわからない状態でした。志望理由書の書き方、小論文試験の前提知識の習得、小論文の書き方、面接の雰囲気や聞かれること、答え方、何から何まで分からなかったのも、まずは教えてくれて、聞けることを確保しようと考えました。

その点、アガルートはすべて網羅して教えてくれるうえ、添削やオンライン質問で答えてくれる、それもオンラインでスピーディーにというのが一番の魅力であり、決定要因でした。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

①勉強の方針

まずは入試の全体の流れを理解し、時間がかかると考えた小論文試験の解答のための基

礎知識の習得を優先しました。テキストを一巡し、自身の苦手分野の把握や時事問題の整理を終えたところで、志望理由書の準備を進めました。

②研究計画書のテーマ設定までの流れ

志望理由書ですが、オーソドックスにMBAへの志望理由、各大学への志望理由を整理することで、自身の考えが言語化され、頭の中の整理ができました。そこから学んだ先にどうなりたいのかなど、先の話が見えてきたのでそれも文章におこしました。

③勉強のスケジュール

8月 アガルートの受講相談を受け、受講を決める。「経営学の基礎講座」動画視聴開始。

9月 「経営学の基礎講座」を通勤、隙間時間、帰宅後で視聴。テキストにメモ書きなどを追記して知識の定着化。

10月 志望理由書、入試申し込みの準備に取り掛かる。志望理由書は初稿を3時間ほどで作成し、とにかくまずは添削を受け、初回のフィードバックを早く受けることを意識。

11月 家族と面接練習を重ねる。合わせて小論文問題の復習をつづける。

受講された講座の良さ、当該講座の学習方法

▼国内 MBA 入試攻略講座

私は志望校は決まっていたので、他校と比較して、その位置づけを再度整理することに役立てました。数あるMBAのなかで志望校のタイプや重視する視点などを説明いただいたことで、重点的に表現すべき内容などが明らかになり、取り組むヒントになりました。

▼経営学の基礎講座

経営に関する基礎知識が体系的に幅広く解説されており、非常にテキストも分かりやすかったです。何度も反復、繰り返し学習することで、知識が定着し、小論文試験での論述内容の根幹を作ることに非常に役立ちました。

▼小論文対策講座（大学院別対策編）

小論文に求められる基本的な、論理的文章の書き方が参考になりました。小論文でどのように表現したらいいのか、当初は全くわかっていなかったのですが、そのセオリーを教えていただき、安定して論理的な文章を書くコツを身につけることができました。

▼小論文対策講座（大学院別対策編）添削利用回数

5回

▼出願書類・研究計画書の書き方講座

志望理由書に記載すべき基本的な事柄を挙げていただき、それに合わせる形で自身の考えや思いを表現することで、大枠が出来上がる形になっていたと思います。素直にまずは解説に合わせて書いてみて、添削を受けて精緻化していくことが重要でした。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座 添削利用回数

4回

▼面接対策講座

本番の面接内容と大筋は相違ない質問をしてもらうことができました。本番を前に、言葉にすることで改めて考えの整理ができ、またそのフィードバックをその場でいただけることは非常に参考になりました。精度の高い模擬面接をしていただけたと感謝しています。

▼各種フォロー制度について（初回添削フィードバック、受験校相談、マンスリーゼミ、質問制度等）

添削フィードバックでは、スピーディーかつ、丁寧な添削、ご回答をいただくことができました。大筋の書き方から、各段落内の細やかな表現方法など、網羅して丁寧に添削いただけたことで、分かりやすい志望理由書を仕上げることができましたと思います。

スランプ・挫折、それを乗り越えるための工夫

とにかく最初は分からないことだらけの状態、志望校の過去問を見た際にはこんな解けないと感じ、受験タイミングを先送りにしようかとも考えました。そこでオンライン質問サービスで学習方法を改めて質問し、しっかりとテキストを読み込み理解することを勧められ、焦る気持ちもありましたが、素直に従いテキストを3周ほど繰り返し読むと、ある時から腹落ちし、全体像を捉えることができました。あとは論理的な記述を心がけると小論文添削でも最高の評価もいただけるほどに安定して自身の考えを文章にまとめることができるようになりました。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

朝夕の通勤時、仕事の昼休憩時にテキストを読み進めました。読み進める時間は1日1時間強となり、それを1ヶ月ほど繰り返すことでテキストは1周できたと思います。また1日の中で湧いた疑問や理解しきれなかった項目はスマホにメモしておき、夜帰宅後に自宅で再度テキストを読み込む、ウェブで調べるを繰り返すようにしました。基本的に1日のうちに湧いた疑問はその日中に調べ解決するように心がけました。おそらく1日の学習時間は2時間前後だったと思います。

直前期の過ごし方

基本的には上述の学習方法を継続、反復していました。とにかくテキストや新聞で触れたキーワードのなかで、分からない、頭の中で論述できるレベルに達していないことをリストアップし、それを一つずつ潰していくような学習方法だったと思います。当初は分からないことだらけだったのが次第に分かるようになっていき、繰り返しが自信に繋がっていきました。最終的にはテキストに載っていることはほぼ全て頭に入って理解もできていたので、私に分からない問題は他の受験生も分からないだろうからなんとかなるだろうと考えていました。

試験期間中の過ごし方

毎日、上記のような学習を繰り返しました。平日は全てそうしていましたが、勉強時間が0の平日はなかったと思います。一方で土日は机に向かわない日も多くありました。ただ試験のことを全く考えない日はなく、頭のどこかで経営に関するキーワードを考えて、それに対する論述をするといったことをずっと続けていました。意識づけてそうしていたわけではなく、試験が近づくにつれ、学習を重ねることで自ずとそうなっていたと思います。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

①受験した時の手ごたえ

小論文については、あとになって思うともっと丁寧に論理的に記述できたなと思う部分がありましたが、制限時間の中でベストは尽くしたという気持ちでした。面接についても自身の思いの丈を表現できたので、出し尽くしたという気持ちでした。逆に不合格だったらどうすればいいかわからないという感じでした。

②合格した時の気持ち

素直に嬉しかったのと同時に、正当に評価いただけたことに対して満足しました。ベストは尽くしていたので、これまでの努力が報われたという安心感が強かったです。ご協力いただいたアガルートの皆様には感謝しきれません。

振り返ってみて合格の決め手は？それに、当該講座はどの程度影響したのか

①合格の決め手

志望理由書や面接において、自身の考えや想いを素直に、かつ分かりやすく表現できたことだと思います。変に飾ろうとせず、自身の言葉で、あくまで冷静に分かりやすく表現することが何よりも重要で、それだけでいいと思います。

②講座の影響度

合格には欠かせないものでした。上述の通り、書いたり言うことは自身の中にありましたが、それを分かりやすく表現することは他者の視点で評価が伴わないと難しいと思います。その点、添削や模擬面接で、しっかりフィードバックいただき、改善ができたと思います。

卒業後のキャリアについて

①MBAに期待するもの

まずは経営に関する学びにしっかりと取り組めることです。志望の理由に関連しますが、幅広い学びを専門性のある先生方から学び、共に学ぶ方々からの触発を受け、自身の教訓や理論に繋げることができればMBAに通う価値があったと言えるようになると考えています。

②今後のキャリアビジョン

現在の勤め先でのキャリアアップに繋がたいと思います。MBAでの学びを実務に活か

し、より幅広く深い知識、理解をもとに実務を重ね、いずれは業界を代表するプレイヤーの一人として挙げられるような存在になれると幸いです。

【推薦書について】

①提出されましたか？

提出していない

受験生に対するメッセージ

MBAへの受験は、資格試験への挑戦とは異なり、必ずしもの正解はないと思います。自身のキャリアの中で培ってきた考えや思いを、自身の言葉で他者に分かりやすく表現し、賛同を得ることが重要だと思います。その過程で経営に関する知識との関連付けは必要ではありますが、重点は上記の通りだと思います。自身を振り返り、未来に思いを馳せて、その中で感じたことや考えを分かりやすく表現することができれば合格はきっともらえると思います。

2025年4月入学目標

国内MBA試験合格

院別合格体験記で効率的に提出書類の対策ができた

原口 貴顕 さん

30代前半

社会人

2025年4月入学目標 / 国内MBA / 秋入試対策速習カリキュラム

進 学 先: 筑波大学 国際経営プロフェッショナル専攻

合格体験記

MBA を目指したきっかけ

- ・外資系企業の経営管理部門に勤めており、経営層と話す機会が多い中で、ジョブ型雇用として専門性に加えて、ビジネスの競争優位を獲得するための戦略、組織論を含む幅広い分野での知識を体系的に学ぶ必要性を強く感じたから。
- ・周囲にMBA卒業生が多数おり、彼らの実体験を聞くことで、学習内容や教育環境、さまざまなバックグラウンドを持つ人々との交流に魅力を感じたから。
- ・今後のキャリア形成を考える上で、MBAを持つことが有利に働くと考えたから。

アガルートアカデミーをお選びいただいた理由

- ・個別相談の際に、今後のキャリア等をしっかりと理解した上で、親身にアドバイスをしてくれたことが印象的だった。そのおかげで、具体的な進路のイメージが湧きやすかった。
- ・MBA入門学の講師による説明が非常に分かりやすく、合格体験記も豊富に揃っていたため教材としての質の高さを感じた。志望の研究計画に関しても何度も添削相談可能な点もよかった。
- ・志望校が対象校だった、合格特典が非常に魅力的だった。1年で受験を終わらせたかったのでモチベーションになった。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

①勉強の方針

志望校に関する合格体験記や募集要項を確認して、研究計画書が1番の肝になると感じ

たため、情報収集→MBA入門知識インプット→自己分析→研究計画作成の流れで、やりたいこと・自分らしさを常に考えながら学習を行った。

②研究計画書のテーマ設定までの流れ

自由度が高いためテーマ設定までに時間はかかったが、自身のキャリアの棚卸しと興味関心の自己分析からキーワードを探して、一度論文リサーチにかけてみた。私の場合は、Finance/Supply Chain/CSR/Technology/Management/Motivation/Data Analyticsで、関連する先行研究を読みながら、論文の書き方・自分のやりたいこと・向き不向きを踏まえて固めた。

③勉強のスケジュール

- 6月 パンフレット取り寄せ、受講相談、OPキャンパス参加、受験校調査
- 7月 志望校決める→募集要項を読む。「経営学の基礎講座」「提出書類・研究計画書の書き方講座」「研究テーマライブラリー」動画視聴開始
- 8月 必要書類準備。ネットにて先行研究分析。合格体験記を参考にしつつ計画作成
添削依頼と電話フィードバック
- 9月 提出書類の最終添削&確認
- 10月 「面接対策講座」を視聴。二次試験に英語学習
- 11月 二次試験に向けて合格体験記での質問例をベースに回答作成
- 12月 合格発表

受講された講座の良さ、当該講座の学習方法

▼国内 MBA 入試攻略講座

利用前はネット検索だけでは、得られるMBA入試に関する情報がとても少なく困っていたが、本講座を受講することで全体的な試験のスケジュール、提出書類、求められる素質や経歴、それぞれの学校の特色がとてもクリアになった。

▼経営学の基礎講座

実例や時事を踏まえており読み物として重宝した。ビデオ講座は丁寧に説明してくれているので、読んでわからない項目だけ見るようにした。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座

ざっくりとは読んだが、学校によって全く異なると感じたので参考文献までの扱い。特に研究計画書の書き方に関しては、あまり読みすぎると型にはまった計画書になると思い、同じく参考文献までの扱いですべて読んではいない。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座 添削利用回数

1回

▼面接対策講座

転職を含めて面接の経験は多かったので、自身の志望校の合格体験記をメインに読んでいった。想定質問集を活用しつつ事前に回答準備に役立てた。後は、英語面接のために研究計画テーマに関連する論文を読むことで英単語や表現を学んだ。

▼各種フォロー制度について（初回添削フィードバック、受験校相談、マンスリーゼミ、質問制度等）

受験校相談では親身に丁寧にアドバイスをいただき、情報の少ない国内MBA受験の不安が解消された。

研究計画書の初回添削フィードバックでは、あまり大きな指摘はなかったので逆に不安になったが、口頭で改めて一貫性となぜの深掘り、MBA後のキャリアの観点で意見をもらえてブラッシュアップできた。

スランプ・挫折、それを乗り越えるための工夫

研究計画テーマ決めがやはり自由度が高く、正解がないため一番難しく感じてモチベーションが下がるときが多かった。そこで自身がやりたいことをわがままに研究テーマに入れていこうと開き直り、「この研究をするために勉強したいことが一致する」や「この研究をすることで新しいキャリアパスが開く」等を想像しながら作成した。また更に行き詰まったときはMBAを卒業した同僚に相談することで、モチベーションを高めたり、それまで考えていなかった部分に気づかされたりすることが多く、刺激になった。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

一次試験の直近2－3ヶ月は繁忙期だったということもあり、平日は仕事が忙しくやる気が起きないことが多かったので、知識のインプットとして読書、英語学習として娯楽も兼ねて洋画鑑賞などのストレスがかからない方法で、仕事が終わった後に机に向かう時間を確保した。その分、より自由に時間を使える休日午前に頭をつかう研究計画作成を集中して行い、午後疲れたらカフェで経営学の基礎講座をおさらいしつつ、研究計画に取り込める部分があるか考えながら学習にあたり夜は早めに寝るようにした。

直前期の過ごし方

一次試験に関しては、提出期限直前に研究計画書の初回フィードバックをお願いしたこともあり、ギリギリまで内容を何度も読み返して、校正、添削、ブラッシュアップを繰り返した。

二次試験に関しては、合格体験記を読んで面接の流れをつかんだり、想定質問集から回答を考えたりした。また1ヶ月くらい時間が空いたので、提出書類を読み返したり、研究テーマであるESGに関してネットで最新の情報やトレンドをチェックした。特に近いからと変に意識せずいつも通りに勉強した。

試験期間中の過ごし方

試験中に関しても、直前期と変わらない過ごし方だった。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

①受験した時の手ごたえ

提出書類に関しては、事前に時間を割いて準備することができたので、1次は通過するとは思っていた。

2次試験は一部質問やアナリティクスパートで浅い回答しかできなかった部分があり、倍率に対して少し不安を抱いた。

②合格した時の気持ち

率直に嬉しさが込み上げた。オープンキャンパスに参加してから、通いたい気持ちが膨らんでいたのも、その思いが実現したことに感激した。ただ、入学してからは更に大変になると思い、それまでにできることはしていこうと気を引き締めた。

振り返ってみて合格の決め手は？それに、当該講座はどの程度影響したのか

①合格の決め手

筑波大学国際経営プロフェッショナル専攻に関しては、募集要項で配点記載があるように提出書類と英語力が合格の決め手になったと考える。特に研究計画書を含むエッセイには力を入れたので、その内容が評価されたのかなと推測する。

②講座の影響度

MBA経験のある講師の方に研究計画書の添削を迅速かつ丁寧に対応いただいたので、提出書類がより説得力のあるものになったと考える。また、入試情報が少ない中での院別合格体験記なくしては効率的に対策、合格まで至れなかったと考える。

卒業後のキャリアについて

① MBAに期待するもの

めざすきっかけと重複するが、ビジネスの競争優位を獲得するための戦略、組織論を含む幅広い分野での知識に加えて、優秀な教授や同級生と実践的に経営課題問題を考える力を培いたい。またESGへの専門性を高めて、将来的にはESGに関わる職に就きたい。

②今後のキャリアビジョン

これまでのファイナンスとしての経験を活かしつつ、グローバル企業でESGを通じて持続可能な経済発展のために意思決定を行うリーダーになることである。ESGの経済的効果や実践方法を研究することで、具体的にはFinance/IR/ESG推進部などで持続的な経済成長と社会的価値向上を両立させる仕事に就きたい。

【推薦書について】

①提出されましたか？

提出した

②どなたに推薦書をご依頼しましたか？

直属の上司

受験生に対するメッセージ

受験生に対するメッセージはおこがましいが、すべての人に合う学校は存在しないと思うので、自分自身をしっかり分析し、どの学校が自分の価値観や目標に近いのか、モチベーションを保てるかを見極めることが非常に重要だと思う。

それぞれ仕事、学業、家族の事情もあると思うので、体調第一で無理をしすぎないことが大切。

MBA受験を楽しみながら、たまに手を抜きながら、人生の経験としてチャレンジを楽しんでください。MBA合格からが本番だと思いますので、タイミングの差はあれお互い頑張りましょう。

2025年4月入学目標

国内MBA試験合格

評点配分が高く、時間がかかる研究計画書を最優先に

塩見 和郎 さん

50代前半

社会人

2025年4月入学目標 / 国内MBA / 秋入試対策速習カリキュラム

進 学 先：筑波大学 人文社会ビジネス科学学術院ビジネス科学研究群経営学学位プログラム

合格体験記

MBAを目指したきっかけ

実務経験から、私自身が経営危機を繰り返さない人と組織に関わる諸問題への学術的なアプローチの体系的理解不足を感じていること、また海外でのM&A・PMIや事業再生計画に携わる過程で、人・組織の本質的な行動メカニズムにおける具体的事象を抽象化・コンセプト化する必要性も痛感していることが理由になります。

さらには、アカデミック・実務の両面で経験豊富な先生方から、「学術知」と「実践知」を学びつつ、それを実務につなげていきたかったためです。

アガルートアカデミーをお選びいただいた理由

MBAホルダーの先輩方にいろいろな相談をしている中で、アガルトの名前が出てきたことが最初のきっかけです。まずは各社の参考書を購入して読み進めた中で、合格に直結しているプログラムが網羅されていることが決め手でした。やはり仕事をしながら研究計画書を取り纏めるためには、推敲段階で何回もやり取りできること、また模擬面接などもあることも良い点と考えました。また複数校受験することも考えておりましたので、研究計画書について追加でもreviewしてもらえるプログラムがあることも良い点でした。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

①勉強の方針

1. 国立MBAを第一に考えていたので評点配分が高く、準備に時間がかかる研究計画書をまず仕上げるというのを最優先に進めていました。

2. 各校小論文のテストもありましたので、アガルートの過去問や教科書に絞って勉強するとしていました。

3. 最後に面接対策を仕上げれば良いかなという方針でした。

②研究計画書のテーマ設定までの流れ

実務の中で課題として考えていることが明確にあったので、そこを中心にまずはネット上でのレポートをかなり幅広く読み込み、そのレポートに載っているような先行研究を並行して読むことでテーマ設定をしました。今考えると仮説の深掘りをもっとしても良かったかなという反省はあります。

③勉強のスケジュール

1月 MBAホルダーの先輩方に情報収集開始、アガルートの資料請求。

2月 先輩に紹介された通りに参考書を購入し、とりあえず自己分析・棚卸を開始。

3月 年間予定をたてて、受験する大学院と試験日程を設定。

4月 試験日程たてて満足。なにもせず。

5月 GW後、そろそろまずいと思いアガルートの講座をあわてて注文（もう少し早い方が良かったかもしれません）。

6月 「経営学の基礎講座」を通勤・隙間時間で視聴。「研究計画書の書き方講座」などを精読。研究計画書作成着手、研究計画書添削依頼開始。

7月 研究計画書作成・添削依頼を継続。都立大へ申請。ここで一旦一安心してしまいました。

8月 「経営学の基礎講座」と小論文過去問を繰り返す。模擬面接実施。

9月 都立大受験、なかだるみ期間へ突入。

10月 一橋受験、直前、ほぼなにもせず。

11月 筑波受験、直前は面接対策のみ。

12月 筑波合格

受講された講座の良さ、当該講座の学習方法

▼国内 MBA 入試攻略講座

過去問が充実していることが第一に良かったと思います。特に都立大の小論文テスト向けの模範解答を参考にさせてもらいました。面接も過去事例が参考になり、どのような想定問答が考えられるかを押さえることができたので有益でした。

▼経営学の基礎講座

世の中にあふれている経営学の本を参考にしていると、期間を限って勉強するには不向きだと思いアガルートにお願いした背景があります。したがって、この経営学の基礎講座は本当にコンパクトに重要なところが纏まっており、限られた時間内で最大限の効果を発揮できるテキスト＆ビデオ講義だと思います。

▼小論文対策講座（大学院別対策編）

小論文対策については、添削は1回も活用できませんでしたが、まとまっている過去問が有益でした。受験日程別に直前含め集中的にポイントを絞って対策を打てたことは、時間が無い社会人にとっては大変重要だと思います。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座

この講座が一番私には効果的だったと考えています。国立を第一志望にしていたので、研究計画書の出来不出来が合格に直結します。自分一人だけではなかなか客観的に推敲できないところを担当してくださった講師に本当にサポートいただきました。感謝しかありません。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座 添削利用回数

5回

▼面接対策講座

面接対策講座は、やはり学校別に過去事例が載っていることが大変有益でした。想定問答集を一から策定するより、時間短縮になりましたし、ポイントに絞って準備ができたことが、一番効果があったと考えています。模擬面接も1回しか実施しませんでしたので、どのような質問、流れかなど事前におさらいできたことは有益でした。

▼各種フォロー制度について（初回添削フィードバック、受験校相談、マンスリーゼミ、質問制度等）

特に研究計画書の初回添削フィードバックは大変有益でした。担当していただいた講師の方には様々な視点から研究計画書を良くしていくアドバイスも頂けたので、合格に繋がったと感謝しております。質問等もWebから気軽にできるシステムは有益でした。

スランプ・挫折、それを乗り越えるための工夫

特にスランプ、挫折は無かったのですが、時間を確保するというのが一番難しかったです。基本的にMBAを受験することを友人には公言して、逃げられない状況を作っていたのが自分にとっては良かったかもしれません。今年どこもダメなら来年は受験しないとも公言し、今年のための勝負としておりました。また都立大の申請は7月と早いのでそこに合わせて研究計画書を仕上げ、提出後に小論文、受験直前に面接対策とメリハリを利かせたのも個人的には良かったかなと思います。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

一番苦労したのがこの時間確保でした。実務をしながらこの時間を確保するのは大変でしたので、平日は朝4時に起きて出社する時間までを勉強する、そして土日はどちらか一方はカフェにこもって集中的に研究計画書や、小論文対策を実施することでなんとか時間を捻出しました。参考書を読む、アガルトの講義を聞くのは電車移動の時間を有効活用

するなどしてインプットとアウトプットの時間を確保していました。夜は逆に早く寝るということにしていました。

直前期の過ごし方

直前期はほぼ面接対策しかしておりませんでした。筑波大の小論文は対策のしようがないというのが正直なところだったのも理由になります。都立大学に関しては経営戦略と組織論に絞ってアガルートの過去問を中心に勉強しておりました。今年の問題は奇をてらったものではなかったので受験生の正答率も高かったのではないかと推測します。やはりアガルートは過去問も揃っているのと、筆記テスト用の教科書もポイントに絞って取り纏まっていますので時間が無い受験生にとっては大変有効だと思いながらフル活用させていただきました。

試験期間中の過ごし方

9月から11月という長期間が試験期間中となったので、試験期間中として特に変わったことはしていませんでした。小論文対策と面接対策を繰り返し、経営戦略と組織論に関しては様々なケースや問題の定着に努め、面接はどのような角度からも答えられるように想定問答集を自分でリストアップして自ら答えるということをしていました。特に都立大から筑波までは期間が空き、また筑波の小論文は、対策という対策はほとんどできないこともあり直前まで仕事に追われていました。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

①受験した時の手ごたえ

小論文が午前中にあり、テーマ2つからの選択でしたが、火星宇宙ビジネスのテーマが得意分野（ロジックを立てやすかった）だったこともあり、きっちり仕上げることができました。したがって、精神的に満足、安定した状態で午後一の面接に臨むことができたのが良かったと思います。

②合格した時の気持ち

経営を科学と捉えるという建学の精神がある筑波が第一志望でしたので、嬉しかったですし、ほっとしました。MBAを受験すると決めてから約1年弱でしたがあっという間でした。研究したいテーマを志望する大学院でできる楽しみでいっぱいです。

振り返ってみて合格の決め手は？それに、当該講座はどの程度影響したのか

①合格の決め手

自分の生きざま、経歴などの棚卸しから自分の軸をきっちり見直して、研究計画書、志望動機書を早い段階で仕上げることだと思います。アガルートの先生方に壁打ちしてもらわなければ完成度の高い研究計画書、志望動機書にはならなかったと感謝しております。

②講座の影響度

様々な参考書が世の中にあふれている中で、パッケージとしてまとまっているアガルートの教材は全て有益だと思いました。やはり時間が限られている中で対策優先度高く学べ

る講座が重要なんだと思います。また映像での講義もスマホで気軽に見えることは、通勤時間などのスキマを使うのに最も適していると思いました。

卒業後のキャリアについて

① MBA に期待するもの

自分自身の成長は当然ですが、会社・社会への貢献ができる研究テーマ、大学院が最も重要だと思います。また自分自身の強みと親和性のある大学院選択も大変重要だと思います。この重要な点を押さえられれば、あとは頑張るだけですね。

② 今後のキャリアビジョン

人生100年時代と言われてきている中で、会社・社会への貢献をどの年齢になっても続けていくことが大切だと思いますし、学びを止めてしまうと自分自身の成長も止まってしまうと思います。MBAでの研究も自分の学びを止めないという機会として捉えて、会社・社会への貢献を継続していきたいと考えています。

【推薦書について】

① 提出されましたか？

提出していない

受験生に対するメッセージ

とにかくMBAへのチャレンジは早ければ早いほうが良いと思います。また受験準備も早い方が良いと思います。一旦研究計画書を仕上げてからの方が、より悩むことが多かったですし、考えの幅もさらに広がった感覚がありました。特に研究計画書をアガルートの先生とやり取りするのも本当に思考の幅を広げるのに有益です。提出した後に、やっぱりこうしておけばよかったなあと後悔しないようにすべてにおいて早い開始、準備が大切なんだと実感した受験期間でした。

2025年4月入学目標

国内MBA試験合格

忙しく机に向えなくても研究テーマを考えて毎日過ごす

川内 映子 さん

40代後半

社会人

2025年4月入学目標 / 国内MBA / 秋入試対策速習カリキュラム

進 学 先: 一橋大学 経営管理プログラム

合格体験記

MBA を目指したきっかけ

システム構想、構築を行う上で、経営へのインパクト向上を知識と深い思考を持ってCxO層へ提案できるようになりたいと思っており、いつか目指したいと思い始めました。また経営学そのものにも興味がありました。

さらに、今年プロジェクトで悶々としていた時に「東大で上野千鶴子にケンカを学ぶ（ちくま文庫） 遥洋子」という本を読んで、体型的な知識をつけたい、アカデミックに学ぶ力をつけ、学ぶことにより広がる視界を体験したいと思いが強まりました。

アガルートアカデミーをお選びいただいた理由

私が、MBAを受講するためにアガルートを選んだ理由は、オンライン受講できるという点と、合格実績が多い、添削サービス模擬面接があるという点にあります。合格実績が多いことから合格に対しての情報を効果的に収集できると考えました。また、YouTubeで飯野先生の講義のサンプルを見てアガルートの講義は、MBAを受講するための具体的な指導をわかりやすく提供するように思えました。その指導を受けることで、私はMBAを受講するための具体的な戦略を立てることができました。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

①勉強の方針

アガルートのスケジュールに沿って行うことが、1番の戦略と考えました。

6月からの開始で志望校の書類提出までに十分な期間は不足していたので、月単位に実施することを決めて終わらなくても次に進むことを方針としていました。

②研究計画書のテーマ設定までの流れ

システム構築における利益の追求、プロジェクトマネジメントにおける管理コスト、品質コストの問題を当初考え、前者は独自性が少ないか、後者は経営学との繋がりが難しいかと思い悩みました。独自性ということで専門商社におけるEC化の難しさについても良いかと悩みましたが、情報も少なくまとめきれず、自身の思い実体験も少ないと思い返し、実体験に基づくシステム構築における利益の追求をテーマに設定しました。

③勉強のスケジュール

5月 アガルートの受講相談を受け、受講を決める。

6月 「経営学の基礎講座」動画視聴開始。

7月 「経営学の基礎講座」を隙間時間で視聴。

8月 「研究計画書の書き方講座」を視聴。合格者の研究計画書を読み込む。

9月 研究計画書作成。他書類の準備を実施し出願。

10月 一次試験（小論文）前は過去問を実践練習。

「面接対策講座」を視聴。

11月 面接対策講座の志望校のパートを視聴。模擬面接実施。模擬面接での指摘事項を掘り下げ面接に臨む。

受講された講座の良さ、当該講座の学習方法

▼国内 MBA 入試攻略講座

予備校を受講しようとした理由の1つに情報収集の時間を省くことができました。狙い通り、学校毎の特徴・対策がわかりやすく、情報収集ができた上、志望校をあらためて考える上でもとても参考になりました。年齢的に不利なところがある、大企業かどうか、また受験生の中で職業に重複がないかなど属性が合否にも影響すると聞き、変えられない点については深く考えても仕方ないと割り切ることにしました。第1希望は早稲田か一橋でしたが、40代が多いということでは中央大学も視野に入れる必要があるかとも考えました。

▼経営学の基礎講座

身近な会社の事例を使ったださる点がとてもわかりやすく面白く視聴できました。経営知識が身につくと、世の中の流れやニュースがより理解でき、広い視点で考えられるようになると感じとても楽しみになりました。

また耳で学習できるという点も大きく助かりました。

▼小論文対策講座（大学院別対策編）

志望校のみに絞ってしか受講できておりません。経営の知識を問うよりも論理性を問う問題ということで、焦りが少しばかり減りました。

小論文の解答については理解しやすかったです。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座

過去の合格者の事例を使用しての解説はとても参考になりました。「独自性」があり「原体験」に基づく必要があるという点を繰り返し訴えてくださったため、その2点を問いながら研究テーマを考える日々となりました。また自分の実績を出願書類に入れる重要性も訴えていただいたため、あらためて経歴書等からブラッシュアップして振り返りを実施しました。

▼面接対策講座

面接対策講座は志望校に絞って受講しました。なぜなぜと深掘りして質問されるということだったので、隙間時間にも自分の研究テーマになぜなぜを問うようにして参考になりました。

模擬面接については直前で申し込んだので、空いている講師の方が少ない中で選んだのですが、たまたま志望校の卒業生かつとても素敵な方で、入学後のお話も聞けて、有意義な時間でした。

▼各種フォロー制度について（初回添削フィードバック、受験校相談、マンスリーゼミ、質問制度等）

添削サービスがアガルトを選択した理由の大きな1つであったにも関わらず、初回添削フィードバック、受験校相談、マンスリーゼミ、質問制度等全て利用できませんでした。幸運にも秋入試で合格できましたが、不合格であった場合は利用したと思います。

スランプ・挫折、それを乗り越えるための工夫

計画が不足していたことではあるのですが、自分に甘くしてしまったこと、仕事も忙しく、勉強時間を思うように取れず、講座もこなせず、受講を申し込んだ理由である添削サービスを研究計画書でも小論文でも利用できず、自分を責めていました。

途中割り切って、目の前の準備に集中するしかないと、講座を途中でも辞めて、志望校のテストに絞って利用して臨みました。また属性やその時の受講生のバランスもあったりして合否が変わると聞いたので、深く考えすぎないようにしました。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

土日の数時間と平日のお昼休み、夜を勉強時間に充てていましたが、仕事がとても忙しくなってしまう、時間が十分には取れませんでした。

時間がない分、家事をしながらや、移動時間にも講座を聞くように心がけ、机に向かわなくとも、どういう研究テーマにしようか等考えて毎日過ごしていました。

英語力も必要だと講座で言っていましたが、そちらに関してはここ数年時間とお金をかけて勉強していたため、別途準備する必要はありませんでした。ただし、日課としてシャドーイングは実施していました。

直前期の過ごし方

書類提出後は経営学の基礎講座を受講しきれいなかったので受講していましたが、小論文テストまで時間がない事に気づき、小論文対策に切り替えました。

小論文試験について、受験大学の過去問、解説動画のみ見て、論点を要約すること、手を動かす練習はしました。その頃聴いていたTEDがAmy CuudyのYour Body may shape who you areというもので、自信のあるポーズは自信をつけて面接の成功率も上がる、自信のあるフリをしていると自信がついてくるという話であったので、時間ももうなかったこともあり、パワーポーズも実施し、受かると思い込ませていました。

試験期間中の過ごし方

面接に進めることが決まってから模擬面接を申し込みましたが、受からなくては申し込みできないというルールはないので、先に申し込みをして、準備をしておけばよかったと後悔しました。面接数日前に受けることができた模擬面接自体は、本番より厳しいと思ったところもありました。とても参考になり、考えが足りない点を掘り下げられる良い勉強となりましたが、テーマの独自性が低い点の指摘については時間もないことから、割り切って自分の体験から来る回答の準備をしました。また志望大学の合格体験記を読んで参考にしていました。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

①受験した時の手ごたえ

書類に関して、研究テーマは準備不足もあったかもしれませんが、今までの転職活動で自分について棚卸しはしていたので、可能性はあるかもしれないと思っていました。

筆記試験は小論文を書く力を身につけたいと思っていたのに添削を一度も出せず、受けるまでは不安でしたが、論点を見つける設問で、時間内に収まり、内容も問題ないと思っていました。

面接についてはうまく答えられない点もありました、また教授の反応がすこぶるよかったわけではないので不安もありました。ただ、考えて回答はできたと思っていたので五分五分かもしれないと思っていました。

②合格した時の気持ち

元々、第1志望群であったこと、面接を受けているなかの質問でこの方のもとでインサイトをもらって深く考える力を身につけたいと思っていたことから、とても嬉しかったです。これから学べることにワクワクしている気持ちです。また冬入試も見据えていましたが、仕事も忙しく、社内資格を取得する必要がある、そちらに集中できることにホッとしました。

振り返ってみて合格の決め手は？それに、当該講座はどの程度影響したのか

①合格の決め手

自分の経験を掘り下げ、その中で感じていたこと、見直したいと考えていることを言語

化できるよう準備した点。総合的かと思います。また英語に関してはTOEICの基準等は設けられていませんが、MBA全般として学術書を英語で読むレベルは必要とされると、講義の中でお話がありました。ここ数年勉強していたので、スコアとしてはそのレベルに達していたと思います。また学習意欲を示すものとして、保持している資格は直接関係ないものも全て提出しました。

②講座の影響度

全部は受講しきれず、また国会図書館もいけず、添削してもらえないまま臨んだため準備不足は否めません。しかし授業はとても分かりやすく、過去事例も参考になり、「独自性」と「原体験」というキーワードを頭の中で繰り返し、常に研究テーマを考えていました。独自性は諦め、実体験に拘り、参考文献を読んだり、研究をインターネットで探して読んだりして作成しました。受講で言われたことはとても良い影響になって準備不足の中、なんとか合格できたのだと思います。

卒業後のキャリアについて

① MBAに期待するもの

経営の体系的な知識を身に付け、リーダーシップ、コミュニケーション、戦略的ななどの専門的な能力を高めることを目指しています。また、洞察力、深い思考力、分析力も身に付け、日々の問題に基づいて自らが解決すべき論点を定義し、的確に解決する力を養いたいです。さらに、ビジネスパートナーに提案し、動かせる「読み、書き、論じる」力を身に付けたいです。

②今後のキャリアビジョン

近い目標としてはCxOにご相談いただけるITパートナーとして日本企業の利益、価値の向上に貢献したいと考えています。中期目標として事業会社で経営メンバーになることを目指したいです。いつかは自分でビジネスも起こしたいです。

【推薦書について】

①提出されましたか？

提出していない

受験生に対するメッセージ

YouTubeやBlogなどWeb上に合格体験記を出してくれている方がいることから独学で合格された方も多くいらっしゃると思いますが、情報収集の時間短縮となる点や、また授業形式のものは耳で勉強できるため、家事をしながら勉強もできたので、予備校を選択することはおすすめです。独自性のある研究テーマを見つけるのは大変かと思いますが、実体験に基づいた意見には重みがあると思いますので自分の経験を掘り下げることが準備に繋がると思います。

2025年4月入学目標

国内MBA試験合格

研究計画書は妥協せず、完璧だと思うまで仕上げる

大山 紘司 さん

30代前半

社会人

2025年4月入学目標 / 国内MBA / 秋入試対策速習カリキュラム

進 学 先: 神戸大学大学院 経営学研究科専門職学位課程現代経営学専攻

合格体験記

MBAを目指したきっかけ

きっかけは大きく3つある。

1つ目は、私は、大卒で今の企業に就職し、勤めている中で、何か秀でている能力やスキルを身につけられている自信がなく、今後のキャリアに不安が募っていた。そこで、まず考えたのが資格勉強だったが、取り組んでいるうちに知識だけ身に付けている気がして、自分はここで得た知識を活用できるのかと疑問があり、MBAで体系的に学べば、より実用的なスキルが習得できると思ったこと。

2つ目は、新しい人脈を築き刺激を得たいと考えたからである。現在の会社や生活の中で得られる人脈だけでなく、高い学習意識を持つ人々と出会い、いろいろな考えに触れたいと考えた。

3つ目は、大学時代に真剣に学業に取り組んでこなかった後悔が、社会に出ると一層強くなり、一度真剣に学びたいと思うようになったからである。社会に出て、様々な課題を抱えている今であれば、学ぶことがより一層楽しいのではないかと考えた。

アガルートアカデミーをお選びいただいた理由

申し込む前に無料面談をしていただき、出願までの時間がない点などの不安点を相談し、出願までのスケジュールをすぐに組んでいただけたおかげで、イメージがわき、安心できたのが大きな理由である。私は、受験を決めたのが8月中旬と11月の出願まで時間がなかったことから、予備校はできるだけ早く決めたいと思い、あまり他校と比較せず、アガルートを選んだのだが、上記のように丁寧な対応をしていただいたので、まったく後悔はしていない。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

①勉強の方針

研究計画書を精度高く仕上げることを第一方針として、その他の小論文や面接への本格的な対策は、出願後に対策すればいいと開き直って勉強した。研究計画書は土日に集中して時間を確保し、小論文に向けた知識の習得は、通勤時間や会社での昼休みの時間を活用した。

②研究計画書のテーマ設定までの流れ

もともとヒトに関する研究をしたいと考えていたので、テーマの領域は事前に決まっていた。あとは、どの部分に自分が課題を抱えているかを棚卸するために、人的資本経営の書籍を読みながら探っていった。1週間ほどでテーマは設定できた。

③勉強のスケジュール

まずは研究計画書をいつまでに添削に提出して、いつ返ってきて、次はいつまでに添削に出して……と研究計画書を仕上げるスケジュールを組んだ。最低でも4回は添削に出した方がいいと無料面談の際にアドバイスいただいていたので、4回はラリーができるように予定を組んだ。結果、意外とコンスタントにやり取りができ、計6-7回添削いただけた。(期間：9-11月)

小論文対策は、研究計画書に取り組んでいる期間は、基礎講座を聞く程度で、出願後は、日経ビジネスを読んだり、ニュースで取り上げられている時事的トピックをインプットするなどした。(期間：11月-12月)

面接は年明けに、改めて研究計画書を読み返し、想定問答を作成、声出しして練習した。(期間：1月)

受講された講座の良さ、当該講座の学習方法

▼国内 MBA 入試攻略講座

お送りいただいた書籍はあまり使わず、メインは動画視聴と無料添削であった。動画は隙間時間に視聴できるため、大変役立った。また2倍速など倍速機能があるため、自分の理解度に応じてペースを調節できるのが良かった。

▼経営学の基礎講座

経営学の基礎講座は隙間時間に視聴できるため、大変役立った。

また、広く浅く解説してくれているので、自分の知識が足りないところがどこかを把握できて良かった。

▼小論文対策講座（大学院別対策編）

結論、あまり利用しなかった。小論文は不確実性が高いので、過去問をもとに出題の傾向を掴み、知識のインプットに時間を費やした。

研究計画書や日々の業務で文章を書くことに慣れている場合、決められた字数の中に留めることだけ意識すれば、書くことへの対策はあまり必要ないと感じた。

▼小論文対策講座（大学院別対策編）添削利用回数

3回

▼出願書類・研究計画書の書き方講座

提出後5日から6日で返信いただけるので、スムーズに作成できて非常に良かった。妥協なく指摘いただけることで、短期間で完成度を高められたと思う。ただし、過去の合格者の研究計画書が掲載されているが、完璧なものではないと思われるため、過去の方を参考に記載しても合格水準まで届かない可能性があると思った。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座 添削利用回数

4回

▼面接対策講座

動画を一通り視聴し、模擬面接1回申し込んだ。模擬面接は久しく面接というものを経験してこなかったため、いきなり本番ではなく練習できたことは非常に良かった。あとは、研究計画書をしっかり読み込み、何を質問されても大丈夫ように対策した。

▼各種フォロー制度について（初回添削フィードバック、受験校相談、マンスリーゼミ、質問制度等）

出願書類の初回添削フィードバックは良かった。あまり自分でも完成度が高くないと思いつつ提出したのだが、妥協なく厳しい指摘をしていただけたおかげで、危機感も一層強まり、最終的に完成度の高い研究計画書に仕上がったと思う。

スランプ・挫折、それを乗り越えるための工夫

自分が合格のために結構高いお金を払って受講しているのに、挫折するのは矛盾していると言いつつも聞かせながら勉強したので、挫折などはなかった。ただ、研究計画書の初回フィードバックで鋭い指摘を数多くいただいたので、本当に上げられるのかと不安になったが、上記のようにお金を支払っているんだからやらなきゃ！と自分を鼓舞した。あとは業務が忙しい中でも自己研鑽に取り組むことは偉いぞと自分に言い聞かせ、モチベーションを維持しながら取り組んだ。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

研究計画書を作成しているときは、平日は、通勤時間や業後に時間を確保し、最低でも30分、多い時で3時間ほど費やした。休日は主に早朝から正午にかけて、土日で5時間は確保。よって、9-11月は週5時間半～8時間ほど。

小論文対策や面接対策の12月～1月は通勤時間に書籍を読むなどし、週3時間～4時間を確保した。

研究計画書は完成度次第でかける時間が大きく変わってくると思うので、あくまで参考程度で。小論文や面接対策は、最低限準備していれば、あまり時間をかけても結果は変わ

らないのかなと思って取り組んだ。

直前期の過ごし方

研究計画書は、講師や親に見てもらい、ある程度お墨付きをいただいたので自信を持って提出した。小論文も最低限の対策はしたが、神戸大学HPの合格の道では、研究計画書が合否の決め手ではないかと書いている先輩方が多く、アガルトでも研究計画書が最重要と言っていたため、研究計画書を自信をもって提出できたことで、あとはなるようになると開き直って臨んだ。面接も同様で、研究計画書に書いた問題意識は、自分の内面から出てくるものなので当然嘘偽りないものであり、何を聞かれても答えられるだろうと、とにかく自信を持つようにした。

試験期間中の過ごし方

研究計画書は、読みにくい点、理解しにくい点がないかを確認するため、作成した次の日に改めて読み返すなどして、精査していった。何度も何度も確認しても、出願した後に誤字が見つかったので、やりすぎるくらい見直した方がいいと思う。

小論文や面接対策期間は、前述の対策をしていた。過ごし方と言うと、しいて言えば体調を崩さないように通勤中はマスクを欠かさず、できるだけ飲み会に参加しないようにしたりと、体調面のケアを中心に行った。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

①受験した時の手ごたえ

1次試験は出願書類（研究計画書など）と小論文で合否が決まるのだが、研究計画書の出来で大きく左右されるかと考えていた。私は、研究計画書を自信をもって提出できたので、おそらく1次試験は通過できるのではないかと感じていた。2次試験の面接では、一つの回答に対し、面接官が納得した相槌を打ってくれたことで合格できるかもと感じたが、総じて手ごたえはなかった。

②合格した時の気持ち

1次試験は、通過するだろうと思っていたものの、やはり緊張はした。合格のうれしさと同時に、受験番号の並びから受験者数が例年に比べてかなり多くなっていたことも分かり、最終合格するのは狭き門だなと感じた。

2次試験は、手ごたえがなかったので合格するか全く予想がつかなかったが、無事に受験番号を見つけることができて安心した。

振り返ってみて合格の決め手は？それに、当該講座はどの程度影響したのか

①合格の決め手

研究計画書の完成度だと考える。小論文や面接は不確実性が高いが、研究計画書はいくらでも完成度を高められると講師にアドバイスもらったが、その通りだと思う。自分の頑張り次第で、完成度を高められる研究計画書は妥協することなく、自分が完璧だと思うまで仕上げる必要があると考える。

②講座の影響度

講師に研究計画書の添削をしていただけたのは非常に良かった。書き方のお作法など、身近な方では中々添削してもらえないような部分まで、妥協なくアドバイスいただけ、大変助かった。一方で、基礎講座や面接対策は、自身のレベルによっては必要ないと感じるかもしれないので、取捨選択が必要。

卒業後のキャリアについて

① MBA に期待するもの

新たな人脈の形成に期待している。高い学習意欲を持つ方々との出会いは、普段の生活では得られる機会が少ない。MBAでは、そのような方々とネットワークを築くことで、今後のキャリアに生かすことができればと考えている。

② 今後のキャリアビジョン

現在は経営企画で新規事業開発をしているが、今後は人事領域で活躍したい。企業の継続的な成長のためには、優秀な人材の採用・育成が必要不可欠だと思う。企業にとっての最大の資産は「人」と考えるため、MBAで行う研究を基に人事畑で従事していきたい。

【推薦書について】

① 提出されましたか？

提出していない

受験生に対するメッセージ

日々の業務が忙しい中でも、貪欲に学びを求め、MBAに挑戦されるあなたは本当に素晴らしいです。自信を持って、諦めずに頑張ってください。受験期間中は大変なことも多いですが、大学院に入学するともっとハードなスケジュールで勉学に励むことになるので、これをその準備期間だと思ってやり切りましょう。MBA修了生から話を聞くと、社会人になってからのMBAでの学習はとても充実している、とても楽しいと言います。そんな楽しいMBA生活を夢見ながら、前進し続けてください！

2025年4月入学目標

国内MBA試験合格

模擬面接が効果的 本番でもブレずに対応できた

樋沢 太樹 さん

30代前半

社会人

2025年4月入学目標 / 国内MBA / 秋入試対策速習カリキュラム

進 学 先: 早稲田大学 経営管理研究科全日制グローバル

合格体験記

MBAを目指したきっかけ

前職での経験を経て、家業に従事。その後現場での経験を経て、代表取締役となりました。組織マネジメントと実務との違いに苦悩し、経営知識の不足を感じました。その中で、経営を基礎から学びたいと思いMBAを意識するようになりました。その中で、ファミリービジネスやアントルプレヌールシップ両分野に経験豊富な教授が在籍していること、グローバルな環境で学べること、同じ境遇の学生が多い点などから早稲田大学ビジネススクールを志望しました。

アガルートアカデミーをお選びいただいた理由

理由としては3つあります。

1つ目は、レスポンスの速さです。資料請求や面談を応募した際に、アガルートが最も早く、ここなら組織活動がしっかりしており、頼りになると感じました。また受講相談でも、オープンな情報提供でしたので、その点も好感が持てました。

2点目は、オンラインであることです。私自身地方に住んでいるため、予備校に通うことが困難でした。そのため、オンラインであることは有難かったです。

3点目は、合格特典があったことです。MBAの学費も安くありませんので、こういった特典があることは魅力的でした（本当に返金してくれるのか、という疑問はありました笑）。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

①勉強の方針

入学が6月末でしたので、経営学の基礎講座を短期間で終わらせること、そしてできるだけ早くエッセイ課題に取り組むようにしました。特に早稲田以外に行くつもりはなかったため、早稲田に特化した勉強に集中しました（エッセイ1-3を、とにかく深掘りし続けること）。この辺りは、受験校相談の際に、担当の鈴木さんのアドバイスがとてもの確だったと思います。

個人的には、大学受験での経験も踏まえて、1校のみに絞って勉強をしました。併願に関しては、その他の大学院については受かったときのことを考えても、通う意欲が湧かなかったなので、併願せずに行こうと決めました。

②研究計画書のテーマ設定までの流れ

研究テーマについては、はじめは何となく定めました。しかし、初回のフィードバックを頂いた後に本当にこのテーマで良いのかと自問自答し、たくさんの論文を読み（50本程度）、自分自身の長年の疑問だった点を2つピックアップし、そこから本当に研究したいものを選択しました。

③勉強のスケジュール

6月末 「経営学の基礎講座」視聴。とにかく基礎をマスター。

7月 「経営学の基礎講座」、初回フィードバック（鈴木さん）～3回目添削、TOEIC勉強。TOEICは当初受ける予定はなかったですが、面接でスコアを伝えるために勉強しました。

8月 4回目～7回目添削、TOEIC勉強。とにかく必死で両方をやりきりました。

9月 TOEIC勉強、最終確認し出願書類提出。

10月 「面接対策講座」を視聴、妻と面接練習開始。（10月中旬）

11月 1次試験合格発表 合格 11月7日

→模擬面接（弁護士さん）（2週間前）、模擬面接（高木さん）（1週間前） 実施

→2次試験面接実施 11月24日

→2次試験合格発表 不合格 11月28日

12月 冬受験再チャレンジ

1月 アガルートの経営学の基礎講座と経営学理論の書籍

2月 1次試験合格発表 合格

→模擬面接×2回、妻との面接練習×5回

→2次試験面接 2月23日

→2次試験合格発表 合格 2月27日

受講された講座の良さ、当該講座の学習方法

▼国内 MBA 入試攻略講座

最初の動画でMBAがどんなものなのか、MBAは何をする場所であるのかを理解できた

点が良かったです。また、原体験がいくつかあったので、こういったことが最も影響を与えたのかを整理するためにも動画視聴を行い良かったと思います。

▼経営学の基礎講座

とにかく経営学の基礎講座を反復することを心がけました。覚えるというよりは、理解していくことを重点的にを行い、自社ではどうなのかを考えたりしていました。結果的に、自社の見直しや自分に足りない経営視点が見えてきました。

また、何周もすることで、自分の言葉としてスラスラ出てくるようになりました。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座

大学の種類によって求めているものは違うという理解に大変役立ちました。また、私の場合には早稲田大学MBAのみの受験でしたが、他大学を受験する際にはどのような点を押さえておくべきか等、勉強になるのかなと思いました。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座 添削利用回数

6回

▼面接対策講座

面接対策、特にディープダイブというものがあるということに驚きました。本番の面接で早稲田MBAはあまりディープダイブが無いと知り、安心もしました。しかし、秋受験はさっと終わりましたが、冬受験は思いきりの良いほどのディープダイブと圧迫面接だったのでびっくりしました。20分近い面接は、頭の回転が次第に鈍くなるため、本当に思考体力と思考スピードは日頃から鍛えていて損はないと思います。

▼各種フォロー制度について（初回添削フィードバック、受験校相談、マンスリーゼミ、質問制度等）

マンスリーゼミはリアルタイムでは1度のみの参加で、あとはアーカイブ視聴を行いました。最も良かったことは、初回のフィードバックと添削が何度もしていただけたことです。これにより出願書類は自信を持って出すことができました。また、模擬面接は合計で3回行いましたが、それぞれ実りあるものでした。高木さんと鈴木さんの模擬面接は、それぞれアプローチの方法は異なる点はあるかと思いますが、それぞれのアドバイスとスタイルがあったからこそ、本番では最後まで心が折れずに対応することができました。何人かの面接を受けてみるのは、良い方法かもしれません。

スランプ・挫折、それを乗り越えるための工夫

スランプは特にありませんでしたが、秋受験の不合格はメンタル的にきつかったです。これは本当に献身的な妻の支えがあったからこそ、もう一度自分を奮い立たせて冬受験にトライできました。また、研究テーマを決める際に焦りと戸惑いはありました。自分の原体験や強みが、自分にとっては当たり前だと思っていたので、その当たり前の感覚を見直

し、自分が何をしたいのか、何が知りたいのかといった内省を繰り返す機会が必要でした。また、妻や鈴木さんにも私のこういうことが過去に気になっていたなどを話すことで、それが研究テーマになるのでは？ といったことを教えていただき、見つけることができました。人と話し、自分で内省することが大切なのだと思います。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

学習は、基本的に日中の移動時間や夜のお風呂上りなどに行いました。妻の協力もあり、育児をしながらの学習でしたが、隙間時間もうまく利用していました。基本的には、論文も読むことやアガルトの経営学の基礎講座を見ること、そしてTOEICの勉強がルーティンとなっていました。TOEIC試験終了後は、読書と面接対策、また日経やCNNを読むことがルーティンになっていました。

1月、2月共に読書が多かったです、また、受かった場合にも備えて、世界標準の経営理論や数学、アカウンティングの本などは何周かしておきました。

直前期の過ごし方

冬受験の際には、秋受験と異なり、できるだけ普段と変わらない気持ち、すなわち自然体で居るように意識していました。理由としては、面接の時に普段と違う自分を出そうとしても、付け焼刃にしかならず、素の自分を見破られてしまうからです。そのため、直前期等に関わらず、秋受験後から、言葉遣いや態度、そして自分の行動を再度見直して、表と裏のない生活に変化させていきました。その結果が、冬受験の2次面接の合格にもつながったと考えています。

試験期間中の過ごし方

秋受験の際には、とにかく瞑想を取り入れることをしていました。面接試験本番も同様に瞑想を行いました。秋受験が不合格になってからは、出願が4日後からの始まりだったため、とにかくすぐに冬受験の準備をしました。基本的に秋冬2回の受験が不利と言われることもあります、私は冬受験に自信がありました。理由は、エッセイについては完璧なものを準備して秋受験に臨んでいたこと、英語力に関してもTOEICのスコアもしっかりと取っていたこと、また自分を変化させていくことで良い印象を残せると考えたからです。万が一落ちた際の質問も面接時にされていたため、とにかく粘り強く受けることが大切だと考え、自分自身をもう一度見つめ直し、心から湧きあがる情熱の在処と自分の軸を再度見直し、秋受験から冬受験までの3か月間、さらにレベルアップした面接への準備をしました。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

①受験した時の手ごたえ

正直、受かった、という感覚はわかりませんでした。なぜなら、秋受験の時のことがあり、また圧迫面接が非常に強く、大丈夫かなという感覚の方が強かったからです。ただ、秋受験と異なり、変な不安はなく、やり切ったという感覚はありました。また、一つ一つ

の質問に真摯に丁寧に答えたので、その部分を評価していただければ良いなという気持ちでした。

②合格した時の気持ち

素直に大喜びと涙が出てきました。秋受験の悔しさからの再受験でした。また、今年度で全日制グローバル2年制の日本語プログラムは終了です。人生をかけて合格するという思いでしたので、何よりもうれしかったです。

また、自分のやってきたことが間違っていなかったということが証明できました。何より、支えてくれた妻や家族、多くの方々に本当に心から感謝しました。

振り返ってみて合格の決め手は？それに、当該講座はどの程度影響したのか

①合格の決め手

間違いなく妻の支援です。MBAの受験を快く許してくれたこと、エッセイや研究テーマ、仮説等の内容の細かなチェックを行ってくれたこと、そして日々の面接練習を行ってくれたこと、また再受験を迷いなく背中を押して応援してくれたこと、本当に有難いです。家庭の活動もある中で、私のMBA試験の支援には、心からの感謝しかありません。

②講座の影響度

エッセイの添削、模擬面接が特に影響があったと思います。

特に鈴木さんの的確な添削と何故早稲田？ 何故このテーマか？といったWHYを意識させる添削と伝達効率の高い文章構成の作り方により自分自身の文章が劇的に変化し、今後にも生きてくる貴重な体験でした。この添削なしには、合格はありませんでした。そして、2回に渡る模擬面接は何よりも有難く、矛盾点を付いた質問や様々な先生になり切った質問は本番でプレずに対応できた要因だと思います。

また、高木さんの模擬面接も網羅的な質問内容で、その場でしっかり考えつつ、内容を整理しないといけないものでした。特に社内だけではなく、社外の環境も見ただけが良いということが冬受験で活きたとは思わなかったので、本当に良かったです。そして、スピード感溢れる面接は、本番の面接官が行っているものだったので、この練習も冬受験で大変効果的でした。

鈴木さん、高木さん、本当にありがとうございました。

卒業後のキャリアについて

① MBAに期待するもの

事業承継予定者と共に学び、経験を共有し、経営知識を更に深めたいと思います。またアントレプレナーシップやファミリービジネスの専門的な研究を通じ、自社企業へ転用できる学びとしたいです。また社外の環境もこれ高齢化問題なども抱えているため、M&Aやアライアンスについても学んでいきたいです。何より自分の好きな分野について、2年間学べることが本当に楽しみで仕方ありません。

②今後のキャリアビジョン

自分の会社での更なる成長のために多角化も視野にしていきたいと思っています。現在

の業務だけだと、地域特性が強い影響も受けて業績が偏重してしまっているのです、MBAでの学びを通じて新規事業創出や組織改革も行いたいと思います。また、事業拡大・組織拡大を行い、今後10年以内にはグローバルな事業展開、グローバルな活躍をしていきたいです。

【推薦書について】

①提出されましたか？

提出していない

受験生に対するメッセージ

日々の勉強お疲れ様です。私が受験において大切だと思うことは、「情熱（パッション）」と「自分軸」、「GRIT（やり抜く力）」です。

先ず、情熱です。何故MBAに行きたいのか？ 何故その大学なのか？ を明確にしてください。特に早稲田MBAの一般入試を受ける方は、この点を大切にしてください。教授陣は、間違いなく、国内トップの布陣ですし、全日制は間違いなく国内最難関プログラムです。付け焼刃の「思考」では、簡単にその人の本質は見破られます。目のきらつきや心から湧きあがる情熱を教授陣は見ていると感じます。圧迫面接をされても、穏やかな面接をされても、最後は自分のパッションが無ければ合格はあり得ません。自分の湧きあがる情熱、そして何としてもやり抜くんだという強い思いの源泉を、とにかく自分自身と対話・内省し、深掘り、自分だけの答えを見つけてください。

次に自分軸です。自分軸とは、自分は何者か、自分は何をしたいか、そしてそれらを知ることで自分らしく居続けることです。これは、秋受験に落ちて、冬受験をする際に私が再度考えさせられたことです。自分の軸とは何か、それを突き詰めることは、情熱と共に、自分の信念・生き様も考えることです。どうやって生きていきたいのか、自分が何を成し遂げたいのか、それを見つけてこそ自分の軸となります。私の場合は「挑戦」「あきらめない」「トライ&エラー」が軸でした。この軸があったからこそ、どんな状況やどんな面接に対してもやり抜くことができました。

最後にGRITです。最後までやり抜く、たったそれだけのことが本当に大変なんです。皆さんは失敗して上手く行かなくても諦めないで、今まで以上の情熱と努力で目標を達成しようすることはできますか？

もし安全地帯を見つけて、そこに甘んじて妥協をすれば、成功は難しいでしょう。人生では、何度も何度も困難なことがあります。そして、それは大きなことを成し遂げようとする人ほど直面すると私は感じています。もしかしたら、周りを見れば簡単に受かってしまう受験生がいるかもしれません。自分だけどうして受からないんだろう、自分はこんなもんかな、そう感じる方もいるかと思います。その瞬間にこの言葉を思い出してください。「神様はあなたができない課題を与えない」

だからこそ、前を向いて、それでも目標に向かってやり抜く覚悟を持ってください。そして、そのために、自分の軸と情熱を忘れずに持ち続けてください。

もし、まだ自分を奮い立たせる勇気がなく変わらないなら、「明日の自分」が後悔しない選択を「今」してください。

受講者の皆様のひたむきな努力は必ず報われると思います。頑張ってください。

2025年4月入学目標

国内MBA試験合格

受験生として過ごす期間は「プレMBA生期間」

戸嶋 采子 さん

30代前半

社会人

2025年4月入学目標 / 国内MBA / 秋入試対策速習カリキュラム

進 学 先: 神戸大学大学院 経営学術研究科専門職学位課程現代経営学専攻

合格体験記

MBAを目指したきっかけ

私は学部卒業後に就職をしましたが、その頃から、実務の経験を一定程度積んでから大学院に進んで学びなおしたいという漠然とした思いをもっていました。

その後、現職にて海外駐在し、法人運営を経験したり中小～大手企業の経営者の方々と公私にわたって交流する中で、経営学への関心が高まりました。帰任にあたり今後のキャリアを考えた際に、現在の私の成長に最も必要な学びは経営学であると考え、MBAを志すことにしました。

アガルートアカデミーをお選びいただいた理由

MBA受験において予備校は不要という意見もある中で、確実に合格するために予備校を活用することの意義は、「正確で信頼できる情報を得られる」という点と「研究計画書について個別のフィードバックを受けられる」という点にあると考えていました。

また、国内外の出張も頻繁に発生するため、オンラインで完結することが受講できる条件でもありました。

上記の点を十分に満たすのがアガルートアカデミーであると考え、受講いたしました。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

①勉強の方針

学生時代からの学習経験を通じて、私の「学習の弱点」は①インプットが苦手、②全体像が把握できるまで理解力が上がらないという2点であると考えています。そのため、まずは経営学の基礎講座を通読し、大枠を理解した上で何度も繰り返す方針をとりました。

また、TOEICの結果提出が必要なMBAの受験も検討していたため、基礎講座と英語をバランス良く勉強するよう心掛けました。

②研究計画書のテーマ設定までの流れ

経営学ではない学術分野ですが、自身の専門分野において、定期的に国際大会で発表をしたり学会に参加したりしています。学問の視点から実務を振り返る機会に恵まれていたためか、MBA受験を決意したときには研究テーマが自然と決まっていました。

③勉強のスケジュール

7月 「経営学の基礎講座」視聴、TOEIC対策

8月 「経営学の基礎講座」視聴、TOEIC対策、先行研究探し

9月 「経営学の基礎講座」視聴、TOEIC対策、先行研究探し

10月 「経営学の基礎講座」視聴、TOEIC対策、研究計画書作成・添削

11月 「経営学の基礎講座」視聴

12月 「経営学の基礎講座」視聴、小論文対策

1月 先行研究・研究計画書読み直し、模擬面接、面接対策（想定問答練習、合格体験談読み直し）

受講された講座の良さ、当該講座の学習方法

▼経営学の基礎講座

ゼロから経営学を学ぶ私でも無理なく勉強できるわかりやすい講義でした。各章のトピックを一度見て頭を整理してから読みました。

▼小論文対策講座（大学院別対策編）

アルバイトで小論文の講師をしていた経験もあったため、対策の優先順位は低いと考え、ほとんど活用しませんでした。試験の直前に模範解答を原稿用紙に書き写して、手書きをする練習をする際には使用させていただきました。

▼小論文対策講座（大学院別対策編）添削利用回数

1回

▼出願書類・研究計画書の書き方講座

数名の先生が回付して添削してくださっていると伺い、手厚さに感激しました。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座 添削利用回数

2回

▼面接対策講座

一次試験後に面接対策講座を勉強しようと考えていましたが、一次試験の手応えがなかったため、模擬面接以外はせずに面接当日を迎えてしまいました。

模擬面接では、「きっと一次試験に合格しているから大丈夫」と力強く励ましていただき、

再び学習に向き合うことができるようになりました。大変感謝しております。

▼各種フォロー制度について（初回添削フィードバック、受験校相談、マンスリーゼミ、質問制度等）

受講開始時はマンスリーゼミや質問制度も魅力的に思っていましたが、結果的にはあまり活用できませんでした。

マンスリーゼミはアーカイブ動画を何度か視聴しましたが、受講者からの質問のレベルや学習状況を自身と比較してしまい、自信を失ってしまいそうだったため視聴しなくなっていました。

スランプ・挫折、それを乗り越えるための工夫

業務に疲れて学習のやる気が出なかったり、プライベートで夫との時間も大切にしようとする勉強に集中できないということがあり、度々自己嫌悪に陥りました。

しかし、私が目指していたのは就業を継続することが前提の大学院ですので、進学後も同様の状況になることは想像できます。受験生として過ごす期間は「プレMBA生期間」と考え、時には割り切って勉強のことばかり気にせず過ごすようにしました。

また、社内の親しい一部の方にはMBAを受験することを打ち明け、アドバイスをいただくことでモチベーションを保ちました。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

- ・朝：7時～8時ごろに勤務先の最寄駅に到着し始業時刻の9時までカフェで勉強
- ・昼：食事を摂りながら経営学の基礎講座のテキストを読む、ビデオを見る
- ・夜：夕食を作りながら経営学の基礎講座のビデオを見る
- ・移動中：経営学の基礎講座の音声DLして聞く、TOEIC対策のappで勉強

平日は上記の中で1～2つ達成できる程度でした。

休日はカフェに半日程度滞在し、経営学の基礎講座およびTOEICの勉強をしていました。

直前期の過ごし方

私が合格したMBAは一次試験が小論文でした。

学生時代には予備校で小論文の講師のアルバイトをしていた経験もあるため、経営学の基礎講座を繰り返すことを優先し、小論文は直前まで対策していませんでした。手書きで文字を書くことがあまりないため、小論文のテキストの模範解答をいくつか書き写すことで手書きの感覚をつかみました。体調管理には気を使いましたが、特別なことはせずいつも通り過ごすことを心掛けました。

試験期間中の過ごし方

一次試験の小論文の設問が理解できず、まったく手応えを感じられませんでした。そのため、年末に一次試験を受けてからは半ば諦めモードで試験対策は一切しませんでした。

年明けに「せっかくだから面接対策を受けてみるか」と思い立ち、先生から励ましのお

言葉をいただいてからは、研究計画書の参考文献などを読み返しました。

しかし、一次試験の合格発表まではなかなか身が入らず、二次試験に進むことが決まってから1週間程度で集中的に面接の対策をしました。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

①受験した時の手ごたえ

一次試験（小論文）、二次試験（面接）ともに手応えはまったくありませんでした。特に一次試験では、試験会場から最寄駅への道中で知人同士で自身の解答について話しているのを耳にしてしまい、私の解答とはかけ離れていたため「絶対に不合格だ」と考えていました。

②合格した時の気持ち

二次試験の合格発表で受験番号をみつけたときには「よかった」という言葉が口をついて出てきました。無事に合格できて安心した気持ちが強いです。

一次試験では受験番号を見誤って不合格になったと思っていたところ、数時間後に念のためと思って見直したら受験番号があったため、驚きと喜びで飛び上がりました。

振り返ってみて合格の決め手は？それに、当該講座はどの程度影響したのか

①合格の決め手

合格の決め手は研究計画書だったと考えています。一次試験はまったく手応えがなかったにも関わらず二次試験に進むことができたのは、研究計画書の出来がよかったためだと推測しています。二次試験では面接官の机上に研究計画書が置かれていましたが、何度も読み返していただいたことが紙の状態から伺えました。

②講座の影響度

特に研究計画書については、大いに影響があったと考えています。研究計画書を先生に添削していただき、自信をもって提出できたことは精神面でも良い影響があったと感じます。また、経営学の基礎知識もどのように身につければよいかわからなかったため、アガルトのテキスト一冊で対策できるのは助かりました。

卒業後のキャリアについて

①MBAに期待するもの

まずは経営学の体系的な知識を得て、自社や私自身の業務に役立ち、日本企業に貢献できるような研究をしたいと考えています。

多様なバックグラウンドをもつ方々と共同で学ぶことで、新たな視点や気づきを得ることを期待しています。

②今後のキャリアビジョン

私の目標は、外国人材と日本企業の双方にとって幸せな仕組みをつくることです。そのために、現職で日本企業へのコンサルティングを通じて多文化共生を推進すると同時に、将来的には現職または自身の起業によって企業内の多文化共生に関するシンクタンク機能

をもつ組織を設立したいと考えています。

また、日本語教育に長年携わってきた経験から、経営学と日本語教育学の両面に深い理解をもつ人材はまだ少ないと感じています。そこで、就労日本語の分野でも大学院で研究を進め、経営学と日本語教育学を融合できる唯一無二の専門家となり、企業と外国人材のより良い関係づくりに貢献していきたいと考えています。

【推薦書について】

①提出されましたか？

提出した

②どなたに推薦書をご依頼しましたか？

上司（副社長）

受験生に対するメッセージ

様々な背景から、世の中にはMBA不要論を唱える方もいらっしゃり、MBAを受験することに対して雑音となりうるコメントをされる方も中にはいらっしゃいます。しかし、私は「自分自身や社会を変えるために再び勉強したい」という熱い思いを邪魔したり馬鹿にしたりすることは許されないと考えています。

信頼できる家族や仲間の助けを得ながら、MBAに挑戦するという自分の決意を信じて最後まで頑張り抜いていただきたいと思います。

2025年4月入学目標

国内MBA試験合格

目を背けず自分と向き合い、納得できるまで準備した

金久 いずみ さん

20代後半

社会人

2025年4月入学目標 / 国内MBA / 冬入試対策カリキュラム / フル+アドバンス講座付オプション

進学先：立教大学 ビジネスデザイン専攻

合格体験記

MBAを目指したきっかけ

もともと経営をしたいと思っていました。過去の経験から、自殺防止の領域で貢献できることはないかと考えたからです。しかし、自分よりも優秀な人が経営者として苦戦しているのを見て、センスがない自分は理論と実践からスキルを身につけるべきだと考えました。そのうえでゼネラリストとしての知識を身につけることができ、徹底的に考えたビジネスプランを叩ける場であるMBAに興味を持ちました。

アガルートアカデミーをお選びいただいた理由

合格実績があることです。また、別のMBAのスクールにもともと通っていたのですが、対面の塾で講師に嫌なことを言われてしまい、辞めました。辞めたはいいものの、そこ以外の大手は選択肢がなかったので選びました。選んだ基準としては、大手MBA予備校のなかでも合格実績があり、MBAの受験で有名な先生がいたからです。実際に、合格者のレポートが豊富なので出願書類をかくときや面接対策をするときに冊子が役立ちました。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

①勉強の方針

仕事がとても忙しく受験しながらだと大変だと思い、受験期間を短くする戦略をたてました。実際に立教大学を受けると決めて面接するまで1ヶ月もなかったと思います。短期間にする代わりに何を生活から捨てるかを考えました。SNS（LINE以外）を受験中はやめて仕事後は勉強に取り組みました。

②研究計画書のテーマ設定までの流れ

テーマに関しては悩むことはありませんでした。自分が経営するならこんなことをしたいと思い描いていたことを言語化するだけの作業だったからです。ただ、研究計画書を書き慣れていないので構成などを考えるのに時間を使いました。

③勉強のスケジュール

7月 立教大学ビジネスデザイン研究科のオープンキャンパスに行く

8月 「研究計画書の書き方講座」などを視聴

研究計画書作成・添削依頼

添削を待つ間に立教の小論文作成

立教の出願書類作成

青山学院大学国際マネジメント研究科のオープンキャンパスに行く

9月 青学の出願書類作成

「面接対策講座」を視聴

立教の面接対策

立教合格

青学の面接対策

10月 青学不合格

受講された講座の良さ、当該講座の学習方法

▼国内 MBA 入試攻略講座

国内MBAの入試攻略講座の感想・利用方法については1日ほど流し見をしました。MBA受験について詳しく知らない人は、どんなことをすればいいかを知るために役立つと思います。ただ、100%真に受けないことも大切だと思います。

▼経営学の基礎講座

経営学の基礎講座の感想・利用方法については、あまり利用していません。なぜなら、私は仕事で忙しく経営学の知識が必要な早稲田大学や一橋大学、京都大学、神戸大学、東京立大学、筑波大学、横浜国立大学などを受けていないからです。

▼小論文対策講座（大学院別対策編）

小論文対策講座（大学院別対策編）は残念ながらしていません。なぜなら、小論文を使わなかったからです。一橋大学、京都大学、神戸大学、東京都立大学、筑波大学、横浜国立大学を受ける人はぜひ活用するのがいいかと思います。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座

同じ大学を受けて合格した先輩方の資料が大変参考になりました。ただ、MBAは人気になっていると思うので、自分が受けるときの方が倍率が高くなっているという心持ちで受けるのがいいかと思います。過去の先輩よりもいいものを書かないと落ちると思いなが

らやっていました。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座 添削利用回数

4回

▼研究計画書の研究テーマライブラリー

研究計画書の研究テーマライブラリーの存在を知りませんでした。おそらく、研究テーマライブラリーは研究計画書が必要とされる早稲田大学や一橋大学、京都大学、神戸大学、東京都立大学、筑波大学、横浜国立大学に役立つのかなと思います。

▼面接対策講座

面接で大切なことはいくつかあるかと思いますが、緊張しないことも入るかと思いますが。アガルートから配られる面接対策の冊子には、部屋の様子やどんな先生が何人で面接したかも書いてあります。書いてある内容から想像しておくとうり緊張しないと思います。

▼各種フォロー制度について（初回添削フィードバック、受験校相談、マンスリーゼミ、質問制度等）

受験校相談については、話半分で聞くのがいいかと思いますが。研究したいことが決まっているのであれば、ハードルが高くても目的の場所で勉強すべきだからです。アガルートがどうこうではなく、自分の人生を決めるうえで誰かに言われたことではなく自分の気持ちにフォーカスするのがいいです（リスクヘッジのために複数校は受けたほうがいいと思いますが）。受験校を自分自身で決めたら、アガルートのフォロー制度である初回添削フィードバック、マンスリーゼミ、質問制度を使って合格に近づけるのがいいかと思います。

スランプ・挫折、それを乗り越えるための工夫

スランプというスランプはなかったかと思いますが。しいていえば、青学に落ちたことですが、大したことではありません。とても悔しい思いをしました。立教もとてもいい大学なので受かった場所での学びを最大化する方へフォーカスして考えるようになりました。今はビジネスプランコンテストに出る準備をしたり、中小企業診断士の勉強をはじめています。そう思えたのも全力で青学の受験に挑んだからだだと思います。何も無駄にならないのでつらい期間も糧になると思って手を動かすのがいいかと思います。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

月に200時間以上は確実に仕事をしているくらい忙しかったのですが、毎日3時間くらいは勉強時間を死守していました（とはいえ、休憩しながらですが）。毎日20時から22時半まではかならずカフェにいました。カフェにいたのは自分の性質上、家の中だとまず集中できないですし、スキマ時間で勉強もできないと自覚していたからです。やる気がない日も音のならないタイマーをかければ、集中できます。最初から短期集中しようと思って

いたのでそこまで苦ではありませんでした。1日に何回も注文したので、カフェの性質上とても太りました。

直前期の過ごし方

青学の志願理由書から数日で立教だったので、面接練習をする時間があまりありませんでした。とにかく詰め込み詰め込みで風呂仕事食事以外は勉強していました。家の掃除もしていなかったのでもちやくちゃ汚かったですが、不快よりも落ちることが自分にとって嫌でした。私のように1ヶ月未満で短期集中したい人は、不快とも戦う覚悟で受けるのがいいかと思います。掃除も家事も両立したいよって人はもう少し余裕をもったほうがいいです。

試験期間中の過ごし方

毎日仕事が終わったら23時まで空いているカフェに行き、出願書類や面接の想定質問を考えました。自分は話下手なので話し方の練習の機会だと思って、4人ほどの話し方講師の人から講習を受けたりもしました。面接では笑顔でジェスチャーなどもくわえて話せるようにすべく、毎日20分くらい親に想定質問をしてもらい電話で暗唱したり、ビデオで自撮りして直したりするのを繰り返しました。MBA受験は自分にとってキャリアの棚卸しだけでなく、スピーチが下手な自分の克服にもなったと思います。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

①受験した時の手ごたえ

立教大学は面接後すぐに合格したと思ったので、大学の構内でたくさん写真を撮りました。すごくおしゃれで素敵な構内なのでゆっくり見たかったのです。面接官の先生はとても有名な方でしたが、私のビジネスプランをよく考えていると褒めてくださったので嬉しかったです。

②合格した時の気持ち

嬉しかったです。仕事の休憩中に一緒に仕事をしている仲間とドキドキしながらみたのですが、ホッとしました。普段ご褒美でしか買わない職場のカフェに売っているドリンクを買いました。一緒にいた仲間も褒めてくれて嬉しかったです。

振り返ってみて合格の決め手は？それに、当該講座はどの程度影響したのか

①合格の決め手

準備だと思います。自分が納得できるまでたくさん準備をしたからこそ合格できたと思います。MBA受験ではキャリアの棚卸しをします。準備をするにあたって自分がどれだけ足りていないのか実感すると思いますが、目を背けず向き合うことが大切だと思います。

②講座の影響度

50%。立教大学は、出願書類も面接対策もアガルートでやっていなかったのでもちろん得た情報で対策をしました。アガルートは大手予備校ですので、たくさん利用しておりデータが蓄積されています。これは他の予備校を凌駕しているポイントだと思います。

卒業後のキャリアについて

① MBA に期待するもの

私は経営を通して自殺者を少なくしたいと考えています。一般的にソーシャルビジネスは普通のビジネスよりも難しいといわれており、私の夢の実現はハードルが高いかと思います。自殺防止で持続的な経営ができるようなビジネスの基盤をMBAで得たいです。

②今後のキャリアビジョン

秋入学で合格し、時間に余裕があるので勉強をしたいと思います。具体的には学びを最大化すべく中小企業診断士の勉強やビジネスプランコンテストの準備などをしたいです。卒業後は、経営者として自分が理想とする社会の実現に注力したいと思います。

【推薦書について】

①提出されましたか？

提出していない

受験生に対するメッセージ

MBA受験は自分と向き合う機会が多いと思います。最初は楽しく受験勉強ができていたのですが、終盤はつらいと感じることも多かったです。私はスキルやキャリアが足りていないこと、人前で話すのが苦手なことが壁だと感じました。しかし、今は伸びしろだと前向きに考えて克服したいと思うようになりました。これは受験しなかったら得られていない価値観です。結果はもちろん大切なのですが、プロセスで得られたものが多いと感じました。もし、大学院選んで悩んでいるならハードルが高いところを受けたほうがいいです。高い壁にぶつかるほうが自分の足りないものが見えてくるはずです。私は全力で向き合ったからこそ自分の課題を知ることができました。

2025年4月入学目標

国内MBA試験合格

添削によって自分らしさを出した書類に 仕上がった

石 駿 さん

20代前半

学生

2025年4月入学目標 / 国内MBA / 冬入試対策カリキュラム / フル

進 学 先: 青山学院大学大学院 国際マネジメント研究科国際マネジメント専攻

合格体験記

MBAを目指したきっかけ

将来経営者になることを目指していました。経営者になるにはどうすればいいのか色々調べていると、経営者や役員といった方の一定数がMBAホルダーであることを知りました。その時からMBAの取得を目指すようになりました。MBAを取得すれば経営者として成功できるわけではありませんが、MBAを通じて着実に経営の知識を学んでいく必要があると思いました。また、私の場合通っていた学校が財政難を抱えていた経験から、このような状況を変えられるような力が自身に必要なだと考えたのもきっかけです。

アガルートアカデミーをお選びいただいた理由

他の予備校に比べて一番信頼があったからです。以前から国内MBAについてアガルートで調べていました。大学院ごとの対策や合格者の体験記などが載っていたのでとても参考になりました。また、授業サンプルや、受講相談もして安心して利用ができると判断したのでアガルートを利用しました。合格者数についてホームページで確認できるのですが、何人が受験したのか書かれていたことも一つの理由です。他の予備校では合格者数しか書かれていない場合もあったので。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

①勉強の方針

私は青山学院大学のMBAを目指しており、出願まで1か月半ほどであったのでできる限り早く添削してもらえるよう書類を書き上げました。大学4年であったので授業もなく、1日の時間には比較的余裕があったので、書類に費やす時間は問題ありませんでした。

②研究計画書のテーマ設定までの流れ

青山学院大学のため研究計画書はありませんでした。

③勉強のスケジュール

- 9月 アガルート受講相談、アガルートに決める。出願書類作成、隙間時間に経営学の動画を視聴。初回添削フィードバックを受ける。なぜMBAに進学したいのか、キヤリアプランや過去の経験と結びつけて考える。
- 10月 出願書類を添削。添削を待つ時間に経営学の動画を視聴。中旬に青山学院大学MBAの説明会に参加。説明会とその時に配布されたパンフレットを読み、青山学院大学の特徴を知る。本当に青山学院大学でいいのか検討し、同大学院に進学することに決める。
- 返却された書類を1週間以内に直し、再度添削してもらう。隙間時間に過去に合格された方の書類を何度も読み返して参考にしていた。
- 11月 出願書類をそろえて出願。面接対策講座を視聴。面接で答える内容を文字で起こす。
- 12月 実際に声を出して練習。自分の答えに対して、深掘りされそうな箇所をさらに対策。面接実施。

受講された講座の良さ、当該講座の学習方法

▼国内 MBA 入試攻略講座

動画なので隙間時間に少しずつ見ることができました。国内MBA試験において重要なポイントについて押さえているので非常にためになりました。特にオリジナリティであったり、人生哲学が国内MBAでは大切だと知ることができました。

▼経営学の基礎講座

飯野さんの経営学の講義がMBAをなぜ取得すべきなのかを絡めた内容であったのでわかりやすかったです。また動画だけでなく基礎講座の参考書もわかりやすかったです。デジタルブックもあるので、通勤通学時にも利用することができました。

▼小論文対策講座（大学院別対策編）

出願書類の書き方も重要ですが、それよりも自分にしか書けない内容を書くことが大事であると講座を通じて知ることができました。また、過去の合格者の志望理由書や課題エッセイを閲覧することができるので非常に参考になりました。

▼小論文対策講座（大学院別対策編）添削利用回数

4回

▼出願書類・研究計画書の書き方講座

出願書類の書き方も重要ですが、それよりも自分にしか書けない内容を書くことが大事

であると講座を通じて知りました。また、過去の合格者の志望理由書や課題エッセイを閲覧することができるので非常に参考になりました。出願書類作成にあたり、過去に自分がどのように生きてきたのかという自己分析をする良いきっかけにもなりました。

▼面接対策講座

面接対策講座を視聴することで、面接で何を見られているのか、よくされる質問は何か、そして各大学院でされる質問の特徴を知ることができました。また、過去に合格された方の再現レポートを基に学ぶため対策がしやすかったと考えます。

▼各種フォロー制度について（初回添削フィードバック、受験校相談、マンスリーゼミ、質問制度等）

MBAを受験された方が周りにおらず受験に対して不安を抱いていました。自分が本当にMBAに合格することができるのか自信がありませんでしたが、初回添削フィードバックで講師の方に抱えている不安等、色々と話すことでとても勇気づけられました。

スランプ・挫折、それを乗り越えるための工夫

現在大学4年で就職をせずに新卒でMBAに進学することを目指しましたが、もし入試に落ちたらどうしようという不安がありました。周りからは「進路はどうするんだ」「就職は決まったのか」と日々言われ、さらにプレッシャーを感じていました。それを乗り越えるために私は良い意味で開き直すことにしました（笑）

入試に落ちたらしょうがない、どうにかなると開き直り、マインドを変えました。これによって不安を気にせずに入試準備という課題に集中して取り組めるようになりました。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

大学4年でフリーな時間が比較的多かったのですが、私には計画性がないという短所があります。ジムに通うことが日課であったので、ジムで運動をした後に横にあるカフェで入試対策をするようにしました。それによって対策を習慣づけることができました。また、私は1日にSNSを見る時間が多かったのでSNSを制限する努力をしました。スマホを触る時間を減らすことで確保できる時間がこんなにも多かったのかと改めて知ることができました。

直前期の過ごし方

面接対策講座やテキストを何度も読み返しました。過去に合格された方の面接でされた質問を参考にして、答えられるように準備をしました。私はWordに書き起こして回答を準備していました。また、提出した志望理由書も読み返し、この箇所は突っ込まれそうだなと思ったところをしっかりと答えられるようにしました。具体的に、自身では理解できている内容でも、他人が読んだら疑問に思うだろうなど、客観的に志望理由書を見ました。

試験期間中の過ごし方

私は青山学院大学のみ受験したので基本的には直前期と同じように過ごしていました。しかし、将来のキャリアに関することについてしっかりと準備できていなかったのも、うまく答えられるよう準備していました。MBA取得後に働いた後に起業することを志望理由に書きました。そのため、ビジネスプランについて考え、参考にする企業、業界について分析、研究をしました。実際面接でそのようなことを聞かれたので対策しておいて良かったです。また体調を崩さないように気を使っていました。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

①受験した時の手ごたえ

志望理由書と課題エッセイについては問題なく自信がありました。面接も終わった直後はやり切ったと手ごたえを感じていましたが、時間が経つにつれて自信が無くなり、あの時あのように答えればよかったと後悔と不安が残りました。

②合格した時の気持ち

合格して嬉しかったです。また、周りは進路も決まっていて、自分だけが決まっていなかった状況でした。孤独感を感じ自信を無くしていましたが、MBA入試の合格が自信を無くしている自分から解放してくれたという気持ちが大きかったです。将来の目標への入り口に立てたと思います。

振り返ってみて合格の決め手は？それに、当該講座はどの程度影響したのか

①合格の決め手

出願書類の比重が大きいのではないのでしょうか。面接に対する手ごたえはあまりありませんでしたが、出願書類には自信がありアガルトの講座や添削が大きく影響していると思います。添削によってより自分らしさを出した書類に仕上がったと考えます。

②講座の影響度

独学でMBAに合格するのは難しかったと思います。アガルトのテキストや動画をフルに活用することで合格をつかみ取れたと考えます。特に添削を受けることでより論理的で読みやすい文に仕上がりました。また過去に合格された方の書類や面接再現が非常に参考になりました。

卒業後のキャリアについて

①MBAに期待するもの

将来起業をすることを目標としています。学部時代には企業活動に関する全般的な勉強をしましたが、MBAでは企業経営に関して幅広く学べるのでとても楽しみです。また社会人や留学生等の多様な学生との交流を期待しています。

②今後のキャリアビジョン

私には実務経験がないので、MBAで学んだことをインターン等でアウトプットし、実践的な力、ゼネラリストとしての視点を身につけたいと考えています。修了後は就職を経

由して起業し、キャリアゴールを達成することを計画しています。

【推薦書について】

①提出されましたか？

提出していない

受験生に対するメッセージ

周りにMBA受験を考えている人はあまりいないと思います。MBA受験に関する疑問であつたり、不安、孤独感を感じるかもしれませんがアガルートのような予備校を利用するのも一つの手段ではないでしょうか。入試対策講座は安くありませんが、出願書類だけでなく小論文の添削、質問制度、合格特典など手厚いサポートがあるので満足のいく結果を期待することができます。講座を受講することによって私はよりMBAを取得する必要性を感じることができました。

2025年4月入学目標

国内MBA試験合格

講座で経営の基礎を固め、出願書類や面接に盛り込んだ

瀏野 満明 さん

20 代前半

学生

2025 年 4 月入学目標 / 国内 MBA/ 冬入試対策カリキュラム / ライト + アドバンス講座付オプション

進 学 先: 青山学院大学大学院 国際マネジメント研究科デイトタイムコース

合格体験記

MBA を目指したきっかけ

自分のキャリアゴールを達成するにはMBAで学ぶことが必ず役に立つと思ったからです。私は日本の音楽を世界に発信するために、日本のエンタメ業界の組織改革や全社戦略に携わりたいという想いがありました。ただ周りを見ると新卒でエンタメ企業に入った人達はみな会社の風土に慣れてしまったり、担当する業務で手一杯で自分の本来やりたいことができないという現状にあることを知っていました。そのため十分に経営やマーケティング、組織戦略について知識を蓄えた状態で会社に入ること、他の人とは違う視点、MBAで学ぶ深い知識で高い成果を生めると考えたので、新卒の状態でしたがMBAを志望しました。

アガルートアカデミーをお選びいただいた理由

アガルートアカデミーを選んだ理由は大きく2つあります。

1つ目は合格実績がとても豊富で信頼ができたからです。過去の合格者数や合格インタビューなどを見て、他のスクールより、アガルートで学んだ方が合格する確率が高いと思いました。

2つ目は充実のテキストです。経営について私はほとんど知識がありませんでしたが、経営の基礎から学ぶことができ、また過去の豊富な実績から研究計画書や面接対策も十分に取り組むことができると思い、選びました。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

①勉強の方針

私は青山学院大学を志望したので、研究計画書（志望理由書）と面接対策を中心に組みました。ただ、それらの対策をするにも、経営の基礎的な知識は必要なので、経営学の基礎講座を1周した後に、研究計画書や面接対策に取り組みました。

②研究計画書のテーマ設定までの流れ

まずは、自分の中のキャリアゴールと志望動機をざっくりばらんに書いて、講師の方に見て貰いました。そこからキャリアゴールとABSの学びはどう結びつくのかをアドバイス頂きながら、合計3回のラリーを繰り返し、完成させました。

③勉強のスケジュール

- 9月 合格者体験記をもとに、自分の勉強方針、スケジュールを作成する、経営学の基礎講座の学習開始（経営の基礎知識を固める）
- 10月 出願書類の作成開始、第1回研究計画書のFBをいただく
- 11月 基礎講座の1周目終了、出願書類の作成に注力、第2回、3回の出願書類のFBをいただく、面接練習の開始
- 12月 面接試験1週間前に模擬面接を実施、いただいたFBをもとにオリジナルの面接対策シートを作成の上で反復練習

受講された講座の良さ、当該講座の学習方法

▼国内 MBA 入試攻略講座

大学の点数で評価する受験とは異なり、MBAは研究計画書や面接が中心となるということは知っていたのですが、具体的にどのように対策していくべきかが自分の中で不明瞭だったので、入試攻略講座を見ることで、自分の志望するMBAではどんなことを中心に対策すれば良いのか、受験対策の方針をここで決めることができたのが良かったです。

▼経営学の基礎講座

全体を通して、経営について知識がほとんどない私でもとても分かりやすい内容でした。私はABSを志望していたので、それほど深掘りした学習は行いませんでしたが、基礎的な語句の理解や日本の経営についての最低限の知識は十分にここで身につけることができていると思います。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座

とても多くの実績をもとに過去の合格内容を参考にしながら自分の出願書類に活かすことができました。また、動画内では、過去実績をもとに、もっとここはこうした方が伝わりやすいなど、より洗練された内容にするためのアドバイスを話されていたのがとても参考になりました。志望大学以外の出願書類の動画なども学習して、言い回しや伝え方を学習できたのもとても勉強になりました。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座 添削利用回数

3回

▼研究計画書の研究テーマライブラリー

研究計画書の研究テーマライブラリーについては利用しませんでした。理由としては青学は出願書類と面接が中心で、出願書類も字数が限られているため専門的な内容を書くより、伝わる文章の作成や面接の対策に注力したからです。ただ研究テーマライブラリーはMBAでの学びにも必ず役立つと思うので、これから空いている時間などで視聴して学習しようと思います。

▼面接対策講座

私はとても緊張しやすい性格なので、模擬面接を実施できたのがとても自信に繋がりました。模擬面接では30分という短い時間ながら、話す内容だけでなく話し方や当日までの過ごし方などもアドバイスをいただくことができ、とても参考になりました。

▼各種フォロー制度について（初回添削フィードバック、受験校相談、マンスリーゼミ、質問制度等）

私は研究計画書、出願書類の無制限の添削制度が本当に役に立ちました。私は合計3回添削していただいたのですが、毎回FBをいただき再度作成するたびに、充実した内容の書類が作成できているのを実感でき、とても感謝しています。

スランプ・挫折、それを乗り越えるための工夫

私は、自分のキャリアゴールや将来やりたいことは明確になっていたものの、それがMBAの学びとどう結びつくのかが曖昧になっており、出願書類に言語化するのにもとても苦戦していました。添削を受けながら講師の方とマンツーマンで、上手く言語化できるようにアドバイスをいただけたことはとても参考になりました。また添削制度だけでなく、テキストや講義動画を見ながら、青学だけでなく他の大学院の出願書類の合格例なども参考にしながら、作成することで自分でも納得のいくものができました。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

日中はインターンや大学の講義があったため基本的に夜の時間で学習するようにしました。しかし最初は1日の学習時間が4時間ほど取れる日もあれば、1時間しか取れない日もあったりと学習時間がバラバラだったので、毎日決まった時間に学習する時間を取るようにしました。そのおかげで学習スケジュールにもブレがずに計画的に学習や出願書類の作成、面接対策に取り組むことができました。試験が近くなってくると土日にもしっかりと学習時間を確保するようにしました。

直前期の過ごし方

出願書類の締め切りの直前期には、新しく文章を書き直すというよりも、全体として一

貫性があるか、日本語として表現が曖昧なところはないかなど細かな部分を毎日チェックするようにしました。特に声に出して読むと、単に頭の中では読むのと違って、間違いなどが見つけやすかったです。

面接の直前期には、模擬面接でいただいたフィードバックをもとに、面接対策シートを自分で作成しひたすら声に出して読むようにしました。

試験期間中の過ごし方

出願書類を提出した後はすぐに面接対策に取り組みました。面接対策ではテキストや動画を見ながら、質問されると予想できるものをリストアップしてそれに対する答えを一度テキストに起こしました。そのあと、声に出して練習をしたり、面接試験の1週間前には模擬面接も行いました。そして模擬面接のFBを受けて再度修正を行い、あとはひたすら反復練習しました。声に出す練習なら家の中のどこでもできるので、お風呂に入っている間も練習したりしていました。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

①受験した時の手ごたえ

出願書類は個人的には上手く書けており、講師の方にも背中を押してもらったので自信がありました。ただ面接の際は、少し緊張してしまい言語化できなかった部分があったり、面接官の方も少し圧迫気味であったため、受験後は少し不安が残ってしまいました。

②合格した時の気持ち

すごくほっとしました。私は青学一本で受験していたため、受験後は正直合格しているか不安の気持ちがありましたが、合格の通知が家に届いたときはすごく安心しました。と同時に合格で終わりでなく、これから始まるんだと気が引き締まりました。

振り返ってみて合格の決め手は？それに、当該講座はどの程度影響したのか

①合格の決め手

私の場合は出願書類にとても力を入れていたことが良かったのかなと思います。正直面接は他の受験生よりも上手く答えられていなかったと思います。ただ出願書類でしっかりと内容を詰めたり、任意提出の自己PR書などもしっかりと書いて提出したことが合格に影響しているのではないかと考えています。

②講座の影響度

アガルートがなければ合格していなかったと思います。経営学の基礎講座で経営の基礎をしっかりと固め、それを出願書類や面接に盛り込み、経営の要素が入った文章の作成ができました。さらに添削制度や模擬面接でより伝わりやすい一貫性のあるものに仕上げることができました。

卒業後のキャリアについて

① MBA に期待するもの

経営について学ぶことに対する興味はもちろんですが、いろんな人との交流がとても楽

しみです。MBAは幅広い年齢の方や異なる業種、様々な働き方をされている方がいると思うので、そうした方々を上手く巻き込みながら、自分の知識と経験を蓄えていきたいと思っています。

②今後のキャリアビジョン

MBAの修了後、私はエンタメ企業に就職したいと思っています。そこではMBAで学んだことを活かしながらアーティストのブランディングやマーケティング、プロモーションに携わりたいと思っています。そしてゆくゆくは組織全体の改革や全社戦略に携わるポジションについて、日本の音楽を世界に届けることに経営の立場で貢献していきたいと思っています。

【推薦書について】

①提出されましたか？

提出していない

受験生に対するメッセージ

アガルートの方は講師の方だけでなく、スタッフの方もとても真摯に対応してくれます。そのため、出願書類や研究計画書、小論文で悩んだりしたらすぐに質問をしたり添削制度を利用することで悩みが解決すると思います。人に何かを相談するときは、どう相談したら良いか分からないときもありますが、アガルートの方は優しく受講生の気持ちや考えに寄り添ってくれるので、少しでも悩んだり困ったりしたら積極的に質問をしたり、相談をしたりするのがいいと思います。

2025年4月入学目標

国内MBA試験合格

計画的な学習と継続が合格への鍵

富山 颯 さん

30代前半

社会人

2025年4月入学目標 / 国内MBA / 冬入試対策カリキュラム / ライト

進 学 先: 明治大学 グローバル・ビジネス研究科

合格体験記

MBAを目指したきっかけ

現在、私は暗号資産投資や企業向けのコンサルティング業務に携わっています。特に、スタートアップ企業との関わりが多い中で、資金調達や人材採用の知識の重要性を痛感しました。また、暗号資産投資家の多くがファミリービジネスを経営しており、事業承継や組織マネジメントについての知見を深める必要性を感じました。そのため、MBAを通じて経営学の体系的な知識を学び、自社の成長だけでなく、クライアントに対してより実践的な支援を行いたいと考え、進学を決意しました。

アガルートアカデミーをお選びいただいた理由

仕事を続けながらの受験勉強が必要だったため、柔軟に学習できる環境を求めています。アガルートアカデミーはオンライン講義が充実しており、忙しい中でも効率的に学習できる点に魅力を感じました。また、過去の合格者の体験談を参考にした際、カリキュラムが実践的であること、添削指導が手厚いことを知り、独学では難しい研究計画書の作成や面接対策に役立つと判断しました。さらに、講師陣の専門性が高く、的確なアドバイスを受けられる点も決め手となりました。結果、私が合格できたのも合格体験記と面接対策、添削指導が合格の鍵になったと思います。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

①勉強の方針

特に、研究計画書の作成は早めに着手し、何度も添削を受けながらブラッシュアップしました。また、過去の受験生の体験談を参考にし、面接対策として想定質問への回答を準備し、論理的かつ簡潔に話せるよう練習しました。勉強期間は4ヶ月程度。

②研究計画書のテーマ設定までの流れ

まず、自分の業務経験をもとに興味のある分野を洗い出し、社会的に意義のあるテーマを選定しました。次に、関連する論文や書籍を調査し、既存研究との関連性や課題を整理しました。その中で、暗号資産の相続時の税務課題が十分に解明されていないことに着目し、このテーマを設定しました。その後、指導を受けながら研究計画書を具体化し、論理的な構成にまとめていきました。

③勉強のスケジュール

- 3月 アガルート受講開始。「経営学の基礎講座」「研究計画書の書き方講座」を視聴開始。研究計画書の骨子を作成し、専門家の意見を求めながらブラッシュアップ。
- 4月 「経営学の基礎講座」を通勤時間や隙間時間に視聴し、知識を定着。論文の精読を進め、参考文献を整理。
- 5月 研究計画書の初稿を完成させ、添削を依頼。
- 6月 添削結果をもとに研究計画書を修正。国会図書館やオンラインデータベースで先行研究を追加調査。
- 10月 想定問答を作成。自己PRや志望動機を簡潔に伝えられるよう繰り返し練習。
- 1月 模擬実施し、フィードバックをもとに修正。面接本番では落ち着いて受け答えできるよう準備。研究計画書を微修正。
- 2月 面接前には出願書類の内容を再確認し、論理的な受け答えを意識した練習を実施。

受講された講座の良さ、当該講座の学習方法

▼国内 MBA 入試攻略講座

国内MBAの入試攻略講座は、全体像をつかむのに非常に役立ちました。入試の流れや必要な準備事項が明確になり、特に志望校選びやスケジュール管理の面で大きな助けとなりました。講義内容も体系的に整理されており、独学では得にくい情報を効率よく学ぶことができました。

▼経営学の基礎講座

経営学の基礎講座は、MBA受験に必要な知識を効率よく習得するのに最適でした。特に、映像型授業なので、隙間時間やランニングしている時などあらゆる場面で学習できたので良かったです。飯野先生の講義の仕方も理解しやすいように講義を展開されていたので、素晴らしいコンテンツだと思います。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座

この講座では、志望理由書や研究計画書の書き方を体系的に学ぶことができました。論理的な構成の作り方や、採用側の視点に立ったアプローチを学べたことで、説得力のある書類作成が可能になりました。実際に添削を受けることで、具体的な改善点が明確になり、大変役立ちました。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座 添削利用回数

3回

▼研究計画書の研究テーマライブラリー

研究計画書の研究テーマライブラリーは、自分の研究テーマを深める上で非常に有用でした。他の受験生の研究テーマを参考にすることで、自分のテーマの独自性を意識するきっかけになりました。また、どのような視点で研究計画を組み立てるべきかのヒントが得られ、書類作成がスムーズになりました。

▼面接対策講座

面接対策講座では、よく聞かれる質問のパターンを学ぶことができ、実践的なトレーニングができました。模擬面接を通じて、自分の回答の弱点を明確にし、改善する機会を得られたことが大きな成果でした。本番では、あまり想定していた質問は聞かれませんが、ベースを築くことができたので、模擬面接は絶対に受講した方がいいです。

▼各種フォロー制度について（初回添削フィードバック、受験校相談、マンスリーゼミ、質問制度等）

添削フィードバックや受験校相談、マンスリーゼミ、質問制度など、フォロー制度が充実しており、安心して受験準備を進めることができました。特に、受験校相談では、具体的なアドバイスをもらえたことで、志望校の選定が明確になりました。質問制度も迅速に回答を得られ、学習効率が向上しました。

スランプ・挫折、それを乗り越えるための工夫

受験勉強中、モチベーションが低下する時期がありました。特に、思うように学習が進まないときは焦りが生じました。その際、スケジュールを見直し、短期目標を設定することで、少しずつ達成感を得るようにしました。特に研究計画書の筆が進まず合格体験記やアガルトのYouTube動画など過去の受験生がどうだったか、志望校が求める生徒像はどのようなものかなどリサーチし直すことで研究計画書を書き上げることができたと思います。時間をおいて別の角度からアプローチを考えることも重要かと思いました。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

仕事と勉強の両立が課題でしたが、通勤時間や早朝の時間を有効活用しました。週末はまとまった時間を確保し、演習や面接対策を行いました。計画的に時間を使うことが、効率的な学習につながりました。特に隙間時間を上手に使うことが重要でした。私の場合は通勤時間はもちろん家事、ランニング、YouTubeやゲームをしていた時間など仕事以外の全ての時間を当てるようにしました。しかし、全く研究計画書が進まない時は、数ヶ月勉強することを止めて休憩することも大事だと思いました。メリハリが重要と感じます。

直前期の過ごし方

直前期は、研究計画書の内容を中心に、アウトプットを意識しました。また、面接対策の最終確認を行い、不安な部分を重点的に補強しました。メンタル面では、リラックスする時間を設け、試験本番に集中できるように心がけました。特に、過去の受験生の面接内容を確認し、模擬面接でのフィードバックをもとに再度想定問答を検討しました。頭の中で擬似面接官から質問をしてもらい、練習も行ったことで本番でもあまり緊張せずに臨めたのだと思います。

試験期間中の過ごし方

試験期間中は、体調管理を最優先に考えました。試験前日は無理に勉強せず、十分な睡眠を確保しました。当日は、余裕を持って会場に向かい、落ち着いて試験に臨むことを意識しました。特に、面接会場へのアクセスの確認が重要でした。大学入試と日程が被っていたため高校生の波に従って会場に入ってしまう可能性がありました。大学院受験生は別会場が設定されており、係員が待機しているわけでもなかったため、事前リサーチや早めに会場付近にすることが大切です。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

①受験した時の手ごたえ

受験時は、しっかりと準備した部分が活かasetと感じました。特に、面接では想定質問への回答がスムーズにでき、自信を持って受け答えできました。ただし、一部想定外の質問もあり、臨機応変な対応力の重要性を実感しました。

②合格した時の気持ち

合格通知を受け取った瞬間は、絶対に不合格になっていたと思っていたので、喜びと安堵が入り混じる感情でした。長期間の努力が実ったことに達成感を感じるとともに、新たな学びのスタート地点に立ったという実感が湧きました。特に、応援してくれた家族や仕事仲間、アガルートの添削していただいた講師の方々、飯野先生に感謝の気持ちでいっぱいでした。

振り返ってみて合格の決め手は？それに、当該講座はどの程度影響したのか

①合格の決め手

合格の決め手は、計画的な学習と実践的な面接対策にあったと思います。特に、研究計画書の質を高めることが重要であり、添削指導を活用してブラッシュアップできたことが大きかったです。また、想定問答を考えることも重要でした。志望動機はもちろんのこと、税法科目ではどれだけ興味と問題意識を持っているのかを自問自答することが合格の決め手かなと思います。

②講座の影響度

アガルートの講座は、受験対策において非常に大きな影響を与えました。特に、面接対策講座と研究計画書の添削が合格に直結する要素だったと感じています。また、飯野先生

の基礎講座は要点整理が明確で受験生が飽きてしまうポイントでは具体例の提示を持って興味を引いたり、動画時間を調整することで集中力をコントロールできるところが効果的でした。

卒業後のキャリアについて

① MBA に期待するもの

MBAでは、実務に活かせる経営知識を深めることを期待しています。特に、リーダーシップや戦略的思考を養い、キャリアアップにつなげたいと考えています。また、私は税理士になることを目標としており、経営者に対して税務的だけでなく、経営的アドバイスができるようになりたいです。

② 今後のキャリアビジョン

MBA取得後は、経営戦略の分野で活躍したいと考えています。特に、新規事業開発やコンサルティング業務に携わり、企業の成長に貢献することを目指します。また、暗号資産という比較的新しい業界に対する税務面でのアドバイス、講演、税務的政策提言活動など幅広く社会貢献も含めて活動したいです。

【推薦書について】

① 提出されましたか？

提出していない

受験生に対するメッセージ

受験勉強は長く厳しい道のりですが、正しく努力すれば道は開けます。計画的な学習と継続が合格への鍵です。途中でスランプに陥ることもあるかもしれませんが、焦らず自分を信じてください。つまりいたらなぜあなたはMBAに行きたいのかも一度自問自答してみてください。アガルトの講座やフォロー制度を活用し、効率的に学ぶことが合格への近道です。合格後の未来を思い描きながら、一歩ずつ前進してください。最後まで諦めずに頑張る皆さんを心から応援しています！

2025年4月入学目標

国内MBA試験合格

受験校相談で受験を決意 効率的に準備し短期合格

後藤 碧さん

20代後半

社会人

2025年4月入学目標 / 国内MBA / 冬入試対策カリキュラム / ライト

進 学 先: 青山学院大学大学院 国際マネジメント研究科

合格体験記

MBAを目指したきっかけ

MBAを目指したきっかけは、周りにMBAホルダーが多かったことです。もともとMBAには興味がありましたが、MBAホルダーの方の働きぶりをみて、憧れを持ちました。MBAに関して調べたときにアガルートのYouTube動画と出会い、MBAを取得するメリットの説明を聞き、まさに自分のこれからに必要なものだと感じました。アガルートの動画と出会わなければ、MBAはなにかすごいものというざっくりしたイメージで具体的に行動に移すことはなかったと思います。

アガルートアカデミーをお選びいただいた理由

アガルートアカデミーを選んだ理由は実績面が一番の安心要素だったからです。他の予備校と比較しましたが、しっかり経営学の基礎講座等も準備されており、また提出書類の添削が無制限であることも魅力に感じました。実際に受けてみて感じた魅力ですが、志望校の選定に大きく影響がありました。当初なんとなく早稲田を受けようと考えていましたが、各校のメリットデメリットを聞き、自分に最適な学校を選ぶことができました。早稲田というブランドに惹かれていましたが、自信をもって青学がいいと決心でき、効率の良い受験対策ができたと感じています。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

①勉強の方針

受験校を青山学院に絞ってからは、提出書類を完成させることだけに集中しました。実際に合格した方の提出書類に目を通して、それぞれのMBAを志す理由を見て、モチベー

ションをより高めることができましたと思います。

②研究計画書のテーマ設定までの流れ

研究計画は提出不要だったので設定していませんが、課題だった「私が過去に仕事において直面した最も大きな試練」に関するテーマに関しては、これまで仕事で大変だったなと感じたことを列挙し、その中でストーリー立てて論述できるイメージが沸いたものを選択しました。

③勉強のスケジュール

10月2週目 MBA受験を決意して、予備校を選定

10月3週目 受講相談

10月4週目 受講開始(26日に受験校相談をし、ここで青学に絞り出願書類準備を開始した)

11月1週目 9日に出願書類完成 提出

11月2週目 特になにもしていない

11月3週目 特になにもしていない

11月4週目 模擬面接受講

12月1週目 面接対策講座受講 模擬面接を踏まえて、想定回答を簡単に準備

12月2週目 本番

受講された講座の良さ、当該講座の学習方法

▼国内 MBA 入試攻略講座

受験校選定に大いに役立ちました。受講前はなんとなく早稲田がいいと思っていましたが、各校の特徴を聞く中で、青山学院に絞ることができました。これが一番良かった点だと思っています。ブランドに左右されず、自分の軸と照らし合わせて考えることができました。

▼経営学の基礎講座

青山学院の合格には受講はtoo muchだと思いますが、面接で何か聞かれてもある程度回答できるように勉強しました。入学までにはすべて視聴ししっかり準備したいと思っています。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座

とても参考になりました。特に各大学院に沿ったものが準備されているため、かなり効率的に準備することができました。出願書類を準備するまえに志望校だけでもしぼって確認したほうがよいかと思います。それだけでも数十時間短縮できるかと思います。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座 添削利用回数

1 回

▼研究計画書の研究テーマライブラリー

受験には必要がなかったので特に活用しませんでした。青山学院を受験される方は特段活用しなくても問題ないと思いますが、受験まで余裕のある方は見たほうが良いかと思います。時間がなければ思い切ってカットして問題ないです。

▼面接対策講座

とても参考になりました。特に各大学院に沿ったものが準備されているため、かなり効率的に準備することができました。出願書類を準備したあとに青山学院に絞って受講しました。事前にどのような感じなのかを把握することができたため、安心して受験することができました。

▼各種フォロー制度について（初回添削フィードバック、受験校相談、マンスリーゼミ、質問制度等）

初回添削フィードバックは時間がなかったため活用しませんでした。受験校相談は一番有効でした。相談前までは時間がなかったため1月以降の受験を考えていましたが、私の志望理由を話し、具体性があると判断いただき、短期間受験を勧めていただきました。

スランプ・挫折、それを乗り越えるための工夫

青山学院の出願まで2週間しか時間がなかったため、スランプを感じるタイミングはありませんでした。前述していますが、受験校相談でのアドバイスをもとにかなり効率的に準備することができたのも、スランプを感じなかった要因だと思います。受験期間が仮に長かったとしても、講座自体がかなり面白いので、飽きずに学習し続けることができたのではないかと思います。アガルートの講座を受けているだけで、かなり他の受験生よりは優位だと思うので、安心して取り組みました。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

出願書類を準備した日数は3日程度だけだったので、学習時間の確保はあまり意識せずでした（参考にならずすみません）。出願書類を書いている際に、すこし迷走したときはアガルートの講座を見て、しっかり自分の軸がぶれないようにして過ごしていました。青山学院の出願書類はあまり難しいものではないので、あまり深く考えず、論点と自分の軸だけぶれないようにしたら問題ないかと思います。あとは風邪をひかないように体調に気を付けていました。

直前期の過ごし方

準備を開始した時点が直前期でしたので、受講相談で教えていただいたポイントを押さえながら準備しました。特に追加でインプットの時間を確保できなかったのが、勉強という勉強はしていません。結局合格にも必要なかったかなと感じています。心構えとしては、講師の方に君は絶対大丈夫と太鼓判を押していただいていたので、リラックスして過ごしていました。模擬面接の際も、風邪だけには気を付けてという言葉をかけていただき、そ

れを信じて体調に気をつけて過ごしていました。

試験期間中の過ごし方

特に面接も追加の準備に時間をかけずに自然体で臨むようにしました。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

①受験した時の手ごたえ

面接当日は基本的なことしか聞かれませんでした。わかってはいましたが、出願書類で合格はほぼ決まっているんだと思います。質問にはすべてしっかり自信をもって回答できたため、これで落ちたらそもそも求めている人物像と違うと思うことにしていました。最後にカリキュラムが変更される点について説明をうけたため、入学前提なのかも？ と思い、受かったなと感じました。

②合格した時の気持ち

素直にうれしかったです。かなり短期間での準備だったため、来年度の準備期間と思っていました。正直合格できるなんて思っていなかったです。しかし、講師の先生のおかげで短期間合格することができ、信じて受験してよかったと感じました。

振り返ってみて合格の決め手は？それに、当該講座はどの程度影響したのか

①合格の決め手

受験校相談です。青学の出願書類提出まで時間がなく、1月入試にするか迷っていましたが、ある程度なぜMBAを志すか固まっていたこともあり、2週間程度の準備で間に合うと助言いただき、受験を決意することができました。また、時間がないということもあり、提出書類の要点を簡潔に教えていただき、それを意識して準備することで効率よく2週間で過ごすことができました。

②講座の影響度

出願書類・研究計画書の書き方講座と面接対策講座はかなり有効でした。志望校ごとに講座も分かれており、無駄な時間なく準備することができました。経営学の基礎講座は授業自体が非常に面白く、自分がMBAで学ぶ蓋然性を改めて認識することができました。

卒業後のキャリアについて

①MBAに期待するもの

青山学院では修士論文がないため、その分実践的な授業に取り組むことができると思います。ただ、経営学を勉強するだけならアガルートの基礎講座で十分だと思いますが、それを実践に近い形で授業に取り組むことがMBA、特に青山学院に進むことのメリットだと思います。最終的には経営メンバーになることが目標です。

②今後のキャリアビジョン

MBAはあくまで手段なので、MBAで学んだことを活かして、自社に貢献しステップアップしていきたいと考えています。転職はあまり考えていませんが、MBAでいろいろな人と出会い、より具体化していきたいです。MBAにほんやり憧れを抱いている方も多いと

思います。一度アガルートの参考講座を見ていただければ、MBAというものがより身近で、経営層を志す方にとっては有意義なものと感じるのではないかと思います。

【推薦書について】

①提出されましたか？

提出した

②どなたに推薦書をご依頼しましたか？

上司

受験生に対するメッセージ

特にアガルートでは効率的な対策をすることができると思います。現に私は準備期間2週間、出願書類の完成までは10時間もかからず準備することができました。アガルートの講座だけを信じて、迷わず準備することが最短で合格するための方法だと思います。富樫先生、無事合格することができました。短期間で合格することができたのは、先生の受験校相談のアドバイスのおかげです。また模擬面接で聞いていただいた、転職理由も実際の面接で聞かれて大変驚きました。動揺せず回答することができたことが合格に繋がったと思います。改めて感謝申し上げます。

2025年4月入学目標

国内MBA試験合格

アドバイス通りに学習と準備 3か月で 掴んだ合格

松本 悠 さん

30代前半

社会人

2025年4月入学目標 / 国内MBA / 冬入試対策カリキュラム / ライト

進 学 先: 青山学院大学大学院 国際マネジメント研究科

合格体験記

MBAを目指したきっかけ

外資系IT企業インサイドセールスのプレイヤー兼リーダーとして勤務をしています。また、前職は同じくIT系日系企業にてインサイドセールスのマネージャーとして勤務をしていました。将来的にインサイドセールス組織の立ち上げやインサイドセールスに特化した企業の経営に携わりたいと考えています。そのためには、体系的な学習（主に経営学やマネジメント、データ分析等）が必要と感じMBAを目指そうと考えました。また、外資系企業では、マネジメント層はMBAホルダーが多くいるため、現在の会社で出世をするためにもMBAでの学習は必要となります。年齢的にも今度どんどん時間の制約ができるため、30代のうちに卒業をしたく、今年MBAへの進学を決めました。

アガルートアカデミーをお選びいただいた理由

MBA予備校については3社ほど比較をした上でアガルートに申し込みました。

アガルートを選んだ理由は大きく3点です。

1. YouTubeでの情報発信が頻繁で、常に新しい情報発信をしている点がとても信頼できそうと感じたからです。オンデマンド形式の予備校だとしても古い教材を使いまわしていそうなイメージがありましたが、最新情報をたくさん発信していたためその点は安心感がありました。
2. 体験入学にて講義ビデオを10本ほど学習する中で、飯野先生の講義がとても分かりやすく、且つ、飽きずに勉強できると感じたからです。また、体験の時に頂いたパーフェクトガイドがとても参考になったのも大きかったです。
3. 合格時の返金制度も魅力的でした、「全額返金されるのであれば何としても合格し

てやろう」というモチベーションにつながると思ったからです。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

①勉強の方針

実際の試験まで残り3か月の段階で申し込んだため限られた期間でできることをやる方針で学習をしました。

最初の1か月で経営学の基礎講座をすべて視聴（本来であれば何度も見るべきかと思いますが）。同時並行して自身の棚卸しやキャリアについて考えました。出願書類の書き方講座（これは分量が少ないのですぐ読める）と、合格体験記でとにかくイメージをつかむことを優先しました。

②研究計画書のテーマ設定までの流れ

青学のため研究計画書はなく、なぜMBA（ABS）に入りたいのかと、これまでで最も大きな試練とそれをどう乗り越えたかのレポートのみでした。

③勉強のスケジュール

※短期間だったためWeek毎で記載しました。

9月

第3週 アガルート申し込み。

第4週 経営学の基礎講座学習スタート。自身の棚卸し。

第5週 経営学の基礎講座学習継続。出願書類・研究計画書の書き方講座。自身の棚卸し継続。

10月

第2週 経営学の基礎講座学習継続。出願書類・研究計画書の書き方講座。自身の棚卸し継続。

第3週 経営学の基礎講座学習継続。レポート作成。自身の棚卸し継続。職務経歴書・自己PR書作成（完成）。

第4週 経営学の基礎講座学習（完了）。レポート添削1次提出。10月22日アガルート講師面談。合格体験記熟読。
講師面談にて残り2週間でレポートをどうブラッシュアップしていくかを徹底的に相談。計画決め。

第5週 レポート添削2次提出→修正。合格体験記熟読。
1次提出時から内容を大幅にブラッシュアップ。他の方の合格体験記を熟読し研修、印象に残った言い回しや伝わりやすいと思った部分を参考に自身の言葉で何度も自己添削を実施。

11月

第2週 レポート添削3次提出→最終微調整（完成）。提出書類整理。11月10日レポート提出。

第3週 合格体験記面談編熟読

第4週 合格体験記面談編熟読。

第5週 11月26日模擬面接。想定質問についてQAをざっくり考える。

12月

第1週 想定質問についてQAをざっくり考える。12月8日面接（本番最終）

受講された講座の良さ、当該講座の学習方法

▼国内 MBA 入試攻略講座

MBAや各MBAの特徴などに触れていたのが最初に視聴しました。ある程度志望校は決まっていましたが、どこに併願しようかなどの迷いがあったのでとても参考になりました。また、MBAに進みたいという気持ちはありましたがそもそもMBAってなんだっけという部分をしっかり説明してくれておりとても分かりやすかったです。

▼経営学の基礎講座

非常にわかりやすくとても楽しく学習ができました。アガルートへの入学の決め手も、10コマほどの無料の本講座を視聴してとても面白かったからです。学習している途中、正直この動画だけでかなり知識が身につくのでMBA受けなくてもいいのでは？ と頭をよぎったくらいです（実際はMBAに通うともっと高度なことをするとは思いますが）。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座

とても参考になりました。飯野先生が何度か言っていた「原体験」というフレーズがとても印象的です。出願書類や面接において、しっかり自身の「原体験」を振り返ったうえで臨むことで一貫したぶれない自分で臨めたと思います。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座 添削利用回数

3回

▼研究計画書の研究テーマライブラリー

とにかくサンプル数が非常に多いことが魅力的でした。正直最初は何を書いていいのかわからない部分があると思いますが、いろんな方のサンプルを読むことによって、方向性を間違えずに効率的に進められたと思います。

▼面接対策講座

とても参考になりました。何といってもサンプル数が多いことがとてもよかったです。サンプルを何度か読むだけで面接のイメージがわくので当日緊張せずにリラックスした気持ちで受験できたと思います。また、質問内容もサンプルを読んでおけばある程度想定ができました。

▼各種フォロー制度について（初回添削フィードバック、受験校相談、マンスリーゼミ、質問制度等）

初回添削フィードバックと面談後のフィードバックは本当に良かったです。的確なフィードバックをいただき、それ通りに進めていったことで今回合格できたと思います。私の場合、かなり時間が無い中でしたが、しっかりとフォローいただけました。

スランプ・挫折、それを乗り越えるための工夫

9月末の申し込みから12月頭に受験と短い期間だったためスランプは起こりませんでした。

ただ、日々の仕事が忙しい中、勉強時間としては、日中夜間（深夜？）や通勤時間、土日メインでした。疲労からなかなかモチベーションが上がらない日などもありましたが、対策として、いろいろな大学のオープンキャンパスに申し込み定期的に行くことで、初心に振り返って「明日からまた頑張ろう」と常にモチベーション高く学習ができていたかなと思いました。また、「来年からMBAに行きます」と会社内で宣言してしまったため、これで合格できなかったら恥ずかしいなという背水の陣的な環境を作っていました（合格できてよかったです笑）。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

学習時間はきちんとマイルールを作ってルーティン化することで確保しました。

仕事のスケジュール（他社員も見れるスケジュール）に20:00-22:00をブロックし、それまでには仕事をいったん終わらせ勉強をするというルーティンを組んで学習をしました。近所の行きつけのカフェ（勉強用）が22:00閉店のため、カフェに行ったらどれだけ疲れていても、気分が乗らない日でも閉店までは必ず勉強するようにしていました。

次の日の通勤時間は、前日の復習をし、カフェでは新しいコマを進めていきました。土日は近所のカフェが7:30開店するため、開店と同時に行き朝食を食べお昼まで勉強。いったん帰宅し家事をしながら頭を休めて、15:00から夕方まで勉強。帰宅して夕食を食べ終えたらまたカフェに行き閉店まで勉強するという流れで学習を進めていました（週に10回以上カフェに行くので、店員さんとは完全に顔なじみになりました笑）。

直前期の過ごし方

アガルートに申し込みをしたのが受験の3か月前だったため、すでに直前期のようなタイミングでした。ひたすら経営学の基礎講座を進めて行き、同時並行で自身の棚卸しをしっかりと時間を掛けて実施しました。これまでの職歴について、いままでの人生を振り返って、今後どうしていきたいかなどを学習の合間に考えてひたすらノートに書いていきました。イメージがわかなくなってきたら、過去の合格者体験レポートを読んでイメージを沸かせていきました。

私は青山学院大学だったので、事前提出のレポートと本番の12-13分の面接が試験でした。事前提出のレポート作成まではしっかり準備をして提出しましたが、面接に関しては

そこまで準備はしませんでした。ある程度聞かれそうな内容は事前に模擬面接にて聞いてはいましたが、カッコリとしたQAを作ってしまうと自分らしさを出しにくいと思ったため、「ざっくりこんな感じで答えよう」くらいの粒度で準備する程度にしました。とにかく、「何を聞かれても本番は堂々と答えよう」と「体調には気を付けよう」を一番意識しました。

試験期間中の過ごし方

私はとにかく体調に気をつけることを意識しました。仕事柄飲み会が多いですが、「極力断る」、「行っても一次会で帰る」を心掛けました。冬の時期だったのでマスクと手洗いうがいの徹底、インフルなどの予防接種は早めに受けました。

それ以外は、とにかくイメージ作りを心掛けました。幸いなことに合格体験記には過去何年分も様々な学校の面接レポートが乗っています。自身の受ける学校についてはもちろん、それ以外の学校の分も読める限り読みました。

私が受けた青学はとても穏やかな雰囲気です。圧迫面接は無いと事前に聞いていましたが、もし鋭い質問をされても動揺せず返答ができるように、今一度自身のこれまでのキャリアと今後のキャリアについてしっかりと考えて、「5年後10年後どうしていきたいのか、どんな自分であってほしいのか」と自身の言葉で答えられるように何度もイメージすることに努めました。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

①受験した時の手ごたえ

提出書類（レポート）については正直かなり手ごたえはありました。かなり時間を掛けて自身の棚卸しを行い、講師の方にもしっかりと、何度も添削をいただいたのでおそらく大丈夫だろうという気持ちはありました。

面接については7割方大丈夫だろうという感じでした。アガルートの模擬面接時に「まったく問題ないでしょう。」と言っていたので、本番の面接でもほとんど同じ内容の質問をされ、しっかり答えられたのでおそらく問題ないとは思いました。面接も終始穏やかな雰囲気、2度ほど笑いが起きるくらいアットホームな雰囲気でした。ただ、12-13分とあっという間だったので、伝えたいことはたくさんあるのに、本当にこれきちんと伝わったのだろうかと思わず少し不安になりました。

②合格した時の気持ち

とてもほっとしました。3か月間プライベートの大半を注いできたこともあり、自身のキャリアとしても今年入っておかないと今後どんどん忙しくなり通えないのではという焦りの気持ちがあったため、合格をしたときはとても安心しました。

すぐに家族や会社の上司、同僚に報告をしました。

振り返ってみて合格の決め手は？それに、当該講座はどの程度影響したのか

①合格の決め手

アガルートの講義や講師の方のアドバイスのおかげです。アドバイス通りに学習と準備

をすればほとんどの方が受かると思います。自身の頑張りという部分でいうと、自身の棚卸しをしっかりと行ったことが決め手になったと思います。しっかりと自身がどうしたいかを明確にすることで、課題（なぜMBAを取得したいのかなど）や面接にも生きたと思います。

②講座の影響度

今回合格できたのは完全に講座のおかげだと思います。特に、私のようにMBA進学を決めてから受験までの時間が無い方、大学も経済学部などではなく基礎から学ぶ必要がある方はぜひアガルトを受けるべきだと思います。とても頼りになる講師の方々に安心して受験できました。

卒業後のキャリアについて

① MBA に期待するもの

経営学、マネジメント、データ分析等の学習を基礎からしっかり学びたい。グループワークにて様々な方の意見を聞き、ディスカッションを通して学びたい。（本やYouTubeではない生の学びをしたい。）インプットだけではなくしっかりアウトプットできるような学びをしたい。卒業後の自分が、自身にとっても、他社からしても一皮も二皮も成長している人間になりたい。

② 今後のキャリアビジョン

現在の職場にてインサイド組織のマネジメントに関わるポジションへの昇格（現部署から1つ別ポジションを挟んでになります）。

その後、インサイド・ハイブリットセールスをより活性化できるようなマネジメントポジション、もしくは経営に携わるような人材になりたいと考えています。

【推薦書について】

①提出されましたか？

提出していない

受験生に対するメッセージ

大学院（MBA）への入学が決まった話をする、周りの友人・知人・同僚から「興味はあったけど、なかなか踏み切りがつかずにエントリーできなかった」と言われることが非常に多いです。私自身、知人がMBAを取得したことがきっかけでやってみようと思い今回エントリーしましたが、皆気になっているのだと感じました。私はこれから入学をするので実際に入学してからの大変さはわかりませんが、おそらく入ってさえしまえば意外と何とかなる（頑張って何とかする）ものだと思うので、もし興味があるならぜひ挑戦してみてもいいかなと思いました。

2025年4月入学目標

国内MBA試験合格

研究計画書はとにかく先行研究を読み込むことが大切

中村 康宣 さん

30代後半

社会人

2025年4月入学目標 / 国内MBA / 冬入試対策カリキュラム / ライト

進 学 先：早稲田大学大学院 経営管理研究科夜間主プロフェッショナル（ファイナンス専修）

合格体験記

MBA を目指したきっかけ

昨年度、中小企業診断士を取得し、経営全般について幅広く学習したのですが、「さらに深い専門性を身につけること」と「多様なバックグラウンドを持つ同級生との人脈形成」を目的に受験を決めました。中小企業診断士のような国家試験では答えが定まっていますが、MBAの授業で行われるディスカッションでは自由な発想や意見が多いイメージを持っており、自分にない物事の考え方や価値観に触れることで、視点を増やし、視野を広げることができればと考えております。

アガルートアカデミーをお選びいただいた理由

- ①国内MBAの合格実績が高いこと。
- ②受講前の資料請求や受講相談で信頼できる内容であることが確認できたこと。
- ③通信講座で自由な時間で学習を進められること。

の3点になります。

特に、受講相談は自身の志望校を目指すうえで、どの受講プランを取るべきか親身になって対応いただけました。また、資料請求の内容もしっかりとした冊子が届き、十分な情報量を得ることができました。

ネットで調べる中で、他の指導校とも初めは悩みましたが、上記の資料請求と受講相談が決め手となってアガルートに決めました。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

①勉強の方針

平日は通勤の隙間時間で講義の動画視聴を進め、土日は研究計画書・エッセイの作成に時間を使いました。とにかく、研究計画書が大切であると聞いていたので研究計画書は出願期限の4か月前から着手することだけ初めから決めていました。

②研究計画書のテーマ設定までの流れ

実務の中での実体験から、自分が将来目指しているキャリアに至った際に解決したい課題をテーマにしました。また、受験するモジュールとの整合性も意識して修正を加えていきました。自身の体験から感じた課題・受験モジュール・将来の希望キャリアの3点で整合性を考えるのは想像以上に時間がかかりました。

③勉強のスケジュール

5月 受講相談・資料請求

6月～8月中旬 中小企業診断士の実務補習があり、終わった後にアガルートで学習することを決める

8月中旬 アガルートの受講開始

9月 「経営学の基礎講座」、「出願書類・研究計画書の書き方講座」、「研究テーマライブラリー」を各1周視聴、研究計画書作成開始

10月 研究計画書の1回目添削依頼、FB面談、社内の企業派遣選考開始

11月 社内選考対応と研究計画書の修正、2回目の添削依頼

12月 社内選考通過、3回目の添削修正依頼

1月 「面接対策講座」視聴、マンスリーゼミ参加

2月 模擬面接受講、マンスリーゼミ参加

受講された講座の良さ、当該講座の学習方法

▼国内 MBA 入試攻略講座

動画を通勤時間や仕事終わりに視聴しました。講座を取って最初の週に全て見終わったと思います。何から始めたらいいのかわからなかったので大変参考になりました。また、動画のチャプター数もちょうどよいくらいでした。

▼経営学の基礎講座

大変面白かったです。具体的な企業の事例を出しての講義であり、イメージがつきやすかったです。私は、中小企業診断士資格取得時に経営全般は浅く幅広く学んだ気でしたが、日本経営史・日本企業のDX戦略等はあまり学習していなかった分野で大変興味深かったです。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座

動画視聴では冊子の内容を全て読むのではなく、かいつまんでのポイントの説明でしたのでテンポよく進めることができました。基本的に平日は動画視聴して、土日で集中して

研究計画書を書く際に冊子も読み込んで書き方の参考にしていました。

▼出願書類・研究計画書の書き方講座 添削利用回数

3回

▼研究計画書の研究テーマライブラリー

研究計画書のテーマ自体は、すぐに決まったのですが、何か新しい発見がないかという視点でこの研究テーマライブラリーを視聴していました。

私は、志望モジュールがファイナンス専修であり、関連テーマが少なかったですがMBA全般で考えると様々なテーマの紹介があり、良い参考講義になると思います。

▼面接対策講座

模擬面接は大変有意義でした。自分が本番どれだけ緊張してしまうのかという点や話す上では全く内容が整理できていないことに気づきました。

面接対策講座の動画視聴は、過去の内容からうまく答えられなくても食いついていけば合格できるとの飯野先生のお言葉には大変勇気づけられました。

▼各種フォロー制度について（初回添削フィードバック、受験校相談、マンスリーゼミ、質問制度等）

質問制度は受験校1校のみで冬入試だけだったせいか、それほど利用はしませんでした。ただ、レスポンスが非常に早く良かったです。

スランプ・挫折、それを乗り越えるための工夫

受講を始めたのが遅かったため、スランプは特になかったです。研究計画書を冬受験の期限の4か月前には一度完成させて添削依頼する予定であったのが、半月程完成がずれ込み、終始バタバタしていました。初めは粗々と添削依頼しようと考えていたのですが、質問サービスで聞いてみたところ、自分で作りこんだもののほうが合格しやすいとのことでしたので、急遽予定を変更しました。研究計画書はとにかく先行研究を読み込むことが大切なので、時間をとにかく確保することが大切だと感じました。類似のテーマも含めると目を通したいものがどんどん増えていきます。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

【受講開始～直前期（出願期限1か月前）】

平日は1時間～2時間動画講義を視聴していました。そして、土日で研究計画書とエッセイ作成に集中して取り組んでいました。前年に中小企業診断士を取得していたので、比較的経営学の基礎知識は身につけており、スムーズに学習を進めることができました。

【直前期（出願期限1か月前）】

直前期は仕事終わりに国会図書館に行き、先行研究を読むこともありました。また、家でもGoogle ScholarやCiNiiで家でも先行研究の読み込みに注力していました。

直前期の過ごし方

【1次：研究計画書・エッセイ】

- ・エッセイを何度も読み返して誤字・脱字や表現の統一を意識した修正実施。
- ・論文の書き方の書籍も2～3冊読んで提出期限ぎりぎりまで修正し続け、これで落ちたらいけないと思えるまで時間を費やす。

【2次：面接】

- ・研究計画書や志望動機、自社業界の3C分析を徹底。
- ・鏡の前で想定質問の回答練習をして、録音した音声と回答案で反省や修正の繰り返し。
- ・統計学を学習して、研究の分析方法探索。

試験期間中の過ごし方

試験期間中はエッセイの見直しと面接対策をしつつ、入学後に必要となる英語や統計学の学習を挟みモチベーションを維持していました。TOEICや統計検定等の試験を申し込みして、受講することで結果待ちの期間を何もせずに過ごしてしまわないようにしました。

冬入試のみで1校受験であったため、出願後から1次（課題エッセイと研究計画書）の合格発表まで1月半ほどあり、時間的な余裕ができていろいろな勉強や気分転換ができました。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

①受験した時の手ごたえ

1次は最後の添削依頼で褒めていただけたので、多分大丈夫だろうと考えていました。一方で、2次は全く教授陣の反応がどっちなのか読めず、自信がありませんでした。面接は合否の感触が掴みにくいので過度に不安がる必要はないと思います。

②合格した時の気持ち

とにかく嬉しかったです。企業派遣で会社への合否報告もあるため、発表前までは気が重かったのもあって安心できました。本当に合格で間違いないか自信がなかったので、合格書類の到着確認をしてから会社には報告しました。

振り返ってみて合格の決め手は？それに、当該講座はどの程度影響したのか

①合格の決め手

研究計画書だと思います。アガルートの講座で添削や合格者の研究計画書を参考にすることで、レベル感を把握できたのがありがたかったです。よく研究計画書が大切であるとの情報が国内MBA受験で出回っていますが、本当にその通りだと思います。

②講座の影響度

受講していなければ、合格できたかわからないです。少なくとも完成度は数段下の研究計画書であったと思います。面接でのやり取りもアガルートの情報は豊富で、振り返ってみても選んでよかったです。また、受講していなければ1次の合格発表までの長い間不安で過ごしていたと思います。

卒業後のキャリアについて

① MBA に期待するもの

「ファイナンスに特化した専門性の習得」と「多様なバックグラウンドを持つ方々との人脈形成」を期待しています。

具体的には、ターンアラウンドマネージャーとしての経営者像を目指しており、そのためにもファイナンスの深い知識の習得と自分とは別方向の経営者タイプである起業家の方との人脈形成を図りたいと考えています。

② 今後のキャリアビジョン

卒業後、社内で「拠点長経験」や「ファイナンスに特化したターンアラウンドマネジメント（対顧客）」をした上で、将来的に社外に出て経営人材を目指したいと考えています。

私は、起業家ではなく後継者不在企業の経営者となり、事業のブラッシュアップを図ることで企業価値を底上げできる経営者を目指しております。

【推薦書について】

① 提出されましたか？

提出した

② どなたに推薦書をご依頼しましたか？

企業派遣のため会社から

受験生に対するメッセージ

合格発表までの間は不安も多いかもしれません。私も2次の結果待ちの際には、「不安の9割は起こらない」、「やれることはやった」と自分に言い聞かせて、不安を払拭するようにしていました。やり切った後は考えすぎないことが大切かと思います。

また、過去の合格体験記でも何回も志望校に受験して見事合格した方もいるので、諦めずに継続していればいずれ結果はついてくると個人的には考えています。

難しいのは継続して学習し続けることなのだと思います。

ぜひ頑張ってください。